

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第179集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第28集

善慶寺早道場遺跡

1 9 9 4

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日 本 道 路 公 団

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第179集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第28集

善慶寺早道場遺跡

1 9 9 4

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日 本 道 路 公 団

序

関越自動車道の藤岡ジャンクションより分岐して、新潟県の上越市にぬける高速自動車道の上信越自動車道は平成5年3月に長野県佐久市までが開通しました。

この上信越自動車道の建設に伴い、数多くの埋蔵文化財が発掘調査され記録保存されました。甘楽郡甘楽町大字善慶寺の字早道場に所在する縄文時代から近世にかけての複合遺跡である善慶寺早道場遺跡もその一つであります。

本遺跡は諸般の事情により昭和63年度に遺跡地の西半分を、そして、その残りを平成元年、2年度に調査しました。古墳時代、奈良時代の竪穴住居跡30軒以上が調査され、本地域のこの時代の研究を進める上で貴重な資料が得られました。特に19号住居跡からは住居の2/3を区切る積石列があり特異な竪穴住居と関係者の注目をあびました。

この度、本遺跡の整理作業が終了しましたので調査報告書を刊行しますが、発掘調査から報告書刊行に至るまで日本道路公団東京第2建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会、甘楽町教育委員会、地元関係者の方々から種々ご指導ご協力を賜りました。今回、報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が群馬県の歴史を解明する上で広く活用されることを願い序とします。

平成6年

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之

例 言

1. 本書は上信越自動車道建設に伴い事前調査された善慶寺早道場遺跡（現所在地：群馬県甘楽郡甘楽町善慶寺）（事業名称 早道場遺跡）の発掘調査報告書である。本書における報告は、善慶寺早道場遺跡から検出された遺構・遺物を対象とする。
2. 善慶寺早道場遺跡は、群馬県甘楽郡甘楽町善慶寺早道場に所在する。
3. 本発掘調査は、日本道路公園の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたものである。
4. 実際の発掘調査及び整理事業は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団内に上信越自動車道地域埋蔵文化財発掘調査を目的に設置された、上越線調査事務所（多野郡吉井町南陽台に所在）が担当した。
5. 調査期間及び担当者
 - (1) 発掘調査
試掘調査 昭和62年3月 群馬県教育委員会
本調査 第1次調査 昭和63年4月～10月
調査担当者 大木伸一郎（主任調査研究員）、若林正人（調査研究員）、飯塚 聡（調査研究員）
第2次調査 平成元年10月～平成2年4月
調査担当者 岸田治男（専門員）、綿貫鋭次郎（主任調査研究員）、斎藤利昭（調査研究員）、船藤 亨（調査研究員）
 - (2) 整理 整理期間 平成5年10月1日～平成6年3月31日 整理担当者 斎藤利昭（主任調査研究員）
 - (3) 事務 常務理事 白石保三郎（昭和63年度）、邊見長雄（平成元年・2年度）、中村英一 事務局長 松本浩一（昭和63年～平成元年度）、近藤 功 管理部長 佐藤 勉 調査研究部長 神保侑史 庶務課長 斎藤俊一 専門員 国定 均、笠原秀樹 主任 須田朋子、吉田有光、柳岡良弘 主事 船津 茂（平成5年度）、高橋定義 嘱託員 松下 登 臨時職員 今井もと子、内山佳子、塩浦ひろみ、角田みづほ、角田正子、羽鳥京子、星野美智子、松井美智代、吉田恵子
関越道上越線調査事務所
所長 高橋一夫（平成元年・2年度）、吉田 肇 総括次長 片桐光一（昭和63年～平成元年度）、大沢友治（平成2年度） 次長 徳江 紀（昭和63年～平成2年度） 課長 鬼形芳夫（昭和63年～平成2年度）、依田治雄（平成5年度） 庶務課係長代理 宮川初太郎（平成元年・2年度） 主任 国定 均（昭和63年・平成元年度）、笠原秀樹（平成2年度）、吉田有光（平成5年度） 臨時職員 山崎郁夫、神戸市四郎、松井留男、町田康子、田中智恵美、本城美樹、後関玲子、高田千恵、吉田登志子
6. 報告書作成関係者
編集 斎藤利昭 本文執筆 依田治雄（第1章）、斎藤利昭（第1～4章）
遺物観察 菊池 実（主任調査研究員）、神谷佳明（主任調査研究員）、斎藤利昭
遺構写真 発掘調査担当者 遺物写真 技師 佐藤元彦 保存処理 技師 関 邦一 嘱託員 土橋まり子
補助員 小村浩一、小沼恵子 整理補助員 安藤三枝子、木暮紀子、白井和子、田所順子、林美奈子、宮沢房子、山田キミ子、渡部あい子
委託 測量・トレース 髙 測研 炭化材同定 パレオ・ラボ 石材鑑定 陣内主一（群馬県立自然資料館）
7. 出土遺物・図面・写真類は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターが保管している。
8. 報告書作成に当たり、下記の諸機関にご教示・ご指導をいただいた。記して謝意を表する次第である。
富岡市教育委員会、甘楽町教育委員会

凡 例

1. 遺構名称は、調査時点での名称を付した。
2. 遺構図の方位記号は国家座標の北を表す。座標系は国家座標第IX系である。
3. 遺構断面実測図、等高線等に記した数値は標高を表し、単位はmを用いた。
4. 遺構図の縮尺及びスクリーン・トーンは次の通りである。

(1) 遺構図縮尺

竪穴住居跡……1/60 竈……1/30 掘立柱建物跡……1/60 土坑……1/40

溝・その他の遺構については その都度スケールを参照されたい。

(2) 遺構図中におけるスクリーン・トーンは、以下の通りとする。



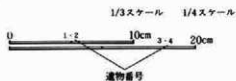
5. 遺物図の縮尺及びスクリーン・トーンは次の通りである。

(1) 遺物図中におけるスクリーン・トーン



(2) 遺物図中における縮尺については、以下の縮尺を用いた。

- 1/1……古銭 1/2……玉類、鉄器
- 1/3……坏、埴、高坏、小型甕、縄文土器破片、砥石
- 1/4……大型甕、甕、大型鉢、縄文土器
- 1/6……各種石器



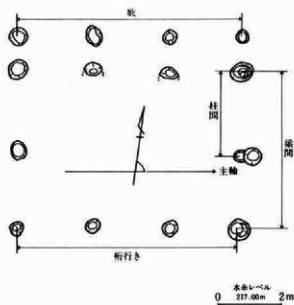
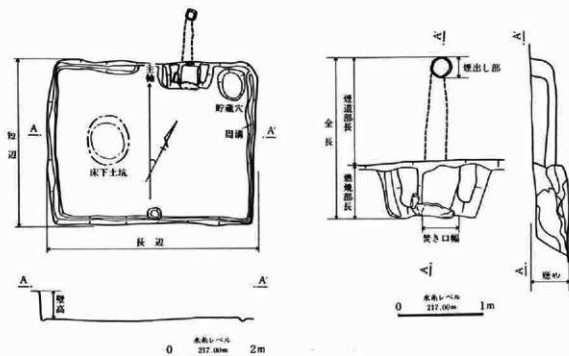
6. 竪穴住居跡の床面積算出については、1/20平面図でプランメーター（ローラー極式・レンズ式）による計測を2回行い平均値を使用し、小数点以下2桁は四捨五入してある。
7. 土器の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版 標準土色帳 1988版』を使用した。
8. 本書中にある火山灰は以下のとおり略記した。

浅間山噴出火山灰 1108年(天仁元年)噴火火山灰……As-B



1783年(天明3年)噴火火山灰……As-A

9. 主軸方位については、竈を有する竪穴住居跡は竈方向を主軸とし計測を行った。竈を有しない竪穴住居跡は長辺を主軸方位として計測を行った。掘立柱建物跡は、棟方向（長辺）を主軸方向とし計測を行った。土坑については、長辺を主軸方位とし計測を行った。
10. 竪穴住居跡及び掘立柱建物跡の各部の名称及び各計測値は以下に示した図を参照されたい。



目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
挿図目次	
写真図版目次	
抄 録	
第1章 発掘調査に至る経過	2
第1節 発掘調査に至る経緯	2
第2節 調査経過	4
第3節 調査方法	5
1. 遺跡名称	5
2. グリッドの設定	5
第2章 地理的・歴史的環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	8
第3節 基本土層	11
第3章 検出された遺構・遺物	12
第1節 竪穴住居跡	12
1. 竪穴住居の概要	12
2. 竪穴住居跡遺構・遺物	14
第2節 掘立柱建物跡	148
第3節 土 坑	154
1. 概 要	154
2. 墓 坑	155
第4節 溝	162
第5節 その他の遺構	169
1. 古 墳	169
2. 埋設土器	171
3. グリッド出土遺物	171
第4章 自然科学分析	188
第1節 早道場遺跡出土炭化材の樹種同定	188
第5章 ま と め	191

挿 図 目 次

第 1 図	遺跡位置図	3	第 59 図	13号住居跡電	59
第 2 図	調査工程図	4	第 60 図	13号住居跡出土遺物(1)	60
第 3 図	グリッド配置図	5	第 61 図	13号住居跡出土遺物(2)	61
第 4 図	遺跡周辺地形図	7	第 62 図	14号住居跡	62
第 5 図	周辺遺跡位置図	9	第 63 図	14号住居跡電	63
第 6 図	基本土層	11	第 64 図	14号住居跡出土遺物	64
第 7 図	竪穴住居跡配置図	12・13	第 65 図	15号住居跡	65
第 8 図	1号住居跡	15	第 66 図	15号住居跡電	66
第 9 図	1号住居跡電	15	第 67 図	15号住居跡出土遺物(1)	66
第 10 図	1号住居跡出土遺物(1)	16	第 68 図	15号住居跡出土遺物(2)	67
第 11 図	1号住居跡出土遺物(2)	17	第 69 図	16号住居跡	68
第 12 図	2号住居跡	19	第 70 図	16号住居跡電	69
第 13 図	2号住居跡	19	第 71 図	16号住居跡出土遺物(1)	70
第 14 図	2号住居跡電	20	第 72 図	16号住居跡出土遺物(2)	71
第 15 図	2号住居跡出土遺物	20	第 73 図	17号住居跡	73
第 16 図	3号住居跡	21	第 74 図	17号住居跡出土遺物	74
第 17 図	3号住居跡電	22	第 75 図	18号住居跡	75
第 18 図	3号住居跡出土遺物(1)	22	第 76 図	18号住居跡電	75
第 19 図	3号住居跡出土遺物(2)	23	第 77 図	18号住居跡出土遺物(1)	76
第 20 図	4号住居跡	24	第 78 図	18号住居跡出土遺物(2)	77
第 21 図	4号住居跡出土遺物(1)	24	第 79 図	19号住居跡	78
第 22 図	4号住居跡電	25	第 80 図	19号住居跡電	79
第 23 図	4号住居跡出土遺物(2)	25	第 81 図	19号住居跡出土遺物(1)	80
第 24 図	4号住居跡出土遺物(3)	26	第 82 図	19号住居跡出土遺物(2)	81
第 25 図	5号住居跡	28	第 83 図	19号住居跡出土遺物(3)	82
第 26 図	5号住居跡電	29	第 84 図	19号住居跡出土遺物(4)	83
第 27 図	5号住居跡出土遺物(1)	29	第 85 図	20号住居跡	85
第 28 図	5号住居跡出土遺物(2)	30	第 86 図	20号住居跡電	86
第 29 図	5号住居跡出土遺物(3)	31	第 87 図	20号住居跡出土遺物(1)	87
第 30 図	6号住居跡	34	第 88 図	20号住居跡出土遺物(2)	88
第 31 図	6号住居跡電	35	第 89 図	21号住居跡	89
第 32 図	6号住居跡出土遺物(1)	35	第 90 図	21号住居跡電	90
第 33 図	6号住居跡出土遺物(2)	36	第 91 図	21号住居跡出土遺物	90
第 34 図	7号住居跡	38	第 92 図	22号住居跡	91
第 35 図	7号住居跡出土遺物(1)	38	第 93 図	22号住居跡電	92
第 36 図	7号住居跡電	39	第 94 図	22号住居跡出土遺物	92
第 37 図	7号住居跡出土遺物(2)	39	第 95 図	23号住居跡	93
第 38 図	8号住居跡	40	第 96 図	23号住居跡出土遺物	93
第 39 図	8号住居跡電	41	第 97 図	24号住居跡	94
第 40 図	8号住居跡出土遺物(1)	41	第 98 図	24号住居跡第 1 電	95
第 41 図	8号住居跡出土遺物(2)	42	第 99 図	24号住居跡第 2 - 第 3 電	96
第 42 図	9号住居跡	43	第 100 図	24号住居跡出土遺物(1)	96
第 43 図	9号住居跡遺物出土状況	44	第 101 図	24号住居跡出土遺物(2)	97
第 44 図	9号住居跡電	44	第 102 図	24号住居跡出土遺物(3)	98
第 45 図	9号住居跡出土遺物(1)	45	第 103 図	25号住居跡	100
第 46 図	9号住居跡出土遺物(2)	46	第 104 図	25号住居跡電	100
第 47 図	10号住居跡	47	第 105 図	30号住居跡	101
第 48 図	10号住居跡電	48	第 106 図	30号住居跡第 1 電	102
第 49 図	10号住居跡出土遺物	48	第 107 図	30号住居跡第 2 電	103
第 50 図	11号住居跡	50	第 108 図	30号住居跡出土遺物(1)	103
第 51 図	11号住居跡電	51	第 109 図	30号住居跡出土遺物(2)	104
第 52 図	11号住居跡出土遺物(1)	51	第 110 図	31号住居跡	106
第 53 図	11号住居跡出土遺物(2)	52	第 111 図	31号住居跡電	107
第 54 図	11号住居跡出土遺物(3)	53	第 112 図	31号住居跡出土遺物(1)	107
第 55 図	12号住居跡	55	第 113 図	31号住居跡出土遺物(2)	108
第 56 図	12号住居跡出土遺物	56	第 114 図	32号住居跡	109
第 57 図	13号住居跡	58	第 115 図	32号住居跡電	110
第 58 図	13号住居跡	59	第 116 図	32号住居跡電	111

第117図	32号住居跡出土遺物(1)	111	第158図	5号竪立柱建物跡	152
第118図	32号住居跡出土遺物(2)	112	第159図	竪立柱建物跡出土遺物	153
第119図	33号住居跡	113	第160図	1号墓坑及び出土遺物	155
第120図	33号住居跡電	113	第161図	I・J区土坑	155
第121図	33号住居跡出土遺物	114	第162図	I・J区土坑	156
第122図	34号住居跡	115	第163図	I・J区土坑	157
第123図	34号住居跡	116	第164図	G・H区土坑	158
第124図	34号住居跡電	117	第165図	G・H区土坑	159
第125図	34号住居跡電	118	第166図	G・H区土坑	160
第126図	34号住居跡出土遺物(1)	118	第167図	土坑出土遺物	161
第127図	34号住居跡出土遺物(2)	119	第168図	溝跡全体図	162
第128図	34号住居跡出土遺物(3)	120	第169図	1号・3号溝跡	163
第129図	35号住居跡	122	第170図	2号溝跡	164
第130図	35号住居跡電	123	第171図	5号・6号溝跡	165
第131図	35号住居跡出土遺物(1)	123	第172図	7号溝跡出土状況	166
第132図	35号住居跡出土遺物(2)	124	第173図	7号溝跡	167
第133図	36号住居跡	126	第174図	溝出土遺物(1)	168
第134図	36号住居跡電	127	第175図	溝出土遺物(2)	169
第135図	36号住居跡出土遺物(1)	127	第176図	1号古墳	170
第136図	36号住居跡出土遺物(2)	128	第177図	1号古墳出土遺物	171
第137図	36号住居跡出土遺物(3)	129	第178図	1号埋設土器及び出土遺物	171
第138図	37号住居跡	131	第179図	グリッド出土遺物分布図	172
第139図	37号住居跡電	132	第180図	グリッド出土遺物(1)	173
第140図	37号住居跡出土遺物(1)	132	第181図	グリッド出土遺物(2)	174
第141図	37号住居跡出土遺物(2)	133	第182図	グリッド出土遺物(3)	176
第142図	38号住居跡	135	第183図	グリッド出土遺物(4)	177
第143図	38号住居跡電	136	第184図	グリッド出土遺物(5)	178
第144図	38号住居跡出土遺物	136	第185図	グリッド出土遺物(6)	179
第145図	39号住居跡	138	第186図	グリッド出土遺物(7)	180
第146図	39号住居跡遺物出土状況	139	第187図	グリッド出土遺物(8)	181
第147図	39号住居跡電	140	第188図	グリッド出土遺物(9)	182
第148図	39号住居跡出土遺物	141	第189図	グリッド出土遺物分布図	183
第149図	40号住居跡遺物出土状況	142	第190図	グリッド別土器分布図(点数)	184
第150図	40号住居跡	143	第191図	グリッド別土器分布図(重量)	185
第151図	40号住居跡電	144	第192図	材組編とその名称	190
第152図	40号住居跡出土遺物(1)	145	第193図	39号住居の炭化材出土状況とその特徴	190
第153図	40号住居跡出土遺物(2)	146	第194図	住居形状一覧表	
第154図	1号竪立柱建物跡	148	第195図	時期別遺構配置及び出土遺物集成図(6~7世紀)	
第155図	2号竪立柱建物跡	149	第196図	〃 (7~8世紀代)	
第156図	3号竪立柱建物跡	150	第197図	上信越国境小規模状況地観測遺跡図(古墳時代以降)	
第157図	4号竪立柱建物跡	151			

図 版 目 次

P L 1	1. 調査区遺景	4.	1号住居跡遺物出土状況
	2. 第1次調査区全景	5.	2号住居跡全景
P L 2	1. 第1次調査区掘穴住居跡群	6.	2号住居跡遺物出土状況
	2. 第2次調査区全景	7.	2号住居跡土層
P L 3	1. 第2次調査区近景	8.	2号住居跡遺物出土状況
	2. 1号古墳全景	P L 6	1. 3号住居跡全景
P L 4	1. 第2次調査区近景	2.	3号住居跡遺物出土状況
	2. 第2次調査区近景	3.	3号住居跡土層
	3. 第2次調査区近景	4.	3号住居跡電
	4. 第2次調査区近景	5.	4号住居跡全景
	5. 作業風景	6.	4号住居跡完掘
P L 5	1. 1号住居跡全景	7.	4号住居跡電周辺遺物出土状況
	2. 1号住居跡電	8.	4号住居跡電埋遺物出土状況
	3. 1号住居跡土層	P L 7	1. 5号住居跡全景

	2. 5号住居跡	4. 25号住居跡掘り方
	3. 5号住居跡遺物出土状況	5. 30号住居跡全景
	4. 5号住居跡掘り方	6. 30号住居跡第1電
	5. 5号住居跡礎石出土状況	7. 30号住居跡第2電
	6. 5号住居跡電周辺遺物出土状況	8. 30号住居跡遺物出土状況
	7. 5号住居跡遺物出土状況	P L 16 1. 31号住居跡全景
	8. 5号住居跡遺物出土状況	2. 31号住居跡遺物出土状況
P L 8	1. 6号住居跡全景	3. 31号住居跡電
	2. 6号住居跡遺物出土状況	4. 31号住居跡土層
	3. 6号住居跡電	5. 32号住居跡全景
	4. 6号住居跡電土層	6. 32号住居跡遺物出土状況
	5. 7号住居跡全景	7. 32号住居跡遺物出土状況
	6. 7号住居跡掘り方	8. 32号住居跡電軸断面土層
	7. 7号住居跡電	P L 17 1. 33号住居跡全景
	8. 7号住居跡遺物出土状況	2. 33号住居跡遺物出土状況
P L 9	1. 8号住居跡全景	3. 33号住居跡電
	2. 8号住居跡遺物出土状況	4. 33号住居跡遺物出土状況
	3. 9号住居跡全景	5. 34号住居跡全景
	4. 9号住居跡遺物出土状況	P L 18 1. 34号住居跡土層
	5. 9号住居跡遺物出土状況	2. 34号住居跡遺物出土状況
	6. 9号住居跡遺物出土状況	3. 34号住居跡電
	7. 9号住居跡柱穴内遺物出土状況	4. 34号住居跡電土層
	8. 10号住居跡全景	5. 34号住居跡電煤土層
P L 10	1. 11号住居跡全景	6. 34号住居跡遺物出土状況
	2. 11号住居跡遺物出土状況	7. 34号住居跡貯蔵穴土層
	3. 11号住居跡遺物出土状況	8. 34号住居跡貯蔵穴
	4. 11号住居跡電	P L 19 1. 35号住居跡全景
	5. 12号住居跡電	2. 35号住居跡電
	6. 13号住居跡全景	3. 35号住居跡遺物出土状況
	7. 13号住居跡遺物出土状況	4. 35号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
	8. 13号住居跡電	5. 36号住居跡全景
P L 11	1. 14号住居跡全景	6. 36号住居跡遺物出土状況
	2. 14号住居跡電	7. 36号住居跡遺物出土状況
	3. 14号住居跡遺物出土状況	8. 36号住居跡遺物出土状況
	4. 15号住居跡全景	P L 20 1. 37号住居跡全景
	5. 15号住居跡遺物出土状況	2. 37号住居跡遺物出土状況
	6. 16号住居跡全景	3. 37号住居跡電
	7. 16号住居跡電	4. 37号住居跡電周辺遺物出土状況
	8. 16号住居跡遺物出土状況	5. 38号住居跡全景
P L 12	1. 17号住居跡全景	6. 38号住居跡遺物出土状況
	2. 17号住居跡電	7. 38号住居跡電
	3. 18号住居跡全景	8. 38号住居跡遺物出土状況
	4. 18号住居跡電	P L 21 1. 39号住居跡全景
	5. 19号住居跡全景	2. 39号住居跡遺物出土状況
P L 13	1. 19号住居跡遺物出土状況	3. 39号住居跡炭化材出土状況
	2. 19号住居跡掘り方	4. 39号住居跡炭化材
	3. 19号住居跡電	5. 39号住居跡炭化材
	4. 19号住居跡石垣	6. 39号住居跡電
	5. 20号住居跡全景	7. 39号住居跡電土層
	6. 20号住居跡遺物出土状況	8. 39号住居跡電軸断面土層
	7. 20号住居跡電	P L 22 1. 40号住居跡全景
	8. 20号住居跡遺物出土状況	2. 40号住居跡遺物出土状況
P L 14	1. 21号住居跡全景	3. 40号住居跡掘り方
	2. 21号住居跡電土層	4. 40号住居跡遺物出土状況
	3. 22号住居跡全景	5. 40号住居跡遺物出土状況
	4. 23号住居跡全景	6. 40号住居跡遺物出土状況
	5. 24号住居跡全景	7. 40号住居跡電
	6. 24号住居跡電	8. 40号住居跡電軸断面土層
	7. 24号住居跡電前遺物出土状況	P L 23 1. 1号竪立柱建物跡全景
	8. 24号住居跡電復元	2. 2号竪立柱建物跡全景
P L 15	1. 25号住居跡全景	3. 3号竪立柱建物跡全景
	2. 25号住居跡遺物出土状況	P L 24 1. 2・3号竪立柱建物跡全景
	3. 25号住居跡電	2. 4号竪立柱建物跡全景

3. 5号孤立柱建物跡全景
- P.L.25 1. 1号壁穴状遺構 (I・J区)
2. 1号壁穴状遺構 (I・J区)
3. 1号墓坑全景 (I・J区)
4. 1号土坑全景 (I・J区)
5. 2号土坑全景 (I・J区)
6. 3号土坑全景 (I・J区)
7. 4号土坑全景 (I・J区)
8. 5号土坑全景 (I・J区)
9. 12号土坑全景 (I・J区)
10. 13号土坑全景 (I・J区)
11. 14号土坑全景 (I・J区)
- P.L.26 1. 18号土坑全景 (I・J区)
2. 19号土坑全景 (I・J区)
3. 20号土坑全景 (I・J区)
4. 21号土坑全景 (I・J区)
5. 1号土坑全景 (G・H区)
6. 1号土坑遺物出土状況 (G・H区)
7. 1号土坑周辺遺物出土状況 (G・H区)
- P.L.27 1. 2号土坑土層 (G・H区)
2. 3号土坑全景 (G・H区)
3. 4号土坑全景 (G・H区)
4. 6号土坑全景 (G・H区)
5. 9号土坑全景 (G・H区)
6. 10号土坑全景 (G・H区)
7. 11号土坑全景 (G・H区)
8. 11号土坑土層 (G・H区)
9. 12号土坑全景 (G・H区)
10. 13号土坑全景 (G・H区)
11. 14号土坑全景 (G・H区)
12. 15号土坑全景 (G・H区)
- P.L.28 1. 1号溝全景
2. 1号溝土層
3. 1号溝土層
4. 1号溝遺物出土状況
5. 3号溝全景
6. 3号溝土層
7. 3号溝土層
- P.L.29 1. 4号溝全景
2. 4号溝土層
3. 5号溝全景
4. 6号溝全景
5. 7号溝全景
- P.L.30 1. 1号古墳全景
2. 1号古墳基石確認状況
3. 1号古墳土層
4. 1号古墳遺物出土状況
5. 1号古墳遺物出土状況
- P.L.31 1. グリッド遺物出土状況 (Go-31) 埋裏
2. グリッド遺物出土状況 (Gq-41)
3. グリッド遺物出土状況 (Go-33)
4. グリッド遺物出土状況 (Gs-27)
5. グリッド遺物出土状況 (Gs-41)
6. グリッド遺物出土状況 (Gq-41)
7. グリッド遺物出土状況 (Ja-12)
8. グリッド遺物出土状況 (Ja-12)
- P.L.32 1号住居跡出土遺物
P.L.33 1～3号住居跡出土遺物
P.L.34 3・4号住居跡出土遺物
P.L.35 4号住居跡出土遺物
P.L.36 4・5号住居跡出土遺物
P.L.37 5号住居跡出土遺物
P.L.38 5・6号住居跡出土遺物
P.L.39 6・7号住居跡出土遺物
P.L.40 7～9号住居跡出土遺物
P.L.41 9号住居跡出土遺物
P.L.42 9～11号住居跡出土遺物
P.L.43 11号住居跡出土遺物
P.L.44 11・12号住居跡出土遺物
P.L.45 12・13号住居跡出土遺物
P.L.46 13号住居跡出土遺物
P.L.47 13～15号住居跡出土遺物
P.L.48 15・16号住居跡出土遺物
P.L.49 16号住居跡出土遺物
P.L.50 16～18号住居跡出土遺物
P.L.51 18・19号住居跡出土遺物
P.L.52 19号住居跡出土遺物
P.L.53 19号住居跡出土遺物
P.L.54 19・20号住居跡出土遺物
P.L.55 20～22号住居跡出土遺物
P.L.56 23・24号住居跡出土遺物
P.L.57 24号住居跡出土遺物
P.L.58 30号住居跡出土遺物
P.L.59 31・32号住居跡出土遺物
P.L.60 32～34号住居跡出土遺物
P.L.61 34号住居跡出土遺物
P.L.62 34～36号住居跡出土遺物
P.L.63 36号住居跡出土遺物
P.L.64 36・37号住居跡出土遺物
P.L.65 37・38号住居跡出土遺物
P.L.66 38・39号住居跡出土遺物
P.L.67 40号住居跡出土遺物
P.L.68 40号住居跡出土遺物
P.L.69 孤立・土坑・墓坑・溝出土遺物
P.L.70 溝出土遺物
P.L.71 古墳・グリッド出土遺物
P.L.72 グリッド出土遺物
P.L.73 グリッド出土遺物 (銅文)
P.L.74 埋設・グリッド出土遺物
P.L.75 グリッド出土遺物 (石版)
P.L.76 グリッド出土遺物 (石版)
P.L.77 早道塚遺跡出土炭化材の樹種電子顕微鏡写真
P.L.78 早道塚遺跡出土炭化材の樹種電子顕微鏡写真

抄 録

1. 遺跡の概略

善慶寺早道場遺跡は、群馬県甘楽郡甘楽町大字善慶寺字早道場に所在する。遺跡地は東端の農道を境に富岡市田篠に接し、西側は下川を境に富岡市内匠とに接する。

発掘調査は、昭和63年度に群馬県教育委員会により試掘調査が実施され、同年4月から10月にかけて第1次調査を行い、平成元年10月から平成2年4月にかけて第2次調査を行った。

本遺跡地は鍋川右岸部に位置し、同河川右岸部に一般的に見られる上下2段の段丘面は見られず、扇状地形が形成されている。この扇状地形は、遺跡南西を東流していたと考えられている旧野上川と北流する下川の両河川により上位段丘面が削平され、扇状地形が形成されたと考えられている。また、同扇状地東方を北流する雄川でも小幡を扇頂部とする扇状地形が形成されている。当地域では、両扇状地の堆積物である砂礫や粘質土層等が地表下1m弱で入り組んだ状態で堆積している。

周辺遺跡には、上位段丘面の南側を削られ独立丘陵となった通称「離れ山」と呼ばれる内匠・高瀬丘陵が西接し、先端部に中世の内匠城を含む内匠上之宿遺跡が立地する。また、当遺跡と農道を挟んで東接する縄文時代の配石遺構が検出された田篠中原遺跡や古墳及び集落等を検出した田篠上平遺跡等が立地する。その他に、南方には善慶寺古墳群が所在する。

本遺跡で検出された遺構は、古墳時代後期から平安時代にかけての竪穴住居跡36軒と掘立柱建物跡6棟、縄文時代中期の遺物を含む土坑3基とその他時期不明の土坑25基及び溝7条を検出した。また、遺跡東端部では、田篠中原遺跡から続く縄文時代中期の遺物包含層を検出した。

2. 遺構数量

種 別	時 代	数 量	備 考
竪 穴 住 居 跡	古墳時代後期	18	
	奈良・平安時代	16	
掘 立 柱 建 物 跡	奈良・平安時代	6	
土 坑	縄文時代中期	3	
	時 期 不 明	24	
溝	時 期 不 明	7	
遺 物 包 含 層	縄文時代中期	1カ所	

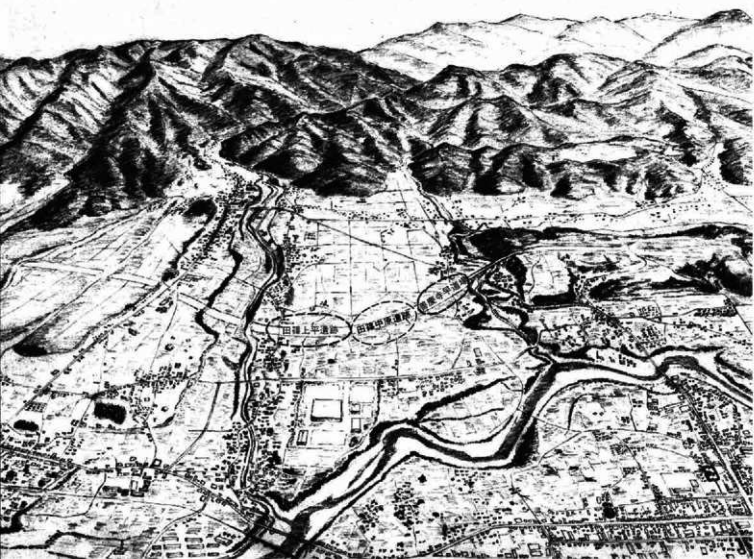
3. ま と め

本遺跡は鍋川右岸部、旧野上川及び雄川により形成された扇状地扇央部の西縁に立地し、既に調査済みの田篠中原・田篠上平両遺跡と併せ、路線は扇央部に東西トレンチを入れた恰好となった。この扇状地扇央部では田篠中原遺跡が所在し、縄文時代中期の配石遺構が検出され、本遺跡の包含層はその西端部に位置する。

その後、本遺跡では6～9世紀代に集落が展開し、扇状地東縁部の雄川寄りの田篠上平遺跡では、田篠古墳群中に位置する7世紀代の古墳3基とその古墳の両側に展開する8～10世紀代の集落を検出した。

本遺跡の南に展開する善慶寺古墳群は、本集落の墓域の可能性が考えられる。

善慶寺早道場遺跡



(「田種中原遺跡」飯塚 聡氏作図転載)

第1章 発掘調査に至る経過

第1節 発掘調査に至る経緯

関越自動車道上越線は首都圏と上信越地方を結ぶ高速自動車国道として、日本道路公団によって建設される。起点を東京都練馬として新潟県上越市まで総延長280km(内練馬～藤岡間は関越自動車道新路線と併用)である。今回(平成5年3月27日)開通した藤岡インター～佐久インター間は約69kmで群馬県藤岡市(5.6km)、吉井町(6.3km)、甘楽町(4.3km)、富岡市(11.6km)、妙義町(2.5km)、松井田町(19.5km)、下仁田町(5.3km)、長野県佐久市(11.9km)の各市町を通過する。

群馬県藤岡市～長野県佐久市間の基本計画は昭和47年に策定され、同54年建設大臣により日本道路公団が施行命令を受けている。同56年群馬県藤岡市・吉井町・甘楽町・富岡市・下仁田町(東部)・松井田町(東部)、同57年松井田町(西部)・下仁田町(西部)・長野県佐久市までの路線が発表された。関越自動車道上越線全体にかかる埋蔵文化財の取り扱い及び調査経過は次のとおりである。

昭和49年度 藤岡市～下仁田間に存在する埋蔵文化財について、群馬県教育委員会は県企画部幹線交通課に対し文化財保護法の遵守、国・県・市町村の指定文化財をさけること、文化財に関係する事項は県教委文化財保護課と協議すること等の考え方を示した。

昭和55年度 県教委文化財保護課は路線通過地周辺の埋蔵文化財包蔵地の調査を行い、その結果は同年3月藤岡～松井田間、同年11月松井田～下仁田間について、「関越自動車道上越線関連公共事業調査報告書」として群馬県(企画部交通対策課)より報告された。

昭和59年度 建設工事の具体化に伴い、路線内の埋蔵文化財についてより具体的な調査の依頼が道路公団より県教育委員会にあり、県教委文化財保護課は包蔵地の詳細分布調査を行った。

昭和60年度 県教育委員会は分布調査の結果、包蔵

地を濃い分布地・淡い分布地・試掘調査を必要とする地域に区分し、発掘調査必要面積を約100万㎡と想定し、55遺跡を認定した。(後の試掘により52遺跡に変更)そして、埋蔵文化財発掘調査にかかる基本方針を次のように策定した。

- ① 発掘調査終了年度を昭和65年度末(平成2年度末)とする。
- ② 群馬県埋蔵文化財調査事業団を中核機関とし、対応できない部分に調査会方式を導入、関係市町村には進捗状況を考慮しながら協力を求める。
- ③ 事業団の出張所(上越線調査事務所)を開設し、整理作業も併せ行う。
- ④ 機関別対応面積は次のとおりとする。

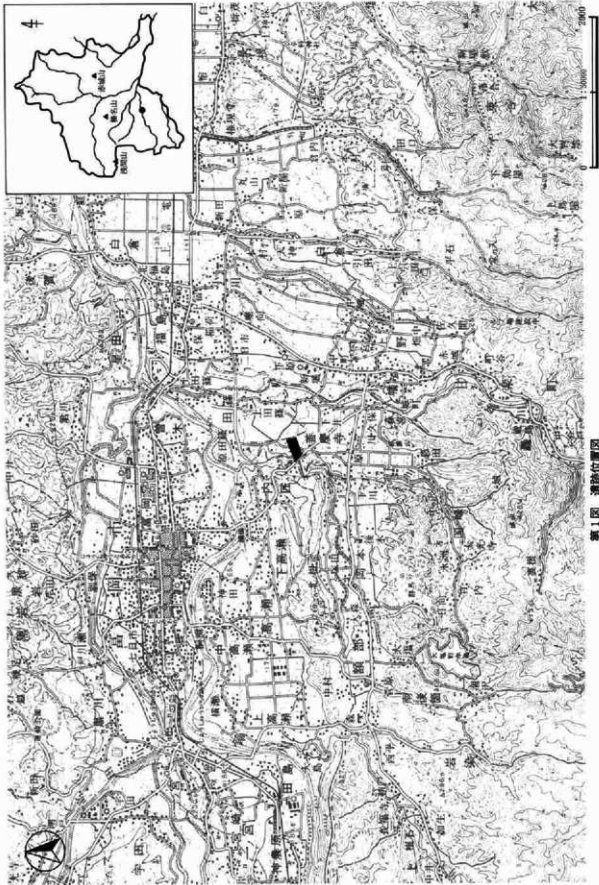
埋文事業団 約76万㎡ 富岡市以東を受け持つ。面積は変動の可能性あり。

調査会 約22万㎡ 妙義町・下仁田町・松井田町。面積は変動の可能性あり。

なお、調査実施方法は次のとおりである。

日本道路公団東京第二建設局は群馬県教育委員会に調査の依頼を行い、年度毎に委託契約を締結する。県教育委員会はそれを受け、群馬県埋蔵文化財調査事業団及び、各遺跡調査会等に再委託のかたちで委託契約を締結し、調査を実施する。

昭和61年度 4月、埋文事業団上越線調査事務所を吉井町南関台3-15-8に設置し、4班15人体制で発足。調査を開始する。以後、6班22人体制(昭62)、9班36人体制(昭63)、12班45人体制(平元)、12班45人体制(平2)。平成2年度までに一部を残し発掘調査は終了した。整理作業は昭和63年度より併行して実施していたが、平成3年度からは本部においても整理作業が始まり、現在2か所11班体制で実施している。調査事務所は今年度で事業を終了し、以後本部のみで実施され、平成8年度全事業終了予定である。



第1図 遺跡位置図

第2節 調査経過

本遺跡は、甘楽郡甘楽町大字善慶寺宇平道場に所在し、ステーション(ST)№188～191の間、全長約280m、最大幅90m、面積約21,520㎡を対象に発掘調査を実施した。調査期間は、昭和63年4月から10月までを1次調査、平成元年10月から平成2年4月までを2次調査として発掘調査を行った。

昭和63年度の1次調査では、南北に横断する町道西側部分約9,100㎡を調査対象とした。調査地は、工事用道路や廃土置き場等の関係により調査区を2分割し調査を実施した。竪穴住居跡25軒、掘立柱建物跡1棟、土坑十数基、溝5条等を検出した。

平成元年度から2年度にかけての2次調査では、町道東側部分の12,450㎡を調査対象とした。調査地は1次調査同様、工事用道路や町道付け替え部分の工程により調査地を分割し調査を行った。遺構は、竪穴住居跡11軒、掘立柱建物跡4棟、土坑十数基、溝2条等を検出し、また、整理報告済みの東接する田篠中原遺跡の縄文時代配石遺構と関係すると思われる縄文土器包含層を検出した。

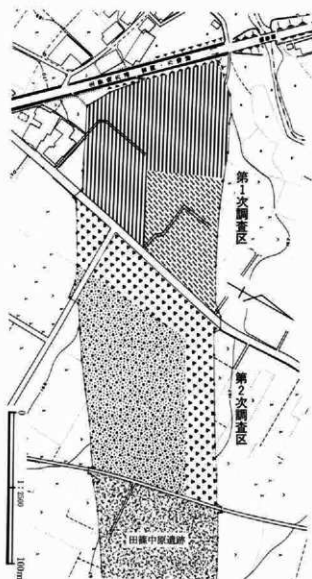
調査区及び工程は、以下の図・表を参照されたい。

第1次調査

年月日	発掘	測量	空中写真	備考
1988年				
5月	■	□		5/13 公団との打合せ # 竪穴住居調査開始
6月				
7月				7/4 小幡小学校生徒見学
8月			□	8/4 45-1による空撮 8/26 廃土部分協議
9月				9/27 遺土移動 9/29 遺構確認
10月	■	□		10/22 廃土下全貌写真
11月				11/5 調査終了

第2次調査

年月日	発掘	測量	空中写真	備考
1990年				
10月	■			10月下旬 工事用道路部分より 調査開始(G・H区)
11月		□		11/29 1号古墳周縁調査
12月				
1991年				
1月			□	1/6 工事用部分空撮 1/11 工事用道路部分明確
2月	■	□		2/14 60cm×20cm 断面立形跡部分明確
3月				3/9 農道切り替し部分調査 3/20 1号古墳一全貌写真 3/22 構造物部分明確
4月				
5月				5/8 調査終了



第2図 調査工程図

第3節 調査方法

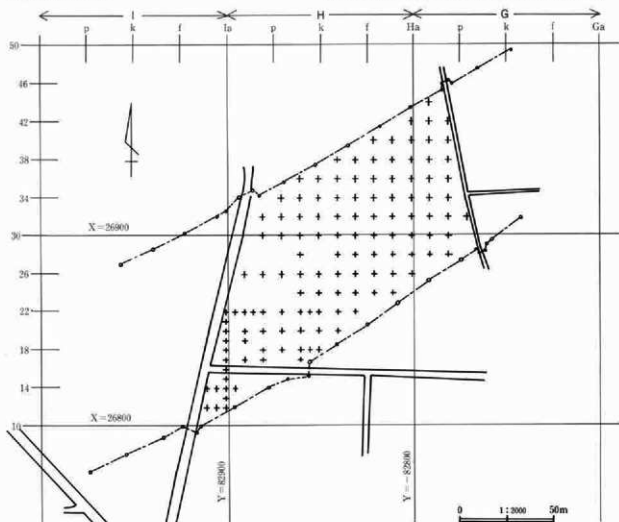
1. 遺跡名称

本遺跡は、甘楽郡甘楽町大字善慶寺早道場に所在する。当事業団では、遺跡の呼称については大字小字併記を原則としており、本遺跡は善慶寺早道場遺跡と呼称する。しかし、本遺跡の東端部にある農道は富岡市と甘楽町とを区分する行政境界となっており、農道東側は富岡市田篠字中原となる。この田篠字中原では、同事業に伴う発掘調査が実施され、田篠中原遺跡が確認されている。田篠中原遺跡では、縄文時代の配石遺構が確認され、遺構の広がりや当遺跡までおよぶことが分かり、同一遺跡内に含まれるとされたが、諸般の事情により遺跡名を異にし、整理報告を行った。

2. グリッドの設定

グリッドの設定は、東接する田篠中原遺跡やその更に東に位置する田篠上平遺跡等の調査時に用いた100mの大グリッドと5mの小グリッドの配置を本遺跡でも延長し使用した。

グリッドの設定には、田篠上平遺跡南東200mに設置された原点(国家座標 $X=26700$ 、 $Y=-82100$)から引用した。グリッドラインは、100mの大グリッドと5mの小グリッドを設定し、両者を組み合わせ東西ラインを呼称する。南北ラインは、5m単位で南から北に向かって数字を用い区切る。当遺跡の東西ラインはGoからJiまでであり、南北は6から45までである。グリッド呼称は南東隅の交点を用いる。



第3図 グリッド配置図

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

遺跡地は、鍋川右岸部の東西を北流する雄川と下川に挟まれた標高170m前後の平坦地に立地する。

本地区に西接する富岡市内匠・下高瀬地区にある上位段丘面（俗称「離れ山」）の標高は約200～240mを測り、本遺跡地との間には下川により侵食された比高差40m～50mの急峻な崖線が見られる。また、雄川を挟み東接する甘楽町上野から白倉地区の上位段丘面では、標高190m程の平坦面が形成され、南から北へ緩く傾斜している。

段丘面の発達には南岸の相対的な隆起により流路の移動侵食作用によるものであり、上位段丘面の形成は数万年から十数万年前の洪積世末期と考えられている。その後、約2万年前から始まる浅間火山噴出物による上部ローム層が堆積し始める頃には、鍋川は下位段丘面を氾濫原としていたと考えられており、そのため下位段丘面にはローム層の堆積は見られなるとされている。また、この地殻の傾動運動による鍋川の北への移動に伴い、南の多野山系から流れ込む河川も流路を北に変え上位段丘面を侵食・分断している。本地域では、古くからの信仰の山である稲倉山（標高1,370m）の東腹に源を発する雄川が、甘楽町秋畑地区の山間部を東北方向に流下し、小幡地区を扇頂とする扇状地を形成し、扇端部は下田篠付付近に鍋川に注いでいる。この扇状地は「小幡扇状地」あるいは「雄川扇状地」と呼ばれている。そのほか、かつて富岡市額部・岡本を東流していたと推察されている旧野上川や、内匠地区の上位段丘東麓下を北流する下川によっても扇状地が形成されたと考えられている。その領域は甘楽町町谷～小幡付近を扇頂部として北に扇形が広がり、扇端部は東が甘楽町福島、西は下川、北は原田篠・下田篠地区にて鍋川下位段丘面に接している。扇状地の長さは南北2～2.5km、幅は東西約2kmにわたっている。標高は扇頂付近が約200m、扇端部付近が約160m程である。富岡市内匠・下高瀬と甘楽町上野の間の上位

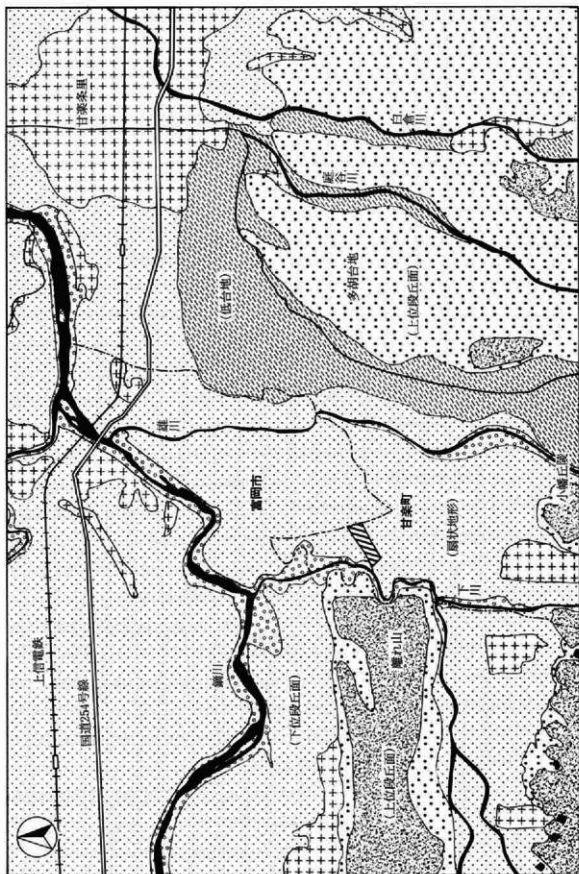
段丘面はこの扇状地形成時に侵食・分断されたと考えられる。当遺跡は、この小幡扇状地中央部に位置し、路線は東西に横断する形で設定されている。

扇状地には上位・下位段丘面とほぼ同様に砂礫層の厚い堆積が見られる。ただし、雄川・下川・野上川等の河川の上流域山間地帯が、馬山金井線と呼ばれる構造線の南側および下仁田以東に広がる三波川変成帯に属しているために、そこから運ばれてくる堆積物には、緑泥片岩・石墨片岩をはじめとする三波川結晶片岩と総称される変成岩類（いわゆる「長瀬系」と称される礫種）が大方を占めているのが特色である。一方、鍋川本流域については、源流である南牧川流域が秩父古生層帯に属することから、チャート・輝緑凝灰岩など、いわゆる「秩父系」と称される礫種がその堆積物に多く含まれているのが特色である。この傾向は上位・下位段丘面、現流路を問わずに見られる。したがって、鍋川本流が下位段丘面を流路としたのち、雄川・旧野上川等が上位段丘面を侵食しながら北流する時に秩父系の礫種を含む堆積物を伴う可能性があるほかは、小幡扇状地の場合その堆積物では長瀬系の礫種が支配的であるという特徴が窺える。

砂礫層の上には黒褐色土が40～70cm程度堆積している。耕作土としても利用されているが、高換な土地柄ゆえ、扇状地帯には主に桑畑とコンニャク畑が広がっている。また、富岡市高瀬や甘楽町福島などの下位段丘面や、旧野上川流域の額部・岡本地区等、小幡扇状地を取り巻く周辺部には水田耕作が見られるが、扇状地内では雄川下流河床低地沿いに若干行われているほかは、ほとんど見られない。

参考文献

- 木崎善雄・野村 哲・中島啓治編著 『群馬のおいたちをたずねて』上・下 1977 上毛新聞社
 『富岡市史』自然編 原始・古代・中世編 1987
 『かよらの自然』1972 かよら理科研究会
 『田中源流跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団



第4圖 田代川周辺地形図

第2節 歴史的環境

当遺跡周辺は、関越道上越線地域関連の大規模な発掘調査が行われ、隣接する田篠中原遺跡や田篠上平遺跡や下川対岸の上位段丘面の独立丘陵である通称「離れ山」上には内匠上之宿遺跡等の遺跡が調査され、調査報告書が平行されている。周辺遺跡はそれら調査報告書に詳述されている。それらを参照し、本遺跡の立地する小幡扇状地を中心に、富岡市域から甘楽町周辺の遺跡の様相を時代別に概観したい。

先土器時代 独立丘陵上に立地する内匠日影周地遺跡や下高瀬寺山遺跡で若干の遺物が出土している。また、関越道上越線甘楽PA内の白倉下原遺跡や天引向原遺跡では、給良Tn火山灰（AT）下層から各種石器を含む環状ブロック群が出土している。

縄文時代 鍋川の上位段丘面及び丘陵地に遺跡の分布が見られる。草創期には、下高瀬寺山遺跡や松葉・慈学寺遺跡で石器が出土し、早期には、下高瀬上之原、内匠日向周地、松葉・慈学寺の各遺跡で遺物が出土している。前期は、内匠諏訪前、白倉下原、天神Ⅰ、内匠諏訪前、内匠日影周地、下高瀬上之原、下高瀬寺山、中高瀬観音山、中高瀬庚申山、白倉下原の各遺跡で遺構・遺物が出土している。中期前半は確実に集落を形成するようになるが、遺構の調査例はそれほど多くない。内匠諏訪前、日影周地、内匠上之宿、白倉下原、天引向原の各遺跡で遺構・遺物が検出されている。中期後半になると遺構の検出例は増加し、東接する田篠中原遺跡で加曾利E式期の環状列石・敷石住居・配石遺構群が検出されている。後期には、内匠上之宿、天神Ⅰ・Ⅱ、白倉下原の各遺跡で遺構・遺物が検出されている。

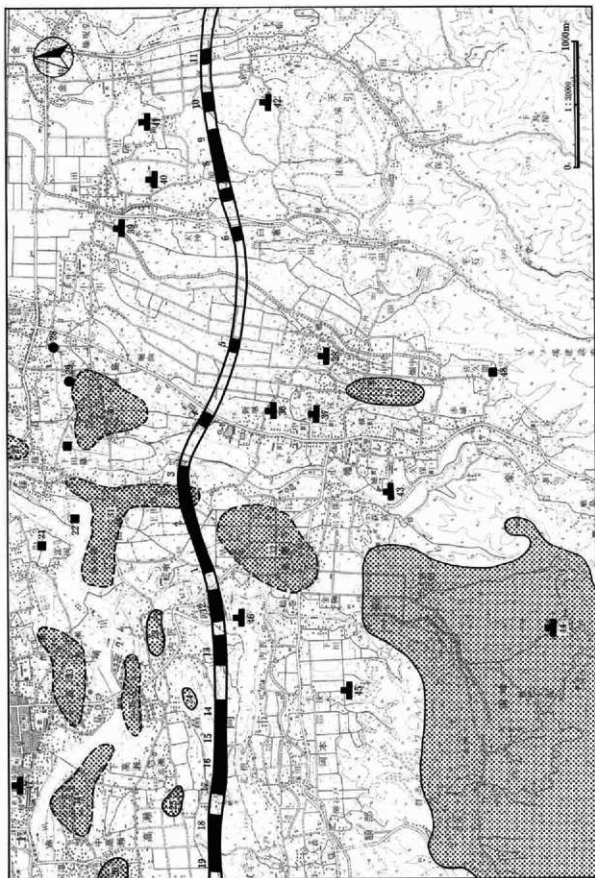
弥生時代 この時代は、上位段丘面とともに下位段丘面にも遺跡が増加する。しかしながら、遺跡数は縄文時代に比べ少なく、発掘調査が行われている遺跡も少ない。中期の遺構は、中高瀬観音山、白倉下原遺跡で遺構が検出されている程度である。後期（樽式、赤井戸式）の遺構調査例は多く、住居跡が

検出されているのは、内匠日影周地、下高瀬上之原、下高瀬寺山、中高瀬観音山、白倉下原の各遺跡が上げられる。特に中高瀬観音山遺跡は100軒以上の大規模な拠点集落であると言えよう。

古墳時代 この時代になると下位段丘面にも古墳群や集落が展開するようになる。前期には、内匠日影周地、下高瀬上之原、中高瀬観音山、西原、松葉・慈学寺、白倉下原、天引向原の各遺跡で集落が検出され、内匠日影周地遺跡では方形周溝墓も検出されている。中期の古墳については、関越道上越線の調査により内匠日影周地遺跡で1基、下高瀬上之原遺跡で5世紀後半～6世紀初頭の群集墳（7基）が検出されている。また同期の集落は、中高瀬観音山、西原、松葉・慈学寺、白倉下原、天引向原の各遺跡で検出されている。後期には下位段丘面の各所に古墳群を形成されるようになり、塚原古墳群、上田篠古墳群、善慶寺古墳群、長久保古墳群、桐洞古墳群、芝宮古墳群等がある。同時代の集落は、本遺跡をはじめ、内匠諏訪前、内匠日影周地、下高瀬上之原、中高瀬観音山、松葉・慈学寺、天神Ⅰ・Ⅱ、白倉下原、天引向原の各遺跡で検出されている。下高瀬上之原遺跡では、谷頭の水場に接し埴輪窯が検出され、天引向原遺跡では粘土探掘坑が検出されている。

奈良・平安時代 集落は古墳時代後期から継続して営まれている場合が多く、内匠、原田篠、田篠上平、内匠日向周地、下高瀬上之原、下高瀬寺山、中高瀬観音山、中高瀬庚申山、西原、松葉・慈学寺、白倉下原、天引向原の各遺跡で集落が検出されており、下位段丘面に更に多くの集落が新しく開始されるようになる。白倉下原遺跡や天引向原遺跡では墨書土器や刻書土器が出土しており、天引向原遺跡では「福天寺」と書かれた墨書土器が瓦と共に出土している。また、As-B降下以前の水田が内匠日向周地遺跡で検出されている。

中世 中世の遺跡の調査例は少ないが、内匠日向周地遺跡では中近世の水田2面が検出され、白倉下



第5區 周辺遺跡位置圖

第2章 地理的・歴史的環境

原遺跡では谷津部分のAs-B混土下から畠跡が検出され、道状遺構も検出されている。銅川の両岸には多くの城郭跡がある。地形の影響があるためか、立地は丘陵と山城がほとんどで、平城はない。内匠上之原遺跡では内匠城の外堀の調査が行われた。

近世以降 近世以降の遺跡の調査例は少ないが、関越道上越線関係で調査例が増加した。内匠諏訪前、田篠上平、下高瀬上之原、中高瀬庚申山の各遺跡で住居や墓塚等が検出されている。また、As-Aにより埋没した畑が下高瀬前田遺跡で検出されている。

周辺主要遺跡一覧表

No	遺跡名	時代	類別	備考
1	普庵寺早湯遺跡	古墳～平安時代	集落跡	古墳時代後期以降の集落。
2	田篠中原遺跡	縄文時代	集落跡	『田篠中原遺跡』(財)群文 1990
3	田篠上平遺跡	古墳、奈良・平安時代	墳墓・集落	『田篠上平遺跡』(財)群文 1989
4	西原遺跡	弥生～平安時代	集落跡	山武考古学研究所年報 No.8 1991
5	松章・慈学寺遺跡	古墳～平安時代	集落跡	山武考古学研究所年報 No.9 1992
6	天神II遺跡	縄文・古墳時代	集落跡	山武考古学研究所年報 No.9 1992
7	天神I遺跡	縄文・古墳時代	集落跡	山武考古学研究所年報 No.8 1991
8	白倉下原遺跡	先土器～近世	集落跡	古墳～平安の大集落。磨石製工房跡検出。
9	大引向原遺跡	先土器～近世	集落跡	
10	天引狐崎遺跡	弥生・古墳時代、中世	集落・墳墓	
11	天引口明塚遺跡	古墳時代	墳墓	『神保下條遺跡』(財)群文 1992
12	内匠上之原遺跡	縄文～古墳時代、中世	集落・城跡	当該遺跡
13	内匠諏訪前遺跡	縄文～古墳時代、近世	集落跡	『内匠諏訪前遺跡・内匠日影岡地遺跡』(財)群文 1992
14	内匠日影岡地遺跡	縄文・弥生・古墳時代	集落・墳墓	『内匠諏訪前遺跡・内匠日影岡地遺跡』(財)群文 1992
15	内匠日向岡地遺跡	古墳～平安時代、中世	生産跡	平安時代・中近世の水田。木製品多数出土。
16	下高瀬上之原遺跡	縄文～平安時代	集落・墳墓	古墳～平安時代の集落、中期古墳群、埴輪窯跡を検出。
17	下高瀬寺山遺跡	縄文・弥生・平安時代	集落跡	縄文前期の小規模集落。
18	中高瀬観音山遺跡	縄文・弥生・奈良時代	集落跡	弥生時代後期の拠点集落。
19	中高瀬庚申山遺跡	縄文・弥生～平安時代	集落跡	平安時代の住居跡から須恵器の水龜出土。
20	中村遺跡	縄文時代、弥生時代	包蔵地	
21	久保遺跡	古墳時代	祭祀遺跡	滑石製模造品多数出土。
22	原田藤遺跡	古墳～平安時代	集落跡	『上田藤古墳群・原田藤遺跡』富岡市教委 1981
23	内匠遺跡	古墳～平安時代	集落跡	『内匠遺跡』富岡市教委 1982
24	向山遺跡	古墳時代	集落跡	
25	陣屋遺跡	古墳時代	集落跡	
26	一本木遺跡	古墳時代	包蔵地	
27	塚原古墳群	古墳時代	墳墓	33基の円墳から成る。7世紀代の築造。
28	天皇塚古墳	古墳時代	墳墓	前方後円墳。堅穴系の主体部と考えられる。5世紀前半の築造。
29	筑の森御荷塚古墳	古墳時代	墳墓	周濠をもつ軸長100mの前方後円墳。円形模倣穴式石室をもつ。
30	二日市古墳群	古墳時代	墳墓	20基程の円墳が残る。5世紀後半からの築造。
31	上田藤古墳群	古墳時代	墳墓	『上田藤古墳群・原田藤遺跡』富岡市教委 1981 30数基現存。
32	普庵寺古墳群	古墳時代	墳墓	約20基現存。かつては50基以上存在。
33	芝百古墳群	古墳時代	墳墓	『芝百古墳群』富岡市教委 1992 105基存在。
34	鞍西古墳群	古墳時代	墳墓	45基程存在。
35	長久保遺跡	古墳時代	墳墓	
36	下城跡	中世	城郭跡	
37	中城跡	中世	城郭跡	
38	上野城跡	中世	城郭跡	
39	大類屋敷跡	中世	城郭跡	
40	後島城跡	中世	城郭跡	
41	仁井屋城跡	中世	城郭跡	
42	倉内城跡	中世	城郭跡	
43	熊井戸屋敷跡	中世	城郭跡	
44	国峰城跡	中世	城郭跡	
45	岡本圃ノ内	中世	城郭跡	
46	内匠城跡	中世	城郭跡	
47	富岡陣屋跡	中・近世	城郭跡	
48	佐久間遺跡	縄文時代	集落跡	『佐久間遺跡』山武考古学研究所 1988
49	坂詰遺跡	縄文・古墳～平安時代	集落跡	『新井・坂詰遺跡』富岡市教育委員会 1990

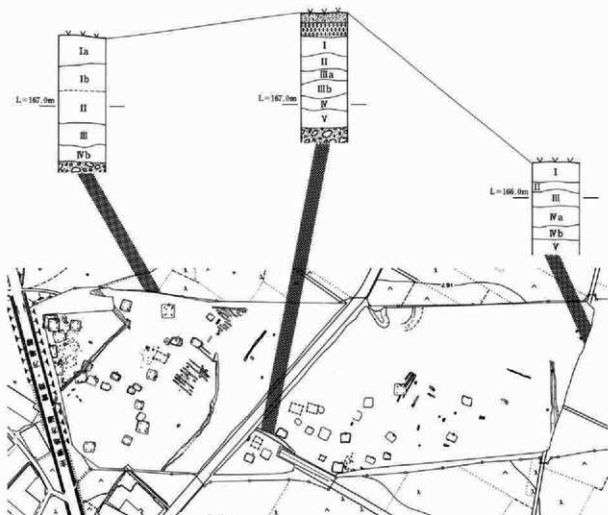
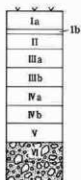
第3節 基本土層

遺跡地は、地理的環境でも述べたように雄川や旧野上川により形成された扇状地上に乗っているため、周辺部には畑や桑園が広がる。扇状地礫層は、地表下数十cmから1mの所で波状に凹凸が見られ、凹面上には黄褐色のシルト質土が堆積し凹凸面を埋めている。その上層には粘性の強い褐色土が堆積し、遺構掘削面となっている。またこの褐色土中には土師器の坏・甕類の破片が多く含まれ上流部から運ばれてきたものと考えられる。褐色土上面にはAs-Bの堆積が見られ、34号住居などでは竪穴住居の埋没途中に降下堆積した状況が見られる場所もある。現在の耕作土中にはAs-Aが多量に含まれる。

早道場遺跡住居跡土層説明

基本土層

- I a, 現耕作土 桑園及び畑耕作土。
I b, 現耕作土 As-A混土。鉄分沈着見られる。
II, 黒褐色土 所にAs-B混土。所により火山灰層含む。
III a, 暗褐色土 土質緻密。粘性強い。土師器片含む。(遺構確認層)
III b, 暗褐色土 礫を含み、粘性、しまり強い。
IV a, 褐色土 土質緻密。粘性強い。(調査区東端部顕文土器片混入)
IV b, 褐色土 V層との漸位層。
V, 黄褐色シルト質土
VI, 礫層



第6図 基本土層

第3章 検出された遺構・遺物

第1節 竪穴住居跡

1. 竪穴住居跡の概要

竪穴住居の遺構番号は、第1次調査では27軒の住居跡を検出したが、25号住居以降の住居に関しては住居かどうか不明瞭であったため、第2次調査開始段階で30号住居から遺構番号を付し、本書でも調査段階での遺構番号をそのまま使用したため、26号住居～29号住居まで欠番となった。

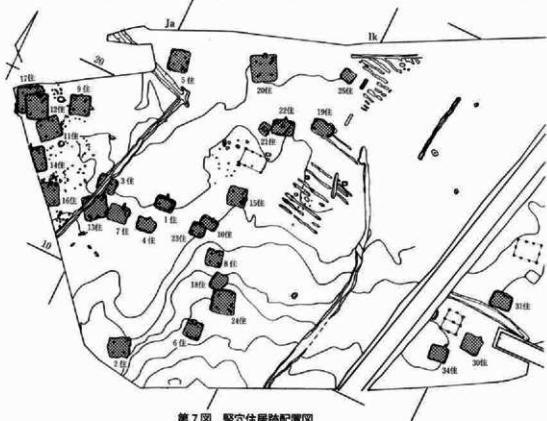
第1次調査で検出された竪穴住居跡は25軒、第2次調査で検出された竪穴住居跡は11軒を数え、合わせて36軒の竪穴住居跡が検出された。遺構は主に調査区西側部分に集中し、北東部から東側部分にかけ

て遺構は見られなくなる。竪穴住居跡の時期は、古墳時代後期から奈良時代にかけての集落である。

住居の掘り方は、西側では扇状地礫層が盛り上がり掘り込みは浅く、中央南側では礫層が深く上面には黄褐色粘質土が堆積し、この粘質土を掘り込む住居は掘り込みが深い。住居中の埋没土は礫層を掘り込んでいる為に礫が多量に混入するものが多く、中には人為的に投げ込まれたような状況で大磯出土している住居も見られる。またAs-B下の褐色土中には、多量の土師器片が含まれ、包含層が見られる。

善慶寺早道場遺跡住居跡一覧表

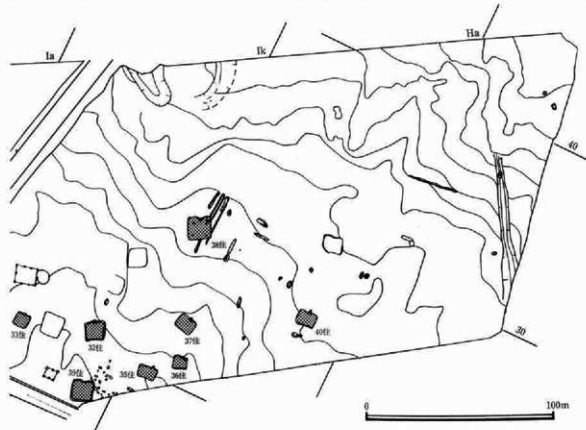
住居番号	住居位置	主軸方位	規模 (m・㎡)				住居形状	貯蔵穴位置	柱穴有無	重複	住居階級時期	備考
			長辺	短辺	深さ	面積						
1号	lr-15	N-0°	5.0	3.7	0.38	13.1	横長長方形	なし	なし	なし	8～9世紀	
2号	lq-7	N-25°-W	北壁5.4	南壁4.4	0.2	24.3	台形	北東隅	4	なし	不明	南北長5.6m
3号	Ja-14	N-4°-E	5.1	4.2	0.50	14.8	横長長方形	北東隅	4	1号溝	8世紀代	
4号	lr-12	N-3°-W	5.0	3.2	0.50	12.0	横長長方形	なし	なし	なし	7～8世紀代	
5号	It-21	N-78°-E	5.4	—	0.36	24.0	正方形	1・2割隅	8	なし	7世紀代	礎投入
6号	lm-9	N-3°-W	4.5	—	0.38	15.2	正方形	なし	4	なし	7世紀代	



第7図 竪穴住居跡配置図

第1節 竪穴住居跡の概要

7号	Is-13	N-3°-W	5.1	4.3	0.24	17.1	横長長方形	北東隅	なし	13号住	8世紀代	
8号	Io-12	N-20°-W	4.3	4.3	0.30	13.5	正方形	南東隅	4	なし	7世紀代	
9号	Id-18	N-18°-W	5.3	—	0.16	21.3	正方形	北東隅	4	なし	7世紀代	礎投入
10号	Io-15	N-0°	4.5	3.1	0.20	10.0	横長長方形	北東隅	4	23住	7世紀代	
11号	Je-15	N-47°-W	6.0	5.6	0.40	26.9	横長長方形	なし	4	12住	7世紀代	電付替
12号	Jf-16	N-66°-W	6.2	5.8	0.27	33.9	縦長長方形	北東隅	6	11住・17住	7世紀代	
13号	Ja-13	N-55°-W	6.0	—	0.56	30.6	正方形	竪右脇	8	1号溝	7世紀代	
14号	Je-14	N-40°-W	6.2	(3.0)	0.46	(16.8)	—	竪右	2	なし	7世紀代	
15号	In-16	N-76°-E	5.0	5.0	0.18	20.3	正方形	北東隅	4	なし	6世紀代	
16号	Jc-12	N-26°-W	5.8	(4.0)	0.36	(21.6)	—	北隅	4	なし	7世紀代	礎投入
17号	Jg-16	N-66°-E	6.8	6.6	0.40	(41.1)	(正方形)	北東隅	3	12住・8坑	7世紀代	
18号	Im-12	N-93°-E	4.4	3.7	0.20	13.1	横長長方形	なし	2	なし	8世紀代	
19号	Il-21	N-0°	5.8	3.9	0.34	16.9	横長長方形	なし	4	なし	8世紀代	石組、礎替
20号	Ip-23	N-24°-W	6.9	6.7	0.40	41.9	正方形	北東隅	9	なし	6~7世紀代	礎替
21号	Io-20	N-100°-E	3.0	2.7	0.20	6.0	台形	なし	なし	22住近接	7世紀代	
22号	In-21	N-27°-W	5.8	4.2	0.30	17.9	横長長方形	北東隅	7	なし	7世紀代	
23号	Io-14	N-5°-W	4.0	—	0.14	34.1	正方形	なし	4	10住	4世紀代	
24号	Im-11	N-68°-W	6.3	6.1	0.30	11.5	正方形	なし	4	18住	6~7世紀代	竪礎敷、礎替
25号	Il-24	N-10°-E	3.3	3.0	0.40	8.1	横長長方形	なし	なし	なし	不明	礎投入
26号	欠番											
27号	欠番											
28号	欠番											
29号	欠番											
30号	Hs-15	N-10°-E	5.2	4.1	0.40	16.2	縦長長方形	北東隅	4	なし	8世紀代	礎投入、竪礎敷
31号	Hs-17	N-0°	5.4	4.3	0.46	14.9	横長長方形	なし	なし	なし	8世紀代	礎投入
32号	Hm-20	N-24°-W	5.2	5.0	0.60	19.9	正方形	北東隅	5	なし	8世紀代	上面As-B増棟
33号	Hq-19	N-0°	4.0	3.7	0.22	10.3	横長長方形	なし	なし	なし	8世紀代	礎投入
34号	Ia-14	N-3°-W	4.7	4.0	0.80	12.5	横長長方形	北東隅	4	なし	8世紀代	上面As-B増棟
35号	Hi-19	N-0°	5.0	3.0	0.40	11.9	台形	北東隅	なし	なし	8世紀代	礎・土器片投入
36号	Hb-21	N-15°-W	3.5	3.3	0.40	8.8	正方形	北東隅	1	なし	8世紀代	礎・土器片投入
37号	Hi-22	N-11°-E	4.7	3.9	0.70	14.4	横長長方形	なし	なし	なし	8世紀代	礎投入
38号	Hj-27	N-28°-W	6.0	5.9	0.40	30.5	正方形	北東隅	4	なし	8世紀代	礎尖家屋
39号	Hi-17	N-17°-W	3.7	5.1	0.75	24.1	横長長方形	南東隅	5	なし	7~8世紀	礎尖家屋(熊鷹)
40号	Hc-26	N-0°-E	5.1	3.7	0.50	15.4	横長長方形	竪右脇	3	なし	7~8世紀	礎投入



第3章 検出された遺構・遺物

善慶寺早道場遺跡及びび一覽表(単位:cm)

住居番号	炉・竈位置 (竈残部位置)	竈残部計測値			埋 道 部				袖		備 考
		奥行き	幅	深 さ	長 さ	幅	比の傾	向き	構 築 材		
1号	北壁(住居内)	59	35	32	76	28	42'	有	地山塊貼付		
2号	北壁中央東寄り	40	31	25	—	—	55'	無	地山塊貼付		
3号	北壁中央やや東寄り(住居内)	28	37	35	45	12	—	無	地山塊貼付		1号溝との重複
4号	北壁中央(住居内)	43	45	55	56	—	45'	有	袖先端部礫・石組		埋道部変利用
5号	東壁(住居内)	75	30	76	—	—	—	有	桱口部板状礫組		
6号	北壁中央(住居内)	43	38	34	63	20	27'	有	地山塊貼付		天井部崩落
7号	北壁中央東寄り	40	23	25	111	21	5'	有	桱口部石組		
8号	北壁中央壁際	—	—	18	—	—	36'	無			竈部分平夾
9号	北壁中央(住居内)	50	51	21	45	38	30'	有			竈部分破壊
10号	北壁東寄り(住居内)	55	49	15	19	—	36'	有			竈部分破壊
11号	北壁中央(住居内)	—	37	18	—	—	—	有	灰褐色粘質土		第2埋道部のみ
12号	北壁中央やや東寄り	—	—	—	—	—	—	無			
13号	北壁中央(住居内)	35	38	49	48	21	74'	有	桱口部石組		
14号	北壁(住居内)	46	21	42	133	—	35'	有	袖先端部礫組		
15号	東壁中央(住居内)	83	60	17	—	—	60'	有	袖先端部礫組		
16号	北壁(住居内)	66	46	47	122	17	55'	有	桱口部礫組		
17号	北壁中央(住居内)	68	38	—	—	18	—	有	地山塊貼付		
18号	東壁中央南寄り(住居内)	51	39	28	—	—	85'	有	地山塊貼付		
19号	第1竈 北壁(住居内)	33	36	23	—	—	40'	有	桱口部石組		
	第2竈 北壁(住居内)	37	34	—	—	—	30'	有	地山塊貼付		
20号	北壁ほぼ中央(住居内)	54	60	26	66	—	59'	有	袖先端部石組		
21号	東壁中央やや南寄り(住居内)	96	68	18	—	—	57'	有	桱口口天井部板状礫		破壊
22号	北壁中央壁面	—	44	28	84	36	42'	有	地山塊貼付		破壊
23号	—	—	—	—	—	—	—	無			
24号	東壁中央やや南寄り	60	30	44	55	33	65'	無	桱口口板状礫石組		第2、第3埋道部のみ
25号	北壁中央やや南寄り(住居内)	33	40	25	—	—	70'	有	地山掘り戻し		
30号	第1竈 北壁東寄り(住居内)	37	36	40	39	—	50'	有	黄褐色土塊貼付		埋道部変使用
	第2竈 南東隅(住居内)	54	36	45	—	—	50'	有	入扉大石組		
31号	北壁東寄り壁面(住居内)	76	53	43	—	—	52'	有	黄褐色土塊貼付		天井部崩落
32号	北壁中央(住居内)	60	32	66	77	25	58'	有	黄褐色土塊貼付		天井部崩落
33号	北壁中央(壁延長)	52	57	26	—	—	45'	有	地山掘り戻し		
34号	北壁東隅寄り(住居内)	69	45	71	109	23	73'	有	埋道部石組		破壊
35号	北壁東隅寄り(壁長上)	82	41	42	—	—	82'	有	石袖石組		
36号	北壁ほぼ中央	51	56	36	—	—	58'	有			埋道部変使用
37号	北壁中央やや東寄り	54	41	61	63	23	59'	有	地山塊貼付		
38号	北壁中央(住居内)	74	29	14	—	—	32'	有	桱口口板状礫石組		
39号	北壁中央(住居内)	62	40	45	115	17	54'	有	桱口口板状礫石組		天井部崩落
40号	北壁中央(住居内)	57	44	41	106	17	50'	有	桱口口板状礫石組		天井部崩落

2. 竪穴住居跡遺構・遺物

1号住居跡 (PL 5・32・33)

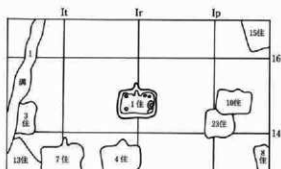
位置 Ir-15グリッド 床面積 13.1㎡

主軸方位 N-0° 重複 なし

規模と形状 長辺5.0m、短辺3.7m、残存壁高0.38mを測り、東西に長い横長方形を呈する。

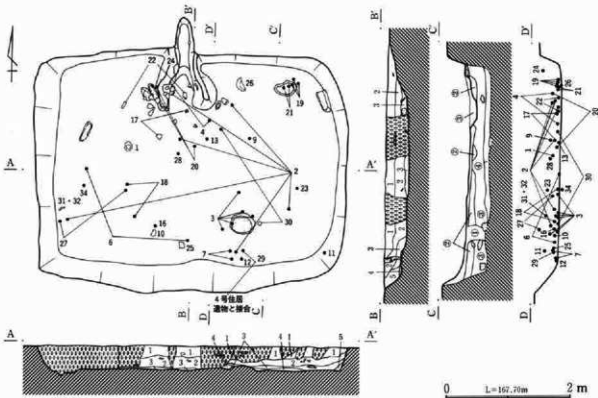
埋土 近現代の耕作溝の掘削が縦横に走り、部分的に床面まで達する。土器片、礫が多量に含まれる。
床面 住居中央部から竈前にかけて、黄色細砂塊を含む踏み締められた粘床面を確認した。

柱穴 掘り方調査段階で4カ所円形の地山の乱れを確認したが、各柱穴とも計測不能であった。



貯蔵穴・壁下周溝 いずれも検出されなかった。

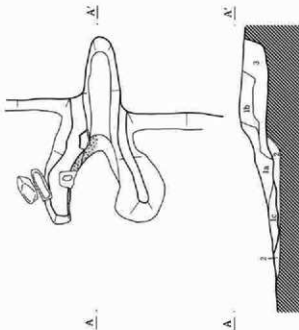
掘り方 地山シルト及び砂礫層が乱れた状態で堆積し、掘り方は軟・硬により起伏が見られる。



1. 褐色土 粘性しまりなし。
2. 褐色土 土器片・織・白色粒・黄色微粒を多く含む。
3. 褐色土 粘性少、軽石の混入非常に少ない。
4. 黄褐色土 シルト質粘性あり。
5. 褐色土 粘性ややあり、黄色微粒を少量含む。

- ①. 粘床 黄白色小塊、細砂混じり、しまるが粘性なし。
- ②. 暗褐色土 上半小礫、下半に河原砂を多く含む。
- ③. 褐色土 砂礫を多量に含む。
- ④. 黄色砂層 礫混じり。

第8図 1号住居跡



竈跡 北壁中央やや左寄り住居内に燃焼部を有する竈が付設される。燃焼部内には焼土塊を含む褐色土が見られ、天井部崩落土と考えられる。竈内及び前方部への灰・焼土の堆積は見られない。煙道部へは緩やかに立ち上がり壁外に伸びる。

出土遺物 埋没土中に多量に含まれ、床面上にも全体に散在する。

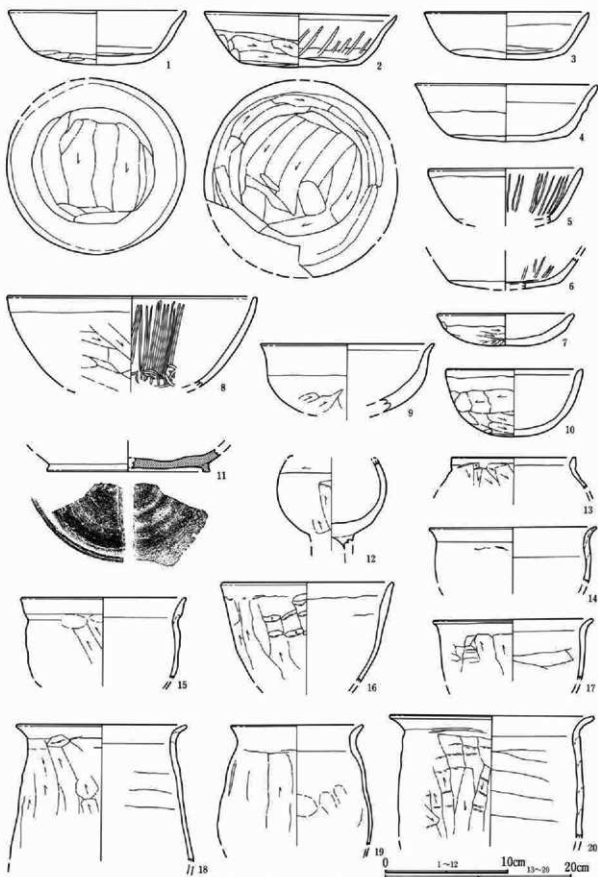
時期 8世紀代

竈

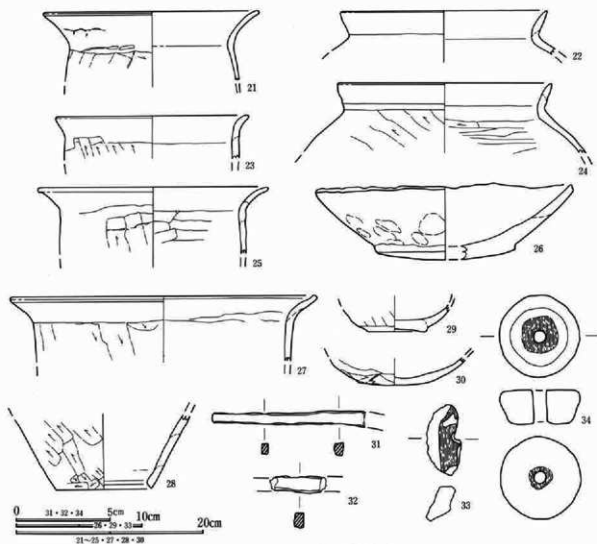
- 1 a. 褐色土 焼土小塊・白色粒・黄色粒を含む。赤色気味。
- 1 b. 褐色土 焼土粒・白色粒・黄色粒を含む。赤色がかる。
- 1 c. 褐色土 焼土粒を1b層より多く含む。白色粒・黄色粒含む。
2. 褐色土 白色粒・黄色粒を含む。
3. 褐色土 炭化物粒・白色粒・黄色粒を含む。

第9図 1号住居跡竈

第3章 検出された遺構・遺物



第10図 1号住居跡出土遺物(1)



第11図 1号住居跡出土遺物(2)

1号住居跡出土遺物観察表 (PL.32・33)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土器 杯	北西 11	ほぼ完 形	口14.0 高4.3 底8.5	①にぶい焼成②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	平底。口縁部及び内底面立ち上がり部強いナデ。体部横位へつ削り、底面へつ削り。	
2	土器 杯	竈左袖 10	ほぼ完 形	口15.0 高4.2 底9.6	①にぶい黄褐色②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部及び内底面立ち上がり部強いナデ。内面放射状暗文。体部横位へつ削り、底面へつ削り。	
3	土器 杯	南東 ±0	完形	口13.0 高3.7 底8.5	①焼成②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	平底。口縁部及び内底面立ち上がり部強いナデ。断面磨滅。	
4	土器 杯	竈左袖 11	1/2	口14.5 高4.5 底9.7	①焼成②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部強いナデ。やや反。体部横位へつ削り、底面へつ削り。	
5	土器 杯	覆土	口縁片	口(12.2) 高一 底一	①にぶい黄褐色②酸化焰 ③細砂・粘土粒含む	口唇部横ナデ。体部横位へつ削り。底面へつ削り。内面放射状暗文。	
6	土器 杯	南西 2	底部片	口一 高一 底(9.1)	①にぶい黄褐色②酸化 焰③細砂・粘土粒含む	内面放射状暗文。体部及び底面へつ削り。	外面一部彫 付着
7	土器 杯	南 6	口一底 1/2	口10.8 底2.6 底一	①にぶい焼成②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部にかけて手持ちへつ削り。内面2本の平行な強いナデ。	
8	土器 杯	覆土	口一体 部片	口(20.0) 高一 底一	①焼成②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部斜位へつ削り。内面細かな放射状暗文。	
9	土器 杯	中央東 14	口一体 部	口(14.0) 高一 底一	①焼成②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部指ナデ。体部から底部へつ削り。厚唇。	
10	土器 杯	南 7	口一底 1/2	口(11.0) 高5.3 底一	①にぶい焼成②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。口唇部強いナデ。体部横位、底部手持ちへつ削り。内面ナデ。	

第3章 検出された遺構・遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備 考
11	須 罎 器 埴 地	南東壁 20	底部片	口一 高一 底(13.0)	①灰白②還元焰 ③細砂含む	縦楕圆形。底面回転ヘラ調整後、高台部貼付。	
12	土 師 器 小型台付 壺	南 2	胴部片	口一 高一 底一	①にぶい焼空酸化焰 ③細砂・粘土粒含む	口縁部内湾、横ナデ。球形胴を呈し、斜位ヘラ削り。	
13	土 師 器 小型壺	中央 1	口縁片	口(13.4) 高一 底一	①にぶい焼空酸化焰 ③細砂粒・小礫含む	口縁部短く直立。口唇部面取り。胴上半斜位ヘラ削り。	
14	土 師 器 壺	中央 ±0	口一胴 部片	口18.0 高一 底一	①にぶい焼空酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部短く外反、横ナデ。胴上半縦位ヘラ削り、内面横ナデ。	
15	土 師 器 壺 壺	壺左袖 10	口縁片	口(17.5) 高一 底一	①焼空酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ、頸部指指痕顯著。胴上半斜縦位ヘラ削り。	
16	土 師 器 鉢	南西 4	口一胴 部片	口(18.3) 高一 底一	①焼空酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。胴部縦位ヘラ削り、内面ナデ。	
17	土 師 器 壺	壺右袖 15	口一胴 部片	口16.9 高一 底一	①明赤焼空酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部短く外反、横ナデ。胴部縦位ヘラ削り、内面横ナデ。	
18	土 師 器 壺	南西 4	口一胴 部片	口(18.3) 高一 底一	①焼空酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部短く外反、頸部にかげ横ナデ。胴ハの字状に開き、上半斜縦位ヘラ削り、内面横ナデ。	
19	土 師 器 壺	北東 2	口一胴 部片	口(14.0) 高一 底一	①焼空酸化焰 ③細砂粒・小礫含む	口縁部短く外反、頸部にかげ横ナデ。胴部縦位ヘラ削り、器内面に器形重む。	
20	土 師 器 壺	壺左袖 9	口一胴 上部片	口(21.8) 高一 底一	①にぶい焼空酸化焰 ③粗砂粒・粘土粒含む	口縁部短く外反、頸部強い横ナデ。胴上半縦位ヘラ削り、内面横ナデ。	
21	土 師 器 壺	北東 2	口縁片	口(22.8) 高一 底一	①にぶい焼空酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部大きく外反横ナデ。胴上半横位ヘラ削り、内面横ナデ。	
22	土 師 器 壺	壺内 ±0	口縁片	口(22.0) 高一 底一	①焼空酸化焰 ③細砂粒・小礫含む	口縁部僅かに外反、横ナデ。頸部強いナデ。内面横ナデ。球形胴。	
23	土 師 器 瓶	東 16	口縁片	口(20.7) 高一 底一	①にぶい焼空酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部短く外反、横ナデ。胴上半斜縦位ヘラ削り、内面丁寧な横ナデ。	
24	土 師 器 壺 壺	壺左袖 12	口縁片	口(23.0) 高一 底一	①焼空酸化焰 ③細砂粒・小礫含む	口縁部僅かに外反、横ナデ。頸部強いナデ。胴上半ヘラ削り、内面横ナデ。球形胴。	
25	土 師 器 壺	南 7	口縁片	口(24.2) 高一 底一	①にぶい黄褐色酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部外反、横ナデ。胴上半縦位ヘラ削り、内面横ナデ。	
26	土 師 器 壺	北東 2	口一底 片	口20.4 高5.7 底11.0	①にぶい焼空酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	底部指ナゲ及び押え。底部ヘラ削り、内面ナデ。割れ部分刺蝟によるものか。	
27	土 師 器 瓶	南西 9	口縁片	口(32.6) 高一 底一	①にぶい焼空酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部外反、横ナデ。胴上半縦位ヘラ削り、内面丁寧な横ナデ。	
28	土 師 器 瓶	中央 15	底部片	底部(10.4)	①焼空酸化焰 ③粗砂粒含む	開口部2度面取り。胴部下半斜縦位ヘラ削り、内面横ナデ。	
29	土 師 器 壺	南東 7	底部片	口一 高一 底6.2	①にぶい焼空酸化焰 ⑤小砂粒含む	円盤状底部に腰部や丸味をもつ。腰部指ナゲ、指押え。底面木葉状の線刻。	4住と住居間接合
30	土 師 器 壺	南東 2	底部片	口一 高一 底6.0	①明赤焼空酸化焰 ⑤小砂粒含む	体部斜縦位ヘラ削り。底面丸底、一方ヘラ削り、内面丁寧なナデ。	
31	鉄 製 品 刀子	西 19	柄部	<計測値>長6.2、幅0.7、厚0.45、重6.11g <特徴>刀子の柄、角棒状を呈する。			
32	鉄 製 品 刀子	西 19	柄部 両端欠	<計測値>長3.0、幅0.8、厚0.5、重2.94g <特徴>刀子の柄、角棒状を呈する。			
33	石 製 品 砥石	覆土		<計測値>長5.0、幅1.5、重27.5g <石材>流沢石 <特徴>磨石。あまり平滑でない。			
34	石 製 品 紡 車	南西 -2	完形	<計測値>長4.3、幅4.3、厚1.8、重60g、穿孔径0.7 <石材>磨石 <特徴>断面台形状を呈し、穿孔部周辺磨耗。			

2号住居跡 (PL5・33)

位置 Iq-7グリッド 床面積 24.3m²

埋土 15cm~25cm大の礫が多量に混じる。埋没途中に混入したのと考えられる。

主軸方位 N-25°-W 重複 北西隅路線外

規模と形状 北壁5.4m、南壁4.4m、南北長5.1m、

床面 住居中央部に硬化面を確認した。

壁高0.2mを測り、北壁の長い台形状を呈する。

竈跡 北壁中央東寄り部分に壁を掘り込みV字形を呈する燃焼部を検出した。覆土中に焼土塊を含む。

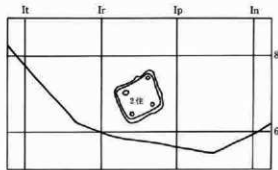
柱穴 住居各隅寄りで4本確認した。覆土中には礫、黄褐色土塊等を含み部分的に根石状の礫が底面に見られる。

- 規模 P 1 長辺34cm、深さ40cm
 P 2 長辺30cm、深さ40cm
 P 3 長辺30cm、深さ40cm
 P 4 長辺40cm、深さ40cm

貯蔵穴 北東隅部に位置し、規模は長径66cm、短径58cm、深さ51cmを測り、形状は円形を呈する。

壁下周溝 東壁から南壁にかけて巡る。

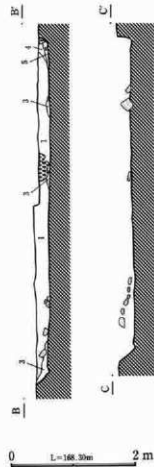
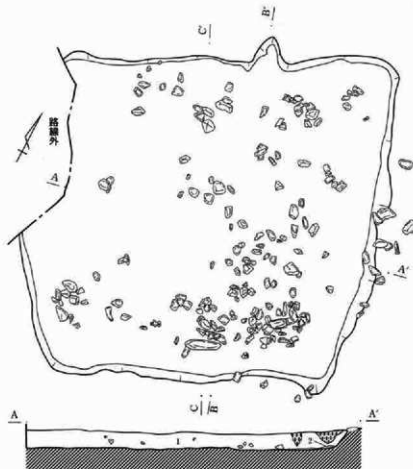
掘り方 地山礫及びシルト層を掘り込み若干の起伏



が見られる。

出土遺物 床面や竈内などからの出土遺物はなく、埋設土中より土師器坏・小型壺・須恵器壺出土。

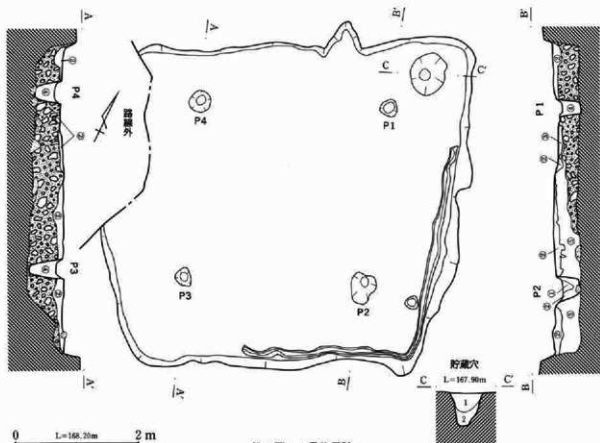
時期 不明



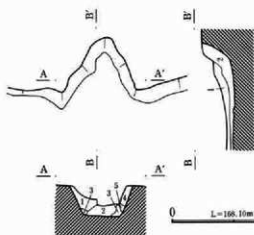
1. 黒褐色土 小指大の礫を乱雑に含む。粘土塊も若干混入。
2. 茶褐色土 茶褐色土塊、米粒大の礫等を含む。きめは細かい。
3. 黒褐色土 米粒大の細礫(楕円)を多く含む。
4. 暗褐色土 焼土粒・細礫を少量含む。硬くしまる。
5. 暗褐色土 竈第1次埋設土と考えられよう。

第12図 2号住居跡

第3章 検出された遺構・遺物



第13図 2号住居跡



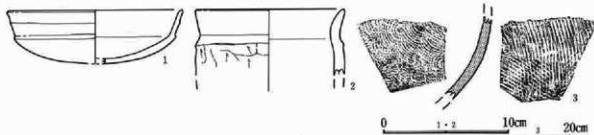
第14図 2号住居跡壁

- ①. 黒褐色土 粘性強い。黄褐色土粒を塊状に含む。
- ②. 黒褐色土 黄褐色土塊を多量に含む。粘性強く、硬質。
- ③. 黒褐色土 2層に炭化物・炭土粒を含む。
- ④. 黒褐色土 5cm前後の礫を多く含む。
- ⑤. オリーブ褐色土 シルト質。均質で硬くしめる。夾雑物少ない。

- 貯蔵穴
1. 黒褐色土 大礫を多く含む。黄褐色粘土塊混じり。
 2. 黒褐色土 大礫を1より多く含む。やや砂質。

竈

1. 暗褐色土 炭土塊を含む。粘性あり。硬質。
2. 暗褐色土 炭土粒を僅かに含む。小礫を含む。
3. 暗褐色土 2層に近似するが、炭土粒が多い。
4. 黒褐色土 粘性を有し、炭土粒を僅かに含む。
5. 黒褐色土 礫を含む。粘性あり。硬質。



第15図 2号住居跡出土遺物

2号住居跡出土遺物観察表 (PL33)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 法	量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	竈内 覆土	1/2	□(14.0) 高一 底一	①にぶい焼成 ②赤褐色 ③細砂粒含む	口縁部と体部の境に段状の段を持つ。口縁上部強いナズ。体部へテ削り。断面もろく剥落。	
2	土師器 葉	竈内 覆土	口縁片	□(11.9) 高一 底一	①赤褐色 ②片岩粒・粗砂粒含む	口縁部直立気味。口縁から頸部横ナズ。胴上端横位。上半縦位へテ削り。	
3	須恵器 葉	覆土	胴部片	□一 高一 底一	①黄灰②還元焰 ③砂粒少量含む	外面、タキキ締めによるカキ目。内面、円弧状の当て具痕。	

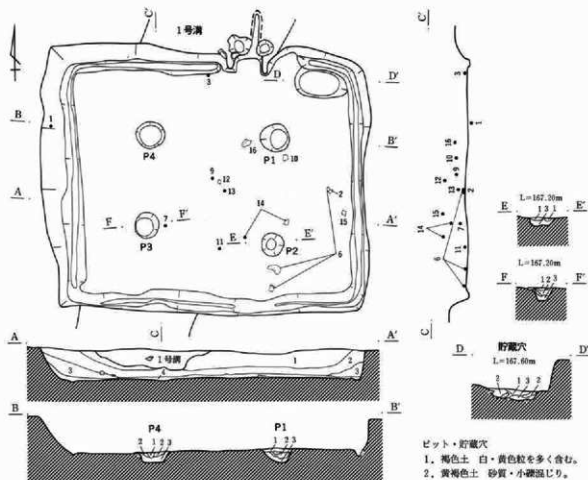
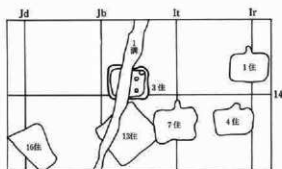
3号住居跡 (PL 6・33・34)

位置 Ja-14グリッド 床面積 14.8㎡

主軸方位 N-4°-E 重複 1号溝に掘り込まれる。

規模と形状 長辺5.15m、短辺4.2m、残存壁高0.5mを測り、東西に長い横長長方形を呈する。

埋土 10cm~30cmの大礫を多量に含み、中層には白色粒や黄色粒が混じり、人為的な埋土と考えられる。



1. 褐色土 粘土・白色粒・黄色粒を多く含む。
2. 褐色土 小礫・白色粒・黄色粒を多く含む。
3. 明褐色土 礫を北に多く含む。白色粒・黄色粒を多く含む。
4. 褐色土 白色粒・黄色粒を多く含む。焼土粒少量混入。

第16図 3号住居跡

第3章 検出された遺構・遺物

床面 地山礫層の露出が顕著であり、貼床等の硬化面は検出できなかった。

竈跡 1号溝との重複部分に当たり、焼土範囲等により煙道部や燃焼部の痕跡が認められる程度である。燃焼部は住居内に構築され、袖が付設されていたと考えられる。覆土中には黄色粒、焼土塊等を含む。

柱穴 住居各隅を結ぶ対角線上に4本確認した。柱間は東西長2m、南北長1.5mを測る。

規模

P 1 長辺38cm、深さ40cm P 2 長辺40cm、深さ25cm

P 3 長辺40cm、深さ30cm P 4 長辺38cm、深さ40cm

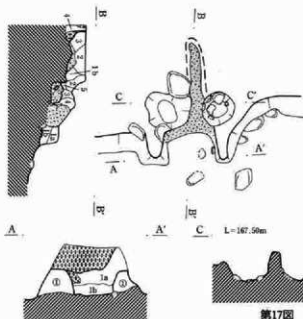
貯蔵穴 北東隅に位置し、規模は長辺0.8m、短辺0.42m、深さ0.16mを測る。隅丸長方形を呈する。

壁下周溝 竈部分を除き全周する。

掘り方 床面と同一であり、部分的に礫層が露出。

出土遺物 南東隅寄りの上層から下層にかけて土師器・埴輪等が出土し、須恵器脚付盤出土。

時期 8世紀代



第17図 3号住居跡竈

竈

1 a. 黄褐色土 炭化粒・白・黄色粒・焼土塊を含む。

1 b. 1 a層よりも白黄色粒の混入が少ない。

※ 1 a～1 b層は類似し境界も不明確。竈床部土か。

①. 褐色土 (竈袖部) 白・黄色粒を含む。炭化物・焼土塊を含む。

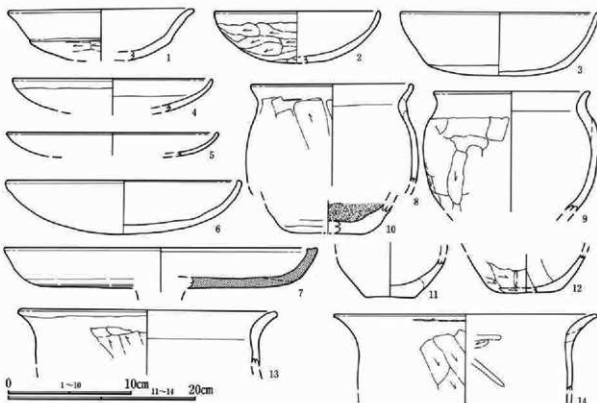
2. 暗褐色土 白・黄色粒を多く含む。

3. 黒褐色土 黄色粘土が混入。

4. 暗褐色土 2層土に似るが、大きめの白色粒が上手に混入。

5. 黒褐色3層土より、黄色粘土の混入が多い。

0 L=167.60m 1 m



第18図 3号住居跡出土遺物(1)



第19図 3号住居跡出土遺物(2)

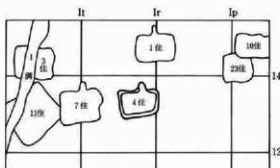
3号住居跡出土遺物観察表 (PL.33・34)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土器器 杯	西壁際 -6	口~底 部片	口(14.3) 高— 底—	①にぶい黄褐色酸化 焼③砂粒含む	口縁と体部の境に弱い稜を持つ。口縁部横ナデ。 体部から底部を持ちへり。内面丁寧ナデ。	
2	土器器 杯	東 5	口~底 部片	口13.0 高— 底—	①褐色酸化焼 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部にかけ持ちへり。 内面丁寧ナデ。	
3	土器器 杯	東壁 3	口~底 部片	口(15.6) 高5.0 底11.2	①褐色酸化焼 ③粗砂粒・粘土粒含む	器表面もろく。調整痕不明瞭。口縁部横ナデ。体 部内湾気味。底面平高状を呈する。	
4	土器器 杯	覆土	口縁片	口(15.6) 高— 底—	①にぶい褐色酸化焼 ③粗砂粒僅かに含む	皿状を呈する。口縁部横ナデ。体部未調整。底部 へり。内面丁寧ナデ。	
5	土器器 皿	覆土	口縁片	口(17.0) 高— 底—	①褐色酸化焼 ③粗砂粒僅かに含む	口縁部横ナデ。体部から底部わずみ見られる。内 面丁寧ナデ。	
6	土器器 杯	南東 8	ほぼ完 形	口18.4 高4.4 底4.0	①褐色酸化焼 ③砂粒じり	口唇部内屈、断面三角形を呈する。器表面もろく、 調整痕不明瞭。	
7	須恵器 舞付甕	南西 11	1/3高台 部欠	口(24.2)	①灰赤褐色元焼 ③砂粒含む	輪軸整形。口唇頂部強いナデ、断面三角形の受部。 胴部回転へり。底面回転へりナデ。	
8	土器器 小型甕	中央 16	口~胴 部片	口(12.6) 高— 底—	①明赤褐色酸化焼 ③粗砂粒含む	口縁部短く外反、横ナデ。胴部縦位へり。ナデ。	
9	土器器 小型甕	覆土	口~胴 部片	口(12.0) 高— 底—	①にぶい赤褐色酸化 焼③砂粒含む	口縁部から頸部横ナデ、胴上部横位指ナデ。胴中 央から下半縦位へり。内面丁寧ナデ。	
10	土器器 小型甕	東 4	底部片	口— 高— 底(5.9)	①褐色酸化焼 ③砂粒含む	器表面もろく。調整痕不明瞭。胴部横位へり。内 面内湾気味。底面へり。内面内湾気味のナデ。	内面湾付着
11	土器器 甕	中央 16	底部	口— 高— 底5.0	①明褐色酸化焼 ③粗砂粒含む	器表面調整痕不明瞭。底部肥厚。	
12	土器器 甕	中央 33	底部片	口— 高— 底(7.4)	①にぶい赤褐色酸化 焼③粗砂粒含む	胴部下端横位へり。底面へり。内面斜縦 位へりナデ。	
13	土器器 甕	中央 32	口縁片	口(27.0) 高— 底—	①明褐色酸化焼 ③粗砂粒含む	口縁部外反、胴部直立気味、斜縦位へり。後、 口縁部横ナデ。	No14に類似
14	土器器 甕	中央 10	口縁片	口(28.0) 高— 底—	①にぶい褐色酸化焼 ③粗砂粒含む	口縁部外反、横ナデ。胴部直立気味、斜縦位へり 。内面斜縦位ナデ。	No13に類似
15	土器器 甕	東壁際 41	口~胴 部片	口(23.5) 高— 底—	①褐色酸化焼 ③粗砂粒含む	口縁部短く外反。胴部縦位へり。後、口縁部横 ナデ。内面横ナデ。	
16	土器器 甕	中央 20	口~胴 部片	口(22.0) 高— 底—	①褐色酸化焼 ③粗砂粒含む	口縁部短く外反。胴部斜縦位へり。後、口縁 部横ナデ。内面横位ナデ。	

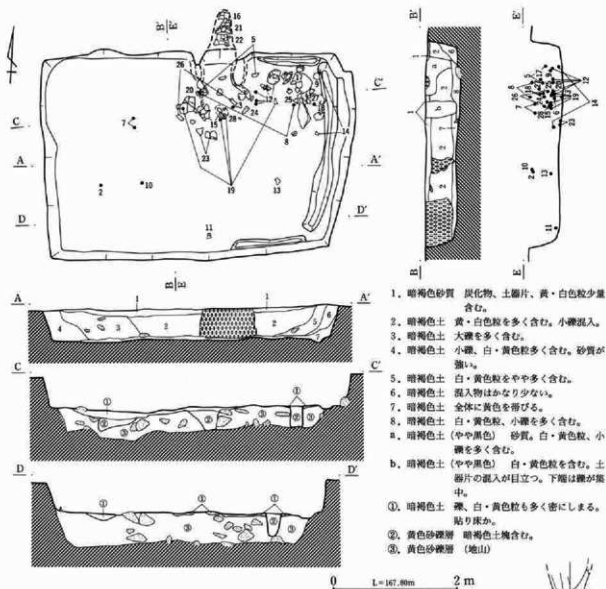
4号住居跡 (PL.6・34・35・36)

位置 Ir-13グリッド 床面積 12.0m²

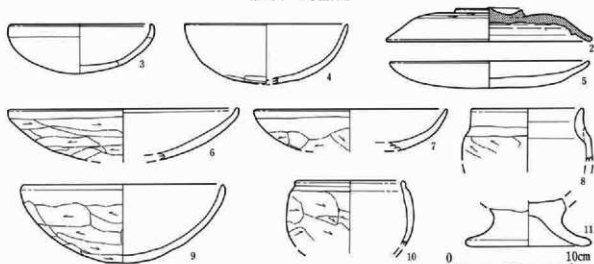
主軸方位 N-3°-W 重複 なし

規模と形状 長辺5.0m、短辺3.2m、残存壁高0.5m
を測り、東西に長い横長方形を呈する。埋土 桑根や耕作等の擾乱多く、壁際は地山崩落の
三角堆積が見られる。しまり弱く砂礫が混入する。床面 黒褐色土を貼床状に貼ったと思われるが固く
踏み締められた部分は見られない。

第3章 検出された遺構・遺物

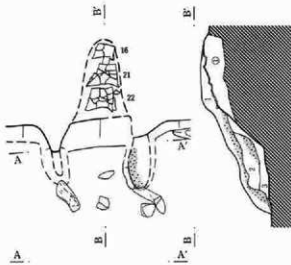


第20図 4号住居跡



第21図 4号住居跡出土遺物(1)

第1節 竪穴住居跡の概要



竈跡 北壁中央部住居内に燃焼部を有する竈が付設される。焚口には補強用に礫が埋置される。燃焼部内には天井部崩落土と思われる焼土混じりの黄褐色土が観察できた。煙道部へは緩やかに立ち上がり、煙道部はNo.16・21・22の土師器甕が用いられ壁外へ伸びる。

柱穴・貯蔵穴・壁下周溝 いずれも検出されない。
出土遺物 竈前から北東隅にかけて、土師器環・甕を中心に出土し、須恵器蓋は上層より出土している。
掘り方 礫層を掘り込み構築され、あまり起伏は見られない。床面とほとんど同一である。

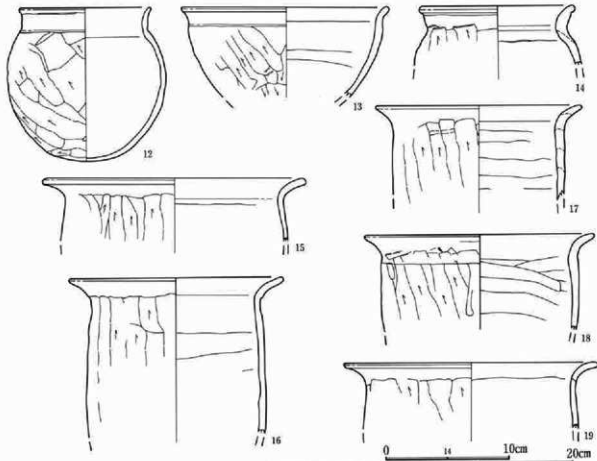
時期 7～8世紀代



1. 暗黄褐色土 白・黄色粒、焼土粒、炭化物、凝灰岩の細片含む。
 2. 1層土を主体とし、焼土粒を多く含む、赤色をおびる。

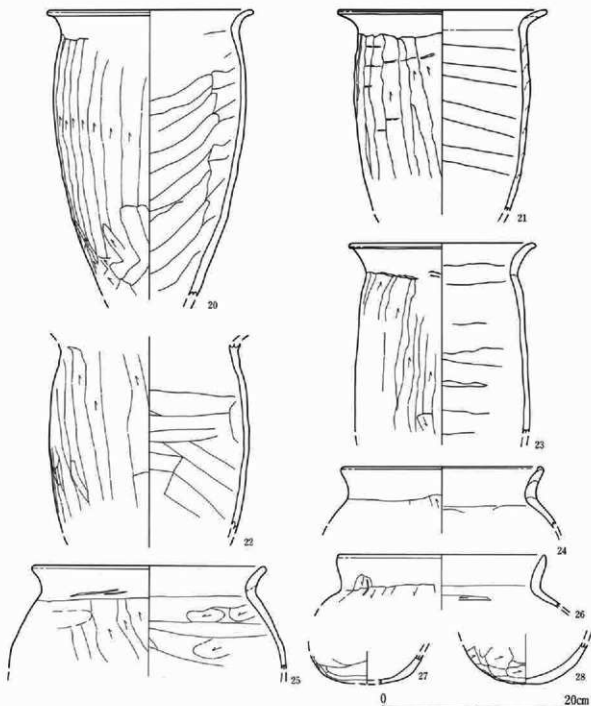
3. 黒褐色土 白・黄色粒を多く含む、焼土粒、礫、砂岩を含む。
 ①. 礫 (巾1～5cm) を主体とし、黒褐色土が少量混じる。地山土。

第22図 4号住居跡竈



第23図 4号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構・遺物



第24図 4号住居跡出土遺物(3)

4号住居跡出土遺物観察表 (PL.34・35・36)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 手づくね	覆土	胴～底 1/5	口一 高一 底2.0	①にふい焼②酸化焙 ③細砂粒含む	体部縦位指ナゲ。底部未調整、丸底。	
2	須恵器 蓋	南西 43	胴～口 縁1/5	口(16.0) 高一 底一	①灰②還元焙 ③砂粒少量含む	輪軸整形。頂部回転ヘラ削り。口縁部屈曲、内面 強いカエリを持つ。リング状凹凸。	
3	土師器 杯	覆前 1	ほぼ完 形	口11.2 高3.9 底一	①にふい焼②酸化焙 ③細砂粒含む	口縁部やや内湾。器表面もろく調整不明瞭。	
4	土師器 杯	覆土	口～底 1/5	口(12.8) 高一 底一	①にふい焼②酸化焙 ③細砂粒含む	口縁部横ナゲ。器表面もろく調整不明瞭。	

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 象 (cm)	①色調整焼成土	器形・整形の特徴	備考
5	土師器 皿	竊前 29	口～底 1/2	口16.0 高2.1 底一	①黄褐色酸化焰 ②細砂粒含む	口縁部強いナデ。底部やや肥厚。内底面内形の凹線。器表面もろく調整不明瞭。	
6	土師器 杯	竊前 13	口～体 部片	口(18.0) 高一 底一	①におい焼酸化焰 ②細砂粒含む	口縁部僅すかに直立気味。横ナデ。体部から底部手持ちヘラ削り。	
7	土師器 杯	北西 44	口縁片	口(15.5) 高一 底一	①明黄褐色酸化焰 ②細砂粒含む	口縁部横ナデ。口唇部やや内屈。口縁部下未調整。底部手持ちヘラ削り。	
8	土師器 小型壺	竊前 49	口～胴 1/2	口(8.6) 高一 底一	①におい焼酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	胴部から頸部にかけて内傾。口縁部直立気味。胴上部斜位ヘラ削り後、頸部横ナデ。	
9	土師器 杯	北東 17	口～底 1/2	口16.0 高6.2 底一	①焼酸化焰 ②細砂粒含む	口縁部横ナデ。口唇部強いナデにより内湾。体部から底部手持ちヘラ削り。内面丁寧ナデ。	
10	土師器 小型壺	南西 43	口～胴 1/2	口(8.5) 高一 底一	①におい焼酸化焰 ②細砂粒含む	胴部から口縁部にかけて内湾し、頸部に腹を有する。口縁部短く直立する。胴部横位ヘラ削り。	
11	土師器 台付壺	南 9	脚部1/2	口一 高一 底(10.0)	①明黄褐色酸化焰 ②細砂粒含む	裾部大きく開き横ナデ。内面放射状指ナデ。	
12	土師器 小型壺	北東 15	ほぼ完 形	口13.7 高16.2 底一	①明赤褐色酸化焰 ②片岩粒・粗砂粒含む	胴上半斜位、下横傾位ヘラ削り。頸部強いナデにより直立。口縁部僅すかに外屈。内面ナデ。	
13	土師器 鉢	南東 17	口～胴 部片	口(22.0) 高一 底一	①におい焼酸化焰 ②片岩粒・粗砂粒含む	口縁部強く外反。胴部斜位ヘラ削り後、口縁部横ナデ。	
14	土師器 小型壺	北東 9	口～胴 1/2	口(1.8) 高一 底一	①焼酸化焰 ②砂粒含む	口縁直下に1条の沈線認め。胴上部斜位ヘラ削り後、頸部強いナデ。	
15	土師器 壺	竊前 18	口縁片	口(26.8) 高一 底一	①におい焼酸化焰 ②片岩粒・粗砂粒含む	口縁部大きく外反、横ナデ。胴部縦位ヘラ削り。内面横位ナデ。	
16	土師器 壺	煙道 54	口～胴 部片	口(22.6) 高一 底一	①焼酸化焰 ②片岩粒・粗砂粒含む	口縁部外反。胴部斜位ヘラ削り後、口縁部横ナデ。内面横位ナデ。	
17	土師器 壺	北東 34	口～胴 1/2	口(21.0) 高一 底一	①におい焼酸化焰 ②片岩粒・粗砂粒含む	口縁部外反。胴部斜位ヘラ削り後、口縁部横ナデ。内面横位ナデ。	
18	土師器 壺	北東 32	口～胴 部片	口(24.5) 高一 底一	①におい黄褐色酸化 焰②片岩・粗砂粒含む	口縁部外反。胴部斜位ヘラ削り後、口縁部横ナデ。内面横位ナデ。	
19	土師器 壺	竊前 17	口～胴 上位1/2	口(25.6) 高一 底一	①明赤褐色酸化焰 ②片岩粒・粗砂粒含む	口縁部強く外反。横ナデ後、胴部縦位ヘラ削り。内面横位ナデ。	
20	土師器 壺	竊前 14	口～胴 1/2	口(21.6) 高一 底一	①焼酸化焰 ②片岩粒・粗砂粒含む	口縁部外反。頸部にかけて横ナデ。胴上部縦位、下半斜位ヘラ削り。内面斜位ナデ。	
21	土師器 壺	煙道 51	口～胴 1/2	口22.0 高一 底一	①焼酸化焰 ②片岩粒・粗砂粒含む	口縁部強く外反。胴部縦位ヘラ削り後、口縁部横ナデ。内面横位ナデ。	
22	土師器 壺	煙道 50	口～胴 1/2	口一 高一 底一	①焼酸化焰 ②片岩粒・粗砂粒含む	胴部縦位ヘラ削り。内面斜位ナデ。	
23	土師器 壺	中央 7	口～胴 1/2	口(19.0) 高一 底一	①におい焼酸化焰 ②片岩粒・粗砂粒含む	口縁部外反、口唇部外屈。頸部にかけて横ナデ後、胴部縦位ヘラ削り。内面横位ナデ。	
24	土師器 壺	竊前 22	口縁片	口(21.0) 高一 底一	①明赤褐色酸化焰 ②片岩粒・粗砂粒含む	口縁部僅かに外反、横ナデ。胴部球形を呈し、内面横位ナデ。	
25	土師器 壺	北東 30	口縁片	口(24.4) 高一 底一	①焼酸化焰 ②片岩粒・粗砂粒含む	口縁部僅かに外反。頸部にかけて横ナデ。胴部球形を呈し、上半斜位ヘラ削り。内面横位ナデ。	
26	土師器 壺	竊前 15	口縁片	口(22.0) 高一 底一	①焼酸化焰 ②片岩粒・粗砂粒含む	口縁部僅かに外反、横ナデ。胴部球形を呈し、内面横位ナデ。	
27	土師器 壺	北東 32	底部片	口一 高一 底一	①明赤褐色酸化焰 ②砂粒含む	胴下部横位ヘラ削り。底面不定方向ヘラ削り。内面横位ナデ。	
28	土師器 壺	竊前 18	底部1/2	口一 高一 底一	①におい焼酸化焰 ②砂粒含む	胴下部横位ヘラ削り。底面不定方向ヘラ削り。内面横位ナデ。	

5号住居跡 (PL 7・36・37・38)

位置 It-21グリッド 床面積 24.0㎡

主軸方位 N-78°E 重複 なし

規模と形状 長辺5.4m前後、短辺5.0m、残存壁高0.36mを測り、横長長方形を呈する。

埋土 人頭大から、小礫まで大小様々な礫と土器片が投げ込まれたような状態で出土。

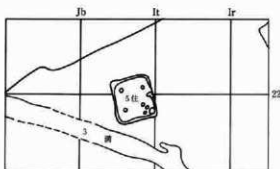
床面 壁寄り部分は地山が露出し、住居中央部のみ地山粘土層を含む黒褐色土が貼られる。

竈跡 東壁住居内に燃焼部を有する竈が付設される。焚口部には鳥居状に礫が組まれ、袖部分は黒褐色土及び灰褐色土等の混土により構築される。壁面等の焼けは弱く、調査時に右袖を削平した。

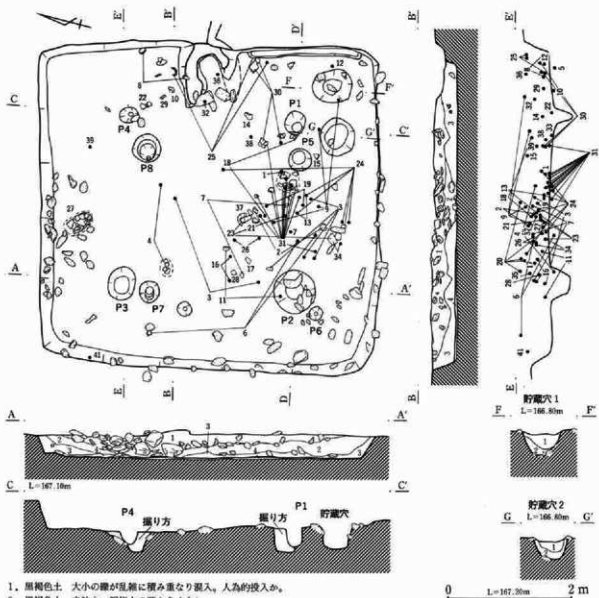
第3章 検出された遺構・遺物

柱穴 計8本の柱穴を検出し、内側に等間隔の柱間をもつ4本柱穴と外側に東西方向にやや長い柱間をもつ4本柱穴がある。建て替えによる配置と考えられ、新旧は内側4本が古く、外側4本が新しい。

- 規模 P 1 長辺0.37m、短辺0.32m、深さ0.33m
 P 2 長辺0.70m、短辺0.67m、深さ0.38m
 P 3 長辺0.53m、短辺0.43m、深さ0.30m
 P 4 長辺0.31m、短辺0.24m、深さ0.24m
 P 5 長辺0.36m、短辺0.35m、深さ0.35m
 P 6 長辺0.22m、短辺0.20m、深さ0.08m



- P 7 長辺0.34m、短辺0.32m、深さ0.32m
 P 8 長辺0.45m、短辺0.45m、深さ0.30m

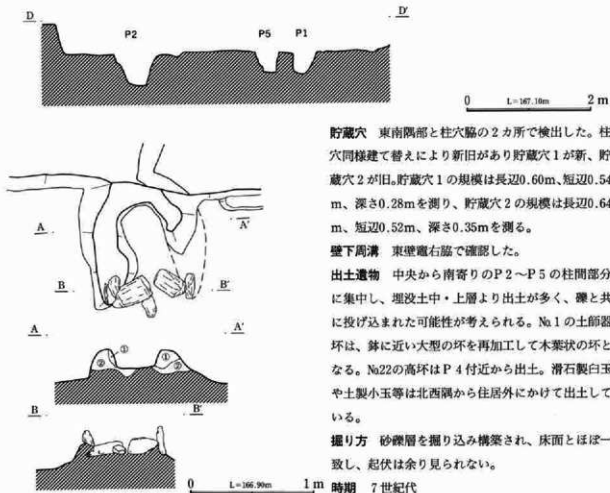


1. 黒褐色土 大小の礫が乱雑に積み重なり混入。人為的投入か。
2. 黒褐色土 米粒大～親指大の礫を多く含む。
3. 黒褐色土 粒は細かくしまりがあり、親指大の礫が点在。
4. 黒褐色土 粒は細かくしまりがあり、砂礫層の影響を受け、部分的に砂粒を含む。床の部分と思われる。

貯蔵穴 1, 2

1. 黒褐色土 大小礫を含む。ややしまっている。
2. におい褐色～いり黄色粘質土。

第25図 5号住居跡



貯蔵穴 東南隅部と柱穴脇の2カ所で検出した。柱穴同様建て替えにより新旧があり貯蔵穴1が新、貯蔵穴2が旧。貯蔵穴1の規模は長辺0.60m、短辺0.54m、深さ0.28mを測り、貯蔵穴2の規模は長辺0.64m、短辺0.52m、深さ0.35mを測る。

壁下周溝 東壁直右脇で確認した。

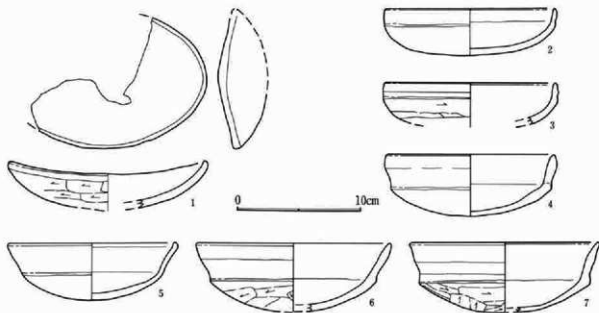
出土遺物 中央から南寄りのP2～P5の柱間部分に集中し、埋没土中・上層より出土が多く、礫と共に投げ込まれた可能性が考えられる。No1の土師器環は、鉢に近い大型の環を再加工して木葉状の環となる。No22の高環はP4付近から出土。滑石製白玉や土製小玉等は北西隅から住居外にかけて出土している。

掘り方 砂礫層を掘り込み構築され、床面とほぼ一致し、起伏は余り見られない。

時期 7世紀代

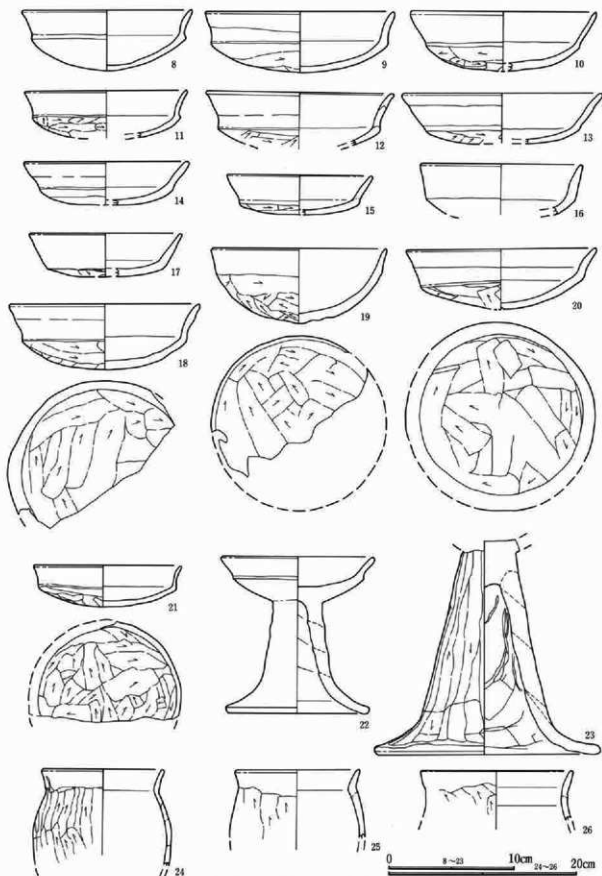
- ①. 褐色土 粒子は細かくしまりがある。
- ②. 黒褐色土 根指大の礫や灰白色粒子、褐色粒子を含む。

第26図 5号住居跡概観

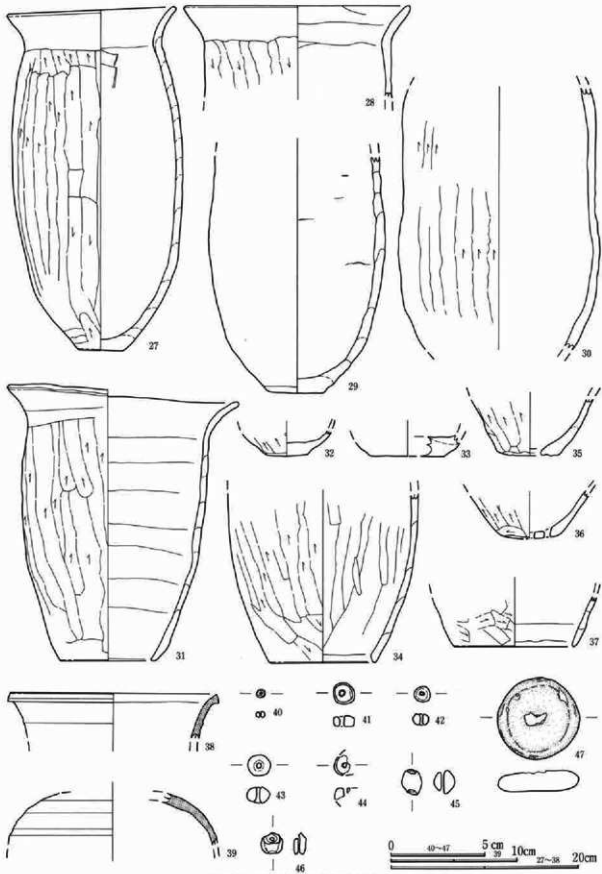


第27図 5号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第28図 5号住居跡出土遺物(2)



第29図 5号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構・遺物

5号住居跡出土遺物観察表 (PL.36・37・38)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土器器 環	南東 ±0	片	口15.4、10.2 高1 底—	①焼②酸化胎 ③細砂含む	胎底状を呈する環。長側縁は水平をなし、環の両加工により平面木蓋状を呈する。	木蓋型
2	土器器 環	南東 45	片	口13.4 高3.7 底—	①におい貴他②酸化胎③粘土粒を含む	①に口縁部直立、横ナデ。体部との境に弱い稜を持つ。底部平底状を呈し、器高浅い。	
3	土器器 環	中央 29	口縁片	口(13.6) 高— 底—	①焼②酸化胎 ③細砂粒僅かに含む	口縁部直立、横ナデ。弱い稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。平底状を呈する。	
4	土器器 環	北西 -2	口縁片 欠損	口(13.2) 高4.9 底—	①におい焼②酸化胎 ③細砂含む	口縁部2段の横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
5	土器器 環	野穴 34	片	口13.1 高4.5 底—	①におい貴他②酸化胎③細砂を含む	口縁部横ナデ、口唇部内屈。体部との境に弱い稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
6	土器器 環	北西 50	片	口15.5 高— 底—	①明赤褐色②酸化胎 ③細砂含む	口縁部2段の横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
7	土器器 環	南西 30	片	口14.6 高— 底—	①におい焼②酸化胎 ③細砂含む	口縁部2段の横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
8	土器器 環	北西 7	完形	口13.4 高4.8 底—	①焼②酸化胎 ③細砂・粘土粒含む	器表面もろく調整不明瞭。口縁と体部境に稜を持つ。	
9	土器器 環	南東 41	片	口15.6 高4.9 底—	①明赤褐色②酸化胎 ③細砂少量含む	口縁部横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
10	土器器 環	壇左脇 ±0	片	口14.6 高— 底—	①におい焼②酸化胎 ③細砂含む	口縁部横ナデ。体部との境に段状の稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
11	土器器 環	中央 10	片	口(12.8) 高— 底—	①焼②酸化胎 ③細砂・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
12	土器器 環	南東 60	口へ体 部片	口(14.6) 高— 底—	①におい貴他②酸化胎 ③細砂粒僅かに含む	口縁部2段の横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
13	土器器 環	南西 24	片	口(15.8) 高— 底—	①焼②酸化胎 ③粗砂粒含む	口縁部2段の横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
14	土器器 環	壇前 45	片	口(13.1) 高— 底—	①焼②酸化胎 ③細砂粒含む	口縁部2段の横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
15	土器器 環	南東 40	片	口(11.5) 高— 底—	①焼②酸化胎 ③細砂粒含む	口縁部2段の横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
16	土器器 環	北西 22	口へ体 部片	口(13.0) 高— 底—	①におい焼②酸化胎 ③細砂・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
17	土器器 環	中央 26	片	口(12.0) 高— 底—	①焼②酸化胎 ③細砂粒含む	口縁部2段の横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
18	土器器 環	南東 35	片	口15.6 高5.2 底—	①におい焼②酸化胎 ③粗砂少量含む	口縁部2段の横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
19	土器器 環	中央 20	片	口(14.0) 高6.0 底—	①赤褐色②酸化胎 ③粗砂粒混じり	口縁部横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
20	土器器 環	南西 27	ほぼ完 形	口14.8 高4.8 底—	①焼②酸化胎 ③細砂少量含む	口縁部2段の横ナデ。体部との境に弱い稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
21	土器器 環	中央 17	片	口(11.7) 高3.3 底—	①焼②酸化胎 ③細砂・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちへ削り。	
22	土器器 高 杯	北東 ±0	口へ脚 片	口(12.2) 高 (11.4) 高12.3	①焼②酸化胎 ③細砂・粘土粒含む	器表面もろく調整不明瞭。杯部は体部との境に稜を持つ。胴部ラッパ状に開き、内面輪襷み状。内面ラッパ状に開く。底位へ削り。胴部は横ナデ、やや受口状を呈する。内面ヘラナデ及びヘラ削り	杯部高3.8cm 胴部高8.5cm
23	土器器 高 杯	中央 16	脚部	高17.2	①焼②酸化胎 ③細砂・粘土粒含む	口縁部横ナデ後、胴部縦位のナデに近しいヘラ削り調整。内面丁寧なナデ。	
24	土器器 壺	南東 46	口へ割 片	口(12.6) 高— 底—	①におい貴他②酸化胎③細砂粒僅かに含む	口縁部横ナデ。胴部縦位へ削り。内面調毛目状横ナデ。	
25	土器器 壺	壇左 6	口へ割 片	口(13.0) 高— 底—	①焼②酸化胎 ③粗砂・粘土粒含む	口縁部横ナデ。胴部縦位へ削り。内面調毛目状横ナデ。	
26	土器器 壺	中央 29	口縁片	口(16.0) 高— 底—	①焼②酸化胎 ③粗砂・粘土粒含む	口縁部横ナデ後、胴部縦位へ削り。内面調毛目状横ナデ。	
27	土器器 壺	北西 8	ほぼ完 形	口17.6 高36.0 底4.8	①明赤褐色②酸化胎 ③片岩粒・粗砂粒混入	口縁部縦やかに外反。胴部にかへ横ナデ。胴部縦位へ削り。胴下段横位ナデ。内面調毛目状横ナデ。	
28	土器器 壺	中央 22	口縁片	口(23.8) 高— 底—	①におい貴他②酸化胎③粘土粒少量含む	口縁部縦やかに外反。横ナデ。胴部縦位へ削り。内面丁寧なナデ。平蓋。	
29	土器器 壺	北東 ±0	割へ底 片	口— 高— 底5.0	①におい焼②酸化胎 ③片岩粒・粗砂粒混入	片岩粒・小砂粒多量に混じる。底部肥厚、削り出し状。胴外面縦位へ削り。内面横位ナデ。	
30	土器器 壺	南東 15	割部片	口— 高— 底—	①焼②酸化胎 ③片岩粒・粗砂粒混入	長胴形をなす。胴部縦位へ削り。内面横位ナデ。片岩粒・粗砂粒器表面に露出。調整不明瞭。	

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調整焼成塗土	器形・器形の特徴	備考
31	土師器 瓶	南東 土0	ほぼ完 形	口24.3 底部 10.2 高28.4	①にぶい黄褐色酸化焙 ②細砂粒含む	口縁部外反、横ナデ。胴部上、中、下で、三段階 線位へラ削り。開口部能取。内面横位ナデ。	内面黒色。
32	土師器 鉢	壺内 28	底部片	口一 高一 底4.8	①にぶい褐色酸化焙 ②粗砂粒含む	胴下端斜線位へラ削り。内面指ナデ。	
33	土師器 壺	南東 6	底部片	口一 高一 底(8.0)	①にぶい褐色酸化焙 ②粗砂粒含む	底面木炭痕状の跡が見られる。2次焼成を受ける。	
34	土師器 瓶	南西 45	胴へ端 部片	底部11.0	①褐色酸化焙 ②粗砂粒含む	胴部斜線位へラ削り。内面縦位ナデ。開口部内面 面取り。	
35	土師器 瓶	南西 37	胴へ端 部片	底部5.8	①にぶい黄褐色酸化 焙②粗砂粒含む	胴部下半部斜線位へラ削り。底部焼成後、穿孔？ 楕円形を呈する。	穿孔径長2. 7 短2.5
36	土師器 瓶	壺 48	底部片	底部(6.0)	①褐色酸化焙 ②粗砂粒含む	胴部下半部斜線位へラ削り。底部複数の小孔を内 外面から削ける。	
37	土師器 瓶	中央 19	底部片	底部(12.6)	①褐色酸化焙 ②粗砂粒含む	胴部下半部斜線位へラ削り。開口部内外反、面取 り。	
38	須恵器 壺	中央 38	口縁片	口(22.0) 高一 底一	①灰褐色還元焙 ②粗砂粒含む	口唇部強いナデ。1条化線巡る。口縁部1条の隆線 はさみ上下に波状文。	
39	須恵器 蓋	北東 23	体部片	口一 高一 底一	①灰青褐色還元焙 ②粗砂粒含む	楕圓形。回転へラ削り。回転凹線見られる。	
40	土製品 小玉	北西壁際 31	完形	<計測値>長0.4、幅0.5、厚0.3、孔0.1、重0.1g <特徴>超小製品。棒に粘土巻き付け 焼成することにより円孔あける。			
41	石製品 白玉	北西壁際 31	完形	<計測値>長1.1、幅1.1、厚0.6、孔0.2、重1.2g <石材>滑石 <特徴>円形。中央 部穿孔。あまり研磨されず、仕上げは質。			
42	土製品 小玉	北西壁際 31	完形	<計測値>長0.8、幅0.8、厚0.6、孔0.1、重0.3g <特徴>棒に粘土巻き付け焼成す ることにより円孔あける。			
43	土製品 小玉	北西壁際 31	完形	<計測値>長1.1、幅1.2、厚1.8、孔0.2、重0.8g <特徴>棒に粘土巻き付け、焼成によ り円孔あける。			
44	土製品 小玉	北西壁際 31	片	<計測値>長(1.0)、幅(1.0)、厚一、孔0.2、重0.3g <特徴>棒に粘土巻き付け焼成す ることにより円孔あける。			
45	土製品 小玉	北西壁際 31	完形	<計測値>長1.1、幅1.3、厚1.1、孔0.2、重1.1g <特徴>算盤玉状を呈する。棒に粘土 巻き付け焼成することにより円孔あける。			
46	石製品 小玉	北西壁際 31	一部欠 損	<計測値>長1.1、幅1.1、厚0.6、孔0.1、重1.3g <石材>片岩 <特徴>不定形。河原 石を穿孔し、小玉として利用。			
47	石製品 紡錘車	北西壁際 31	ほぼ完 形	<計測値>長4.4、幅4.4、厚1.1、重31.4g <石材>片岩 <特徴>紡錘車の未製品と思 われる。円盤状を呈し片面中央部に刺離見られ、穿孔時の痕跡か？			

6号住居跡 (PL 8・38・39)

位置 Im-9グリッド 床面積 15.2m²

主軸方位 N-3°-W 重複 なし

規模と形状 一辺4.5m前後、残存壁高0.38mを測り、正方形を呈する。

埋土 1~10cm程の礫を含む黒褐色土で埋没し、全体に均一な土層である。壁際では壁崩落の三角堆積が見られる。

床面 全体に地山の土質に影響を受け、硬・軟により多少の起伏が見られる。北壁寄りには地山が礫層であるため礫面が露出し、竈周辺部は竈構築土の黄褐色粘質土小塊の広がりが見られ、下層の黄褐色土小塊混じりの黒褐色土は床面に薄く貼り込まれ、やや硬化している。住居中央南側は掘り方をそのまま利用している。

竈跡 北壁中央部西より住居内に燃焼部を有する竈が付設される。焚口部には板状礫が立石状で埋置され補強材として利用され、芯材には雑蓮じりの暗褐色土を用い、その上に若干黒褐色土が混じる黄褐色粘質土をかぶせ構築されている。燃焼部内の火床面直上には、天井部崩落土である底面の焼土化した黄褐色土の堆積が見られた。燃焼部内壁の焼けは弱い。煙道部は壁を掘り込み緩く立ち上がる。

柱穴 各隅対角線上に4本確認した。ほぼ円形を呈し、掘り込みは深い。

規模 P 1 長辺0.4m、短辺0.35m、深さ0.28m

P 2 長辺0.3m、短辺0.28m、深さ0.45m

P 3 長辺0.35m、短辺0.35m、深さ0.4m

P 4 長辺0.42m、短辺0.33m、深さ0.35m

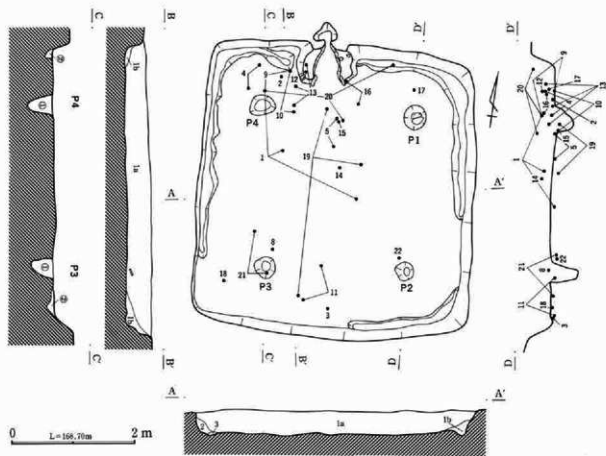
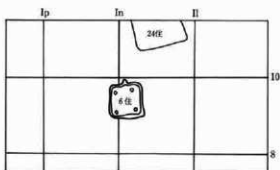
貯蔵穴 検出されなかった。

壁下周溝 竈周辺や南西隅及び東壁一部を除く部分に巡る。

出土遺物 P2・3周辺にも大礫が集中して出土した。土器は、竈前から中央部にかけて土師器・壺・甕等が散乱して出土し、P3周辺でも若干土器が出土している。

掘り方 礫層及びシルト質土の地山を掘り込んでいるため土質により、若干の起伏が見られるがほぼ平坦に掘られている。

時期 7世紀代

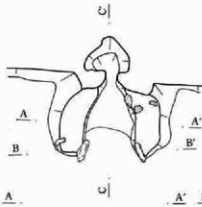


- 1a. 黒褐色土 軟質、1~10cm大の礫を多く含む。
- 1b. 黒褐色土 1aより粘性あり。礫含む。
- 2. 黒褐色土 礫を少量含む。
- 3. 黒褐色土 小礫を多く含む。

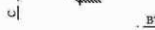
- ①. 黒褐色土 2~5cm大の田角礫を多く含む。
- ②. 黒褐色土 軟質。細礫道かに含む。
- ③. 礫を含む。

第30図 6号住居跡

第1節 竪穴住居跡の概要

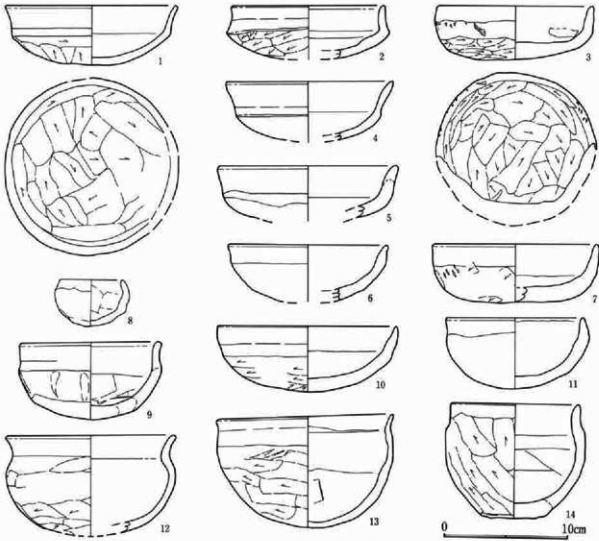


1. 暗褐色土 粘土粒・焼土粒を僅かに含む。大礫を含む。
2. 褐色土 袖構築粘土の崩落。焼土粒。小炭を含む。
3. 暗褐色土 粘土粒・焼土粒を含む。天井部崩落土。
- ① 黒褐色土 礫を多く含む。電外御構築土。
- ② 暗褐色土 礫を多く含む。粘土粒を僅かに含む。電構築材土。



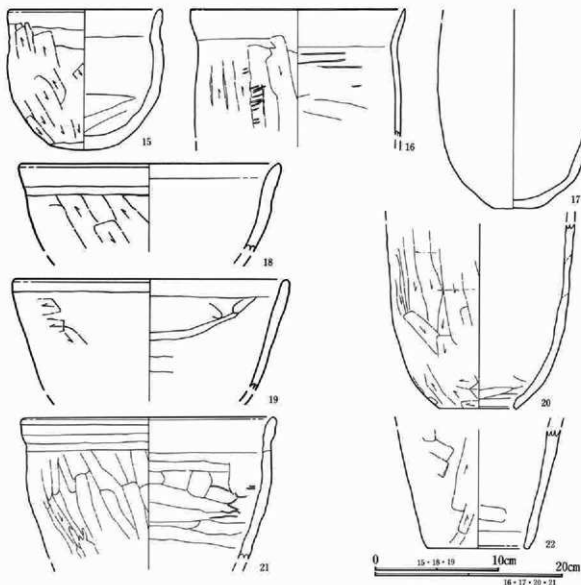
0 L=100.00m 1 m

第31図 6号住居跡概



0 10cm

第32図 6号住居跡出土遺物(1)



第333図 6号住居跡出土遺物(2)

6号住居跡出土遺物観察表 (Pl.38・39)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 形状	法 量 (cm)	①色調②構成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	北西 6	ほぼ完 形	口13.5 高4.7 底一	①にぶい橙②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に横を持ち、体部から 底部手持ちへつ削り。内面横ナデ。	
2	土師器 杯	北西 6	1/2	口(12.4) 高一 底一	①橙②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。内輪気味に立ち上がる。体部との境 に弱い横を持つ。体部から底部手持ちへつ削り。	
3	土師器 杯	南 6	口縁一 部欠損	口12.5 高4.3 底一	①橙②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部未調整。底部手持ちへつ削り。 内面指頭痕残る。底部肥厚。	
4	土師器 杯	北西 6	1/2	口13.4 高一 底一	①明褐色②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に横を持ち、体部から 底部手持ちへつ削り。内面横ナデ。	
5	土師器 杯	北西 6	1/2	口(14.0) 高一 底一	①にぶい橙②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部未調整。底部手持ちへつ削り。 内面指頭痕残る。	
6	土師器 杯	覆土 6	1/2	口(12.8) 高一 底一	①橙②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部手持ちへつ削り。	
7	土師器 杯	覆土 6	口へ底 部片	口(13.0) 高一 底一	①にぶい橙②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部未調整。底部手持ちへつ削り。 内面指頭痕残る。底部肥厚。	
8	土師器 手づね	南西 6	完形	口2.7 高3.7 底一	①にぶい黄褐色②酸化 焙③細砂粒少量含む	口縁部横ナデ。胴上平指ナデ。胴下半から底部未 調整。	

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 形状	法 量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
9	土師器 環	北西 6	ほぼ完 形	口10.8 高6.0 底—	①におい黄褐色②酸化 焰③粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部にかけて、成形時のひ ずみ残る。体部ナデ。内面上半横ナデ、下半ヘラナデ。	内面黒色
10	土師器 環	北西 6	1/2	口(14.4) 高5.2 底—	①におい褐色②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部2段の横ナデ。体部から底部手持ちヘラ削 り。	
11	土師器 環	南西 6	1/2	口10.8 高5.6 底—	①におい褐色②酸化焰 ③粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部にかけて成形時のひ ずみ残る。体部ナデ。内面上半横ナデ、下半ヘラナデ。	
12	土師器 鉢	北西 6	1/2	口(13.0) 高— 底—	①褐色②酸化焰 ③細砂粒少量含む	口縁部横ナデ。球形胴。ヘラ削り後ナデ。底部ヘ ラ削り。内面丁寧ナデ。	
13	土師器 埴	東左 6	ほぼ完 形	口14.2 高8.8 底—	①褐色②酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位ヘラ削り。体部丸底未調 整。内面上半横ナデ、下半ヘラナデ。	
14	土師器 小型壺	中央 6	1/2	口10.2 高9.0 底3.6	①におい褐色②酸化焰 ③片岩粒・粗砂粒混入	器表面粗砂粒、片岩粒露出。口縁部横ナデ。胴部 斜位ヘラ削り。内面横ナデ。	
15	土師器 小型壺	北東 6	胴一部 欠損	口12.4 高11.0 底5.0	①におい黄褐色②酸化 焰③砂粒含む	胴部斜位ヘラ削り後、口縁部横ナデ。内面横ナ デ。	
16	土師器 壺	東前 6	口へ胴 高— 底—	口(22.8) 高— 底—	①明赤褐色②酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上部縦位ヘラ削り、内面横ナデ。	
17	土師器 壺	北東 6	胴へ底 1/2	口— 高— 底4.3	①褐色②酸化焰 ③片岩粒・粗砂粒混入	片岩粒・粗砂粒多量に外表面露出。調整不明瞭。 胴下部屈曲、底部へ移行。内面横ナデ。	
18	土師器 鉢	南西 6	口縁片 高— 底—	口(20.1)	①におい褐色②酸化焰 ③小礫混じり	器表面、小礫露出。胴部斜位ヘラ削り後、口縁か ら胴部にかけて横ナデ。	
19	土師器 鉢	中央 6	口縁片 高— 底—	口(21.6)	①におい褐色②酸化焰 ③細砂粒少量含む	口縁部横ナデ。体部横位ヘラ削り後ナデ。内面丁 寧ナデ、平滑。	
20	土師器 瓶	東前 6	胴へ底 1/2	胴部8.2	①明赤褐色②酸化焰 ③砂粒含む	長胴形をなし、下部屈曲し底部へ移行。中位縦位、 下半斜位ヘラ削り。内面横ナデ。開口部面取り。	
21	土師器 壺	南西 6	口へ胴 高— 底—	口(27.3)	①褐色②酸化焰 ③砂粒含む	口縁から頸部横ナデ後、再度ナデ。胴部縦位ヘラ 削り後、同方向にナデ。内面横ナデ。	
22	土師器 瓶	南東 6	底部片	胴部(11.0)	①におい褐色②酸化焰 ③細砂粒少量含む	胴部直線的に開く、縦位ヘラ削り。内面下半横ナ デ。	

7号住居跡 (PL 8・39・40)

位置 Is-13グリッド 床面積 17.1m²

主軸方位 N-3°-W

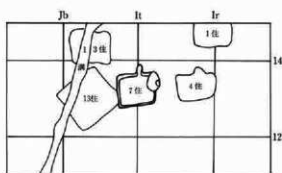
重複 2号土坑に切られ、13号住居を掘り込む。

規模と形状 長辺5.1m、短辺4.3m、残存壁高0.24mを測り、東西に長い横長長方形を呈する。東壁から南壁にかけては削平され浅くなる。

埋土 全体に小礫混じりの褐色土により埋没し、下層には大礫多く含まれ、壁際には壁崩落土の三角堆積が見られる。

床面 疎層上面の粘性の強い地山暗褐色土を利用し床面とする。西壁中央部には黄褐色粘質土を貼り込み、緻密で堅く締まっている部分あり。

竪穴 北壁中央東寄りの壁を僅かに掘り込み竪穴が付設される。焚口部には礫が出土し、補強材として利用されていたと考えられる。袖は黄白色粒混じりの暗褐色土が利用され、良く締まる。壁面の焼けは前方部に顕著に見られる。煙道部は壁外に水平に伸びる。

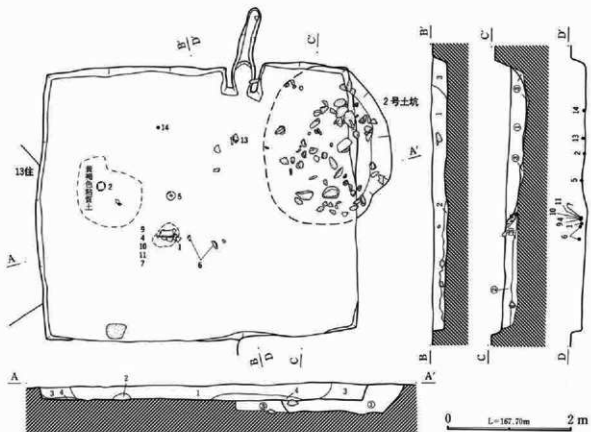


柱穴・貯蔵穴・壁下周溝 いずれも検出されない。

出土遺物 住居中央部に土師器・環・小型壺など散在する。底部回転ヘラ調整、削り出し高台の須恵器環も中央部で出土している。

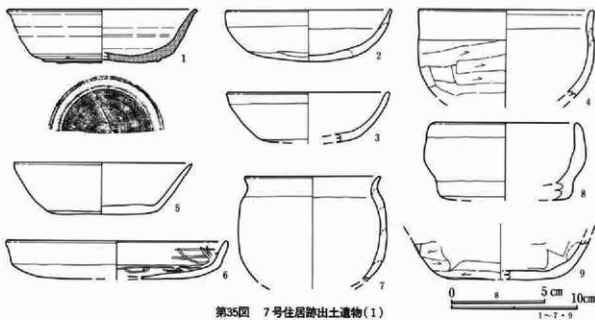
掘り方 粘性の強い暗褐色土を疎層直上で掘り残している。部分的に礫が露出する。

時期 8世紀代



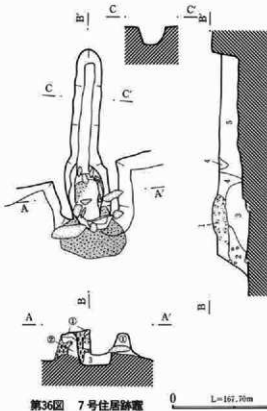
- | | |
|---------------------------------|--|
| 1. 褐色土 小礫、白・黄色粒を含む。 | ①. 暗褐色土 白・黄色粒を少量含む。(2号土坑フク土) |
| 2. 礫が多く、大礫を隅らに含む。 | ②. 暗褐色土 大礫が多量に入る。廃絶後周辺からの礫等の流れ込みの期に攪乱されたものか。 |
| 3. 暗褐色土 白・黄色粒を少量含む。 | ③. 全体に大礫が多い。 |
| 4. 黄褐色土 白・黄色粒、炭化物粒を少量含む。黄色粘土混入。 | |

第34図 7号住居跡

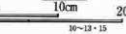
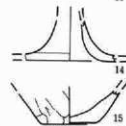
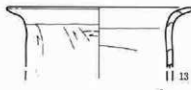
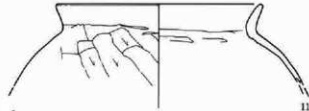
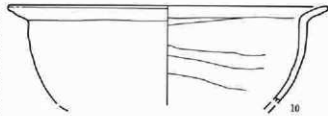


第35図 7号住居跡出土遺物(1)

第1節 竪穴住居跡の概要



第36図 7号住居跡



第37図 7号住居跡出土遺物(2)

7号住居跡出土遺物観察表 (PL.39・40)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③粘土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 埴	南西 9	1/2	口(15.0) 高4.2底(8.8)	①灰黄②還元焼 ③黒色細粒含む	楕圓形。底部凹へラ切り難し後、へラナデ。 高台部削り出し、両側へラ削り成。	
2	土師器 坏	北西 ±0	完形	口12.8 高4.1 底一	①橙②酸化焼 ③細砂粒含む	器表面もろく調整不明瞭。口縁部横ナデ。内面横 ナデ。	
3	土師器 坏	覆土	口~底 部片	口(12.8) 高一底(7.6)	①明褐②酸化焼 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部及び底部器表面もろく、調整 不明瞭。	
4	土師器 坏	南西 7	口~体 部片	口(13.6) 底一	①にぶい褐②酸化焼 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へラ削り。内面丁寧ナデ。	
5	土師器 坏	中央 5	ほぼ完 形	口14.2 高4.1 底8.8	①橙②酸化焼 ③細砂粒・粘土粒含む	器表面もろく調整不明瞭。口縁部横ナデ。内面横 ナデ。内底面立ち上がり部強いナデ。	
6	土師器 坏	南東 10	1/2	口(17.4) 高3.0 底一	①橙②酸化焼 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部にかけてへラ削り。 内面丁寧ナデと底面から口縁部にかけて暗文。	
7	土師器 小型壺	南西 7	1/2	口(19.6) 高一底一	①にぶい褐②酸化焼 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部強いナデ。体部器表面もろく調整不明瞭。	
8	土師器 坏	覆土	1/2	口(7.6)高4.1 底(7.0)	①にぶい橙②酸化焼 ③細砂粒含む	口縁部から体部にかけて内凹。口縁部横ナデ。器表 面割落ナデ。	
9	土師器 坏	南西 7	1/2	口一 高一 底(6.5)	①にぶい赤褐②酸化 焼③細砂粒含む	鉢状を呈する。体部から底部にかけて横位へラ削 り、内面横位ナデ。	

第3章 検出された遺構・遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
10	土師器 鉢	南西 7	口一割 1/2	口(34.0) 高一 底一	①橙②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部外反、横ナデ。体部調整不明瞭、横位ヘラ削り。内面横ナデ。	
11	土師器 壺	南西 7	口一割 1/2	口(21.8) 高一 底一	①および橙②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部短く外反、横ナデ。胴部球形状を呈する。胴部斜位ヘラ削り、内面横ナデ。	
12	土師器 鉢	覆土	口縁片	口(21.4) 高一 底一	①橙②酸化焰 ③粘土粒含む	体部から口縁部直線的に開く。口縁部横ナデ。器表面調整気不明瞭。	
13	土師器 壺	北東 ±0	口縁片	口(19.6) 高一 底一	①橙②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部外反、水平方向に開く。胴部長胴形。口縁部横ナデ。胴部縦位ヘラ削り。	
14	土師器 高坏	北西 -2.8	胴部片	口一 高一 底一	①明赤褐色酸化焰 ③細砂粒含む	器表面もろく調整不明瞭。ラッパ状に開き、底部水平に開く。	
15	土師器 壺	覆土	底部1/4	口一 高一 底(5.7)	①橙②酸化焰 ③砂粒含む	胴下位、斜位ヘラ削り。内面ナデ。	

8号住居跡 (PL.9・40)

位置 Im-13グリッド 床面積 13.5m²

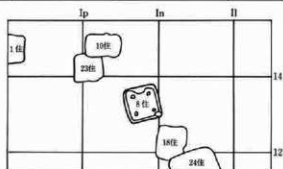
主軸方位 N-20°-W 重複 なし

規模と形状 一辺4.3m、残存壁高0.3mを測り、正方形を呈する。

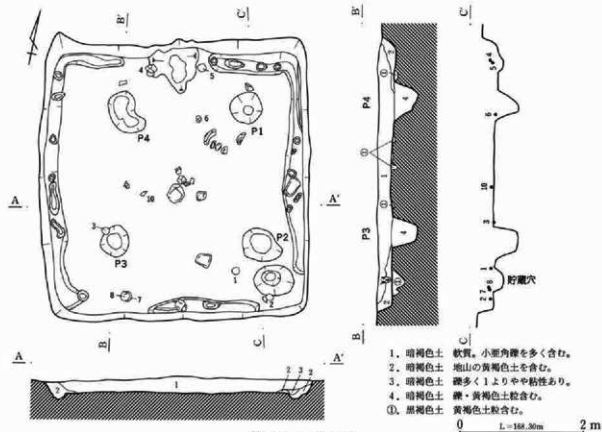
埋土 砂礫を含むが、比較的均質な土層である。壁際に壁崩落土の三角堆積が見られる。

床面 硬位面や焼土・灰などの広がりは見られず、掘り方の地山砂礫層が部分的に露出する。

竈跡 北壁中央壁際居住内に焼土・炭粒・黄褐色小



塊を含む黒褐色土と下層より天井崩落土と思われる焼土を含む暗褐色粘質土の堆積が見られ、また断面



第38図 8号住居跡

第1節 竪穴住居跡の概要

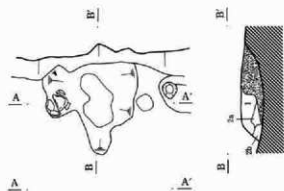
には同様な土質を用いた袖の痕跡を確認した。

柱穴 各隅寄りに位置し、同一の柱間を有する。

規模 P 1 長辺0.5m、深さ0.34m

P 2 長辺0.62m、短辺0.48m、深さ0.16m

P 3 長辺0.48m、深さ0.4m



P 4 長辺0.7m、短辺0.4m、深さ0.4m

貯蔵穴 南東隅に位置し、規模は長辺0.6m、短辺0.

47m、深さ0.6mを測り、形状は長円形を呈する。

壁下周溝 竈及び南壁両隅を除き全周する。周溝内

に径5～10cm程の小穴があるが、間隔はまちまち。

出土遺物 No 1の須恵器杯は、底部回転ヘラ削り、

稜が明瞭な口縁部内傾する。No 2の土師器盤状杯は、

胎土は精緻であり内面に指撫で痕が明瞭に残る。

掘り方 地山礫層上面で止められ、中央部がやや高

まり壁際は礫層に達する。

時期 7世紀代

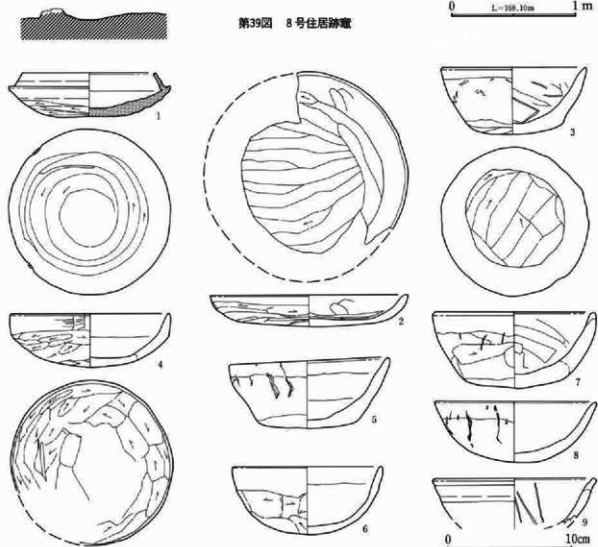
1. 黒褐色土 軟質。焼土粒、黄褐色粘土粒、炭化物を含む。

2 a. 暗褐色土 1より粘土粒を多く含む。

2 b. 暗褐色土 粘性あり。密。

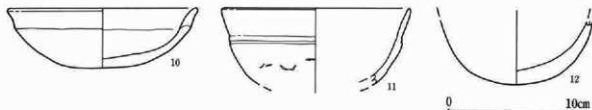
0 1m
L=100.10m

第39図 8号住居跡竈



第40図 8号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第41図 8号住居跡出土遺物(2)

8号住居跡出土遺物観察表 (PL.40)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備 考
1	須恵器 環	南東 4	完形	□10.6 高3.4 底13.0	①灰②還元焰 ③砂粒混じり	楕圓形。口縁部内傾。底部右回転ヘラ削り。	
2	土師器 皿	南東 4	1/2	□(15.7) 高2.5 底—	①明赤褐②酸化焰 ③精選	口縁部横ナデ。体部から底部ヘラ削り後ナデ。内 底面一方指向ナデ。	
3	土師器 環	南西 -2	完形	□11.5 高4.4 底4.0	①明赤褐②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。体部ナデ、歪みあり。底面一方ヘラ 削り。内面丸底気味。ヘラナデ後横ナデ。	器内厚い。
4	土師器 環	左軸 21	ほぼ完 形	□12.4 高4.2 底—	①ふい粉②酸化 焰③粗砂粒含む	口縁部直立横ナデ。体部との境に弱い稜をもつ。体 部から底部にかけてナデに近い弱い削り。内面横ナデ	
5	土師器 環	右軸 15	完形	□12.6 高5.3 底8.0	①橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。体部ナデ、歪みあり。底面ヘラ削 り。内面丸底気味。ナデ。	器内厚い。
6	土師器 環	北東 2	1/2	□(11.7) 高5.4 底—	①ふい粉②酸化焰 ③精選、若干細砂粒含	口縁部横ナデ。体部横位ヘラ削り後ナデ。底部弱 いヘラ削り。内面ナデ。	
7	土師器 環	南西 6	完形	□12.4 高6.1 底8.0	①ふい粉②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。体部ヘラナデに近い削り、歪みあ り。内面斜位ヘラナデ。	器内厚く重 量感あり。
8	土師器 環	南西 7	ほぼ完 形	□12.6 高4.8 底—	①ふい粉②酸化焰 ③粗砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部歪みあり。調整不明瞭。内面 調整。	
9	土師器 環	覆土	口縁片	□(12.4) 高一 底—	①ふい粉②酸化焰 ③粘土粒多含む	口縁部2段の横ナデ。体部ヘラ削り。内面ナデ、 放射状凹凸あり。	
10	土師器 環	中央 4	1/2	□(15.0) 高一 底—	①橙②酸化焰③精選、 若干細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に弱い稜を持つ。体部 ナデ、底部弱いヘラ削り。	器内やや厚 め。
11	土師器 環	口縁片	口縁片	□(15.0) 高一 底—	①ふい粉②酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に段状の稜を持つ。体 部表面調整。深めの環。	
12	土師器 環	覆土片	口一 底一	口一 高一 底一	①ふい粉②酸化焰 ③粗砂粒小粒含む	底部肥厚、調整不明瞭。体部ナデ、歪みあり。	

9号住居跡 (PL.9・40・41・42)

位置 Jd-17グリッド 床面積 21.3m²

主軸方位 N-18°-W 重複 なし

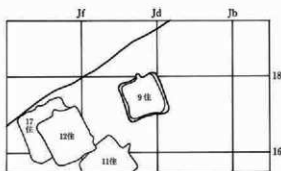
規模と形状 一辺5.3m前後、残存壁高0.16mを測り、正方形を呈する。

埋土 耕作痕が一部床面まで達し遺存状態は悪い。各壁際には多量の大礫が投げ込まれた状態で出土。床面 中央北から南にかけて砂層層露出、南西隅に粘質土、北西隅は小砂粒含む黒褐色土が堆積する。

柱穴 各隅対角線上に円形の掘り方を持つ4本の柱穴を検出した。

規模 P1 長辺0.48m、深さ0.36m

P2 長辺0.56m、深さ0.49m



P3 長辺0.5m、短辺0.46m、深さ0.45m

P4 長辺0.46m、深さ0.46m

P2内より№6の土師器環が石を抱えるように出土。

貯蔵穴 北東隅に位置し、規模は長辺0.4m、深さ約0.1mを測り、形状は円形を呈する。

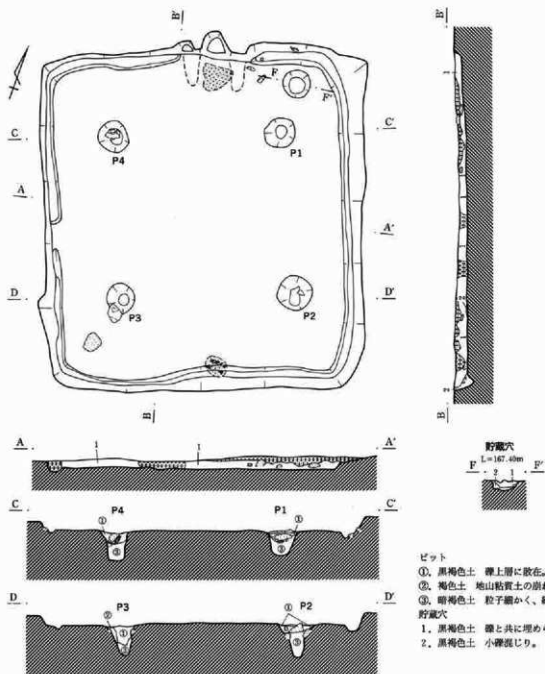
壁下周溝 西壁中央部の一部切れる。

出土遺物 土師器壺のNa19が中央やや北寄り竪前から出土し、またNa18土師器甕が南壁中央壁際から出

土。土師器坏類も壁寄りに散在する。

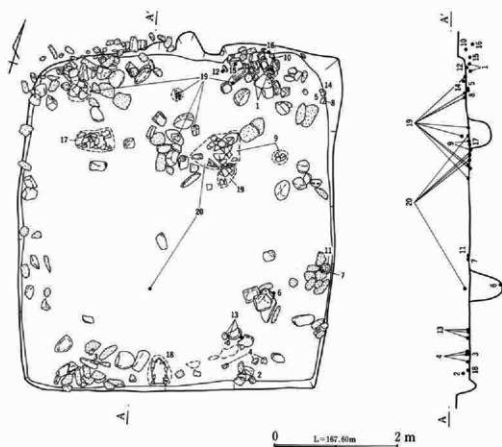
掘り方 砂礫層が北西隅から南東隅にかけて堆積し、ほぼ平坦に掘り込まれる。

時期 7世紀代

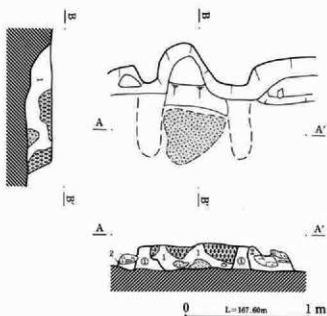


1. 暗褐色土 灰白色土粒、淡褐色土塊が混入。非常に固くしまる。
2. 暗褐色土 粘土状の灰白色土塊を多く含む。

第42図 9号住居跡



第43図 9号住居跡遺物出土状況

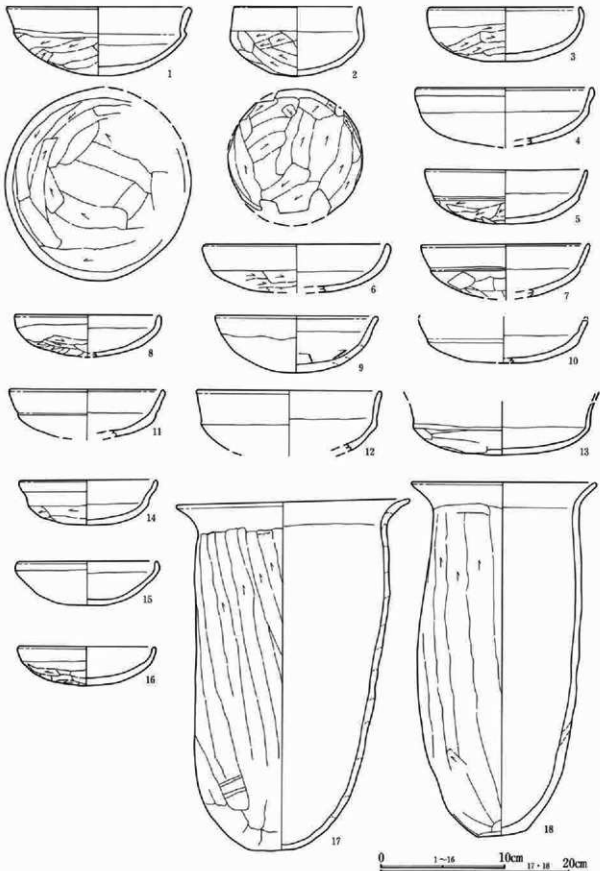


竈跡 北壁中央部住居内に燃焼部を有する竈が付設される。袖は灰褐色粘質土を用い構築するが、攪乱を受け遺存状態が悪い。埋土中には灰褐色土に焼土塊の混土層が見られ、天井崩落土と思われる。火床面はほぼ床面と同レベルであり、薄く焼土の堆積が見られる。煙道部は壁を掘り込み緩く立ち上がり、壁面焼土化する。

1. 暗褐色土 灰褐色土塊、焼土塊などがまだらをなす。
2. 黒褐色土 細礫を若干含む。
- ①. 灰褐色土 粘性強い、竈の袖壁に使用。一部焼土化。

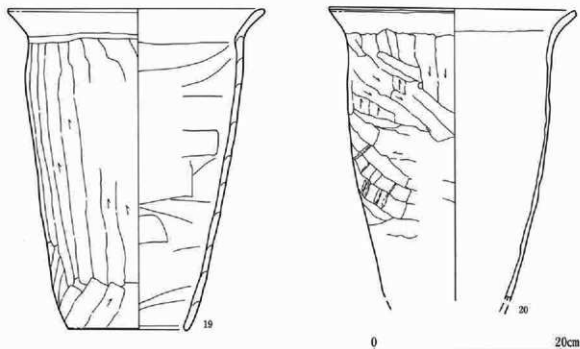
第44図 9号住居跡竈

第1節 竪穴住居跡の概要



第45図 9号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第46図 9号住居跡出土遺物(2)

9号住居跡出土遺物観察表 (PL.40・41・42)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 法	量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	北東 6	口縁一 部欠損	口14.4 高5.5 底一	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に段状の稜を持つ。体部から底部にかけて手持ちヘラ削り。	
2	土師器 坏	南壁際 19	ㄥ	口10.0 高5.5 底一	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。僅かに内傾。体部から底部手持ちヘラナデ。内面黒色。	内黒土器?
3	土師器 坏	南西 5	ㄥ	口(12.0) 高4.3 底一	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部短く内湾。横ナデ。体部から底部ヘラ削り。	
4	土師器 坏	南東 5	ㄥ	口14.0 高一 底一	①橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部2段の横ナデ。口唇部内湾。体部器表面もろく調整不明瞭。	
5	土師器 坏	北東 18	ㄥ	口12.7 高4.3 底一	①橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に段状の稜を持ち凹線巡る。体部から底部にかけて手持ちヘラ削り。	
6	土師器 坏	南東(ピット内)	口縁片	口(14.4) 高一 底一	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。口唇部内湾。体部ヘラ削り。	
7	土師器 坏	南東 15	ㄥ	口(13.0) 高一 底一	①橙②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に段状の稜を持ち凹線巡る。体部から底部にかけて手持ちヘラ削り。	
8	土師器 坏	北東 18	ㄥ	口(11.2) 高一 底一	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部短く内傾。体部一部未調整。底部にかけて手持ちヘラ削り。	
9	土師器 坏	北東 4	底部一 部欠損	口12.6 高4.5 底一	①にぶい黄橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部ナデ。内底面ヘラナデ。	
10	土師器 坏	北東 20	ㄥ	口 高一 底一	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部調整不明瞭。	
11	土師器 坏	東壁際 16	ㄥ	口(12.0) 高一 底一	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒・粗砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に段状の稜を持つ。体部から底部にかけて手持ちヘラ削り。	
12	土師器 坏	電右袖 8	ㄥ	口(14.4) 高一 底一	①にぶい黄橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に弱い稜を持つ。体部調整不明瞭。	
13	土師器 坏	南東 4	ㄥ	口一 高一 底一	①橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部にかけて手持ちヘラ削り。内底面平底状。	
14	土師器 坏	北東壁際 28	ㄥ	口(10.8) 高3.5 底一	①橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。口唇部内湾。体部との境に弱い稜を持つ。体部から底部にかけて手持ちヘラ削り。	
15	土師器 坏	電右袖 14	ㄥ	口(11.0) 高3.5 底一	①橙②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。内傾。体部調整不明瞭。	
16	土師器 坏	電右袖 11	ㄥ	口(10.6) 高3.1 底一	①にぶい黄橙②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部手持ちヘラ削り。	

番号	部 種	出土位置 (cm)	残存 法 量 (cm)	①色調②構成③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
17	土 師 器 壺	北西 47	1/2 □24.3高37.0 底6.0	①橙②酸化焙 ③粗砂粒・小礫含む	□縁部外は横ナデ。胴部長胴、縦位ヘラ削り。底部へは丸味を持ち移行する。	
18	土 師 器 壺	南西 2	1/2 □19.2高37.6 底7.2	①橙②酸化焙 ③粗砂粒・小礫含む	□縁部横ナデ。胴部長胴、縦位ヘラ削り。	
19	土 師 器 壺	北西 3	□縁1/2 欠損 □27.9高35.1 底部12.2	①橙②酸化焙 ③砂粒含む	□縁部外反、横ナデ。体部直線的、縦位ヘラ削り、下半斜位ヘラ削り。内面ナデ。開口部、面取り。	
20	土 師 器 壺	中央 17	□26.2 高一 底一	①にぶい陶②酸化焙 ③砂粒含む	□縁部外反、口唇部ナデ。胴部縦位ヘラ削り後、斜位ヘラ削り。内面ナデ。	

10号住居跡 (PL 9・42)

位置 I₀-15グリッド 床面積 10.0m²

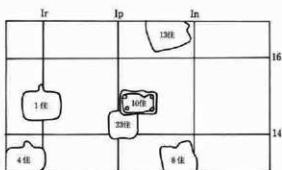
主軸方位 N-0° 重複 23住を掘り込む。

規模と形状 長辺4.5m、短辺3.1m、残存壁高0.20mを測り、東西に長い横長長方形を呈する。

埋土 礫を含むしまりの弱い黒褐色土により埋没し、壁際には壁崩落による三角堆積土が見られる。床面 全体的に平坦面であるが、東半部はやや凹む。

竈跡 北壁東寄りに住居内に燃焼部を有する竈が付設される。袖は暗褐色の粘質土を用い構築するが、遺存状態は悪い。竈前に30cm程度の長礫が出土し、天井石の可能性が考えられる。火床面はやや凹む。

柱穴 南西隅を除き各隅に小穴があり、隅柱穴と考えられる。



規模 P 1 長辺0.56m、短辺0.4m、深さ0.26m

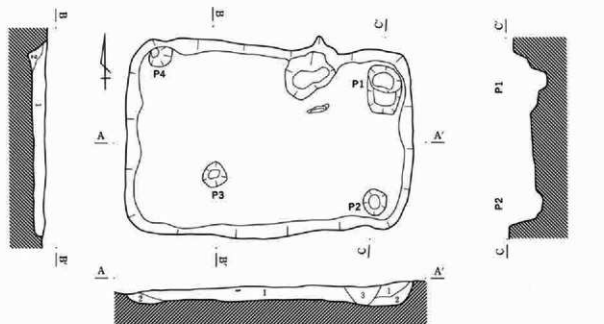
P 2 長辺0.4m、深さ0.13m

P 3 長辺0.4m、深さ0.05m

P 4 長辺0.4m、深さ0.18m

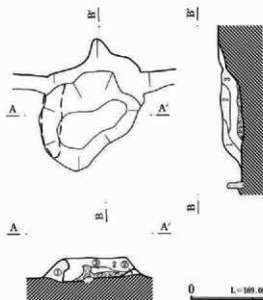
貯蔵穴 北東隅に柱穴と思われる小穴と重複する。

形状は隅丸長方形を呈する。規模は長辺不明、短辺



1. 黒褐色土 大小の礫多量に混入。
2. 黒褐色土 黄褐色粘土粒、礫を多く含む。
3. 黒褐色土 黄褐色粘土の小塊を種々に含む。

第47図 10号住居跡



第48図 10号住居跡竈

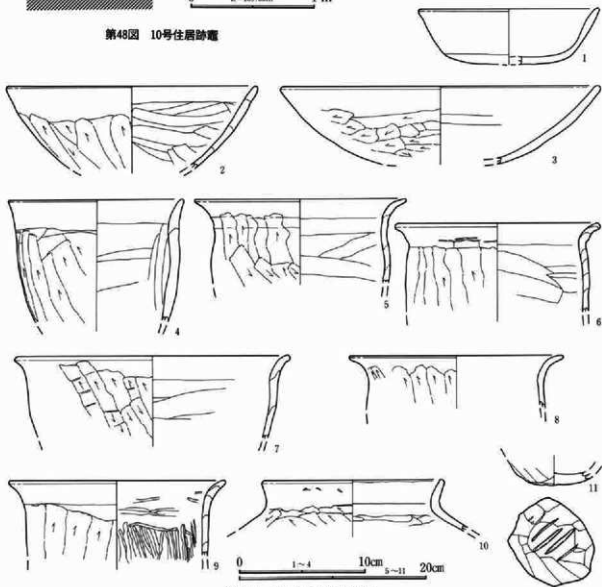
0.54m、深さ0.11mを測る。

壁下周溝 なし

出土遺物 出土遺物に関する記録が残っておらず、出土位置、高さ等が不明であるが、住居の深さから床面付近で出土したと考えられる。主な出土遺物は、土師器甕・甔類であり、鉢・坏が少量出土している。
掘り方 礫層上面で止められ、床面と同一。

時期 7世紀代

1. 暗褐色土 焼土粒を僅かに含む。
2. 暗褐色土 1より粘土をやや多く含む、硬質。
3. 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒を僅かに含む。粘土粒が多い。
- ①. 暗褐色土 粘土を主とし、微・焼土粒を含む。袖残存部分。
- ②. 黒褐色土 軟質、焼土粒を僅かに含む。



第49図 10号住居跡出土遺物

10号住居跡出土遺物観察表 (PL42)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②構成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	中央 ±0	片	口(14.4) 高一 底一	①橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	体部から口縁部にかけて直線的に開く。平底を呈する。調整不明瞭。	
2	土師器 坏	貯穴付近 覆土	口へ体 部片	口(19.8) 高一 底一	①にぶい赤褐色酸化 焰②粗砂粒含む	口縁部横ナデ。体部縦位へラ削り。内面斜横位ナデ。	
3	土師器 坏	貯穴付近 覆土	口へ体 部片	口(25.4) 高一 底一	①にぶい橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	鉢状の坏。口唇部横ナデ。口縁から底部にかけてへラ削り。内面横ナデ。	
4	土師器 小型壺	中央 ±0	底部欠 損	口13.8 高一 底一	①橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	胴部から口縁部直線的に開く。口縁部横ナデ。胴部縦位へラ削り。内面横ナデ後、部分的縦位ナデ。	
5	土師器 壺	貯穴付近 覆土	口へ割 片	口(22.4) 高一 底一	①明赤褐色酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部から頸部横ナデ。胴上部縦位へラ削り後、斜位へラ削り。内面横位ナデ。	
6	土師器 壺	貯穴付近 覆土	口へ割 部片	口(21.0) 高一 底一	①橙②酸化焰 ③砂粒含む	口縁部外反。胴上部縦位へラ削り後、口縁部横ナデ。内面横位ナデ。	
7	土師器 瓶	貯穴付近 覆土	口へ割 部片	口(28.6) 高一 底一	①橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部短く外反。横ナデ後、胴上部斜縦位へラ削り。内面横位ナデ。	
8	土師器 壺	貯穴付近 覆土	口縁片	口(11.3) 高一 底一	①明赤褐色酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部外反、横ナデ後、胴上部縦位へラ削り。内面横ナデ。	
9	土師器 瓶	貯穴付近 覆土	口縁片	口(22.8) 高一 底一	①橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部外反、横ナデ。胴上部縦位へラ削り。内面横ナデ後へラ磨き。	
10	土師器 壺	貯穴 覆土	口縁片	口(19.0) 高一 底一	①にぶい褐色酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。直立気味。胴上部斜位へラ削り。球形胴。内面横位ナデ。	
11	土師器 小型壺	中央 ±0	底部	口高一 底(5.0)	①橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	下位ナデ状のへラ削り。底部4本のへラナデ。内面黒色処理。	

11号住居跡 (PL10・42・43・44)

位置 Je-15グリッド 床面積 26.9㎡

主軸方位 N-47°-W 重複 12号住居に掘り込まれる。

規模と形状 長辺6.0m、短辺5.6m、残存壁高0.40mを測り、東西にやや長い横長長方形を呈する。

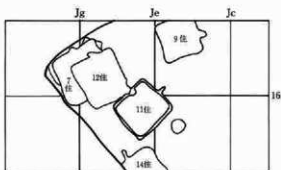
埋土 上層は小礫混じりの粘性の強い黒褐色土が堆積し、下層は礫混じりのしまりが弱い暗褐色土が堆積する。北壁寄りには土層が乱れる。

床面 全体的に平坦面であり、東半分は礫露出する。

竈跡 第1竈は、西壁中央部住居内に燃焼部を有する竈が付設されるが、12号住居により燃焼部は壊される。袖は灰褐色のシルト質土を芯材として利用しているが痕跡は断面のみで確認した。また竈内には、袖同様の天井部崩落土の灰褐色シルト質土が堆積している。第2竈は、東壁中央部壁外で煙道のみを確認した。火床面等の痕跡は見られない。

柱穴 各隅対角線上に4本検出した。

規模 P1 長辺0.43m、短辺0.33m、深さ0.38m



P2 長辺0.50m、短辺0.48m、深さ0.2m

P3 長辺0.56m、短辺0.52m、深さ0.35m

P4 長辺0.57m、短辺0.45m、深さ0.24m

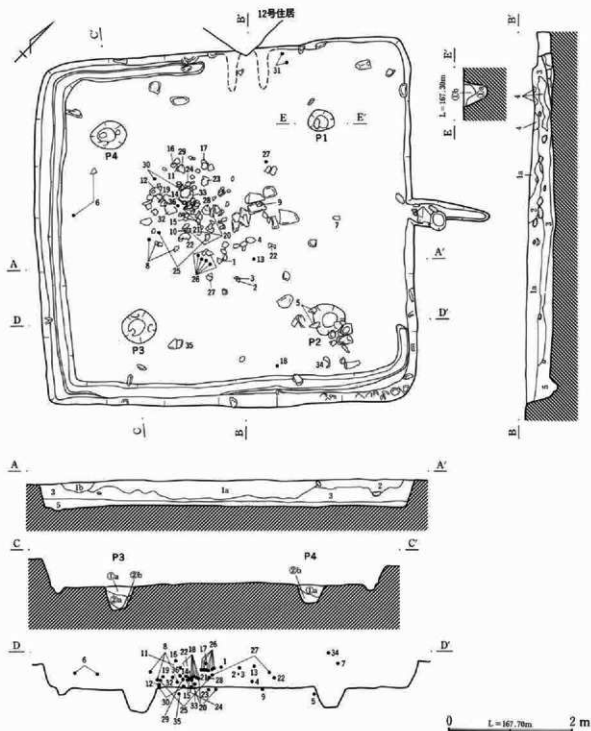
貯蔵穴 検出されなかった。

壁下周溝 第1竈右脇から南隅を除き全周する。

出土遺物 住居中央部に遺物が集中するがやや浮いた状態で出土している。

掘り方 床面と一致する。

時期 7世紀

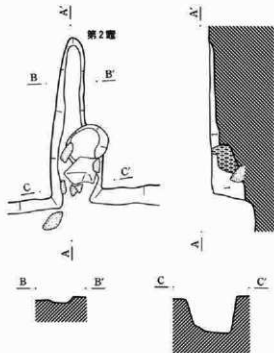
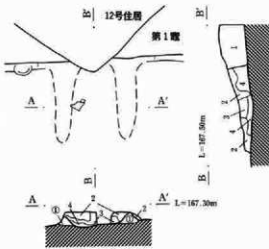


ビット

- ①a. 黒褐色土 米粒大～穀指大の糠が混入。
- ①b. 黒褐色土 固くしまる。小糠混入。
- ②a. 黒褐色土 米粒大～穀指大の糠が混入。
- ②b. 黒褐色土 穀指大～僅5cm程度の糠が混入。

- 1a. 黒褐色土 大糠を含む。
- 1b. 黒褐色土 糠混じり。
- 2. 黒褐色土 粘性少なく、やや軟質。
- 3. 暗褐色土 粘性あり。軟質。大糠を少量含む。
- 4. 黄褐色土 電機器材の屑落土と思われる。
- 5. 黒褐色土 小細糠を多く含む。

第50図 11号住居跡



第1層

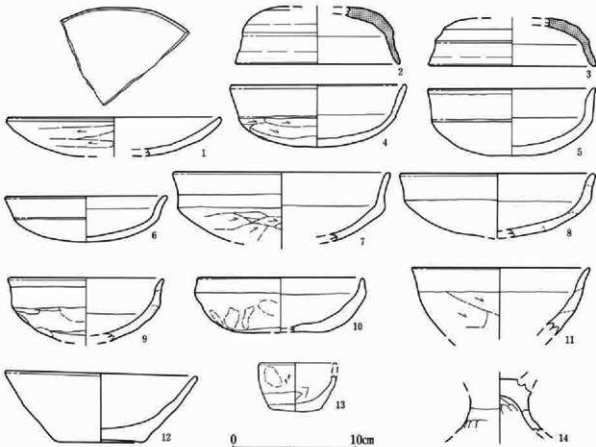
1. 黒褐色土 褐色土塊、灰白色粒子、細礫含む。
2. 黒褐色土 褐灰白色土塊、褐色土塊が一部に混入する。
3. 灰褐色土 濃い褐色土と明褐色土の混土。竈天井部の崩落土。
4. 暗褐色土 褐色土の混土。焼土小塊少量含む。
- ① 灰褐色土 竈底部。きめの細かい粘土土が火をうけて乾燥。

第2層

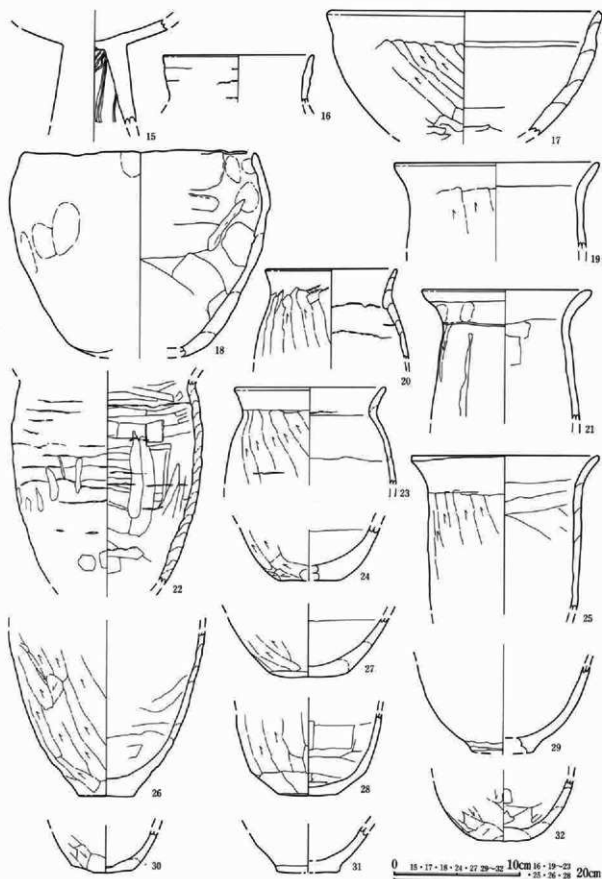
1. 暗褐色土 黄色粒・焼土粒混じり。

第51図 11号住居跡画

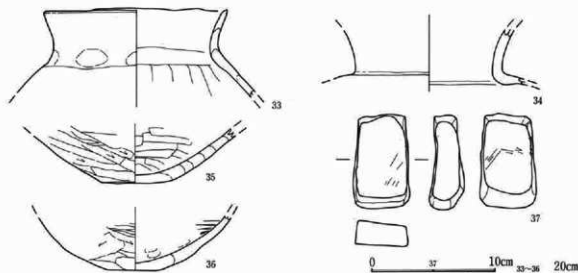
0 L=1.67.60m 1m



第52図 11号住居跡出土遺物(1)



第53図 11号住居跡出土遺物(2)



第54図 11号住居跡出土遺物(3)

11号住居跡出土遺物観察表 (PL42・43・44)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	中央 37	1/2	口(17.0) 高一 底一	①橙②酸化焰 ③粗砂粒・粘土粒含む	口縁部面取り状のナデ、体部から底部へラ削り。	木葉型
2	須恵器 蓋	中央 39	1/2	口(13.0) 高一 底一	①灰白②還元焰 ③砂粒含む	輪縁整形。体部との境に稜を持つ。体部から底部器表面もろく調整不明瞭。	
3	須恵器 蓋	中央 39	1/2	口(13.2) 高一 底一	①灰白②還元焰 ③細砂粒含む	輪縁整形。体部との境に稜を持ち、直下にも強いナデを施す。頂部窪みかへラ削痕見られる。	
4	土師器 坏	中央 20	1/2	口(13.9 高4.9 底一	①橙②酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ、体部との境に稜を持つ。体部から底部にかけて手持ちへラ削り。	
5	土師器 坏	南東 2	1/2	口(13.3 高5.3 底一	①橙②酸化焰 ③粗砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ、体部との境に弱い稜を持つ。体部から底部調整不明瞭。	器内厚い。
6	土師器 坏	南西 27	1/2	口(12.6) 高3.6 底一	①にぶい②酸化焰 ③砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ、体部との境に弱い稜を持つ。体部から底部調整不明瞭。	
7	土師器 坏	南東 35	1/2	口(17.0) 高一 底一	①にぶい赤褐色②酸化焰 ③粗砂粒・粘土粒含む	口縁部2段の横ナデ、体部との境に稜を持つ。体部手持ちへラ削り。	
8	土師器 坏	中央 23	1/2	口(15.2) 高一 底一	①にぶい②酸化焰 ③粗砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ、体部との境に弱い稜を持つ。体部から調整不明瞭。	
9	土師器 坏	北東 12	1/2	口(12.0) 高一 底一	①にぶい黄褐色②酸化焰 ③粗砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ、口唇部僅かに外反。体部との境に弱い稜をもつ。	
10	土師器 坏	南西 16	1/2	口(13.2) 高一底(7.5)	①にぶい黄褐色②酸化焰 ③粗砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ、やや内湾。体部指頭圧痕及び指ナデ。	
11	土師器 坏	南西 37	口縁片	口(14.4) 高一 底一	①にぶい②酸化焰 ③粗砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ、体部から底部調整不明瞭。	
12	土師器 坏	西 8	口縁一部欠損	口(15.2 高5.6 底7.0)	①橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	器表面もろく、調整不明瞭。底部平底、内面丸底。体部から口縁にかけ直線的に開く。	
13	土師器 手づくね	中央 37	ほぼ完形	口(5.7) 高3.8 底4.4	①にぶい②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	体部下平横ナデ、上半指押入。口唇部内側に折り返し。	
14	土師器 高坏	中央 42	脚部片	口一 高一 底一	①にぶい黄褐色②酸化焰 ③粗砂粒・粘土粒含む	裾部ハの字に開く。縦穴へラ削り後、横ナデ。内面へラナデ。	
15	土師器 高坏	中央 16	脚部片	口一 高一 底一	①橙②酸化焰 ③砂粒含む	器表面もろく、調整不明瞭。脚部直線的に開く。内面縦穴へラナデ。器内厚い。	
16	土師器 罐	西 38	口縁片	口(16.0) 高一 底一	①橙②酸化焰 ③粗砂粒混じり	口縁部直線的に開く。輪縁片痕あり。	
17	土師器 鉢	中央 35	口縁片	口(21.8) 高一 底一	①橙②酸化焰 ③粗砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部斜穴へラ削り。	
18	土師器 鉢	南 13	1/2	口(18.2 高一 底一	①橙②還元焰 ③粗砂粒含む	整形痕。全体に指頭圧痕見られる。底部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる。内面横ナデ。	
19	土師器 甔	西 12	口へ脚部片	口(21.5) 高一 底一	①明赤褐色②酸化焰 ③粗砂粒混じり	口縁部横ナデ。脚部縦穴へラ削り。内面ナデ。	

第3章 検出された遺構・遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②構成③胎土	器形・整形の特徴	備考
20	土師器 甕	中央 13	口～胴 1/2	口(13.6) 高一 底一	①橙赤酸化焙 ②粗砂粒混じり	口縁部短くやや外反、横ナデ。胴部斜縦位ヘラ削り。内面輪襷み痕明確に残る。	
21	土師器 甕	中央 15	口～胴 1/2	口(18.0) 高一 底一	①赤褐色酸化焙 ②片岩・粗砂粒混じり	口縁部緩やかに外反。胴部につけ指頭圧痕。胴部縦位ヘラナデ、敷土。	
22	土師器 甕	中央 22	胴部片 1/2	口一 高一 底一	①にぶい赤褐色酸化焙 ②砂粒・粘土粒含む	外面輪襷み痕明確。部分的縦位指ナデ。内面横位ナデ後、縦位指ナデ。	
23	土師器 甕	北東 11	口～胴 1/2	口(15.8) 高一 底一	①橙赤酸化焙 ②粗砂粒混じり	口縁部横ナデ。胴部斜位ヘラ削り。内面横位ナデ。	
24	土師器 鉢	中央 10	底部1/2	口一 高一 底(5.0)	①にぶい橙赤酸化焙 ②粗砂粒含む	胴下半縦位ヘラ削り。下端横位ヘラナデ。内面黒色色染。	
25	土師器 甕	中央 17	口～胴 1/2	口(20.0) 高一 底一	①明赤褐色酸化焙 ②片岩・粗砂粒混じり	口縁部緩やかに外反、横ナデ。胴部斜縦位ヘラ削り。内面斜・横ナデ。長胴形。	
26	土師器 甕	中央 26	胴～底 1/2	口一 高一 底6.0	①にぶい橙赤酸化焙 ②粗砂粒含む	胴部斜縦位ヘラ削り。底部肥厚。内面指ナデ、下半ヘラナデ。	
27	土師器 鉢	中央 28	底部1/2	口一 高一 底(6.0)	①にぶい橙赤酸化焙 ②砂粒・粘土粒含む	体部斜縦位ヘラ削り。底部ヘラ削り。内面黒色色染か、やや平座。	
28	土師器 甕	中央 14	底部1/2	口(20.0) 高一 底(5.0)	①浅黄褐色酸化焙 ②片岩粒含む	胴下半縦位、下端やや強く横位ヘラ削り。内面横ナデ。	
29	土師器 甕	西 12	胴～底 1/2	口一 高一 底(4.5)	①橙赤酸化焙 ②片岩・粗砂粒混じり	器表面もろく、調整不明瞭。底部台状を呈する。	肥厚。器内厚い。
30	土師器 甕	中央 8	底部	口一 高一 底5.0	①にぶい褐色酸化焙 ②砂粒含む	胴下半斜位ヘラ削り。底面未調整。	
31	土師器 甕	電付近 21	底部1/2	口一 高一 底(5.0)	①赤褐色酸化焙 ②砂粒含む	胴下部ナデ。底部台状を呈する。	肥厚。器内厚い。
32	土師器 甕	中央 15	底部1/2	口一 高一 底5.5	①明赤褐色酸化焙 ②片岩・粗砂粒混じり	胴下半丸味を持って底部へ移行。ヘラ削り後ナデ。内面横位ヘラナデ。	
33	土師器 甕	中央 5	口縁部	口19.5 高一 底一	①赤褐色酸化焙 ②片岩・粗砂粒混じり	器表面もろく、調整不明瞭。胴部指頭圧痕。内面胴上半縦位ナデ。球形割を呈する。	
34	土師器 甕	南東 S2	胴部1/2	口一 高一 底一	①橙赤酸化焙 ②粗砂粒混じり	口縁部横ナデ。頸部から胴部へ強い屈曲。球形割を呈する。	
35	土師器 甕	南 S2	底部1/2	口一 高一 底8.0	①橙赤酸化焙 ②粗砂粒混じり	球形割を呈す。胴下半斜位ヘラ削り。底面ヘラ削り。内面丁寧な横ナデ。	
36	土師器 甕	西 31	底部1/2	口一 高一 底5.8	①黒褐色酸化焙 ②粗砂粒混じり	胴下半部黒色を呈し、磨き状の不定方向ヘラナデ。内面小口状工具によるナデ。	
37	石製品 砥石	覆土	1/2	<計測値>長7.4、幅4.5、厚2.1、重120g <石材>紙灰石 <特徴>四面使用。端部骨端部状を呈する。			

12号住居跡 (PL10・44・45)

位置 Jf-16グリッド 床面積 33.9㎡

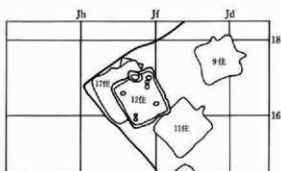
主軸方位 N-25°-W 重複 11住、17号住居を掘り込み、電部分は6号土坑に掘り込まれる。

規模と形状 長辺6.2m、短辺5.8m、残存壁高0.27mを測り、やや南北に長い縦長長方形を呈する。

埋土 北壁側の土層が乱れ、上層は礫を多く含み、下層は礫が少なく粘性が増す。

床面 小砂礫混じりの地山暗褐色土を利用し、床面を構築する。竈前方に焼土の広がりが見られ、若干硬化している。

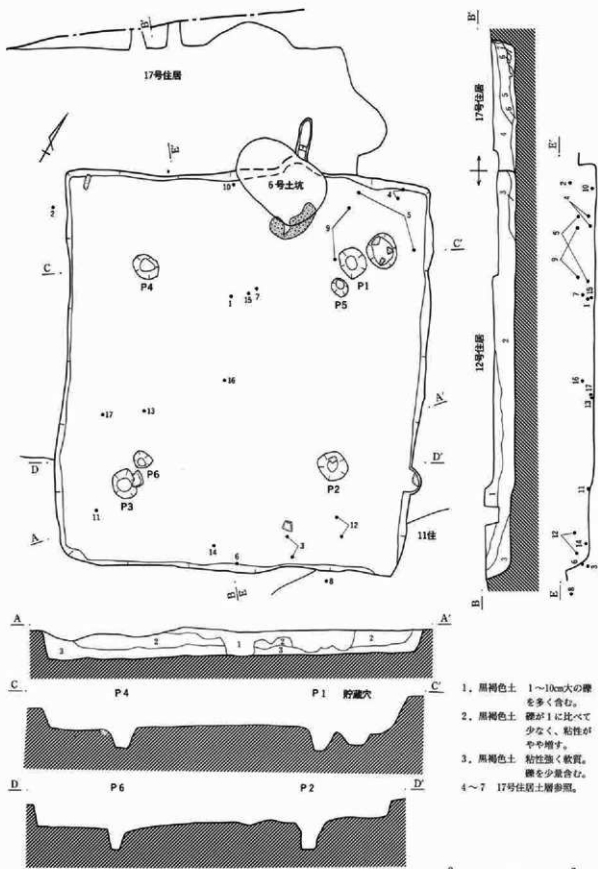
竈跡 6号土坑により大半は掘り取られ、若干煙道部と竈前に焼土塊の広がりが見られる。北壁中央やや東寄り壁を僅かに掘り込み燃焼部を構築してい



る。

柱穴 各隅対角線上に4本検出した。またP1とP3の内側に小穴を検出した。

- 規模 P1 長辺0.48m、短辺0.40m、深さ0.37m
 P2 長辺0.46m、短辺0.42m、深さ0.44m
 P3 長辺0.46m、短辺0.34m、深さ0.46m



第55図 12号住居跡

第3章 検出された遺構・遺物

P 4 長辺0.44m、短辺0.34m、深さ0.38m

P 5 長辺0.30m、短辺0.26m、深さ0.25m

P 6 長辺0.30m、短辺0.26m、深さ0.35m

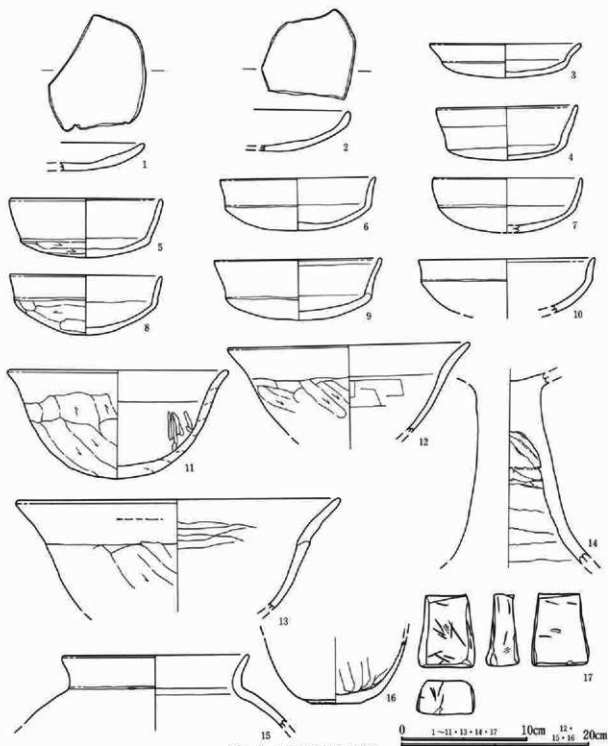
貯蔵穴 P 1右脇で確認した。規模は長辺0.54m、
短辺0.46m、深さ0.26mを測り、円形を呈する。

壁下周溝 検出されなかった。

出土遺物 北東部及び南壁際に土師器坏・皿・鉢等
が出土し、皿状の土師器坏は木葉状を呈する。

掘り方 小砂礫混じりの地山暗褐色土で止められ、
そのまま床面として利用している。

時期 7世紀



第56図 12号住居跡出土遺物

12号住居跡出土遺物観察表 (PL44・45)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 環	中央 9	口へ底	口一 高一 底一	①橙赤酸化層 ③細砂粒・粘土粒含む	皿状の環、底部から口縁部へ緩やかに立ち上がる。 口唇部横ナデ。体部から底部手持ちへ削り。	木葉型?
2	土師器 環	17住居内 39	口へ底	口一 高一 底一	①橙赤酸化層 ③細砂粒・粘土粒含む	皿状の環、底部から口縁部へ緩やかに立ち上がる。 口唇部横ナデ。体部から底部手持ちへ削り。	木葉型?
3	土師器 環	南 4	口へ底	口(12.0) 底一	①浅黄褐色酸化層 ③粘土粒含む	皿状の環。口縁部横ナデ。体部との境に段状の段を持つ。体部近く 底部平底状を呈する。	
4	土師器 環	北東 11	ほぼ完 形	口11.1 高4.2 底9.4	①浅黄褐色酸化層 ③砂粒・粘土粒含む	口縁部広く、平底状の底部へ移行。口縁部横ナデ。 底部へ削り。	
5	土師器 環	北東 30	片	口(12.0) 高4.6 底一	①橙赤酸化層 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部広く、弱い段を持ち底部へ移行。口縁部横 ナデ、底部手持ちへ削り。	
6	土師器 環	南東 13	片	口(12.5) 高4.1 底5.4	①橙赤酸化層 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に段を持つ。体部から 底部手持ちへ削り。	
7	土師器 環	中央 17	片	口(1.8) 高(4.3) 底一	①橙赤酸化層 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部内湾気味、横ナデ。体部との境に段を持つ。 体部から底部手持ちへ削り。	
8	土師器 環	南東 -4	ほぼ完 形	口12.0 高4.8 底3.0	①いぶい橙赤酸化層 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に段を持つ。体部から 底部手持ちへ削り。	
9	土師器 環	北東 30	片	口(13.2) 高4.8 底一	①いぶい橙赤酸化層 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部広く、弱い段を持ち底部へ移行。口縁部横 ナデ、底部手持ちへ削り。	
10	土師器 環	北西 3	片	口(14.0) 高一 底一	①いぶい赤褐色酸化 層粗粒砂粒混じり	器表面粗粒露出。調整不明瞭。口縁部横ナデ。体 部との境に弱い段を持つ。	
11	土師器 鉢	南西 14	口へ胴 部	口(17.0) 高8.6 底一	①いぶい黄褐色酸化層 ③粗砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部斜位へ削り。内面横ナデ。 ヘラナデ部分均に見られる。	
12	土師器 鉢	南東 19	口へ胴 部片	口(25.6) 高一 底一	①橙赤酸化層 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部広く、緩やかに外反。胴部斜位へ削り。	No13と同類
13	土師器 鉢	南西 7	口縁片	口(26.0) 高一 底一	①いぶい橙赤酸化層 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部広く、緩やかに外反。胴部斜位へ削り。 内面丁寧なヘラナデ。	
14	土師器 高環	南 7	胴部 底一	口一 高一 底一	①橙赤酸化層 ③粘土粒含む	緩やかにフラット状に開く。器表面もろく調整不明 瞭。内面螺旋状巻き上げ痕。上部指ナデ痕。	
15	土師器 罌	中央 3	口縁片	口(19.6) 高一 底一	①いぶい橙赤酸化層 ③粘土粒含む	器表面もろく調整不明瞭。口縁部直線的に開き、 頸部屈曲曲く、球形割を呈すると思われる。	
16	土師器 罌	中央 21	底へ胴 部	口一 高一 底5.0	①灰褐色酸化層 ③細砂粒含む	胴下部丸味を持ち、底部へ移行。未調整。底部 一方へ削り。内面横位ナデ。	
17	石製品 砥石	南西 6	完形	<計測値>長5.6、幅4.3、厚2.5、重100g	<石材>紙灰石<特徴>スタンプ状を呈し、 全面磨面。		

13号住居跡 (PL10・45~47)

位置Ja-13グリッド 床面積 30.6m²

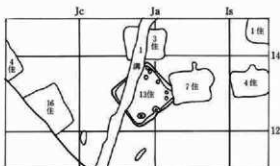
主軸方位 N-55°-W 重複 1号溝に北隅から
竈部分、東隅を7号住居で掘り込まれる。

規模と形状 長辺6.4m、短辺6.1m、残存壁高0.56
mを測り、ほぼ正方形を呈する。

埋土 住居中央部に多量の礫出土し、埋没土全体に
小礫が混じり、下層には大礫を多く含む。土層の乱
れ、地山塊の混入は見られず礫のみの投棄か?

床面 小砂礫混じりの粘性の強い地山暗褐色土を床
面に利用している。炭化物が散在する。

竈跡 北壁中央部の住居内に燃焼部を有する竈が付
設される。両袖先端部に立石が埋置され、前方には
天井部に掛けられた板状砂岩が落下し出土してい



る。燃焼部は短く、煙道部は住居内より始まり壁を
僅かに掘り凹め立ち上がる。袖は地山掘り残し構築
されている。

柱穴 各隅寄りに4本検出した。また北東壁際に4
本の小穴並ぶ。

第3章 検出された遺構・遺物

規模 P1 長辺0.50m、短辺0.36m、深さ0.30m

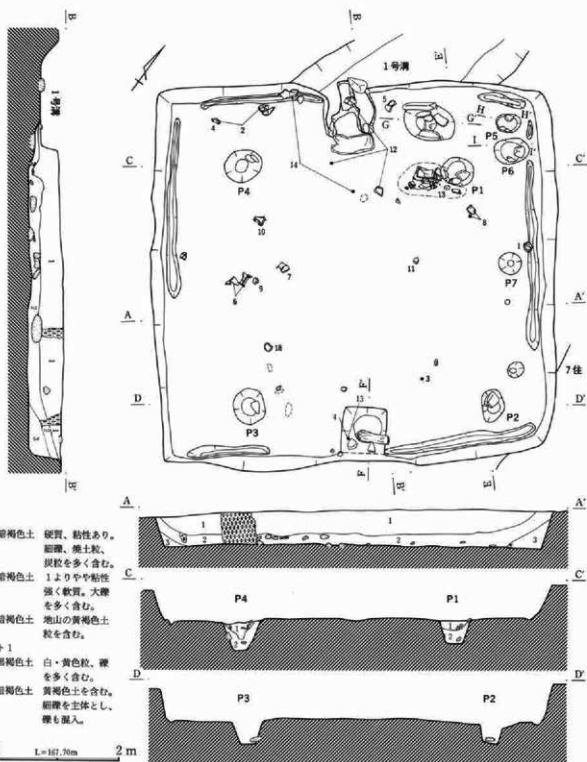
P2 長辺0.54m、短辺0.50m、深さ0.35m

P3 長辺0.62m、短辺0.48m、深さ0.44m

P4 長辺0.52m、深さ0.38m

P5 長辺0.38m、短辺0.30m、深さ0.19m

P6 長辺0.56m、短辺0.42m、深さ0.21m



第57図 13号住居跡



貯蔵穴 1

1. 黒褐色土 白・黄色粒を多く含み、風化礫を含む。
2. 黒褐色土 白・黄色粒を含む。
3. 暗褐色土 細礫を主体とする。

貯蔵穴 2

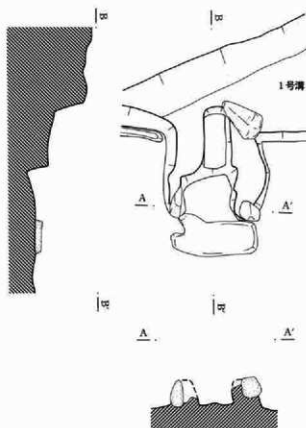
1. 黒褐色土 白・黄色粒を多く含み、炭化物・焼土粒を含む。
2. 黒褐色土 小礫を多く含み、細砂混じり。

ピット

- 1・2は貯蔵穴断面。
3. 暗褐色土 砂礫主体。

0 2 m

第58図 13号住居跡



貯蔵穴 竈右脇に位置し、規模は長辺0.8m、短辺0.55m、深さ0.3mを測り、形状は円形を呈する。また竈と対壁に一辺0.7m、深さ0.3mを測る上端方形の土坑を検出した。上面に板状礫が出土している。

壁下周溝 途切れながら各壁下に巡る。

出土遺物 漆付着のNo1土師器環は東壁際床面直上より出土し、No12の甔は竈内から前方部にかけて出土。

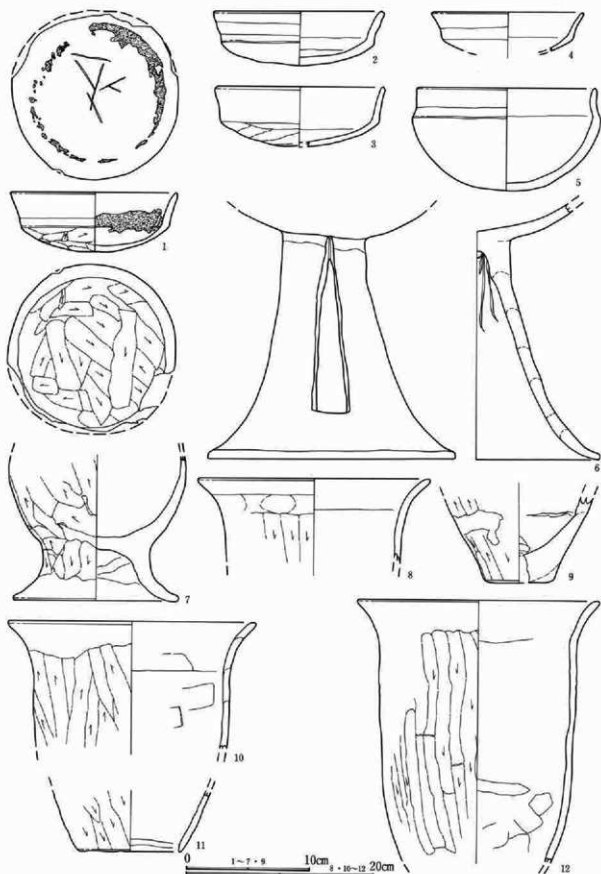
No13・14の土師器甕はそれぞれP1・左袖脇より出土している。また三角透しを有するNo6の上師器高坏やNo7、9、18などは埋土中層より出土している。

掘り方 小砂礫混じりの地山暗褐色土まで掘り込み、礫層の上面で止められている。

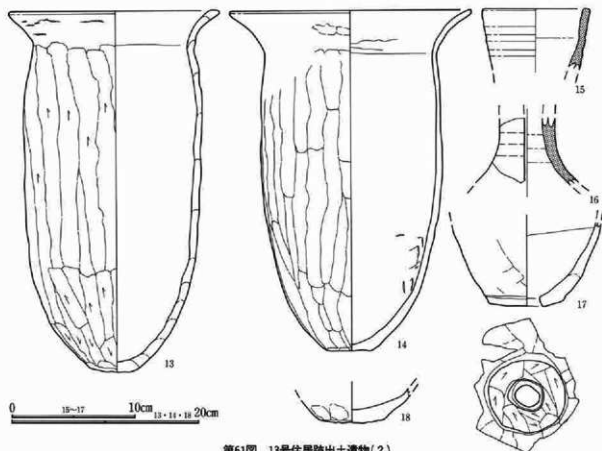
時期 7世紀代

0 L=167.50m 1 m

第59図 13号住居跡竈



第60図 13号住居跡出土遺物(1)



第61図 13号住居跡出土遺物(2)

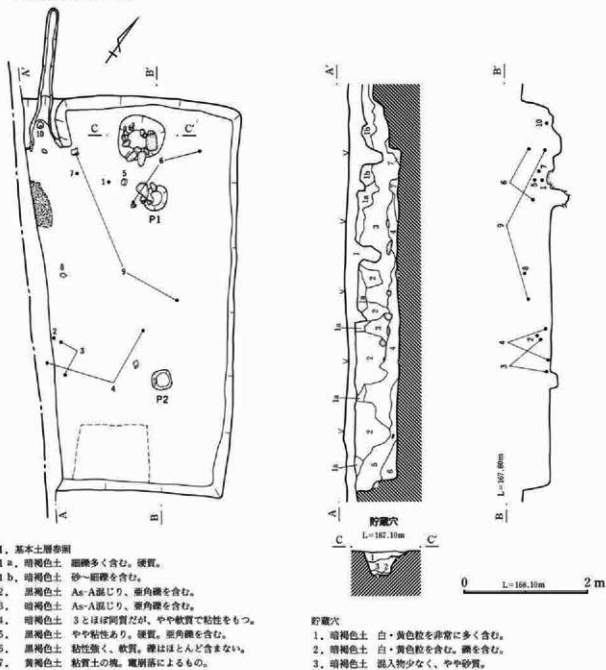
13号住居跡出土遺物観察表 (PL45・46・47)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	北東 4	1/2	口13.2 高4.2 底—	①にぶい焼②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に稜を持つ。底部にかけ手持ちヘラ削り。内面ヘラナデ。	内面部付着
2	土師器 坏	西 8	口〜底 一部欠	口13.3 高4.3 底—	①橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部2段横ナデ。体部との境に弱い稜を持つ。底部にかけ手持ちヘラ削り。	
3	土師器 坏	南東 7	口〜底 1/2残	口(12.0) 高— 底—	①橙②酸化焰 ③細砂粒部かを含む	器表面もろく調整不明瞭。口縁部横ナデ。体部との境に弱い稜を持つ。	
4	土師器 坏	西 9	口〜底 1/2	口(13.2) 高— 底—	①橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に弱い稜を持つ。体部から底部にかけ手持ちヘラ削り。	
5	土師器 坏	北 2	1/2欠損	口14.0 高8.0 底—	①橙②酸化焰 ③粗砂粒混じる	器表面粗砂粒多量に露出。口縁部横ナデ。内傾気味。	
6	土師器 高坏	西 30	底〜脚 部	口— 高— 底19.5	①橙②酸化焰 ③砂粒・粘土粒含む	脚部ラッパ状に開く長胴。三角形透かし、三ヶ所に開けられる。内面縦位指ナデ。	
7	土師器 台付壺	中央 20	胴〜底	口— 高— 底13.0	①にぶい焼②酸化焰 ③粗砂粒含む	胴下部部斜位ヘラ削り。脚部縦位ヘラ削り。脚部球形。内面指ナデ。胴部球形。	
8	土師器 瓶	北東 10	口縁部 破片	口(24.4) 高— 底—	①橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	器表面粗砂粒混じり。調整不明瞭。口縁部緩やかに外反。胴上部縦位ヘラ削り。	
9	土師器 鉢	西 28	底部片 1/2	口— 高— 底(5.6)	①にぶい焼②酸化焰 ③粗砂粒含む	体部下端斜位ヘラ削り鉄指ナデ。底部肥厚。内面丁寧なナデ。	
10	土師器 壺	西 20	口〜胴 破片	口(26.4) 高— 底—	①橙②酸化焰 ③細砂粒含む	器表面粗砂粒混じり。調整不明瞭。口縁部緩やかに外反。胴上部縦位ヘラ削り。	
11	土師器 瓶	中央 7	口〜高 一部欠	口— 高— 底(11.0)	①赤褐②酸化焰 ③粗砂粒含む	胴下部部斜位ヘラ削り。開口端部及び内面の2ヶ所面取り。	
12	土師器 瓶	北西 7	口〜胴 下部1/2	口(26.0) 高— 底—	①橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	器表面粗砂粒混じり。調整不明瞭。口縁部緩やかに外反。胴上部縦位ヘラ削り。	
13	土師器 壺	北 2	胴部一 部欠損	口22.0 高38.0 底5.4	①橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	器表面粗砂粒混じり。調整不明瞭。口縁部外反。胴下部部斜位ヘラ削り。	

第3章 検出された遺構・遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 法	量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
14	土師器 壺	西 9	口→高 1/2	口(25.4) 高 35.3 底(4.5)	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	器表面粗砂粒混じり。調整不明瞭。口縁部外反。 下部斜位へ傾り。	
15	須恵器 壺	覆土	口縁片 1/2	口(8.4) 高→ 底→	①黒褐②還元硬質 ③堅緻	2条の凹線巡る。自然軸付着。断面小豆色。	
16	須恵器 高坏	覆土	脚部 破片	口→ 高→ 底→	①黄灰②還元硬質 ③堅緻	直線的な脚部から八字状に開く基部。三方に透かし。 断面小豆色。	
17	土師器 甌	覆土	底部片	口→ 高→ 底6.0	①にぶい黄橙②酸化焰 ③粘土粒少量含む	胴下部斜位へ傾り。底部穿孔孔底面へ傾り。 内面黄灰黒色なす。	穿孔径2cm
18	土師器 壺	南西 29	底部の み	口→ 高→ 底6.8	①橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	器表面粗い。下部部指図線等残り雑なつくり。底 面以外二次焼成痕あり。	

14号住居跡 (PL11・47)



第62図 14号住居跡

14号住居跡 (PL11・47)

位置 Je-14グリッド 床面積 (16.8)㎡

主軸方位 N-40°-W 重複 西1/2は調査区外
規模と形状 長辺6.2m、短辺(3.0)m、残存壁高0.46mを測る。形状不明。

埋土 全体に礫が混じり、北東隅には大礫が投げ込まれたような状態で出土している。また土層の各層は入り乱れ塊状に入り、3層まで後世の攪乱を受けている。

床面 薄く床面が貼られるが、部分的に地山礫が露出している。電前には薄く焼土・灰等の広がりが見られ、僅かに硬化している。

竈跡 北壁住居内に燃焼部を有する竈が付設される。袖前方には礫が立石状態で埋置されており、焚口部補強材として使用されている。燃焼部の焼けは弱く、焼土・灰の堆積は見られない。煙道部へは緩やかに立ち上がり、奥壁は焼土化する。煙道部は水平方向に壁外に伸びる。

柱穴 東壁に平行して2本検出した。

規模 P 1 長辺0.39m、深さ0.26m

P 2 長辺0.31m、深さ0.12m

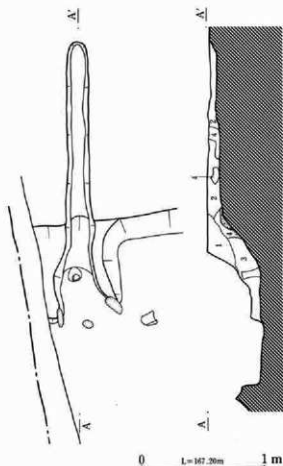
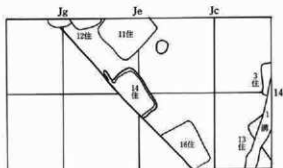
貯蔵穴 電右側に位置し、規模は一辺0.7m、深さ0.18mを測り、形状は隅丸方形を呈する。土層は白色、黄色粒を多く含み、礫を少量含む。サクサクした層が入る。

壁下周溝 検出されなかった。

出土遺物 破片類が散乱する。

掘り方 地山礫層上面で止められ部分的に礫が露出する。

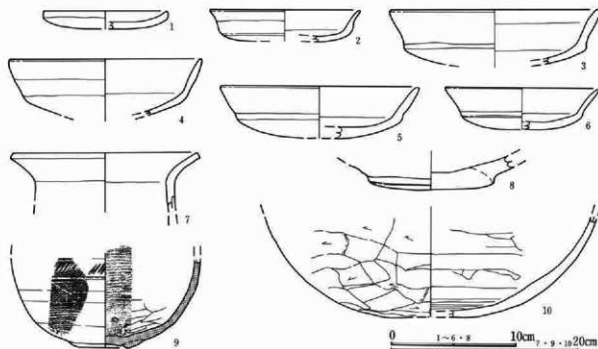
時期 7世紀代



1. 暗褐色土 2~10mmの細礫を多く含む。
2. 暗褐色土 焼土塊含む。
3. 黒褐色土 灰・焼土粒含む。
4. 黒褐色土 3に近似するが2に近い。

第63図 14号住居跡竈

第3章 検出された遺構・遺物



第64図 14号住居跡出土遺物

14号住居跡出土遺物観察表 (PL47)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②構成③胎土	器形・器形の特徴	備考
1	土師器 皿	北東 12	口～底 1/2	口(9.8) 高1.4 底一	①橙黄酸化焙 ②粘土粒含む	口縁部面取り状横ナデ。体部から底部へ削り。	
2	土師器 杯	中央 21	口縁部 破片	口(11.6) 高2.5 底一	①におい黄橙酸化焙 ②細砂粒混かに含む	口縁部横ナデ。体部との境に弱い稜を持つ。体部から底部にかけへ削り。やや平底状。	
3	土師器 杯	中央 8	口縁部 破片	口(16.4)高一 底(14.4)	①黄橙酸化焙 ②細砂粒混かに含む	口縁部横ナデ。体部との境に弱い稜を持つ。体部から底部にかけへ削り。やや平底状。	
4	土師器 杯	南東 5	口～底 部1/2	口(15.2)高一 底(12.6)	①橙酸化焙 ②細砂粒含む	器表面もろく、多量のクレーター状の凹み見られ、調整不明瞭。体部との境に弱い稜を持つ。	
5	土師器 杯	野蔵穴付 近 23	口～底 部1/2	口(15.6)高一 底(13.0)	①橙酸化焙 ②砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に段状の稜を持つ。器表面もろく、調整不明瞭。	
6	土師器 杯	P-1付近 34	口～底 部1/2	口(12.0) 高3.3底(9.4)	①橙酸化焙 ②細砂粒混かに含む	口縁部横ナデ。体部との境に段状の稜を持つ。体部から底部にかけへ削り。やや平底状。	
7	土師器 壺	電付近 14	口縁部 破片	口(19.8) 高一 底一	①明赤褐色酸化焙 ②粗砂粒混じり	器表面粗砂粒多量に露出。調整不明瞭。口縁部横ナデ。口唇部面取り。	
8	土師器 壺	中央 39	底部	口一 高一 底10.0	①におい橙酸化焙 ②粗砂粒含む	底部台状を呈する。球形割か。	
9	須恵器 長頸甕	電右袖付 近 7	胴一 高一 底(5.0)	①灰の還元焙 ②細砂粒含む	胴上部2条の凹線間に連続斜押圧筋文。胴下平部カキ目肌。下腹部ナデ。底部高台制腹。		
10	土師器 壺	電内 5	胴一 高一 底一	口一 高一 底一	①明赤褐色酸化焙 ②粗砂粒混じり	器表面粗砂粒多量に露出。調整不明瞭。球形割か。下平部斜横ナデ削り。	

15号住居跡 (PL11・47・48)

位置 In-16グリッド 床面積 20.3㎡
 主軸方位 N-76°-E 重複 なし
 規模と形状 一辺5.0m、残存壁高0.18mを測り、正方形を呈する。
 埋土 砂礫混じりの層による埋土であり、壁際に壁崩落土の三角堆積が見られる。

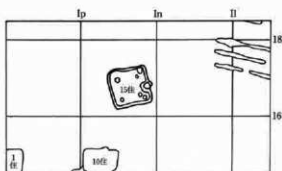
床面 全体に砂礫層が露出し、細かな凹凸面が見られる。
 柱穴 各隅対角線上に4本検出した。
 規模 P1 長辺0.38m、深さ0.38m
 P2 長辺0.48m、短辺0.36m、深さ0.52m
 P3 長辺0.60m、深さ0.44m

P 4 長辺0.46m、深さ0.4m

貯蔵穴 東壁両隅で検出した。南隅を貯蔵穴1、北隅を貯蔵穴2とする。貯蔵穴1の規模は、一辺0.6m、深さ0.62mを測り、形状は円形を呈する。貯蔵穴2は長辺0.7m、短辺0.58m、深さ0.58mを測り、形状は長円形を呈する。

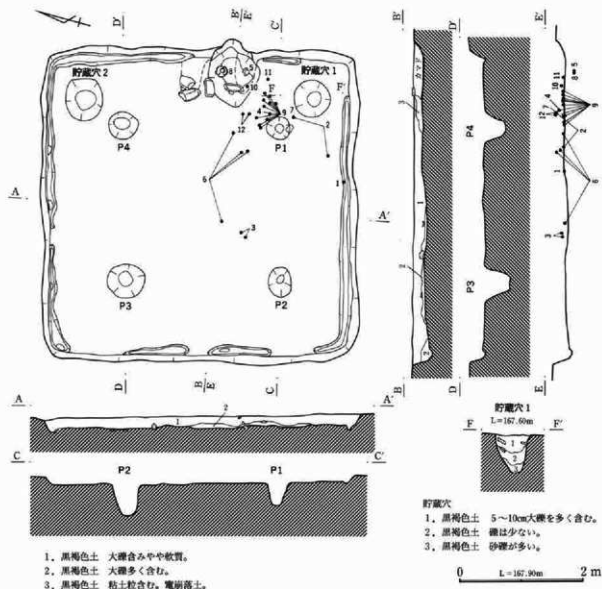
壁下周溝 部分的に途切れる所が見られるが、竪部分を除きほぼ全周する。

出土遺物 竪右袖前からP1にかけて、土師器環、高環、小型甕や天井部に×印の線刻される須恵器蓋が出土している。



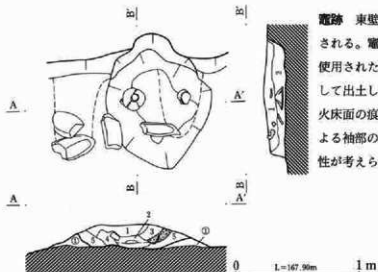
掘り方 地山稜層まで達している。

時期 6世紀代



第65図 15号住居跡

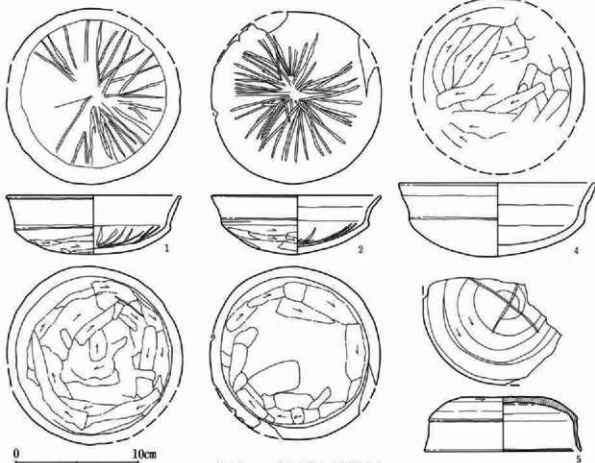
第3章 検出された遺構・遺物



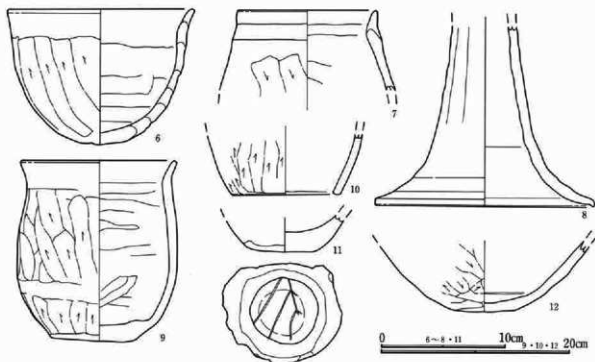
電跡 東壁中央部住居内に燃焼部を有する電が付設される。電先端部に20cm前後の大礫複数出土。電に使用された石か？。燃焼部内から高環の坏部が反転して出土し、支脚として利用されたと考えられる。火床面の痕跡と考えられる凹みと、土層断面観察による袖部の位置のズレは電付替えによるズレの可能性が考えられる。煙道部は壁面を僅かに掘り込む。

1. 黒褐色土 細礫を僅かに含む。天井陥没後の堆積土。
2. 黒褐色土 粘土粒・炭土粒・細礫を含む。
3. 暗褐色土 粘土粒・炭土粒が多い。
4. 暗黄褐色土 粘質。部分的に焼ける。
5. 黒褐色土 粘質土混じり。炭土粒・小礫僅かに含む。
- ①. 黒褐色土 細礫を多く含む。

第66図 15号住居跡壘



第67図 15号住居跡出土遺物(1)



第68図 15号住居跡出土遺物(2)

15号住居跡出土遺物観察表 (PL47・48)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 法	量 (cm)	①色調②構成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 土環	南 4	ほぼ完 形	口13.8 高4.6 底—	①橙②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に段状の縁を持つ。体部から底部にかけて手持ちへラ削り。内面放射状贈文。	内面黒斑状 部?
2	土師器 土環	南 2	ほぼ完 形	口13.5 高4.5 底—	①橙②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に段状の縁を持つ。体部から底部にかけて手持ちへラ削り。内面放射状贈文。	
3	土師器 土環	中央 9	口縁一 部欠損	口(13.5) 高4.2 底—	①橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に段状の縁を持つ。体部から底部にかけて手持ちへラ削り。内面放射状贈文。	
4	土師器 土環	南東 12	口～底 欠	口(15.6) 高5.8 底—	①橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部2段横ナデ。体部との境に段状の縁を持つ。体部から底部調整不明瞭。	
5	須恵器 蓋	壺内 5	口縁一 部欠損	口(12.4) 高 4.3 底(16.6)	①灰黄②還元焰 ③細砂・片岩小礫含む	縁縁整形。頂部回転へラ削り。口縁部横ナデ。体部との境に段状の縁を持つ。	「X」線照
6	土師器 鉢	南東 8	ほぼ完 形	口14.8 高10.6 底—	①明赤②酸化焰 ③細砂粒・片岩凝じり	底部から口縁部にかけて緩やかに開く。口縁部横ナデ。胴部斜位へラ削り。内面横ナデ。	
7	土師器 小型壺	南東 18	口～胴 高	口— 高— 底—	①灰褐②酸化焰 ③粗砂粒・片岩含む	胴部から口縁部にかけてやや内傾気味。口縁部横ナデ。胴上端斜位へラ削り。内面横ナデ。	
8	土師器 高環	壺内 2	脚部のみ	口— 高— 底17.3	①橙②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	脚部ラック上に開く。裾端部凹取り状のナデ。器表もろく調整不明瞭。	
9	土師器 小型壺	南東 8	口～底	口16.4 高19.2 底8.6	①淡橙②酸化焰 ③粗砂粒・片岩含む	口縁部横ナデ。胴部やや下膨れ。斜位へラ削り。胴下半、単純直巡る。	2次焼成受ける。
10	土師器 瓶	南東 9	底部破 片	口— 高— 底11.5	①いよ②酸化焰 ③砂粒凝じり	胴下端斜位へラ削り。底部面取り。内面丁寧ナデ。	
11	土師器 壺	南東 7	底部のみ	口— 高— 底5.5	①赤褐②酸化焰 ③粗砂粒含む	底部周辺部ナデ。内面指ナデ。	底面木葉 痕。
12	土師器 壺	南東 17	胴～底	口— 高— 底6.5	①橙②酸化焰 ③細砂粒含む	球形胴。下半部斜位、下端斜位へラ削り。内面横ナデ。	

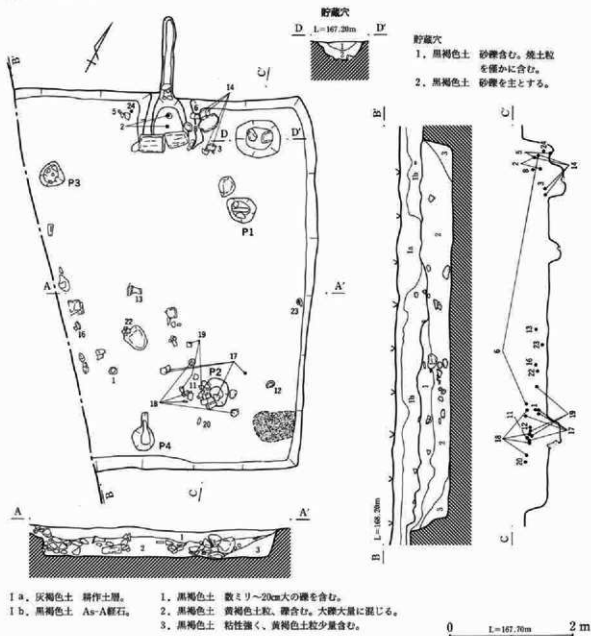
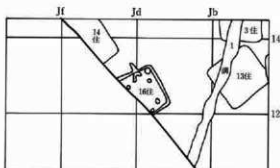
16号住居跡 (PL11・48・49・50)

位置 Jc-12グリッド 床面積 (21.6)㎡

主軸方位 N-26°-W 重複 西側は、調査区外へ伸びる。

規模と形状 長辺5.8m、短辺(4.0)m、残存壁高0.36mを測る。形状不明。

埋土 住居南から中央部の中層から下層にかけて多量の穴と黄褐色土塊が混じる。隙や黄褐色土の出土状態から人為的な埋土と考えられる。壁際には壁崩落土の三角堆積が見られる。



第69図 16号住居跡

床面 全体的にはフラットに仕上げられているが、部分的に砂礫層が露出する。竈前は焼土、灰が薄く堆積し、やや硬化している。

竈跡 北壁住居内に焼土部を有する竈が付設される。焚口部は礫を補強材として用い鳥居状に組まれる。天井石は中央部から割れ崩落している。焼土部内中央部には、支脚に用いられた小礫が埋置されている。また焼土部内の壁は焼土化し、やや袋状を呈する。火床面は床面よりやや下がり灰の堆積が見られる。煙道部へは急角度で立ち上がり、奥壁はやや焼土化している。煙道部は水平方向に壁外へ伸びる。

柱穴 各隅対角線上に3本検出した。南壁中央部壁際には小穴があり、出入口部に利用された小穴と考えられる。

規模 P1 長辺0.40m、深さ0.17m

P2 長辺0.42m、深さ0.20m

P3 長辺0.36m、深さ0.30m

P4 長辺0.34m、深さ0.13m

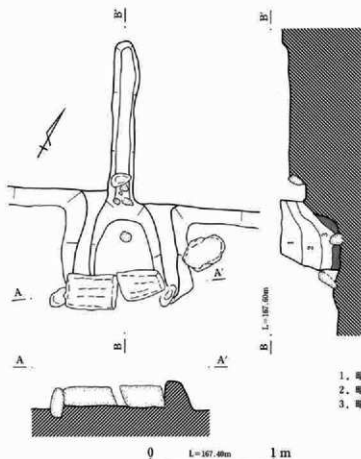
貯蔵穴 北隅に位置し、規模は長辺0.72m、短辺0.60m、深さ0.28mを測り、形状は長円形を呈する。砂礫を含み、僅かに焼土粒含む。

壁下周溝 検出されなかった。

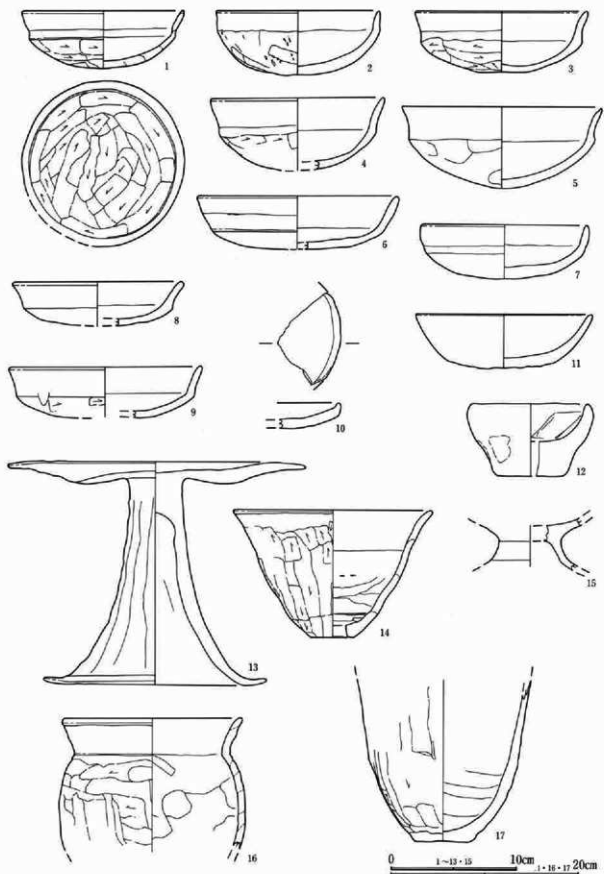
出土遺物 竈周辺部では坏・甕、中央部に坏部が皿状を呈する土器高坏とNo22の大型土製紡錘車が出土し、No23の土製紡錘車は東壁際にて出土している。甕類はやや浮いた状態で出土している。

掘り方 砂礫混じりの粘性の強い地山暗褐色土を僅かに掘り込む。部分的に礫層露出する。

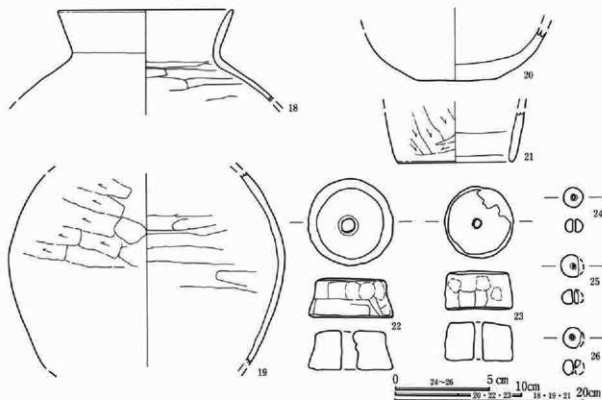
時期 7世紀代



第70図 16号住居跡竈



第71図 16号住居跡出土遺物(1)



第72図 16号住居跡出土遺物(2)

16号住居跡出土遺物観察表 (PL48・49・50)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③粘土	器形・整形の特徴	備考
1	土器器 環	南 22	ほぼ完 形	口12.6 高4.6 底—	①にふい骨型酸化焼 ②砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に段状の横を持つ。体部から底部手持ちへラ削り。	
2	土器器 環	壑内 26	口縁 欠	口13.0 高5.0 底4.0	①焼型酸化焼 ③片岩小礫・砂粒含む	口縁部直立気味。体部から底部にかけて歪み見られ、若干ナデ痕あり。未調整。	
3	土器器 環	壑右袖 12	片	口13.6 高4.8 底—	①にふい骨型酸化焼 ③砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に弱い横を持つ。体部から底部にかけて手持ちへラ削り。	
4	土器器 環	覆土	口〜底 片	口(13.6) 高5.7 底—	①にふい骨型酸化焼 ③砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に弱い横を持つ。体部から底部にかけて手持ちへラ削り。	
5	土器器 環	壑両袖端 5	片	口(16.0) 高6.5 底—	①にふい骨型酸化焼 ③粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に弱い横を持つ。体部から底部にかけて手持ちへラ削り。	
6	土器器 環	南西 37	片	口(15.8) 高4.2 底—	①焼型酸化焼 ③片岩粒・砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に弱い横を持つ。体部狭く、平底状の底部へ移行する。	
7	土器器 環	覆土	片	口(13.0) 高4.3 底—	①焼型酸化焼 ③細砂・雲母少量含む	口縁部内湾。体部との境凹縁返る。体部から底部調整不明瞭。	
8	土器器 環	壑右袖 -19	口縁 片	口(13.3) 高3.6 底—	①にふい骨型酸化焼 ③粘土粒少量含む	口縁部横ナデ。体部狭く、平底状の底部へ移行する。	
9	土器器 環	覆土	片	口(15.2) 高4.0 底—	①赤褐色酸化焼 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に弱い横を持つ。体部から底部にかけて手持ちへラ削り。	
10	土器器 環	覆土	口縁 片	口— 高— 底—	①明褐色酸化焼 ③細砂粒含む	狭く皿状を呈する。口唇部面取り横ナデ。端部引き上げ。	木製型
11	土器器 環	南 38	片	口(14.0) 高4.2 底—	①焼型酸化焼 ③砂粒含む	口縁部から体部直線的に開く。底面強いへラナデ痕。	
12	土器器 手づね く	南東 35	片	口(9.6) 高 5.7 底(5.6)	①にふい骨型酸化焼 ③細砂粒含む	底部肥厚。内面へラナデ。体部指頭圧痕。	
13	土器器 高 環	中央 26	環部少 脚部欠	口(23.7) 高17.6底17.8	①焼型酸化焼 ③粗砂粒含む	環部皿状を呈し、外面僅かな横を持つ。脚部ラッパ状を呈し、脚部大きく開く。器表面もろい。	
14	土器器 壑	壑右袖 -24	片	口21.0 高13.5 底4.5	①焼型酸化焼③粗砂 粒・片岩小礫含む	口縁部横ナデ。胴部縦位へラ削り。内面丁寧なナデ。底面及び開口部へラ削り。	

第3章 検出された遺構・遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 法	量 (cm)	①色調②構成③胎土	器形・整形の特徴	備考
15	土師器 高坏	覆土	割部片	口一 高一 底一	①において②燻化焙 ③粘土粒含む	胴部横ナデ。八字状に開く。	
16	土師器 壺	南西 25	口一割 片	口一 高一 底一	①明赤褐色燻化焙 粗砂粒・片岩小礫含む	口縁部横ナデ。胴上半横位へラ削り後、縦位ナデ。	
17	土師器 壺	南 19	割一底 破片	口一 高一 底5.8	①において②燻化焙 粗砂粒・片岩小礫含む	胴下半縦位へラ削り。底部との境ナデ。内面へラ ナデ。	底面木葉直 状の彫刻。
18	土師器 壺	南 36	口縁 片	口一 高一 底一	①において②燻化焙 粗砂粒含む	口縁部直線的に開き、胴部球形を呈する。器表面 もろく調整不明瞭。	
19	土師器 壺	南 26	割部 片	口一 高一 底一	①において②燻化焙 粗砂粒・片岩小礫含む	球形を呈する。胴上半斜位へラ削り。内面横位ナ デ。	
20	土師器 坏	南東 43	割部片	口一 高一 底6.0	①燻化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	器表面もろく調整不明瞭。体部から底部へ丸味を 持ち移行。底部肥厚。	
21	土師器 壺	覆土	底部片	口一 高一 底12.0	①燻化焙 ③細砂粒含む	胴下半部縦位へラ削り。下部部横位へラ削り。内 面横ナデ。	
22	土製品 紡轆車	中央 24	完形	上5.3 下12.8 高3.1	①燻化焙 ③細砂粒含む	台形状を呈し、側面横ナデ。棒状工具粘土塊巻き 付け成形。	
23	土製品 紡轆車	南 22	完形	上4.5 下5.0 高3.0	①燻化焙 ③粘土粒含む	台形状を呈し、側面横ナデ。棒状工具粘土塊巻き 付け成形。	
24	土製品 小玉	電左袖脇	完形	径1.0厚0.8孔 0.15重0.60g	①オリーブ黒燻化 焙③粘土粒含む	棒状工具粘土小塊巻き付け成形。	
25	土製品 小玉	覆土	一部欠 損	径1.2厚0.7孔 0.1重0.89g	①オリーブ黒燻化 焙③粘土粒含む	棒状工具粘土小塊巻き付け成形。	
26	土製品 小玉	覆土	一部欠 損	径1.1厚0.8孔 0.1重0.56g	①オリーブ黒燻化 焙③粘土粒含む	棒状工具粘土小塊巻き付け成形。	

17号住居跡 (PL12・50)

位置 Jg-16グリッド 床面積 (41.1)㎡

主軸方位 N-30°-E 重複 12号住居に掘り込まれる。

規模と形状 長辺6.8m、短辺6.6m、残存壁高0.36mを測り、ほぼ正方形形状を呈する。

埋土 上層は、黄褐色粘土塊を多く含み、人為的埋土と考えられる。

床面 黄褐色土小塊を含み、電前には焼土、灰の広がりが若干見られ、やや硬化している。

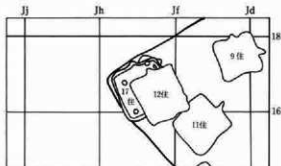
電跡 北壁中央部住居内に燃焼部を有する電が付設される。燃焼部内はやや焼土化し、電前には焼土・灰の広がりが見られる。煙道部へは緩やかに立ち上がる。また、右側壁上に側壁が焼土化している煙道部の痕跡が見られ、同住居の旧電と考えられる。電脇には土師器壺が倒立状態で出土している。

柱穴 各隅対角線上に3本検出した。

規模 P1 長辺0.40m、深さ0.40m

P2 長辺0.34m、深さ0.02m

P3 長辺0.40m、深さ0.30m



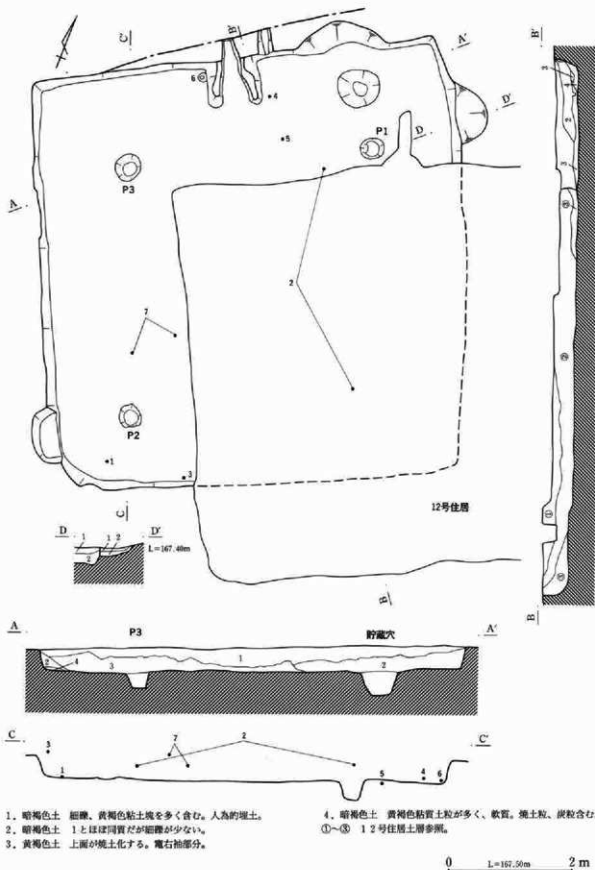
貯蔵穴 北東隅に位置し、長辺0.66m、短辺0.58m、深さ0.36mを測り、形状はやや長円形を呈する。

壁下周溝 検出されなかった。

出土遺物 住居内に散在する。須恵器高坏が12号住居内出土遺物と住居間接合し、どちらも埋土上層から出土している。

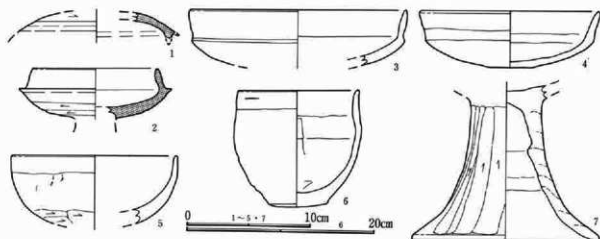
掘り方 砂礫混じりの暗褐色土を掘り込み、礫層上面で止めている。

時期 7世紀



第73図 17号住居跡

第3章 検出された遺構・遺物



第74図 17号住居跡出土遺物

17号住居跡出土遺物観察表 (PL50)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③粘土 ④細砂粒含む	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 蓋	南	胴部片	口一 高一 底一	①灰白②還元焰 ③細砂粒含む	楕圓整形, 内面カエリを持つ。頂部回転ヘラ削り。	
2	須恵器 環	東 24	口一底 1/2	口(10.0) 高一 底一	①褐色②還元焰 ③細砂粒含む	環部楕圓整形。底部回転ヘラ調整。	
3	土師器 環	南 37	口一底 破片	口17.0 高一 底一	①明黄褐色②酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナゲ。体部との境に段状の稜を持つ。体部から底部表面もろく調整不明瞭。	
4	土師器 環	東右袖 7	口一底 1/2	口14.1 高4.5 底一	①にぶい橙褐色化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナゲ。体部との境に弱い稜を持つ。体部から底部表面もろく調整不明瞭。	
5	土師器 環	北東 -1	口縁片	口(13.0) 高一 底一	①にぶい橙褐色化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	体部から口縁部にかけて内湾。口縁部横ナゲ。体部未調整。歪みあり。底部ヘラ削り。	
6	土師器 小壺	北 4	ほぼ完 形	口12.8 高12.3 底6.3	①赤褐色化焰 ②片岩粒・細砂粒多い	片岩小砂粒多量に含み調整不明瞭。口縁部直立。横ナゲ。内面横位ヘラナゲ。	
7	土師器 高環	南 32	脚部 1/2	口一 高一 底(14.6)	①橙褐色化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	脚部ラッパ状に開く。縦位ヘラ削り。内面輪積み痕不明瞭。	

18号住居跡 (PL12・50・51)

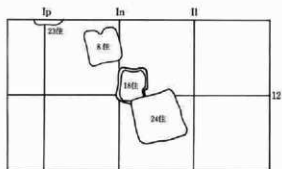
位置 Im-12グリッド 床面積 13.1㎡

主軸方位 N-93°-E 重複 南東隅部において24号住居第3窟との切り合いが見られ、調査時には本住居が切られるとされているが、両住居の遺物を検討した結果では本住居が新しいと考えられる。

規模と形状 長辺4.4m、短辺3.7m、残存壁高0.20mを測り、南北に長い横長長方形を呈し、窟左側の東壁はやや張り出す。

埋土 小砂礫や多く含む。

床面 凹凸はげしい。床面薄く貼り、硬化面や焼土・灰の広がり等は見られない。南西隅に黄褐色粘土塊の広がりを検出した。この粘土は竈構築材と同様の粘土である。

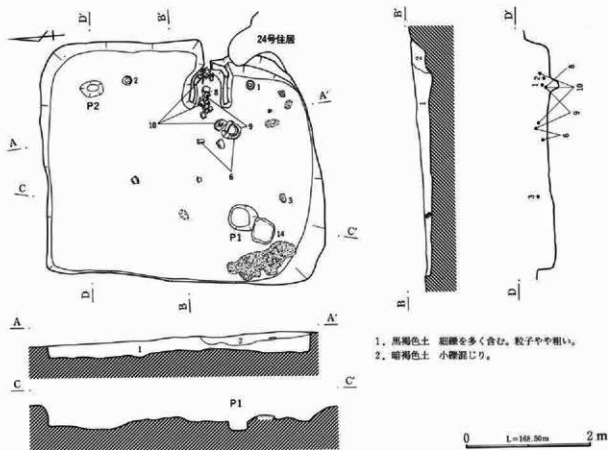


貯蔵穴・壁下周溝 いずれも検出されない。

出土遺物 窟内から前方にかけて環・壺等出土。

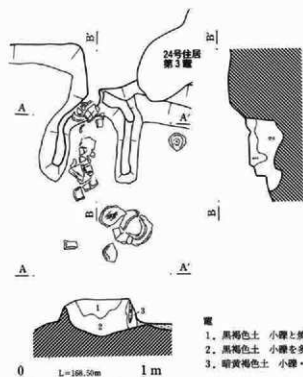
掘り方 地山礫層まで掘り込み面は達し、壁際がやや深く掘り込まれる。

時期 8世紀代



1. 黒褐色土 細礫を多く含む。粒子やや粗い。
2. 暗褐色土 小礫混じり。

第75図 18号住居跡



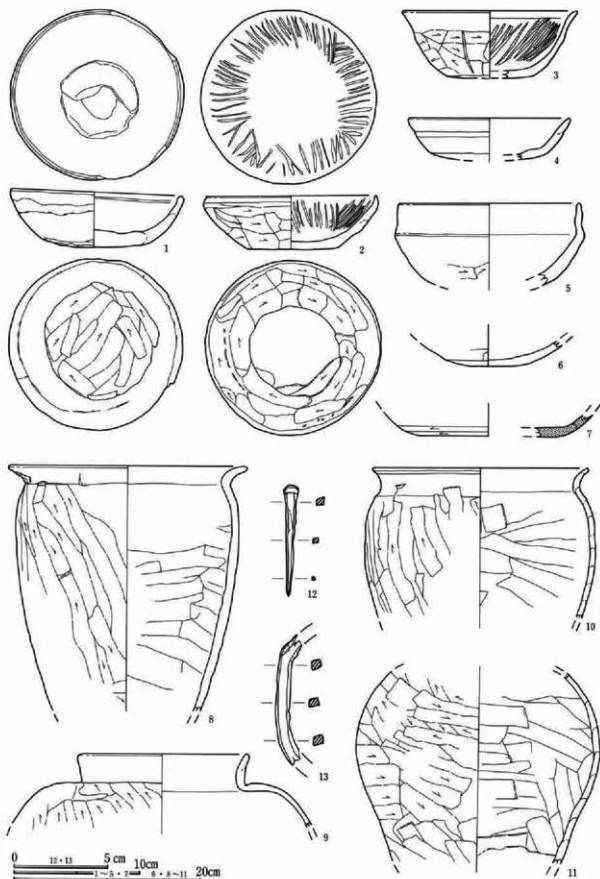
竈跡 東壁中央南寄りに燃焼部を住居内に有する竈が付設される。左袖は張り出し部分につづく。燃焼部内から前方部には土師器甕が3個体出土した。壁面の焼けは弱く火床面には凹凸が見られ、焼土、灰の堆積は無い。袖には黄褐色粘土塊を貼付し構築している。煙道部へは急角度で立ち上がる。

柱穴 南西隅と北東隅の対角に2本検出した。P1脇に大型の磨石出土。

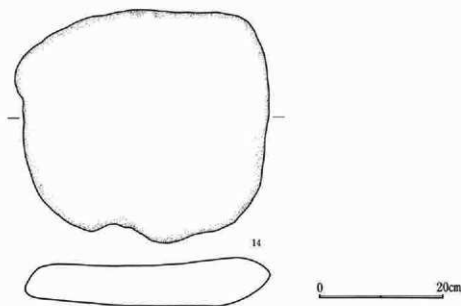
- 規模** P1 長辺0.48m、短辺0.45m、深さ0.18m
 P2 長辺0.35m、短辺0.25m、深さ0.17m

- 土**
1. 黒褐色土 小礫と焼土塊を少し含む。
 2. 黒褐色土 小礫を多く含む。焼土粒少量含む。
 3. 暗黄褐色土 小礫・焼土粒少量含む。

第76図 18号住居跡竈



第77図 18号住居跡出土遺物(1)



第78図 18号住居跡出土遺物(2)

18号住居跡出土遺物観察表 (PL50・51)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 形状	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土器 器 環	北東 ±0	ほぼ完 形	口13.4 高4.5 底—	①にぶい褐色酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。口唇部内凹。体部輪積み状見られる。底部ヘラ削り。内面ドーナツ状のナデ。	
2	土器 器 環	北西 ±0	完形	口13.5 高4.2 底7.0	①明褐色酸化焰 ③粗砂粒含む	口唇部内傾。口縁部横ナデ。体部横位ヘラ削り。底部平底。内面放射状暗文。	
3	土器 器 環	南東 1	口へ底 1/2	口(13.8) 高一底(7.0)	①にぶい褐色酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位ヘラ削り。底部平底。ヘラ削り。内面放射状暗文。	
4	土器 器 環	覆土	口へ底 1/2	口(12.6) 高一底—	①褐色酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部及び底部表面もろく調整不明瞭。	
5	土器 器 環	覆土	口縁片	口(14.2) 高一底—	①褐色酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に弱い傾きを持つ。体部上半指ナデ。下半横位ヘラ削り。	
6	土器 器 環	竪穴 1	底部片	口— 高一 底(9.0)	①にぶい褐色酸化焰 ③細砂粒含む	底部ヘラ削り。胴部球形を呈するとと思われる。内面丁寧ナデ。	
7	須恵 器 環	覆土	底部片	口— 高一 底(11.0)	①黄灰②還元焰 ③粗砂粒含む	輪縁整形。底部回転ヘラ削り。	
8	土器 器 環	竪内 1	口へ底 1/2	口(25.0) 高一底—	①にぶい褐色酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部短く外反。頸部につけ横ナデ。胴上半斜位ヘラ削り。内面横位ヘラナデ。	
9	土器 器 環	竪内 1	胴上位へ 底端欠損	口18.0 高一底—	①暗赤褐色酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部直立、横ナデ。頸部強いナゲにより凹む。胴上半斜位ヘラ削り。	
10	土器 器 環	竪内 1	口へ胴 中位1/2	口(22.8) 高一底—	①暗赤褐色酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部短く外反。頸部につけ横ナデ。胴上半斜位ヘラ削り。内面横位ヘラナデ。	
11	土器 器 環	覆土	胴部 1/2	口— 高一 底—	①にぶい黄褐色酸化 焰③細砂粒含む	胴上半部斜位ヘラ削り後、横位ヘラ削り。下半斜位ヘラ削り。内面ヘラナデ。	
12	鉄 釘	北壁際 ±0	ほぼ完 形	<計測値> (胴部)長5.85、幅0.45、厚0.4、重2.36g <特徴> 針状を呈する。胴部板状を呈する。			
13	鉄 角 棒 状	北壁際 ±0	両端部 欠損	<計測値> 長6.95、幅0.5、厚0.55、重8.24g <特徴> 断面方形状を呈し、両端部欠損。			
14	石 製 品	P1脇 ±0	完形	<計測値> 長39.2、幅36.7、厚6.6、重19000g <特徴> 全体に平滑。板状を呈する。台石か。			

第3章 検出された遺構・遺物

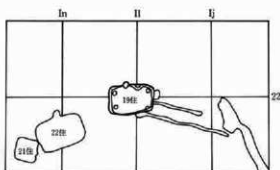
19号住居跡 (PL12・13・51・52・53・54)

本住居は中央部を南北に区切るよう20~30cm大の礎を積み上げた石列を検出した。この石列は第一電左袖に被ることから第一電廃棄後に組まれ、この礎の付替えから住居の建て替えが行われたと考えられる。また石列は、西壁側と東壁側の柱穴列位置や南壁ラインの乱れ等から、建て替えの際住居壁の補強に用いられたものと考えられる。

位置 II-21グリッド 床面積 16.9㎡

主軸方位 N-0° 重複 なし

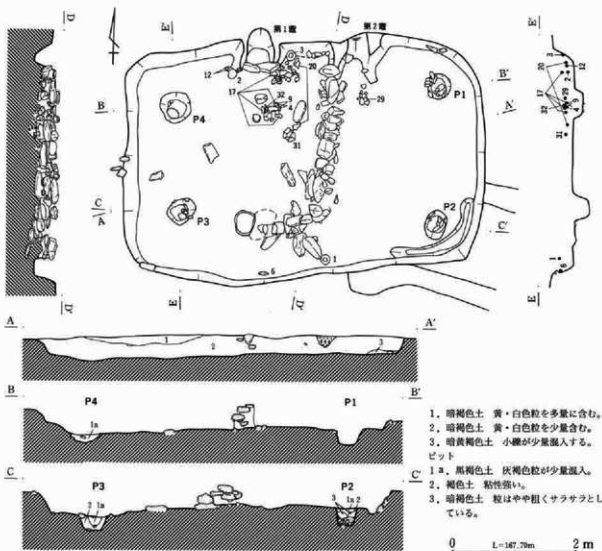
規模と形状 遺構確認時の規模は、長辺5.8m、短辺3.9m、残存壁高0.34mを測り、形状は東西に長い横長長方形を呈する。また石列内は、住居壁まで長辺



3.1m、短辺2.9mを測り、やや方形を呈す。

埋土 黄色・白色粒を少量含む暗褐色土により埋没し、分層するほど違いは見られない。

床面 焼土・灰・硬化面等床面を特徴づける面は確認できず、掘り方面まで同一土質であった。石列を



1. 暗褐色土 黄・白色粒を少量を含む。
2. 暗褐色土 黄・白色粒を少量含む。
3. 暗褐色土 小礫が少量混入する。ピット

- 1, 2. 黒褐色土 灰褐色粒が少量混入。
2. 褐色土 粘性強い。
3. 暗褐色土 粒はやや粗くサラサラとしている。

第79図 19号住居跡

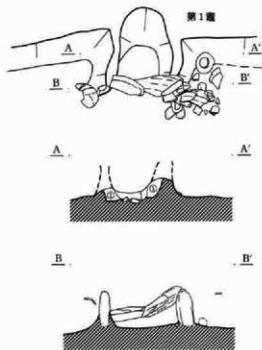
境に小さな段を持つ。

竈跡 2カ所で確認し、両竈とも北壁住居内に燃焼部が付設される。石列にかかる東竈を第1竈、西竈を第2竈とする。第1竈は左袖を石列に壊される。また、後世の擾乱を受け燃焼部も壊されている。壁面の焼けは弱く、焼土、灰等の堆積も薄い。煙道部へは緩やかに立ち上がる。第2竈は焚口部の補強に緑泥片岩を鳥居状に組み構築し、検出時には天井石は中央で割れて落ちていた。袖は粘性の強い地山暗褐色土を芯に掘り残し構築している。燃焼部内面の焼けや焼土、灰等の堆積も薄い。煙道部には緩やかに立ち上がる。

柱穴 両側で4本検出したが、東壁側2本は隅柱穴状をなし、西壁側はやや内側に入る。両側とも2本一対のみの確認であった。

規模 P 1 長辺0.40m、短辺0.38m、深さ0.34m

P 2 長辺0.46m、短辺0.34m、深さ0.24m



第1竈

1. 黒褐色土 粒細かく、ややしまりあり。
- ①. 暗褐色土 1層に褐色土粒・小塊混入。

P 3 長辺0.46m、短辺0.34m、深さ0.48m

P 4 長辺0.5m、深さ0.34m

貯蔵穴 検出されなかった。

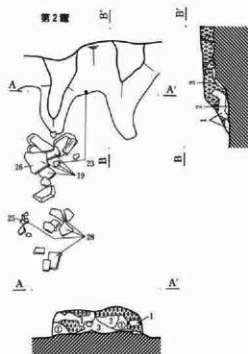
壁下周溝 旧住居南東隅部のみで確認した。

出土遺物 第2竈前方部から右袖脇にかけて集中して出土した。土師器坏は平底状を呈し、内面に暗文が施される。土師器鉢は大型であり、胴部が緩やかに立ち上がるものと内湾気味に立ち上がるものがある。須恵器は削り出し高台付き境と底部回転へら調整後高台貼付の境が出土。刀子1点出土。

第1竈及び旧住居内からは、土師器壺・甕等と共に電型土器が出土。器形は、平面形は横長長円形、断面形は台形を呈し、表面には輪積み痕が明瞭に残り末調整、炊口はへらで面取りがなされる。

掘り方 掘り込み面は礫層が確認面近くまで盛り上がっているため、礫層を掘り込む恰好となる。

時期 8世紀代

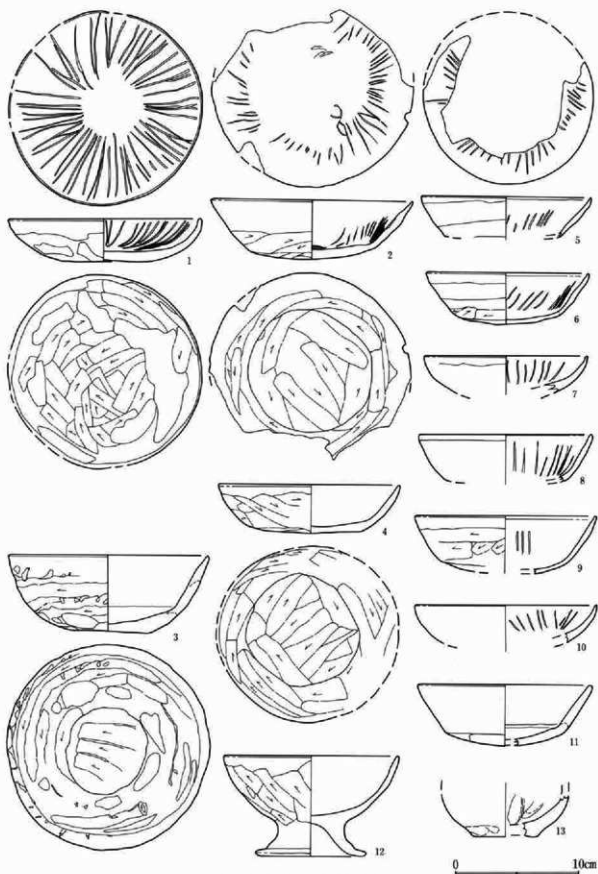


第2竈

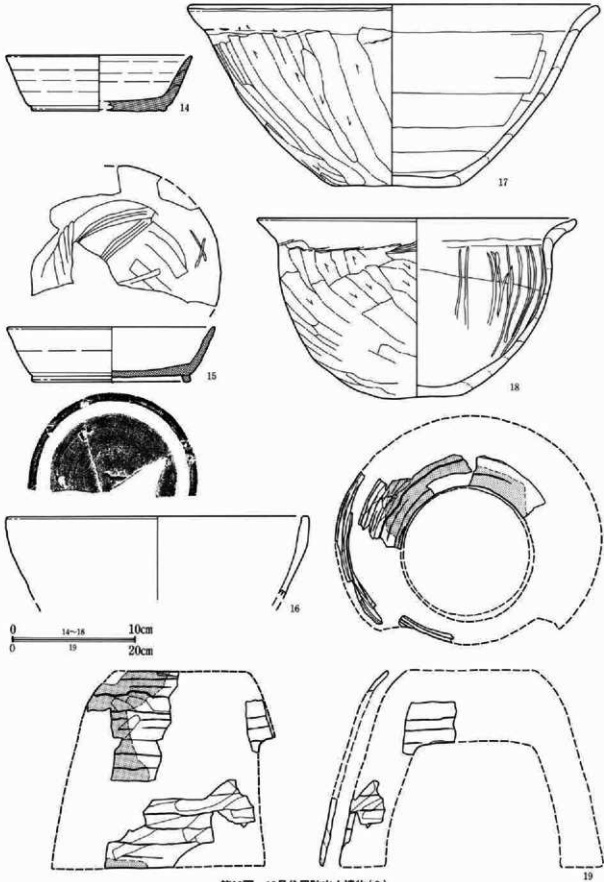
1. 褐色土 明褐色土塊が少量混入。
2. 褐色土 若干粘性を帯びる。礫を含む。
3. 暗褐色土 米粒大～小豆大の細礫混入。土の粒は粗い。
- ①. 褐色土 1層に似る。粘性弱い。

0 L=167.60m 1 m

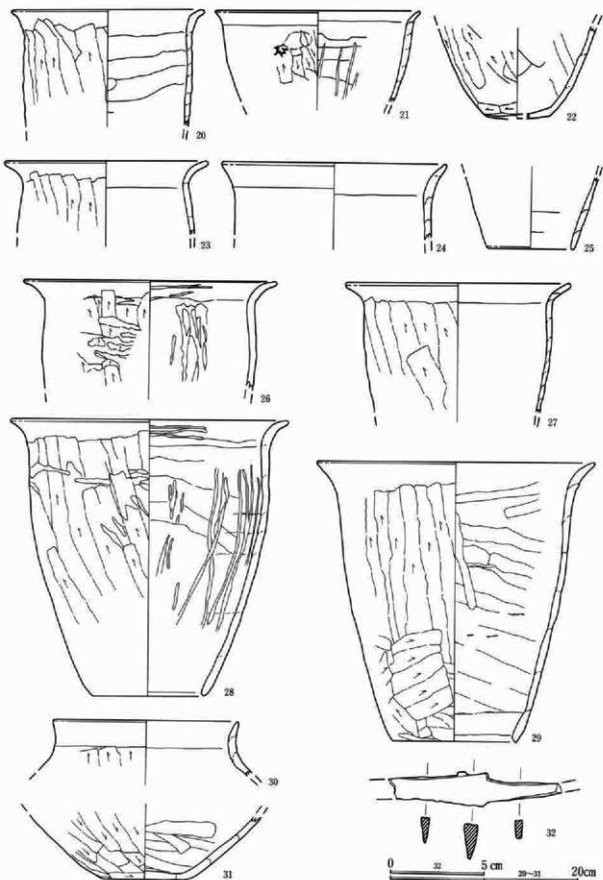
第80図 19号住居跡竈



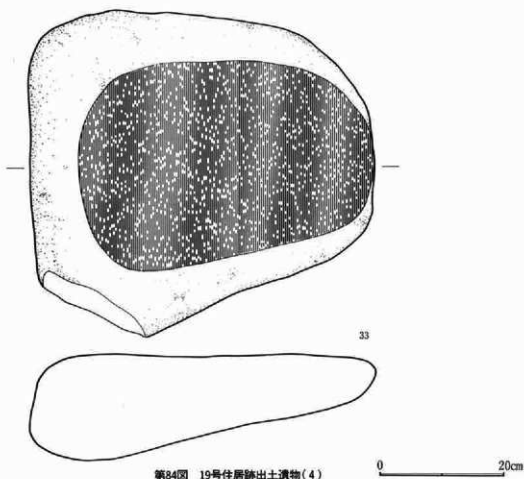
第81図 19号住居跡出土遺物(1)



第82図 19号住居跡出土遺物(2)



第83図 19号住居跡出土遺物(3)



第84図 19号住居跡出土遺物(4)

19号住居跡出土遺物観察表 (PL.51・52・53・54)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土器 杯	南 24	完形	口15.2 高3.4 底8.0	①にぶい橙赤酸化焰 ③細砂粒含む	器高浅い。口縁部横ナデ。体部から底部部分的に磨き。内面放射状暗文。	
2	土器 杯	北西 7	口縁部 1/2欠	口16.0 高4.8 底8.8	①にぶい橙赤酸化焰 ③粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へら削り。底部平底、へら削り。内面放射状暗文。	
3	土器 杯	寛右袖 15	ほぼ完 形	口15.8 高6.0 底6.5	①明赤褐色酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部指ナデ及び横位へら削り。底部へら削り。器表面輪轡状凹線に残る。	
4	土器 杯	中央 9	口縁一 部欠損	口14.4 高3.9 底9.0	①にぶい橙赤酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部斜縦位へら削り。底部平底、へら削り。	
5	土器 杯	覆土	口縁部 1/2	口13.5 高一 底一	①橙赤酸化焰 ③粘土粒含む	口縁部横ナデ。口唇部端部内に内湾。体部横位へら削り。底部へら削り。内面放射状暗文。	
6	土器 杯	南西 21	口縁部 一部欠	口13.2 高4.1 底9.2	①橙赤酸化焰 ③粘土粒含む	口縁部横ナデ。口唇部端部強いナデ体部横位へら削り。底部へら削り。内面放射状暗文。	
7	土器 杯	覆土	口へ体 1/2	口(13.1) 高一 底一	①にぶい橙赤酸化焰 ③粘土粒含む	体部から口縁部にかげ湾曲。器表面調整不明瞭。内面放射状暗文。	
8	土器 杯	覆土	口縁部 破片	口(13.8) 高一 底一	①にぶい橙赤酸化焰 ③粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へら削り。底部平底、へら削り。内面放射状暗文。	
9	土器 杯	中央 9	口へ底 1/2	口14.1 高4.6 底一	①明黄褐色酸化焰 ③粘土粒・細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へら削り。底部へら削り。内面放射状暗文。	
10	土器 杯	覆土	口へ体 1/2	口(14.6) 高一 底一	①にぶい橙赤酸化焰 ③粘土粒含む	体部から口縁部にかげ湾曲。器表面調整不明瞭。内面放射状暗文。	
11	土器 杯	寛 覆土	口へ底 1/2	口(13.7) 高一 底(9.4)	①橙赤酸化焰 ③細砂粒含む	体部から口縁部直線的に開く。底部平底。器表面調整不明瞭。	
12	土器 高台付杯	寛左袖 32	口へ脚 1/2	口(13.8) 高8.0底(8.6)	①にぶい橙赤酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へら削り。台部横ナデ。	

第3章 検出された遺構・遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
13	土師器 手づくね	覆土	胴～底 片	口一 高一 底(4.8)	①にぶい焼②酸化焙 ③粘土粒含む	外面指押え。内面指ナゲ。	
14	須恵器 埴 埴	覆土	口～底 片	口(14.5) 高 4.4 底(10.2)	①灰白②還元やや軟 ③細砂粒含む	輪縁整形。底部回転ヘラ調整。高台部削り出し。	
15	須恵器 埴 埴	覆土	口～底 片	口(16.6) 高 4.3 底(12.0)	①灰白②還元 ③細砂粒含む	輪縁整形。底部回転ヘラナゲ後、高台部貼付。内 面ヘラナゲ。	
16	土師器 鉢	石垣際	口縁部 破片	口(24.0)	①橙②酸化焙 ③細砂粒含む	口縁部横ナゲ。胴部縦位ヘラ削り。	
17	土師器 大鉢	電右袖前 16	ほぼ完 形	口32.0高14.3 底10.0	①にぶい焼②酸化焙 ③細砂粒含む	口縁部横ナゲ。僅かに外反。胴部斜縦位ヘラ削り。 底部平直。内面丁寧な横位ナゲ。	
18	土師器 鉢	覆土	ほぼ完 形	口25.6高14.1 底6.0	①にぶい焼②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナゲ。胴部やや内高、斜位ヘラ削り。内 面横位ナゲ後、縦位ヘラ磨き。	
19	土師器 甕型土器 6	電前	口～底 破片	口(21.0)高(30.7) 底(41.5)	①明褐色②酸化焙 ③細砂粒含む	胴口部ヘラによる面取り。胴口部台形状を呈する。 胴部輪縁も復明瞭。	
20	土師器 甕 8	中央	口～胴 片	口(20.2)	①橙②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナゲ。短く外反。胴上半斜縦位ヘラ削り。 内面横位ナゲ。	
21	土師器 甕 8	覆土	口～胴上 位破片	口(21.6)	①にぶい焼②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナゲ。短く外反。胴上半縦位ヘラ削り。 内面横位ナゲ後、縦位喰文状ヘラ磨き。	爪痕あり。
22	土師器 甕 8	覆土	胴下～ 底片	口一 高一 底(7.0)	①橙②酸化焙 ③粗砂粒含む	胴下半斜縦位。下端横位ヘラ削り。内面斜位ナゲ。	
23	土師器 甕 6	電前	口～胴上 半破片	口(21.2)	①橙②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナゲ。胴上半縦位ヘラ削り。	
24	土師器 甕 6	覆土	口～胴 上破片	口(23.6)	①にぶい焼②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部短く外反。器表面もろく調整不明瞭。	
25	土師器 甕 9	中央	胴下部 片	口一 高一 底(9.0)	①橙②酸化焙 ③細砂粒含む	器表面もろく調整不明瞭。	
26	土師器 甕 6	電前	口～胴上 半破片	口(26.4)	①にぶい焼②酸化焙 ③粗砂粒含む	口縁部横ナゲ。胴上半縦位ヘラ削り後、横位ナゲ。 内面横位ナゲ後、縦位ヘラ磨き。	
27	土師器 甕 11	石垣際	口～胴 片	口(23.6)	①橙②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナゲ。短く外反。胴上半斜縦位ヘラ削り。 内面横位ナゲ。	
28	土師器 甕 11	中央	口～底 片	口(29.5) 高 29.3底(12.0)	①明赤褐色②酸化焙 ③粗砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナゲ。短く外反。胴部縦位ヘラ削り後、 ヘラ磨き。内面横位ナゲ後、縦位ヘラ磨き。	
29	土師器 甕 7	北東	口～底 片	口(29.5) 高 29.4底(13.2)	①橙②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナゲ。僅かに外反。胴上半縦位、下半斜 横位ヘラ削り。内面横位ナゲ後、縦位磨き。	
30	土師器 甕 8	覆土	口～胴上 半破片	口(19.6)	①橙②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナゲ。直立。胴部球形を呈すると思われ る。調整不明瞭。	
31	土師器 甕 8	中央	底部 破片	口一 高一 底(8.8)	①橙②酸化焙 ③細砂粒含む	胴部斜縦位ヘラ削り。底部平直。内面斜横位ナゲ。	
32	鉄 刀 石	中央	四端部 欠損	<計測値>長(9.2)、基部 幅0.9、厚0.4、刃部 幅1.3、厚0.4、重11.84g <特徴>刃部やや湾曲。両開。			
33	石製 品 石	中央	完形	<計測値>長36.5、幅34.3、厚11.0、重23500g <特徴>平皿面を上面とし片面内凹形 の磨き。			

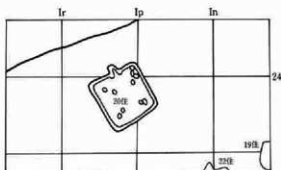
20号住居跡 (PL13・54・55)

位置 Ip-23グリッド 床面積 41.9m²

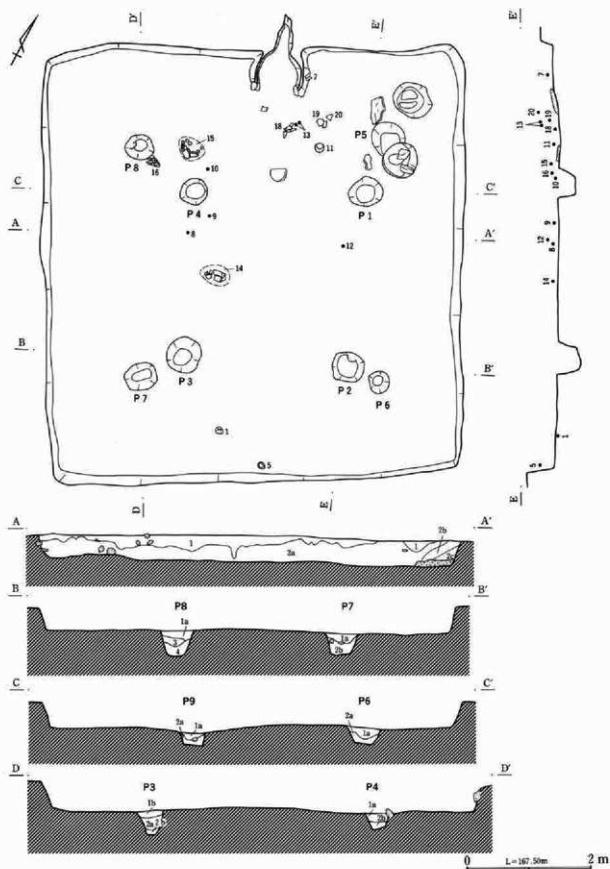
主軸方位 N-24°-W 重複 なし

規模と形状 長辺6.9m、短辺6.7m、残存壁高0.4m
を測り、ほぼ正方形形状を呈する。

埋土 上面は後世の耕作により攪乱を受ける。遺構
内は、地山黄色粘土小塊や小礫が入り混じり、人為
的な埋土と考えられる。北西隅には人頭大の大礫が
投げ込まれたように出土している。壁際には壁崩落
による三角堆積が見られる。



床面 地山黄褐色粘質土及び暗褐色土面を利用し床
面としている。住居中央部から電前にかけて硬化面



第85図 20号住居跡

第3章 検出された遺構・遺物

1. 黒褐色土 A層石を含む耕作土層。粒は粗い。
- 2 a. 黒褐色土 米粒大～粒指大の小礫・粘土塊を含む。
- 2 b. 黒褐色土 焼土状黄褐色土塊を局点状に含む。
- 2 c. 暗褐色土 焼土状の黄褐色土塊。

や焼土、灰等の広がりが見え確認できた。

竈跡 北壁ほぼ中央部住居内に燃焼部を有する竈を付設する。焚口部には補強材として砂岩質の板状礫が埋置される。燃焼部壁面の焼けは弱く、火床面は小さな段差を持ち緩やかに立ち上がり煙道部に移行する。煙道部は壁外へ伸びる。

柱穴 小ビットを9本検出したが、各セットは内側4本（P1～4）と外側4本（P5～8）が柱穴と考えられ他の1本については貯蔵穴と考える。柱穴配置から本住居の拡張が考えられる。

- 規模
- | | |
|-----|-----------------|
| P 1 | 長辺0.54m、深さ0.26m |
| P 2 | 長辺0.50m、深さ0.32m |
| P 3 | 長辺0.52m、深さ0.44m |
| P 4 | 長辺0.42m、深さ0.22m |
| P 5 | 長辺0.54m、深さ0.30m |
| P 6 | 長辺0.34m、深さ0.16m |
| P 7 | 長辺0.50m、深さ0.40m |
| P 8 | 長辺0.48m、深さ0.27m |

貯蔵穴 北東隅に位置し、規模は一辺0.60m、深さ0.42mを測り、形状は円形を呈する。またP5と接するビットについては拡張前の貯蔵穴と考えられる。

壁下周溝 検出されなかった。

出土遺物 南壁際にNo.5の坏と近接して、内面漆付着のNo.1の坏が出土した。住居中央から西寄りには要類が、また竈前には、櫃が集中して出土した。

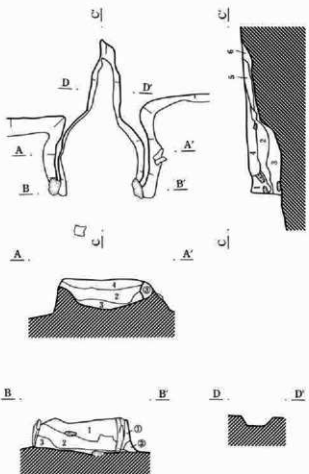
掘り方 北西と南西両隅寄りは地山標層まで掘り込み、中央部を斜めに黄褐色粘質土の堆積が見られる。

また、旧竈の灰や焼土等の痕跡は見られず、床面も僅すかに北側と西側に段差が認められる。

時期 6～7世紀代

ビット1

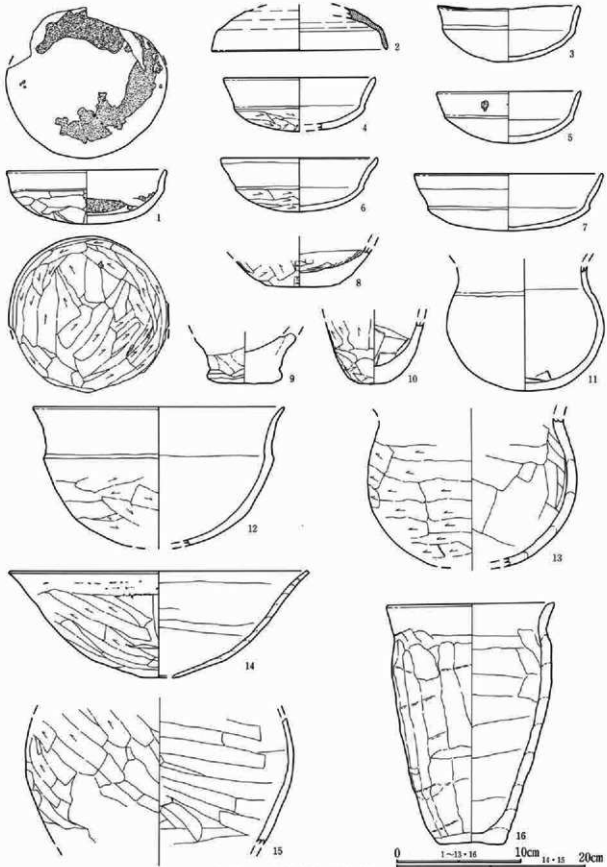
- 1 a. 暗褐色土 白・黄色粒を多く含む。
- 1 b. 黒色が強い暗褐色土 小礫を多く含む。
- 2 a. 暗褐色土 黄色粘土粒と炭化粒が少量混入。礫混入。
- 2 b. 暗褐色土 全体に砂粒が混入している。
3. 黄褐色土 黄色粘土と小礫を主体とする。
4. 黄褐色土 黄色の砂粒を主体とする。



竈

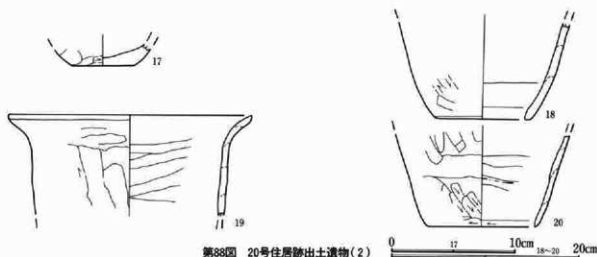
1. 褐色土 凝灰岩の細片混じり。白・黄色粒も含む。
2. 暗褐色土 天井石の細片や焼土粒・小塊含む。
3. 暗褐色土 炭化粒・焼土を僅かに含む。
4. 褐色土 白・黄色粒を多量に含む。
5. 黒褐色土 白・黄色粒を多量に含む。
6. 暗褐色土 4層と同様だが、混入物の量が少ない。
- ①. 黄褐色土 炭化物粒や焼土を僅かに含む。竈の芯材?
- ②. 黄褐色土 シルト質。白色粒を含む。竈芯材。
- ③. 褐色土 天井石の細片・焼土小塊粒を多く含む。

第86図 20号住居跡竈



第87図 20号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第38図 20号住居跡出土遺物(2)

20号住居跡出土遺物観察表 (PL.54・55)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 形状	法 量 (cm)	①色調②酸化③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	南	ほぼ完 形	口12.5 高4.2 底4.0	①明褐色②酸化胎 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部手持ちへラ削り。	内外面漆付 着。
2	須恵器 蓋	覆土	√	口(13.6) 高一 底一	①黄灰②還元胎 ③細砂粒含む	楕圓形。頂部へラ当て。口縁部屈曲。	
3	土師器 杯	覆土	口縁一 部欠損	口11.0 高4.1 底一	①橙②酸化胎 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から 底部にかい調整不明瞭。	
4	土師器 杯	覆土	口縁片	口(12.0) 高一 底一	①にぶい黄褐色②酸化胎 ③粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から 底部にかい手持ちへラ削り。	内面黒色処 理。
5	土師器 杯	南	ほぼ完 形	口11.2 高4.1 底4.0	①橙②酸化胎 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から 底部にかい調整不明瞭。	内外面斑点 漆。
6	土師器 杯	覆土	口〜底 √	口(12.1) 高4.2 底一	①にぶい黄褐色②酸化胎 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に稜を 持つ。体部から底部にかい手持ちへラ削り。	
7	土師器 杯	覆土袖 6	口〜底 √	口(14.6) 高4.5 底一	①にぶい黄褐色②酸化胎 ③粘土粒・細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から 底部にかい調整不明瞭。	内面黒色処 理?
8	土師器 杯	中央	底部の み	口一 高一 底5.3	①橙②酸化胎 ③砂粒含む	体部斜横位へラ削り。底部肥厚平底。内面縦横ナ デ。	内面黒色処 理。
9	土師器 手づくね	中央	底部	口一 高一 底5.5	①にぶい黄褐色②酸化胎 ③粗砂粒含む	底部台状を呈し、肥厚。指押え。	
10	土師器 手づくね	北西	底部片	口一 高一 底3.0	①橙②酸化胎 ③細砂粒・粘土粒含む	尖底気味の丸底。縦位へラ削り。下縁細かなへラ 削り。内面へラナデ。	
11	土師器 小型壺	北東	口縁部 欠損	口一 高一 底5.0	①にぶい橙②酸化胎 ③粘土粒含む	口縁部直立気味に立ち上がり、胴部球形を呈する。 器表面荒れて、部分的に磨きの痕跡あり。	
12	土師器 鉢	東	口縁片	口(19.8) 高一 底一	①明黄褐色②酸化胎 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部に斜 横位へラ削り。	
13	土師器 小型壺	胴部	口一 高一 底一	口一 高一 底一	①にぶい橙②酸化胎 ③粗砂粒・粘土粒含む	胴部球形を呈し、横位へラ削り。内面縦横ナデ。	
14	土師器 瓶	中央	√	口31.4高11.3 底・穴のφ3.0	①にぶい橙②酸化胎 ③粗砂粒含む	鉢形を呈する。口縁部横ナデ。体部斜位へラ削り。 底部小さな尖孔。内面横位ナデ。	
15	土師器 壺	北西	胴部 √	口一 高一 底一	①橙②酸化胎 ③粗砂粒含む	やや球形状の胴部。斜位へラ削り。内面横位ナデ。	
16	土師器 小型壺	北西	胴部一 部欠	口13.1 高18.8 底5.6	①にぶい橙②酸化胎 ③粗砂粒混じり	筒形を呈する。口縁部横ナデ。胴部縦位へラ削り。 内面横位ナデ。底面木葉痕?	
17	土師器 壺	覆土	底部片	口一 高一 底(5.0)	①にぶい橙②酸化胎 ③砂粒含む	胴下端横位へラ削り。底面木葉痕?	
18	土師器 瓶	胴部	口一 高一 底(10.4)	口一 高一 底(10.4)	①橙②酸化胎 ③細砂粒含む	器表面もろく調整不明瞭。	
19	土師器 瓶	北東	口縁部 片	口(26.0) 高一 底一	①橙②酸化胎 ③粘土粒含む	口縁部横ナデ。口唇部強いナデ。胴上半縦位へラ 削り。内面横位ナデ。	No20と同一 個体。
20	土師器 瓶	北東	胴下位 √残	口一 高一 底(11.2)	①橙②酸化胎 ③細砂粒含む	胴下半斜縦位へラ削り。残存中央部帯状に摩耗痕。 内面に横位ナデ。開口部面取り。	No19と同一 個体。

第1節 竪穴住居跡の概要

21号住居跡 (PL14・55)

位置 I₀-20グリッド 床面積 6.0㎡

主軸方位 N-100°-E 重複 なし

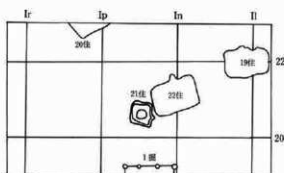
規模と形状 長辺3.0m、短辺2.7m、残存壁高0.20mを測り、やや東壁の長い台形状を呈する。

埋土 住居北壁から西壁にかけて後世の攪乱が入り込む。全体に細礫の混じる黒褐色土で埋没。褐色土塊を斑に含み、人為的埋土とも考えられている。

床面 西壁及び北壁寄り部分は攪乱により壊される。残存部分の床面には黄色粘土が薄く貼られる。住居中央部に径1.2m、深さ10cm程の床下土坑を検出した。

埋土は、黄色粘土塊混じりの暗褐色土である。

竈跡 東壁中央やや南寄り住居内に燃焼部を有する竈が付設される。焚口部には砂岩の板状礫が出土し、焚口補強材として利用されていた。袖には黄色粘土を芯材として利用している。燃焼部内には構架材と思われる黄色粘質土が落ち込む。

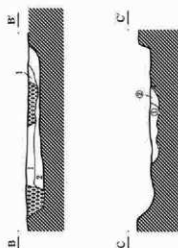
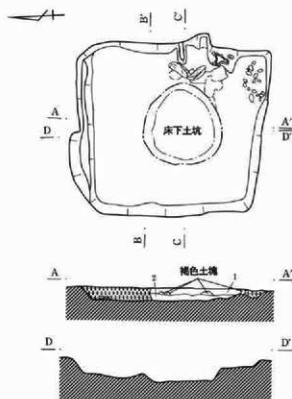


柱穴・貯蔵穴・壁下周溝 いずれも検出されない。

出土遺物 埋土中に数点出土したのみである。

掘り方 粘性の強い暗褐色土で止められ部分的に、黄褐色シルト質土が見られる。壁際は若干掘り込まれる。

時期 7世紀代



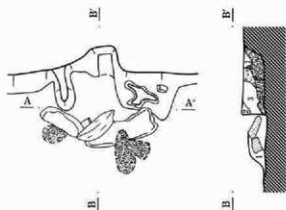
21号住居

1. 黒褐色土 細礫を含み、小指大の礫も点在。
2. 黒褐色土 小礫少量強在。若干褐色土塊が混入。
- ①. 暗褐色土 小礫多量に含む。黄色粘土塊混入。貼り床。
- ②. 黄褐色土 小礫含み、黄色粘土多量に含む。

0 L=107.8mm 2 m

第89図 21号住居跡

第3章 検出された遺構・遺物



0 1 m
L=147.70m

第90図 21号住居跡画



0 10cm

第91図 21号住居跡出土遺物

1. 暗褐色土 砂質混入物少量含む。黄色粘土多量に含む。
2. 暗褐色土 黄色粘土を多量に含む。砂粒質。
3. 暗褐色土 黄色粘土を少量含む炭化物含む。
4. 黄褐色土 炭化物、焼土小粒を少量含む。
5. 黄褐色粘質土

21号住居跡出土遺物観察表 (PL55)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土部器 杯	覆土	口縁片	口(15.8) 高— 底—	①により焼②酸化焼 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部へラ削り。	
2	土部器 高台付杯	覆土	台部 $\frac{1}{4}$	口— 高— 底11.2	①微酸化焼 ③細砂粒含む	脚部横ナデ。基部ハの字に大きく開き、横ナデ。 輪積み痕残る。	

22号住居跡 (PL14・55)

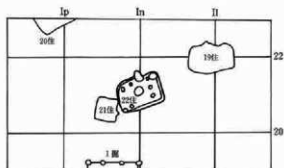
位置 In-21グリッド 床面積 17.9m²

主軸方位 N-27°-W 重複 なし

規模と形状 長辺5.8m、短辺4.2m、残存壁高0.30mを測り、東西に長い横長方形を呈する。

埋土 砂質気味の褐色土により埋没。床面直上には黄色粘質土混じりの黄褐色土が堆積する。

床面 地山礫や粘質土が露出。竈左前に径1.2m、深さ10cm程の床下土坑を検出し、上面は暗褐色土と黄



色粘土小塊混じりのやや硬質の貼床を確認した。

柱穴 壁際などに不規則な小ピットを検出した。

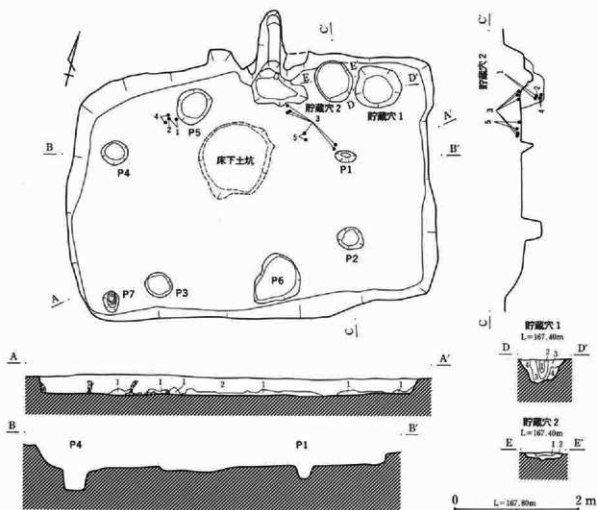
- 規模 P 1 長辺0.34m、短辺0.19m、深さ0.20m
 P 2 長辺0.42m、短辺0.37m、深さ0.26m
 P 3 長辺0.40m、深さ0.05m
 P 4 長辺0.40m、深さ0.24m
 P 5 長辺0.57m、短辺0.50m、深さ0.12m
 P 6 長辺0.86m、短辺0.66m、深さ0.04m
 P 7 長辺0.33m、短辺0.25m、深さ0.32m

貯蔵穴 竪右脇と北東隅の2カ所で確認した。規模は、貯蔵穴1長辺0.75m、短辺0.65m、深さ0.43m、貯蔵穴2長辺0.68m、短辺0.55m、深さ0.14m、形状は両者とも長円形を呈する。

壁下周溝 検出されなかった。

出土遺物 竪前及びP 5脇において出土。

掘り方 南東隅部で地山の疎層面と黄褐色シルト面の境が見られ、水平に掘り込まれる。



1. 褐色土 砂質が強い。白・黄色粒、黄色粘土小塊含む。

2. 黄褐色土 黄色粘土を多く含む、粘性が強い。

貯蔵穴1

1. 暗褐色土 黄色粘土塊を多く含む。焼土粒も混入。

2. 暗褐色土 混入物少ない。

3. 暗褐色土 黄色粘土塊が混入。

4. 黄褐色土 黄色粘土を多く含む。

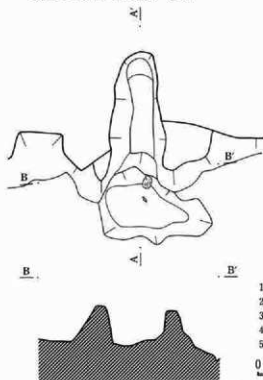
貯蔵穴2

1. 暗褐色土 焼土を多く含む。

2. 黄褐色土 黄色粘土を多く含む。

第92図 22号住居跡

第3章 検出された遺構・遺物

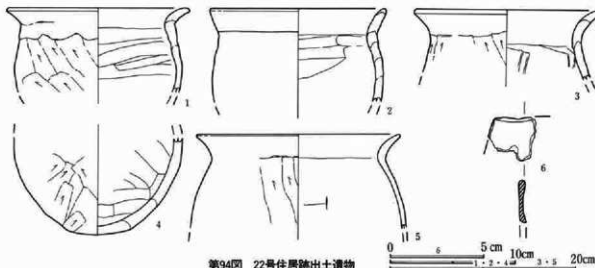


竈跡 北壁中央に燃焼部が住居内に構築される竈を確認した。壁面の焼けは弱い
が、埋土中に焼土小塊を多く含み、破壊
された構築材の黄色粘土塊混じる。火床
面は床面より下がる。煙道部は壁外に伸
びる。

時期 7世紀代

1. 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒を含み、微かに全体に赤色をおびる。
2. 黄褐色土 黄色粘土塊を含み、炭化物も混入。
3. 暗褐色土 焼土粒を多量に含む。
4. 黒褐色土 混入物少なくサラサラする。
5. 暗褐色土 焼土粒、黄色粘土がやや多く混入。

第93図 22号住居跡竈



第94図 22号住居跡出土遺物

22号住居跡出土遺物観察表 (Pl.55)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 小型壺	北西 -27	口〜胴	口(14.2) 高一 底一	①明赤褐色酸化焙 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上半縦位へラ削り。内面横位へラナデ。	
2	土師器 小型壺	北西 -28	口〜体 1/2	口(13.8) 高一 底一	①にぶい赤褐色酸化焙 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上半縦位へラ削り。内面横位へラナデ。	
3	土師器 壺	北東 ±0	口縁1/2	口(19.4) 高一 底一	①橙褐色酸化焙 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上半縦位へラ削り。内面横位へラナデ。	
4	土師器 小型壺	北西 -30	胴〜 底部片	口一 高一 底一	①明赤褐色酸化焙 ③粗砂粒含む	胴下半斜位へラ削り。底部やや丸底状を呈し、へラ削り。内面斜位ナデ。	
5	土師器 壺	北東 ±0	口縁片	口(21.6) 高一 底一	①橙褐色酸化焙 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上半縦位へラ削り。内面横位へラナデ。	
6	鉄器 板状	竈内	破片	<計測値>長0.22、幅0.22、厚0.35、重3.26g	<特徴>コーナー部が残り、鈍角に開く。		

23号住居跡 (PL14・56)

位置 I_o-14グリッド 床面積 34.1m²

主軸方位 N-5°-W 重複 10号住居に北東隅を掘り込まれる。

規模と形状 長辺4.0m、短辺3.9m、残存壁高0.14mを測り、正方形を呈する。

柱穴 4本検出し、柱間はほぼ同一。

規模 P 1 長辺0.56m、短辺0.47m、深さ0.29m

P 2 長辺0.50m、短辺0.43m、深さ0.39m

P 3 長辺0.41m、深さ0.32m

P 4 長辺0.60m、短辺0.46m、深さ0.36m

埋土 小礫混じりの暗褐色土により埋没。

床面 中央部は小礫混じり、南辺部は黄褐色粘質土混じりの暗褐色土を薄く貼る。

竈跡 検出されず。

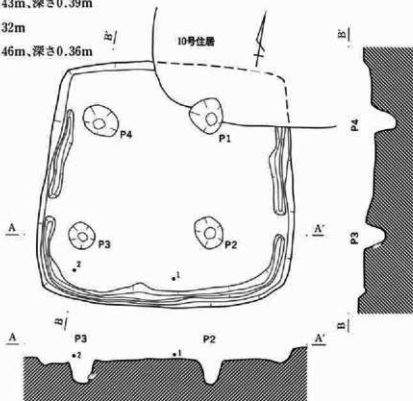
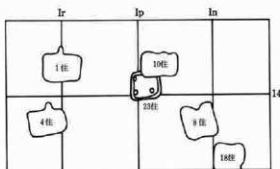
貯蔵穴 検出されず。

壁下周溝 北壁を除き全周する。

出土遺物 小破片が南西寄り出土。

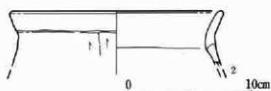
掘り方 ほぼ床面と一致し、南半分の壁寄り部分は若干掘り下げられる。

時期 7世紀代



第95図 23号住居跡

0 L=187.90m 2m



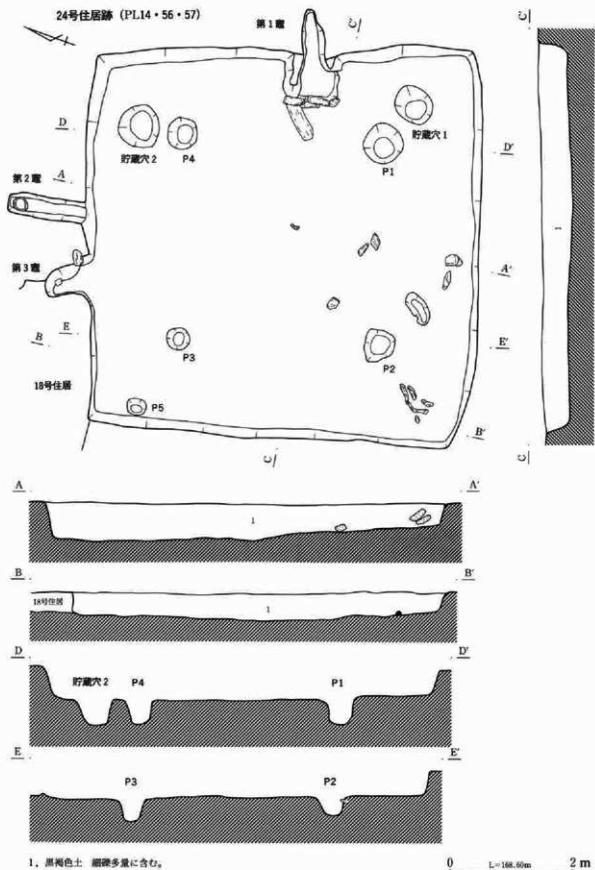
第96図 23号住居跡出土遺物

23号住居跡出土遺物観察表 (PL56)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 法	量 (cm)	①色調②構成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土器 杯	南壁寄り 5	□~底 ×	□(13.6) 高一 底一	①に濃い赤褐色②酸化層 ③粗砂粒含む	□縁部横ナデ。体部調整不明瞭。内面横ナデ。	
2	土器 小型 要	南壁寄り 6	□破片	□(16.6) 高一 底一	①に濃い赤褐色②酸化層 ③粗砂粒含む	□縁部横ナデ。胴上端位へラ削り。	

第3章 検出された遺構・遺物

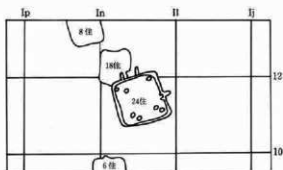
24号住居跡 (PL14・56・57)



第97図 24号住居跡

24号住居跡 (PL14・56・57)

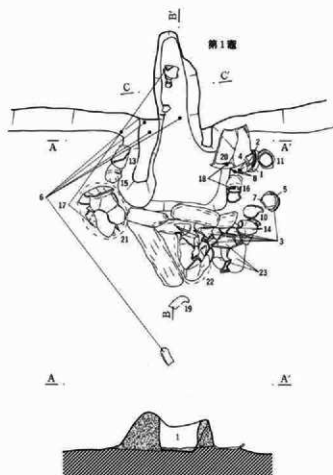
位置 Im-11グリッド 床面積 11.5m²
主軸方位 N-68°-E 重複 18号住居と接する。
規模と形状 東・南壁6.3m、西・北壁6.1m、残存壁高0.3mを測り、南壁のやや長い方形を呈する。
埋土 小礫混じりの黒褐色土により埋没する。
床面 小礫混じりの暗褐色土を薄く貼る。
竪跡 東壁中央南寄り第1竪とし、燃焼部は住居内に位置し、袖は左袖のみ遺存し黄褐色粘土を貼付する。焚口部に片岩系の板状礫を鳥居状に組み補強する。燃焼部内には構築材の黄褐色土が崩落し、側壁は焼土化する。煙道部は緩やかに壁外へ伸びる。第2竪は北壁中央部に煙道部のみを検出した。煙道部は壁外へ水平方向に伸び、壁面は焼土化する。やや西寄りに第3竪が位置し、壁外を掘り込む。18号住居との切り合い部分にあたり埋土中には焼土



塊・粘土塊等入り混じる。形状は不定形である。

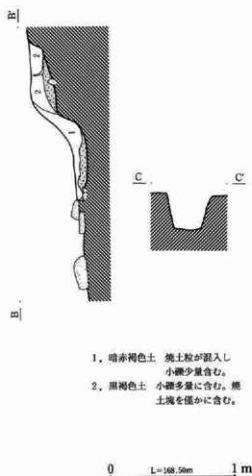
柱穴 各隅対角線上に4本確認した。

- 規模**
- P 1 長辺0.64m、深さ0.44m
 - P 2 長辺0.50m、深さ0.3m
 - P 3 長辺0.38m、短辺0.34m、深さ0.35m
 - P 4 長辺0.50m、深さ0.4m
 - P 5 長辺0.30m、深さ0.22m



1. 黒褐色土 細礫多量に含む。

第98図 24号住居跡第1竪



- 1. 暗赤褐色土 焼土粒が混入し小礫少量含む。
- 2. 黒褐色土 小礫多量に含む。焼土塊を僅かに含む。

0 L=100.00m 1m

第3章 検出された遺構・遺物

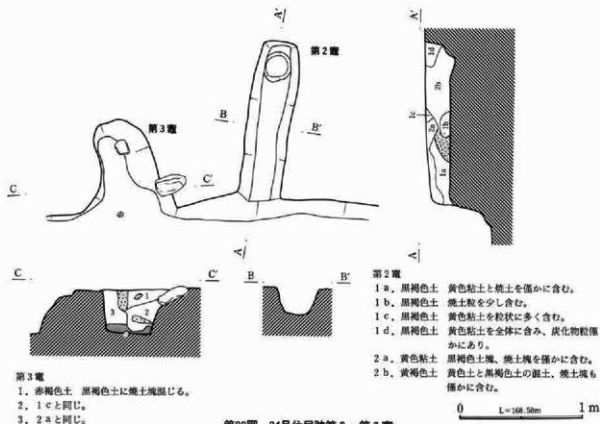
貯蔵穴 南東隅を第1貯蔵穴とし、規模は長辺0.66m、短辺0.5m、深さ0.41mを測り、形状は円形を呈する。北東隅を第2貯蔵穴とし、規模は一辺0.66m、深さ0.48mを測り、形状は円形を呈する。

壁下周溝 検出されなかった。

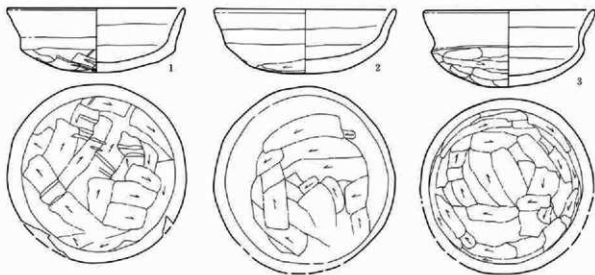
出土遺物 第1窟周辺部にて、完形に近い土師器壺・小型壺や重ねられた坏類等が集められたような状態で出土。

掘り方 床面とほぼ一致する。

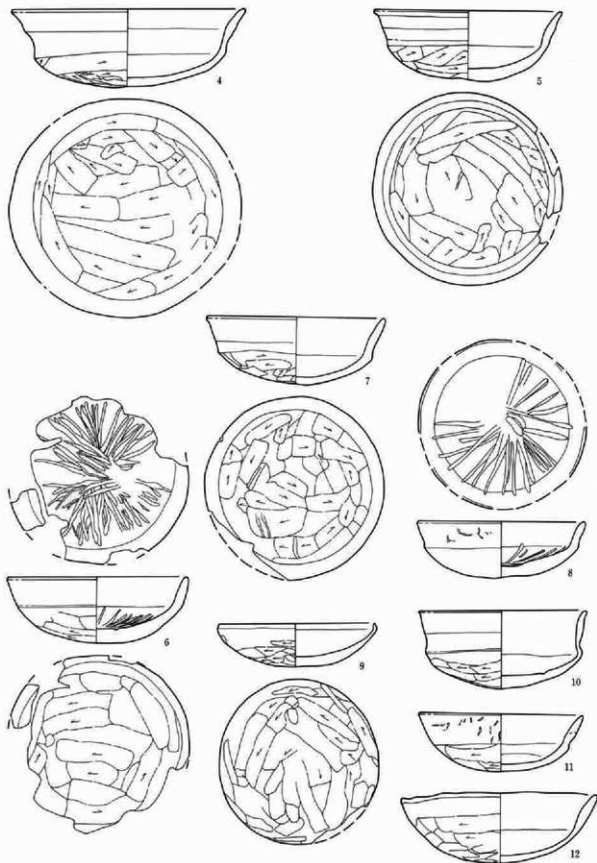
時期 6～7世紀代



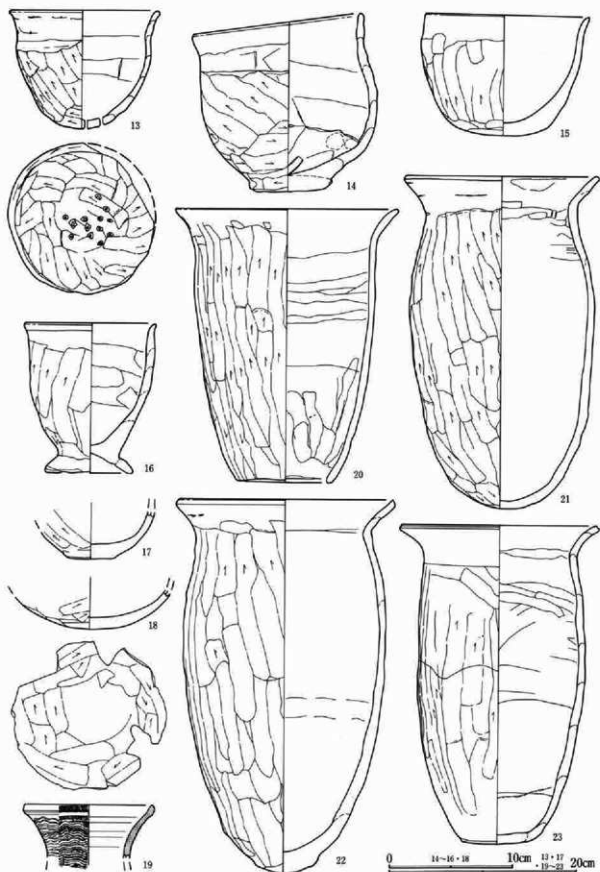
第99図 24号住居跡第2・第3窟



第100図 24号住居跡出土遺物(1)



第101図 24号住居跡出土遺物(2)



第102図 24号住居跡出土遺物(3)

24号住居跡出土遺物観察表 (PL56・57)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 環	電付近 4	ほぼ完 形	口14.0 高5.1 底12.2	①胎土酸化焰 ②粘土粒・片岩粒含む	口縁部横ナゲ。体部との境に線を持つ。体部から 底部にかけて手持ちへラ削り。	
2	土師器 環	電付近 5	ほぼ完 形	口14.2 高5.1 底9.5	①胎土酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナゲ。体部ナゲ。底部へラ削り。器内厚 い。	
3	土師器 環	電付近 8	ほぼ完 形	口13.5 高6.1 底11.5	①におい赤褐色酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナゲ。体部との境に線を持つ。体部から 底部にかけて手持ちへラ削り。内面ヘラナゲ。	
4	土師器 環	電付近 6	完形	口18.4 高6.1 底15.0	①胎土酸化焰 ③砂粒含む	口縁部2段の横ナゲ。体部との境に線を持つ。体 部から底部にかけて手持ちへラ削り。	柄、蓋庄痕 あり
5	土師器 環	電付近 4	ほぼ完 形	口14.7 高5.6 底11.5	①におい褐色酸化焰 ③粘土・片岩小粒含む	口縁部横ナゲ。体部との境に線を持つ。体部から 底部にかけて手持ちへラ削り。	
6	土師器 環	電付近 8	口縁 1/2欠	口(14.2) 高5.2 底7.0	①胎土酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナゲ。体部から底部手持ちへラ削り。内 面へラ磨きか、放射状の筋文入られる。	
7	土師器 環	電付近 33	口縁 一部欠	口13.9 高5.4 底9.5	①胎土酸化焰 ③粘土粒含む	口縁部横ナゲ。体部との境に線を持つ。体部から 底部にかけて手持ちへラ削り。	
8	土師器 環	電付近 3	口縁部 一部欠	口13.0 高4.4 底9.0	①胎土酸化焰 ③砂粒混じり	口縁部横ナゲ。体部から底部調整不明瞭。内面放 射状筋文。	
9	土師器 環	電付近 3	ほぼ完 形	口12.5 高3.4 底6.0	①胎土酸化焰 ③砂粒含む	口縁部短く内傾。横ナゲ。体部から底部手持ちへ ラ削り。内面ヘラナゲ。歪み見られる。	
10	土師器 環	電付近 2	口縁 1/2欠	口(13.2) 高6.2 底9.0	①胎土酸化焰 ③砂粒混じり	口縁部直立気味。下半強いナゲ。体部から底部手 持ちへラ削り。	
11	土師器 環	電付近 6	ほぼ完 形	口12.8 高4.6 底7.5	①におい胎土酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナゲ。体部から底部手持ちへラ削り。内 面ヘラナゲ。	
12	土師器 環	電付近 覆土	口へ底 1/2	口(15.5) 高5.5 底8.5	①におい胎土酸化焰 ③粘土粒含む	口縁部横ナゲ。体部から底部手持ちへラ削り。	
13	土師器 甕	電付近 土0	口縁1/2 欠損	口15.7 高12.4 底4.8	①におい胎土酸化焰 ③細砂粒混じり	口縁部横ナゲ。胴部斜位へラ削り。下部横位へ ラ削り。丸首状直底。内外より刺突穿孔。	
14	土師器 小型甕	電付近 3	口縁部 一部欠	口13.4 高13.3 底5.6	①明赤褐色酸化焰 ③粗砂粒混じり	口縁部横ナゲ直立。胴部斜位、下部横位へラ削り。 内面横位ナゲ。大きく歪む。	
15	土師器 小型甕	電付近 土0	口へ胴 一部欠	口13.0 高9.5 底4.0	①胎土酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナゲ。胴部縦位。下部から底部にかけてへ ラ削り。	
16	土師器 コップ状 甕	電付近 土0	ほぼ完 形	口10.4 高11.9 底6.8	①におい褐色酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナゲ。胴部縦位へラ削り。台8分の字に 開き、作り粗。	
17	土師器 小型甕	電付近 13	底部の み	口一 高一 底4.7	①胎土酸化焰 ③砂粒多く混じる	胴下半斜位へラ削り。下部横ナゲ。	
18	土師器 環	電付近 3.0	口の一 み	口一 高一 底8.8	①胎土酸化焰 ③砂粒含む	体部から底部にかけて手持ちへラ削り。内面ヘラナ ゲ。	
19	須恵器 甕	電付近 18	口縁1/2 欠	口(13.6) 高一 底一	①灰②還元焰 ③細砂粒含む	口縁部やや受口状を呈し、凹線巡る。頸部7本一対 の櫛状工具による波状文。	
20	土師器 甕	電付近 3.0	完形	口23.5 高29.0 底10.2	①胎土酸化焰 ③砂粒混じり	口縁部横ナゲ。縦やかに外反。胴部縦位へラ削り。 底部内面面取り。内面横ナゲ。下半縦位ナゲ。	
21	土師器 甕	電付近 5	ほぼ完 形	口20.4 高35.0 底3.8	①明赤褐色酸化焰 ③砂粒多く混じる	長胴甕。口縁部横ナゲ。底部面取り。胴部斜縦位 へラ削り。胴中位にかけて縦やかに膨らむ。	
22	土師器 甕	電付近 土0	ほぼ完 形	口22.6 高39.5 底4.5	①赤褐色酸化焰 ③砂粒多く混じる	長胴甕。胴中位ややかに膨らむ。口縁部横ナゲ。口 唇部面取り。胴部斜縦位へラ削り。	
23	土師器 甕	電付近 土0	一部欠 損	口20.4 高33.5 底5.8	①胎土酸化焰 ③砂粒多く混じる	口縁部横ナゲ。底部面取り。胴部斜縦位へラ削り。 外面保行巻。	

25号住居跡 (PL15)

位置 II-25グリッド 床面積 8.1㎡

主軸方位 N-10°-E 重複 なし

規模と形状 長辺3.3m、短辺3.0m、残存壁高0.4m

を測り、東西に僅かに長い横長長方形を呈する。

埋土 床面直上には北西から南東部にかけて人頭大の礫が、投げ込まれた状態で出土している。その上

の層は、全体に礫を含む黒褐色土により埋没する。

床面 南東隅に黄色粘質土の薄く貼り込んだ床面を

検出した。部分的に地山礫が露出し、凹凸見られる。

電跡 北壁中央やや南寄り住居内に燃焼部を有する

電が付設される。燃焼部奥壁は焼土化し、埋土中に

焼土が混じる。煙道部へは急角度で立ち上がる。

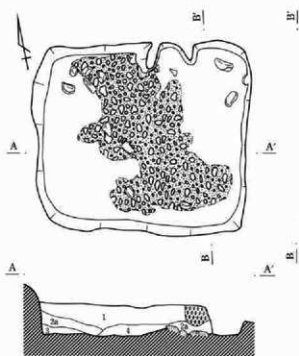
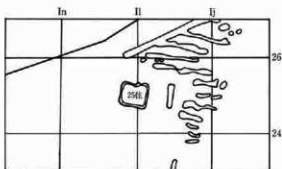
柱穴・貯蔵穴・壁下周溝 いずれも検出されない。

第3章 検出された遺構・遺物

出土遺物 なし

掘り方 壁面には疎層が見られ、掘り方面はその下の黄褐色シルト質土まで掘り込まれている。壁際がやや低く掘り込まれる。

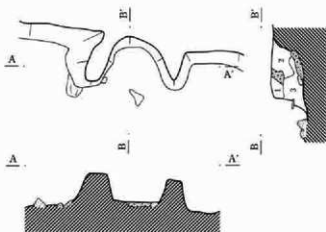
時期 不明



1. 黒褐色土 礫を含む。
- 2 a. 黒褐色土 サラサラした土を主体とし、小礫少量含む。
- 2 b. 黒褐色土 大礫を含む。
- 2 c. 黒褐色土 黄色粘土を全体に含む。
3. 黒褐色土 大礫を非常に多く含む。
4. 黒褐色土 砂礫主体。

0 L=147.90m 2 m

第103図 25号住居跡



- 電
1. 黒褐色土 サラサラし、白色粒を少量含む。
 2. 黒色土 焼土粒をやや多く含む。
 3. 黒褐色土 礫を多量に含み、焼土少量含む。

0 L=147.20m 1 m

第104図 25号住居跡電

30号住居跡 (PL15・58)

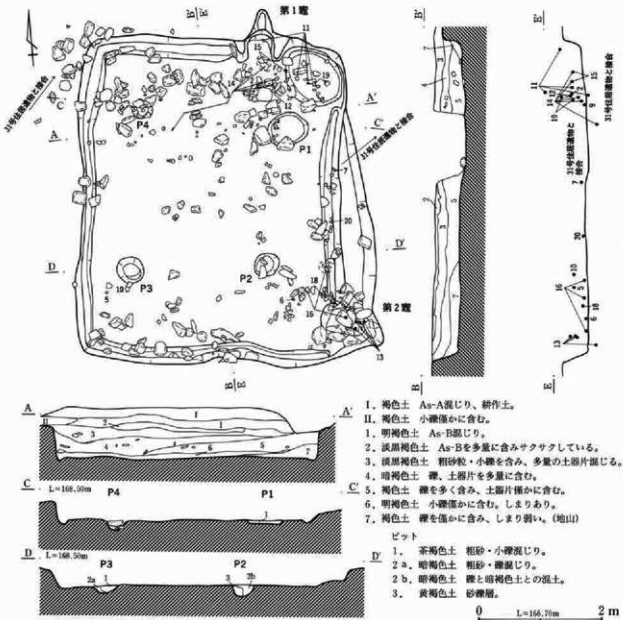
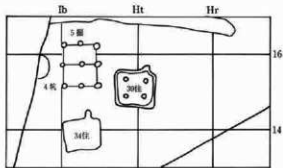
位置 Hs-15グリッド 床面積 16.2㎡

主軸方位 N-10°-E 重複 なし

規模と形状 長辺5.2m、短辺4.1m、残存壁高0.4mを測り、南北に長い縦長長方形を呈する。

埋土 大礫が多量に出土し、南北両壁側から投棄されたと考えられる。埋土上層にはAs-Bを多量に含むやや砂質の黒褐色土が堆積していた。

床面 全体に暗褐色土が地山砂礫層の上に薄く貼る



第105図 30号住居跡

第3章 検出された遺構・遺物

れ、床面が構築されている。部分的に礫層の露出があり、微妙な凹凸面が見られる。第1竈前の床面上に焼土や灰が薄く広がり、やや踏み締められる。

竈跡 北竈を第1竈とし、南東隅を第2竈とした。両者は、焚口部や燃焼部の遺存状態及び火床面のレベル等から同時存在と考えられる。

第1竈は北壁東寄りの壁を若干掘り込み、燃焼部を構築する。袖は地山を芯に残し、灰褐色土を貼り付ける。燃焼部壁面の焼けは弱く、中央に支脚に用いられたと思われる礫が出土。煙道部へは段を持ち立ち上がり、煙道部はNaの土師器甕を補強材として利用し壁外へ伸びる。

第2竈は、南東隅部の壁を掘り込み壁面には礫を用い石組竈を構築している。火床面には焼土、灰の

堆積が見られる。煙道部へは急角度で立ち上がる。

柱穴 4本検出したが、いずれも掘り込みは浅い。

規模 P 1 長辺0.66m、短辺0.50m、深さ0.05m

P 2 長辺0.42m、短辺0.38m、深さ0.19m

P 3 長辺0.42m、深さ0.10m

P 4 長辺0.30m、短辺0.20m、深さ0.15m

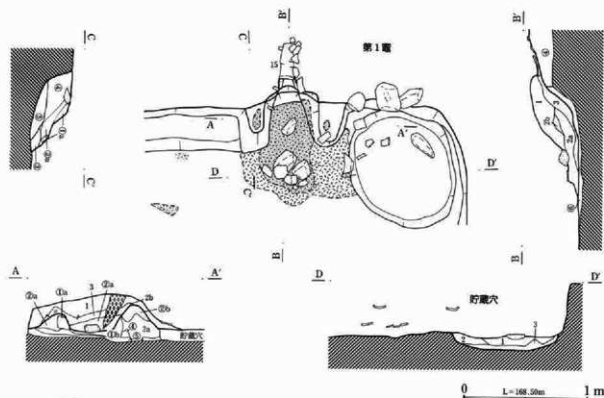
貯蔵穴 北東隅に位置し、規模は長辺1m、短辺0.9m、深さ0.05mを測り、形状は楕円形を呈する。

壁下周溝 竈部分を除き、全周する。

出土遺物 破片が礫に混じり散乱し、第1竈周辺に土師器甕片出土。

掘り方 褐色砂礫混じりの層を掘り込む。ほぼ床面と一致する。

時期 8世紀代



第1竈

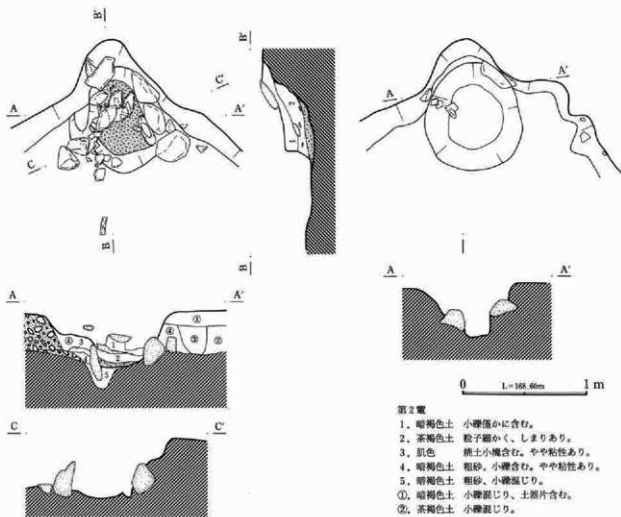
1. 暗褐色土 礫混じり、しまり弱い。
- 2 a. 灰褐色土 焼土、小礫雜みに含む、粘質土。
- 2 b. 灰褐色土 小礫、褐色土塊含む。土質緻密。
3. 灰褐色土 小礫、焼土含む。しまり弱い。
- ① a. 赤褐色土 焼土塊。
- ① b. 赤褐色土 焼土混じりの灰褐色粘質土。
- ② a. 灰茶褐色土 小礫、灰褐色土、焼土粒を含む。
- ② b. 灰茶褐色土 礫混じり、しまり弱い。

- ③. 灰褐色土 小礫、灰茶色粘土塊の混土。
- ④. 暗褐色土 礫混じり、しまり弱い。
- ⑤. 黄褐色砂礫層 (地山)
- ⑥. 灰褐色土 砂礫、焼土粒混じり。

貯蔵穴

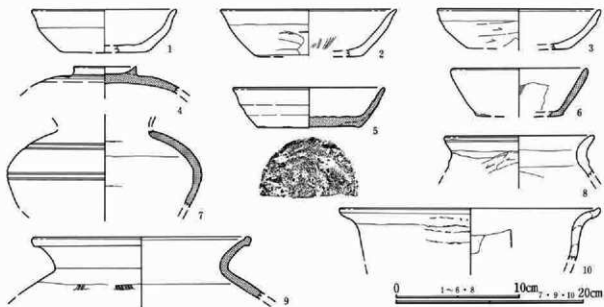
1. 暗褐色土 砂礫、土師片混じり。
2. 灰褐色土 灰茶色粘土塊混じり、礫含む。
3. 灰褐色土 灰茶色粘土塊と暗褐色土塊の混土。

第106図 30号住居跡第1竈

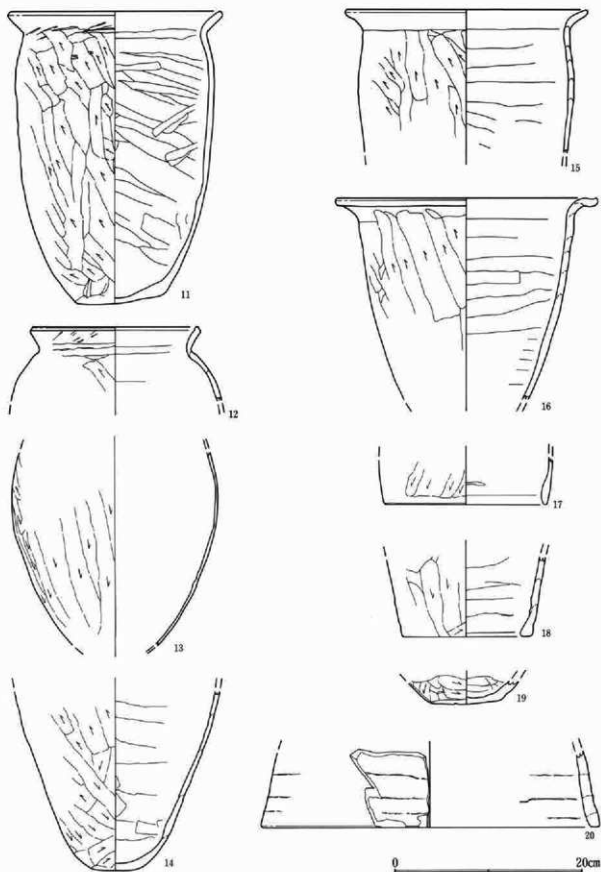


- 第2窟
1. 暗褐色土 小礫僅かに含む。
 2. 茶褐色土 粒子細かく、しまりあり。
 3. 肌色 焼土小塊含む。やや粘性あり。
 4. 暗褐色土 粗砂、小礫含む。やや粘性あり。
 5. 暗褐色土 粗砂、小礫混じり。
 - ①. 暗褐色土 小礫混じり、土器片含む。
 - ②. 茶褐色土 小礫混じり。
 - ③. 暗褐色土 小礫・磁石含む。
 - ④. 暗茶褐色土 小礫含む。やや粘性あり。

第107図 30号住居跡第2窟



第108図 30号住居跡出土遺物(1)



第109回 30号住居跡出土遺物(2)

30号住居跡出土遺物観察表 (PL58)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 罎	覆土	口~底 部片	口(11.6) 高3.4底(7.6)	①橙赤酸化焰 ③粘土細粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へラ削り。底部平底、へラ削り。	
2	土師器 杯	北東 17	口~底 部片	口(14.0) 高— 底—	①橙赤酸化焰 ③粘土細粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へラ削り。底部平底、へラ削り。内面放射状彫文。	
3	土師器 罎	覆土	口~底 部片	口(13.0) 高— 底—	①にぶい褐赤酸化焰 ③粘土細粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へラ削り。底部平底、へラ削り。	
4	須恵器 蓋	覆土	胴部 1/3	口— 高— 底—	①灰白還元焰 ③細砂粒含む	輪縁整形。頂部回転へラ削り。リング状構み。	編4.9
5	須恵器 罎	南西 26	口~底 部片	口(12.0) 高3.1底8.0	①灰白還元焰 ③細砂粒含む	輪縁整形。回転糸切り、未調整。切り離し時の粘土残片が見られ、器表面荒れている。	
6	須恵器 罎	南東 5	口~底 部片	口(10.6) 高3.8底(7.6)	①灰白還元焰 ③精選	輪縁整形。底面剥離。内面炭化物付着。	
7	須恵器 罎	東 15	胴部片 1/3	口— 高— 底—	①灰白還元焰 ③精選	輪縁整形。胴中位の張る球形胴。肩部及び胴中に2条の平行比線。	31住出土遺物と複合
8	土師器 小甕	覆土	口縁片	口(11.6) 高— 底—	①明赤褐色酸化焰 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部短く外反、横ナデ。胴上端横位へラ削り。内面横位ナデ。	
9	須恵器 外-6	北西住居	口縁片	口(23.0) 高— 底—	①灰オリーブ還元焰 ③精選	輪縁整形。口縁部指押え。胴部球形を呈し、肩部壺状工具による連続刺突痕。	
10	土師器 鉢?	南西 22	口縁片	口(27.4) 高— 底—	①にぶい橙赤酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上半部合度残り、内面横位ナデ。	
11	土師器 罎	北東 18	口~底 1/3	口(22.4) 高31.1底9.3	①にぶい褐赤酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。胴斜位へラ削り。内面横位ナデ。(指ナデ含む)	
12	土師器 罎	北東 25	口縁片	口(17.5) 高— 底—	①にぶい橙赤酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。端部強いナデ。肩部指ナデ。胴部球形胴。上半部へラ削り後ナデ。内面横位ナデ。	
13	土師器 罎	第2電前 -1	胴 1/3	口— 高— 底—	①にぶい橙赤酸化焰 ③砂粒含む	胴部器内薄し。上半部斜位、中央から下半部にかき取れたへラ削り。内面丁寧ナデ。	
14	土師器 罎	第1電前 20	胴~底 1/3	口— 高— 底(4.2)	①黄褐色酸化焰 ③粗砂粒含む	胴部中央斜位、下半部細かな斜位のへラ削り。内面横位ナデ。	
15	土師器 罎	第1電理 道部-2	口~胴 1/3	口(25.6) 高— 底—	①にぶい褐赤酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上半部斜位へラ削り。	
16	土師器 罎	第2電前 4	口~胴 1/3	口(27.5) 高— 底—	①橙赤酸化焰 ③粗砂粒混じる	口縁部水平気味に外反。肩部面取り状の強い指ナデ。胴上半部斜位へラ削り。内面横位ナデ。	
17	土師器 罎	覆土	端部片	端部(17.0)	①暗赤褐色酸化焰 ③細砂粒含む	下半部斜位へラ削り。下半部横ナデ。ほぼ垂直に立ち上がる。	
18	土師器 罎	第2電前 7	端部片	端部(13.8)	①橙赤酸化焰 ③粗砂粒混じる	胴下半部斜位へラ削り。下端へラ状工具により面取り。内面横ナデ。	
19	土師器 罎	北東 30	底部片	口— 高— 底(7.6)	①にぶい赤褐色酸化焰 ③砂粒含む	胴下半部斜位へラ削り。底面へラ削り。内面指ナデ。	
20	土師器 甕型土器	南東 8	端部片	端部(35.9)	①にぶい黄褐色酸化焰 ③粗砂・粘土粒含む	輪縁明白明未調整?直線的に立ち上がる。	19住に類似土器

31号住居跡 (PL16・59)

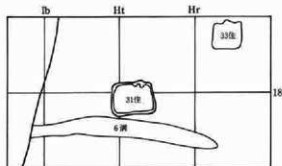
位置 Hs-17グリッド 床面積 14.9m²

主軸方位 N-0° 重複 なし

規模と形状 長辺5.4m、短辺4.3m、残存壁高0.46mを測り、東西に長い横長方形を呈する。

埋土 土器片を含む際混じりの暗褐色土により埋没し、床面直上に礫が散乱する。壁寄りには壁崩落土の堆積が見られる。

床面 シルトと砂の中間の土質を持つ黄褐色土塊を含む暗褐色土が薄く貼られ、中央から電前にかけて



はやや踏み締められているが、周辺部は柔らかい。電前には焼土の広がりが見られた。また、東壁寄り

第3章 検出された遺構・遺物

の床面を僅かに掘りくぼめ、その中に白色・黄褐色の粘土塊の混土が出土している。

竈跡 北壁東寄りの壁面を僅かに掘り込み、壁の延長線上に燃焼部が位置するよう竈を付設している。燃焼部内壁は焼土化し、奥壁寄りの埋土中には竈構築材の黄褐色土塊と焼土化した塊が見られ、崩落状況が窺われる。袖は黄褐色土塊を多く含む層を貼り付け構築される。火床面は床面と同レベルであり、灰の堆積はほとんど見られない。煙道部へはやや緩やかに立ち上がり、奥壁は僅かに焼土化する。

かに立ち上がり、奥壁は僅かに焼土化する。

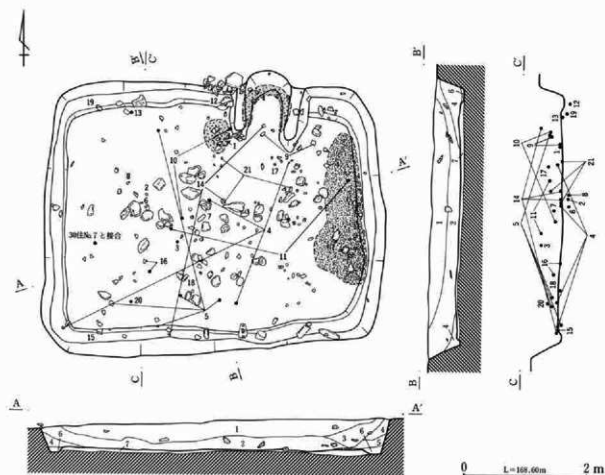
柱穴・貯蔵穴 いずれも検出されない。

壁下周溝 竈を除き全周する。

出土遺物 礫に混じり、土師器破片が散乱する。土師器No.12の鉢形甕が竈左袖外脇より出土している。土師器坏には暗文が施される。

掘り方 礫混じりの暗褐色土を掘り込み、壁面には礫が見られる。

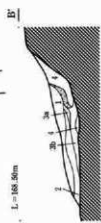
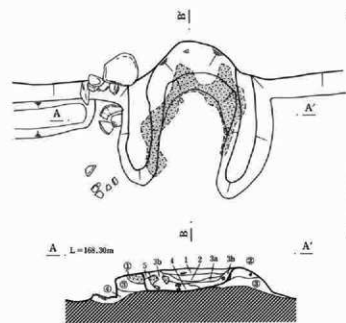
時期 8世紀代



1. 褐色土 微小礫・円礫を多く含む。
2. 暗褐色土 微小礫を含み、円礫を多く含む。
3. 明褐色土 微小礫を含む。
4. 褐色土 円礫を僅かに含み、ややしまりあり。

5. 暗褐色土 円礫を僅かに含み、ややしまりあり。
6. 黒褐色土 小礫を含み、しまり弱い。
7. 暗褐色土 黄褐色砂質土を多量に含む。小礫を僅かに混入。

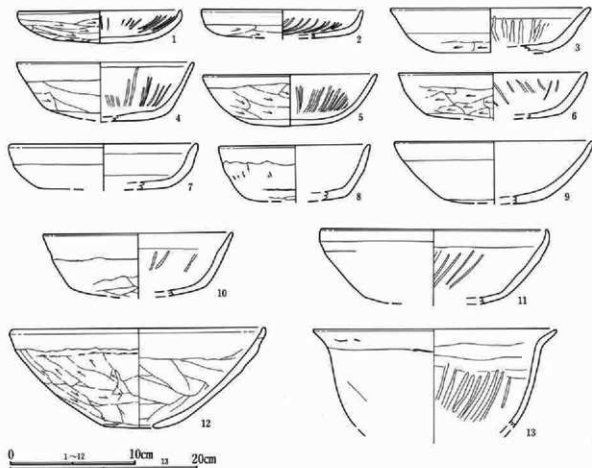
第110図 31号住居跡



1. 暗褐色土と黄褐色土の混土層
2. 淡黄褐色土 暗褐色土を僅かに含む。
- 3 a. 淡黄褐色土 焼土粒を僅かに含む。
- 3 b. 赤褐色土 焼土粒を多量に含む。しまりあり。
4. 暗褐色土 微小礫、焼土粒を僅かに含む。
5. 黒褐色土 焼土粒を僅かに含む。
- ①. 淡赤褐色土 淡く焼土化。
- ②. 褐色土 焼土小塊を含む。
- ③. 暗黄褐色土 しまりあり。
- ④. 黒褐色土 微小礫を含む。

0 1 m

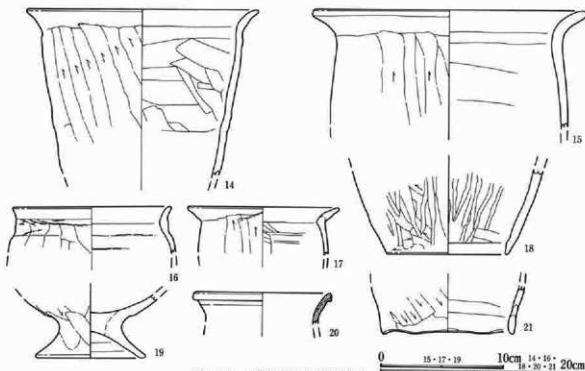
第111図 31号住居跡竈



0 1~12 10cm 20cm

第112図 31号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構・遺物



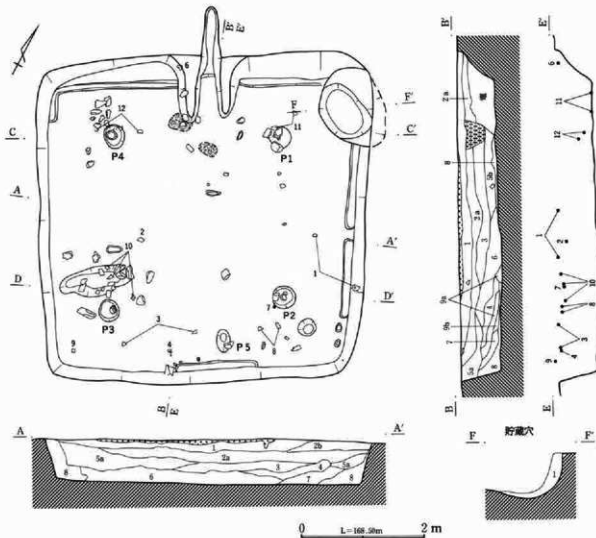
第113図 31号住居跡出土遺物(2)

31号住居跡出土遺物観察表 (P1.59)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・形状の特徴	備考
1	土師器 杯	竈左 3	口縁一部欠損	口13.0 高2.6 底一	①にぶい黄褐色②酸化焰 ③細砂粒含む	浅く皿状を呈する。口縁部横ナデ。体部から底部 手持りへら削り。内面放射状暗文。	
2	土師器 杯	中央 2	片	口(12.8) 高一 底一	①褐色酸化焰 ③細砂粒含む	浅く皿状を呈する。口縁部横ナデ。体部から底部 手持りへら削り。内面放射状暗文。	
3	土師器 杯	中央 34	口へ蓋 破片	口(15.6) 高一 底一	①にぶい褐色②酸化焰 ③粘土細粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へら削り。内面太目の放 射状暗文。	
4	土師器 杯	中央 6	片	口14.0 高4.6 底一	①褐色酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部直線的に開き、平底を呈する。口縁部横ナデ。 体部横位へら削り。底部へら削り。内面放射状暗文。	
5	土師器 杯	西側 12	口へ蓋 高4.0 底一	口(14.0) 高一 底一	①にぶい褐色②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部やや湾曲、平底を呈する。口縁部横ナデ。 体部横位へら削り。底部へら削り。内面放射状暗文。	
6	土師器 杯	中央 5	片	口(14.8) 高一 底一	①にぶい明赤褐色②酸化 焰③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へら削り。内面放射状暗文。 内面放射状暗文。	
7	土師器 杯	中央 15	片	口15.0 高一 底一	①褐色酸化焰 ③粘土細粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部、調整不明瞭。	
8	土師器 杯	中央 3	口縁片	口(12.0) 高一 底一	①にぶい褐色②酸化焰 ③粘土細粒含む	口縁部横ナデ。体部輪縁みねやむずみが残り、未 調整。底面へら削り。	
9	土師器 杯	甕付近 25	片	口(15.8) 高一 底一	①褐色酸化焰 ③細砂粒含む	平底を呈する。口縁部横ナデ。体部横位へら削り。 底面へら削り。	
10	土師器 杯	竈左 26	片	口(15.0) 高一 底一	①にぶい褐色②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部直線的に開き、平底を呈する。口縁部横ナデ。 体部横位へら削り。底部へら削り。内面放射状暗文。	
11	土師器 杯	中央 25	破片	口(18.0) 高一 底一	①褐色酸化焰 ③粘土細粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部調整不明瞭。内面放 射状暗文。	
12	土師器 瓶	竈左 5	片	口(20.0) 高7.9 底3.0	①明褐色②酸化焰 ③砂粒含む	鉢形を呈する。口縁部横ナデ。体部斜位へら削り。 孔部焼成前に穿孔。内面へらナデ。	
13	土師器 鉢	南西 7	口へ割 片	口(26.0) 高一 底一	①にぶい褐色②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部僅すかに外反、横ナデ。体部調整不明瞭。 内面横ナデ後、放射状暗文。	
14	土師器 瓶	中央 27	口へ割 片	口24.4 高一 底一	①にぶい褐色②酸化焰 ③粗砂粒混じり	口縁部短く外反、横ナデ。胴部斜位へら削り。 内面斜位横ナデ。	
15	土師器 甕	南西 16	口縁片	口(21.2) 高一 底一	①にぶい褐色②酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上半横位へら削り。内面横ナデ。	
16	土師器 小型甕	南西 6	口縁片	口(17.0) 高一 底一	①にぶい褐色②酸化焰 ③砂粒含む	口縁部僅すかに外反、横ナデ。胴上半横位へら削り。 頸部へら当ぬ。内面横ナデ。	

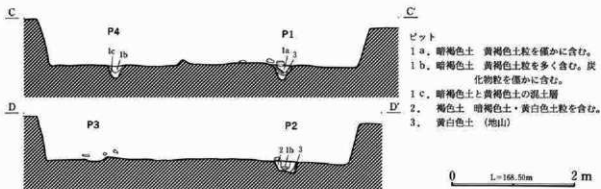
番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・装形の特徴	備考
17	土師器 小型壺	東側	口縁片	口(12.0) 高一 底一	①橙②酸化焙 ③細砂粒含む	口縁部くの字に外反、横ナデ。胴上半斜縦位ヘラ削り。	
18	土師器 瓶	南西 2	破片	口一 高一 底13.0	①明褐色酸化焙 ②砂粒含む	胴下半斜位ヘラ削り後、縦位ヘラナデ又はヘラ磨き。内面横ナデ、縦位ヘラ磨き。	
19	土師器 台付壺	北西 -4	胴部	口一 高一 底8.8	①明赤褐色酸化焙 ②砂粒含む	胴下半斜位ヘラ削り。胴部横ナデ。内面横ナデ。	
20	須志器 壺	南西 24	口縁片	口(14.2) 高一 底一	①褐色還元焙 ③細砂粒含む	楕圓形。口縁部折り返し。	
21	土師器 瓶	中央	底部付近片	口一 高一 底13.8	①橙②酸化焙 ③細砂粒含む	胴下半斜位ヘラ削り。下端ヘラ削り後横ナデ。	

32号住居跡 (PL16・59・60)



- 黒褐色土 As-B含む。小礫混じり、土器片含む。
- 2 a. 暗褐色土 小礫・土器片多く含む。粘性ややあり。
- 2 b. 暗褐色土 2 a層より土器片少量なく、粘性弱い。
- 暗褐色土 小礫含む、土器片少量含む。
- 褐色土 小礫含む。黄白土小礫僅かに含む。粘性あり。
- 5 a. 暗褐色土 小礫含む、しまり弱い。サクサクした層。
- 5 b. 暗褐色土 5 a層に比べ、小礫多くしまりあり。
- 褐色土 小礫僅かに含む。粘性が強い。
- 黒褐色土 小礫混じり、しまり弱い。
- 茶褐色土 粘土・小礫混じり。
- 9 a. 灰黄褐色土 黄褐色粘土大塊多く含む、小礫混じり。
- 9 b. 灰黄褐色土 9 a層に比べ、暗く黄褐色土少ない。
- 貯蔵穴
1. 暗褐色土 粒子細かく、小礫少量含む。

第114図 32号住居跡



第115図 32号住居跡

位置 Hm-20グリッド 床面積 19.9㎡

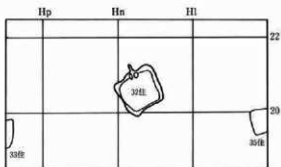
主軸方位 N-24°-W 重複 なし

規模と形状 長辺5.2m、短辺5.0m、残存壁高0.6mを測り、ほぼ正方形を呈する。

埋土 上面にはAs-B混じりの黒褐色土の堆積が見られ、全体に土器片、小礫を含む。南東部は層が乱れ南壁際の下層には、黄褐色粘土塊主体の灰黄褐色土層が落ち込んだ状態で堆積する。床面直上には雨水滲水後に見られる上澄み（ノロ）状の褐色粘質土が薄く堆積する。

床面 地山黄褐色粘質土の上に薄く粘性の強い暗褐色土を貼り込み床面としている。部分的に掘り方面がそのまま床面にも利用されている。

竈跡 北壁中央部の住居内に燃焼部を有する竈が付設される。袖は地山黄褐色粘質土塊を多量に含む暗黄褐色土を貼り付け構築している。燃焼部内の壁面は焼土化し、埋土中には天井部崩落土である焼土化した黄褐色土の堆積が見られる。火床面は、床面とほぼ同レベルであり、薄く焼土・灰層が堆積する。煙道部へはほぼ垂直に立ち上がり、煙道部はやや水平方向に壁外に伸びる。煙道部掘り方は、方形を呈し、割り抜かれたものと考えられる。煙り出し部はほぼ垂直に立ち上がり、長円礫が複数詰まっていた。柱穴 各隅対角線上に5本検出した。掘り込みは浅く、小礫が混じる。南壁際のP5は、やや斜めに掘り込まれ、入口施設に用いられたものと考えられる。



- 規模 P 1 長辺0.34m、深さ0.22m
 P 2 長辺0.35m、深さ0.18m
 P 3 長辺0.35m、深さ0.05m
 P 4 長辺0.39m、短辺0.33m、深さ0.18m
 P 5 長辺0.36m、短辺0.21m、深さ0.03m

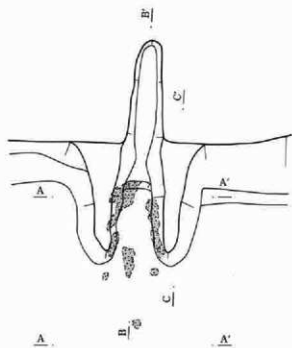
貯蔵穴 北壁隅に位置し、規模は長辺0.95m、短辺0.65m、深さ0.13mを測り、形状は長円形を呈する。壁は袋状を呈し、やや壁外にえぐり込まれる。

壁下周溝 北壁及び東壁で部分的に検出した。

出土遺物 各柱穴周辺部に土器片と礫が出土している。No 1の須恵器蓋は埋土上層から出土している。また、No 6の底面に木葉痕のある土師器は手裡ね風であり、台部とも考えられる。

掘り方 周辺部は大礫混じりの褐色土と下層は黄褐色粘質土となり、この黄褐色粘質土まで掘り込まれる。上面は崩れ易く、壁面の崩落が見られ北壁部分では調査時崩落部分まで掘り、粘質土との境にテラス状の段差ができてしまった。底面は、余り起伏は見られず床面とほぼ一致する。

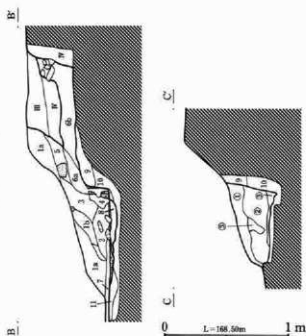
時期 8世紀代



A B B' A'



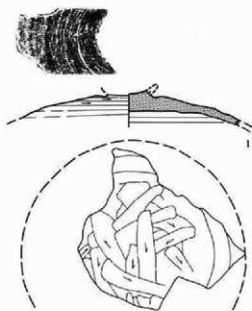
- 1 a. 褐色土 小礫混じり、焼土粒・黄褐色土小塊僅かに含む。
- 1 b. 褐色土 I a層に比べややしまりあり。
2. 黒褐色土 鏝含む。黄褐色土小塊僅かに含む。
3. 暗褐色土 黄白色塊を多量に含む、灰褐色土との混土。



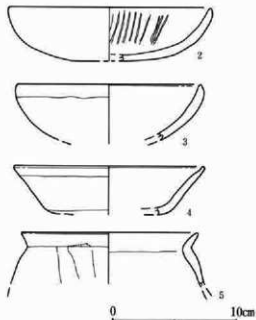
B B' A A' 0 L=100.50m 1 m

4. 黄褐色土 シルト土質。天井部崩落土。粘性あり。
 5. 明褐色土 粒子細かく僅かに粘性あり。
 - 6 a. 暗赤褐色土 粒子多く含む僅かに粘性あり。
 - 6 b. 暗褐色土 焼土粒を僅かに含む。僅かに粘性あり。
 7. 暗褐色土と黄褐色土の混土層 焼土を僅かに含む。
 8. 暗黄褐色土 褐色土粒・焼土粒を多量に含む。
 9. 暗褐色土
 10. 漆黒褐色土
 11. 灰褐色土
 - ①. 黒褐色土 微小礫を僅かに含む。
 - ②. 黄褐色粘質土 甍面は焼土化。
 - ③. 黒褐色土 黄褐色土極小塊多量に混じる。
- III・IV層は基本土層参照

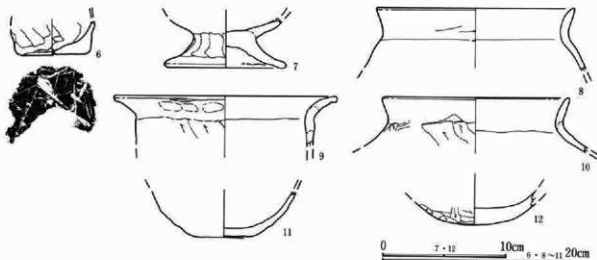
第116図 32号住居跡竈



第117図 32号住居跡出土遺物(1)



第3章 検出された遺構・遺物



第118図 32号住居跡出土遺物(2)

32号住居跡出土遺物観察表 (Pl.59・60)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②焼成③粘土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 蓋	南東 63	天井部 へ一部	口一 高一 底一	①灰黄②還元焼 ③砂粒含む	楕圓形。頂部右部へ削り。内部不定方向指ナデ。ボタン状柄み。	
2	土師器 坏	南西 50	口へ底 1/2	口(16.0) 高一 底一	①黄緑②酸化焼 ③細砂粒含む	器表面滑く、調整不明瞭。内面横ナデ後、放射状増文。	
3	土師器 坏	南西 60	口縁片	口(14.4) 高一 底一	①酸化焼化焼 ③粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部器表面剥落。内面丁寧なナデ。	
4	土師器 坏	南西 59	口へ底 1/2	口(15.0) 高一 底一	①酸化焼化焼 ③粘土粒含む	口縁部直線的に開き、横ナデ。体部から底部に調整不明瞭。	
5	土師器 小型壺	覆土	口縁部	口(14.0) 高一 底一	①明赤褐色酸化焼 ③粘土粒含む	口縁部短く外屈、横ナデ。胴上半部位へ削り。	
6	土師器 手づね	電左 58	底部1/2	口一 高一 底(7.8)	①こげ褐色酸化焼 ③細砂粒少量含む	外面指押え。内面指ナデ。底面、木葉痕。円形穿孔。台に使用?	
7	土師器 土付壺	南東 54	台部	口一 高一 底9.0	①赤褐色酸化焼 ③砂粒含む	脚部縦位指ナデ。脚部大きく開き、横ナデ。	
8	土師器 壺	南東 57	口縁部 片	口(21.0) 高一 底一	①明赤褐色酸化焼 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上端斜位へ削り。球形割を呈する。	
9	土師器 壺	南西 69	口縁片	口(23.4) 高一 底一	①こげ褐色酸化焼 ③砂粒含む	口縁部外反。指頭圧痕残る。胴上部位位へ削り。	
10	土師器 壺	南西 52	口縁片	口(19.6) 高一 底一	①酸化焼化焼 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上端斜位へ削り。球形割を呈する。	
11	土師器 壺	北東 6	底部	口一 高一 底6.0	①こげ褐色酸化焼 ③小砂粒含む	器表面荒れ、調整不明瞭。内面へラナデ。	
12	土師器 坏	北西 19	底部のみ	口一 高一 底6.4	①酸化焼化焼 ③粘土粒含む	体部から底部にかけ手持らへ削り。底部肥厚。	

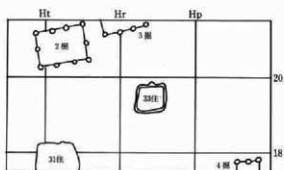
33号住居跡 (Pl.17・60)

位置 Hq-19グリッド 床面積 10.3㎡

主軸方位 N-0° 重複 なし

規模と形状 長辺4.0m、短辺3.7m、残存壁高0.22mを測り、東西にやや長い横長長方形を呈する。

埋土 全体に拳大～人頭大の礫を多量に含み、特に東壁際に大型礫が多く見られる。これらの礫は人為的に投棄された礫群と考えられる。



床面 地山砂礫層の影響を受け凹凸が多く見られる。薄く暗褐色土が部分的に貼り込まれている。また、北から東壁にかけてやや掘り込みが深い。

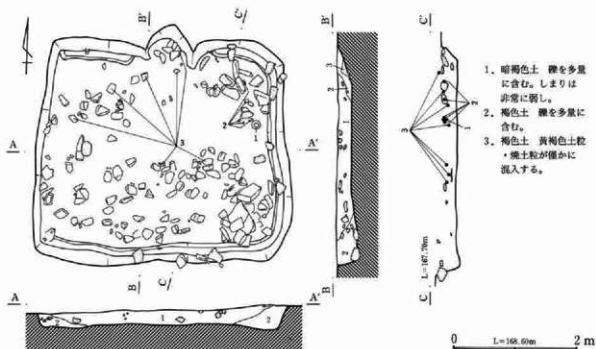
柱穴・貯蔵穴 いずれも検出されない。

壁下周溝 西壁部分のみ未検出。

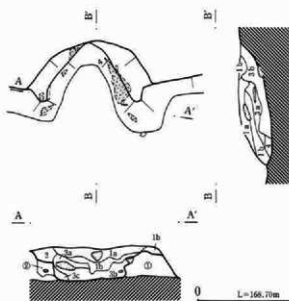
出土遺物 礫群に混じり、内面に螺旋状暗文の施さ

れた土師器環と同じく内面に暗文が施された鉢が出土し、土師器瓶は内面にへら磨きが縦横に施される。掘り方 砂礫混じりの褐色土を掘り込んでいるため、掘り方は小さな凹凸が見られる程度であり、床面とほぼ一致する。

時期 8世紀代



第119図 33号住居跡

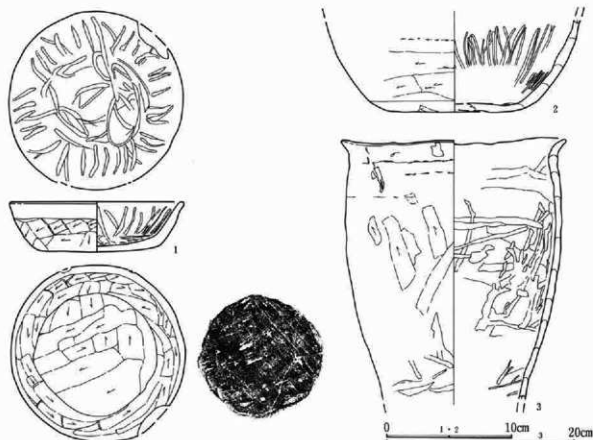


第120図 33号住居跡竈

竈跡 北壁中央部の壁の延長線上を掘り込み燃焼部が構築される。焚口部に僅かに地山掘り残しの袖を有する。埋土中にも大礫が混じり、部分的に焼土塊を含む。燃焼部内壁は焼土化し、火床面は床面よりやや下がる。煙道部へは緩やかに立ち上がる。

竈

- 1 a. 暗褐色土 小礫を僅かに含む。
- 1 b. 暗褐色土と明褐色土の混土層 焼土粒を僅かに含む。
- 2. 暗赤褐色土 焼土粒を含む。しまり弱い。
- 3 a. 褐色土 粒子細かく、しまりあり。
- 3 b. 明褐色土 粒子細かく、しまりあり。焼土粒・小塊を含む。
- 3 c. 明褐色土 3 bと同様だが、焼土粒をやや多く含む。
- 4. 暗褐色土 微小礫・炭化物粒を僅かに含む。
- ①. 明褐色土 黄褐色土小塊含む。
- ②. 明赤褐色土 焼土粒をやや多く含む。



第121図 33号住居跡出土遺物

33号住居跡出土遺物観察表 (PL.60)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 罎	北東 5	完形	口14.0 高4.0 底9.0	①にぶい赤褐色②酸化焙 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へら削り。底部へら削り。 内面放射状暗文。底面縦線状暗文。	
2	土師器 鉢	北東 9	1/2	口一 高一 底(5.5)	①にぶい赤褐色②酸化焙 ③砂粒含む	体部横位へら削り。底部へら削り。内面放射状暗 文。底面縦線状暗文。	
3	土師器 甕	北西 7	口~胴 1/2	口23.5 高一 底一	①にぶい赤褐色②酸化焙 ③小砂粒含む	口縁部短く外反。横ナデ。胴部へら削り後ナデ。 胴部内面横位ナデ後、縦横にへら磨き。	

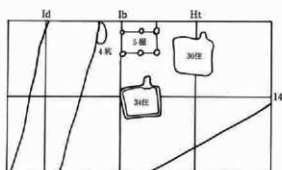
34号住居跡 (PL.17・18・60・61・62)

位置 Ia-14グリッド 床面積 12.5m²

主軸方位 N-3°-W 重複 なし

規模と形状 長辺4.7m、短辺4.0m、残存壁高0.8m
を測り、東西に長い横長方形を呈する。

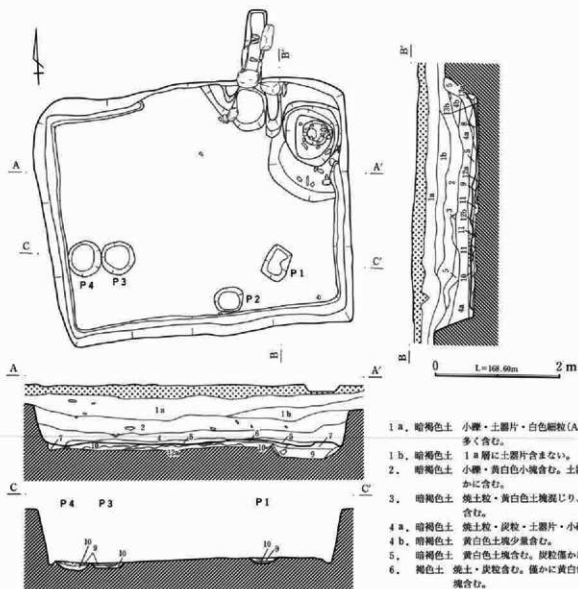
埋土 上面にAs-Bの火山灰をブロック状に含む軽
石層が薄くレンズ状に堆積し、更にその上の軽石混
じりの黒褐色土は住居北西方向に広がる。軽石層下



の粘性の強い暗褐色土中には多量の土器破片が含まれ、住居周辺部の特にな西部に同層広がりが見られ、南西方向からの流れ込みが考えられる。

床面 褐色土と黄褐色土を薄く交互にサンドイッチ状に固く踏み締めた貼床面を検出した。部分的に薄

い灰層が見られ、電前には電構材材に使用されたサラサラの黄褐色シルト質土塊と焼土が散乱している。南西隅寄りには隅丸長形状の浅い掘り込みがあり、焼土粒、灰が薄く堆積していた。



- 1 a. 暗褐色土 小礫・土器片・白色細粒 (As-B) 多く含む。
- 1 b. 暗褐色土 1 a層に土器片含まない。
- 2. 暗褐色土 小礫・黄白色小塊含む。土器片僅かに含む。
- 3. 暗褐色土 焼土粒・黄白色土塊混じり、小礫含む。
- 4 a. 暗褐色土 焼土粒・炭粒・土器片・小礫含む。
- 4 b. 暗褐色土 黄白色土塊少量含む。
- 5. 暗褐色土 黄白色土塊含む。炭粒僅かに含む。
- 6. 褐色土 焼土・炭粒含む。僅かに黄白色土塊含む。

- 7. 灰褐色土 黄白色土塊多量に含む。
- 8. 灰褐色土 黄白色土と焼土の混土。電天井崩落土。
- 9. 灰褐色土 炭化物と灰褐色粘土の混土。
- 10. 灰褐色土 黄白色粘土小塊含む。
- 11. 黄褐色土 全体しまり強い。

- 12 a. 暗黄褐色土 暗褐色土と黄褐色土との混土。非常に固くしまる。貼床面、部分的に橙色に変色。
- 12 b. 黄褐色土 黄褐色粗砂と黄褐色粘土小塊との混土。固くしまる。
- 13 a. 黄白色土 灰褐色土と黄褐色粘土の混土。焼土粒僅かに含む。
- 13 b. 黄白色土 砂塊と灰褐色土塊の混土。

第122図 34号住居跡

竈跡 北壁東隅寄りに住居内に燃焼部を有する竈が付設される。袖は地山黄褐色粘土塊、褐色粘質土塊の混土を貼り付け構築する。燃焼部埋土中には構築材の黄褐色土塊や焼土塊が破壊されたような状態で見られた。火床面は床面と同レベルであり、直上に焼土層がのる。灰の堆積は見られず、奥壁は焼土化している。煙道部へは急角度で立ち上がり、緩やかに壁外に伸びる。また、煙道部側壁及び天井部には大型扁平礫や板状砂岩を立て並べ構築される。

柱穴 西壁際に2本、南壁際に1本、南東隅寄りに1本の計4本のピットを検出した。いずれも掘り込みが浅い。

規模 P 1 長辺0.5m、短辺0.4m、深さ0.06m

P 2 長辺0.4m、深さ0.1m

P 3 長辺0.5m、深さ0.07m

P 4 長辺0.5m、深さ0.11m

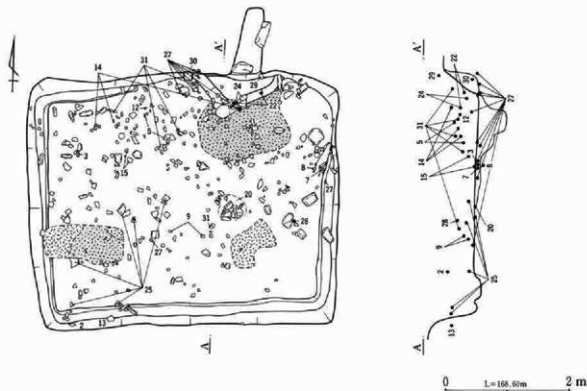
貯蔵穴 北東隅に位置し、上部四角形、下部円形を呈し、2段階に掘り込まれた貯蔵穴を検出した。規模は、長辺0.96m、短辺0.84m、下部円形径0.36m、深さ0.5mを測る。貯蔵穴内には多量の土師器器類を主体とした土器片が出土している。No21の土師器甕は胴下半部が欠けているが正位で置かれたような状態で出土している。埋土中には竈構築材の黄褐色土塊や焼土粒が混入する。

壁下周溝 竈周溝を除き全周する。

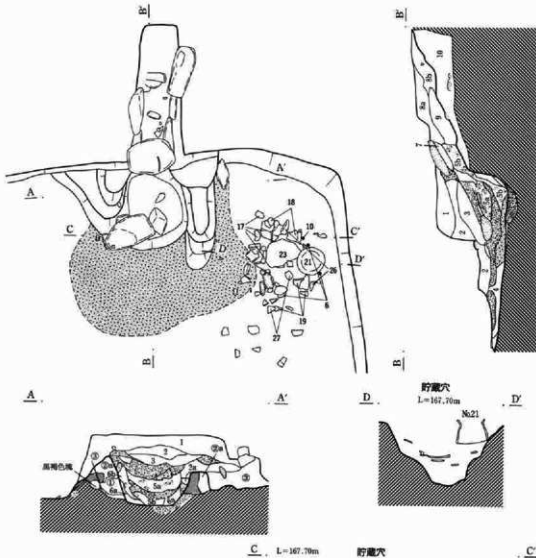
出土遺物 土師器の坏・甕・甔の破片が埋土中に散乱する。内面カエリを持つ須恵器蓋やNo1・2のミニチュア土器は埋土上層より出土している。

掘り方 掘り込みは深く、壁際周辺部は黄褐色粘土層下の小砂礫層上面まで達し、竈前から中央部にかけては若干黄褐色粘土が掘り残され高まりとして残る。

時期 8世紀代

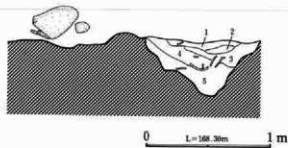


第123図 34号住居跡



竪土層

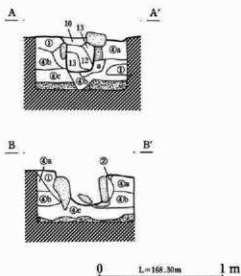
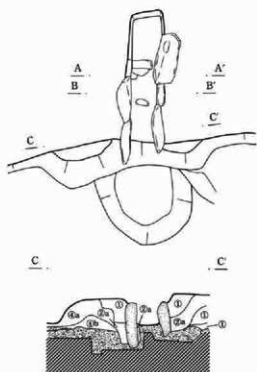
1. 暗褐色土 小礫混じり、焼土粒含む。
2. 暗褐色土 小礫・黄白色土含む。
3. 淡褐色土 黄白色土大塊多量に含む。
4. 灰褐色土 炭粒・焼土粒・黄褐色細砂混じり。
- 5 a. 灰褐色土 黄色土塊・褐色焼土塊の混土。
- 5 b. 灰褐色土 黄色土塊混じり、藍色焼土塊多量に含む。
- 6 a. 灰黄褐色土 黄褐色シルト主体、焼土粒僅かに含む。
- 6 b. 灰黄褐色土 8 a層より焼土多く含む。
7. 灰褐色土 黄褐色土と暗褐色土の混土。
- 8 a. 暗褐色土 小礫含む。粘質土。
- 8 b. 暗褐色土 8 a層に黄褐色土小塊僅かに含む。
9. 暗褐色土 黄褐色土塊・焼土塊僅かに斑点状に含む。
10. 褐色土 黄褐色土含む、粘性強い。



貯蔵穴

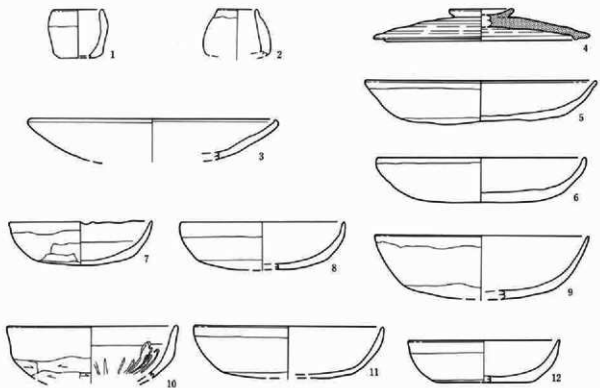
1. 暗褐色土 黄白色土小塊・炭粒僅かに含む。
2. 淡褐色土 黄白色土塊主体。
3. 灰褐色土 黄白色土塊・焼土小塊が斑点状に混じる。粘性あり。
4. 淡灰褐色土 黄白色土塊・焼土大塊の混土・土層片多く含む。
5. 灰褐色土 黄白色土塊僅かに含み、粘性強い。土層片含む。

第124図 34号住居跡竪

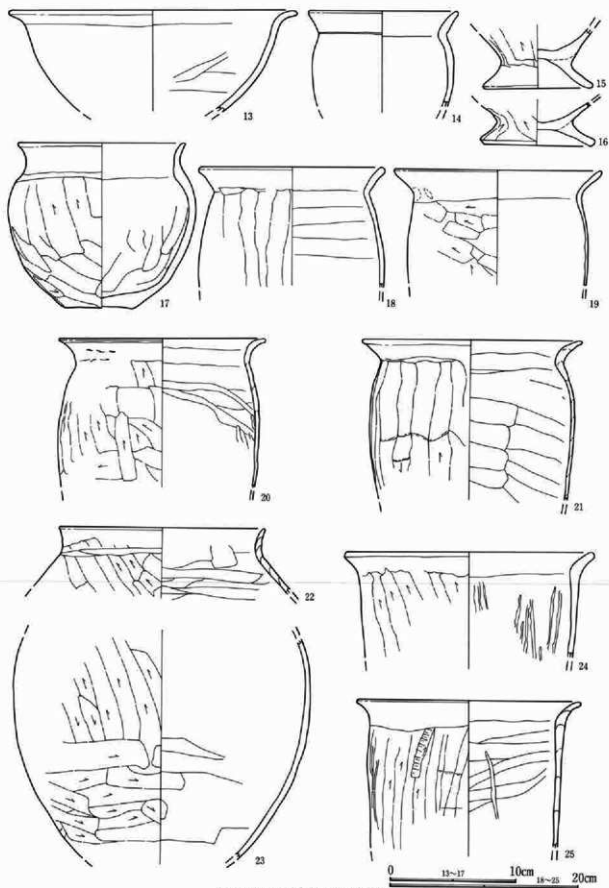


- ① 黄白色土 小礫含む。粘土粒僅かに含む。
- ②a、灰褐色土 黄褐色土と灰褐色土小塊の混土。粘土粒僅かに含む。
- ②b、灰褐色土 ②a層に比べ、粘性強い。
- ③暗褐色土 小砂礫含む。僅やかに黄色土混じる。
- ④a、暗褐色土 白色細砂・黄白色小塊含む。粘性、しまり強い。
- ④b、褐色土 白色細砂僅かに含む。粘性、しまり強い。
- ④c、茶褐色土 白色細砂僅かに含む。粘性、しまり強い。

第125図 34号住居跡竈

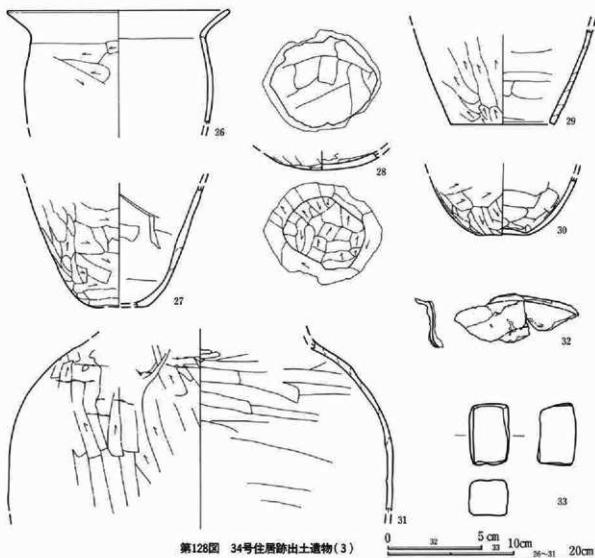


第126図 34号住居跡出土遺物(1)



第127図 34号住居跡出土物(2)

第3章 検出された遺構・遺物



第128図 34号住居跡出土遺物(3)

34号住居跡出土遺物観察表 (PI.60・61・62)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 法	量 (cm)	①色調②焼成③粘土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 小 壺	覆土	1/2	□3.8 高3.8 底一	①に白い焼②酸化焰 ③粘土細粒含む	□縁部横ナズ。体部調整不明瞭。	
2	土師器 小 壺	南西 72	1/2	□3.0 高一 底一	①焼②酸化焰 ③粘土細粒含む	体部から口縁部にかけて内湾。体部下膨れ。□縁部 短く立ち上がり、横ナズ。体部調整不明瞭。	
3	土師器 環	西 10	口縁片	□(19.4) 高一 底一	①焼②酸化焰 ③砂粒・粘土粒含む	□唇部面取状横ナズ。体部ヘラ削り。器高浅く、 皿状を呈する。	
4	須恵器 蓋	覆土	天井〜 端部1/2	□(17.0) 高2.5横み5.0	①灰黄②還元焰 ③焼通	器高浅い。縦横矩形。頂部回転ナズ。内面削り出 し状のカエリを持つ。リング状横み。	
5	土師器 環	西 29	1/2	□18.3 高3.2 底一	①に白い焼②酸化焰 ③砂粒・粘土粒含む	□縁部横ナズ。体部横位ヘラ削り。底部ヘラ削り。	
6	土師器 貯蔵穴内 環	19	1/2	□16.4 高3.5 底一	①焼②酸化焰 ③砂粒・粘土粒含む	□縁部横ナズ。体部から底部調整不明瞭。やや平 底状を呈する。	
7	土師器 環	東 5	完形	□11.3 高3.5 底6.5	①焼②酸化焰 ③砂粒・粘土粒含む	□縁部横ナズ。体部から底部調整不明瞭。	
8	土師器 環	東 -4	1/2	□13.0 高3.8 底一	①焼②酸化焰 ③砂粒・粘土粒含む	□縁部横ナズ。体部から底部調整不明瞭。	
9	土師器 環	中央 17	1/2	□16.8 高5.0 底一	①焼②酸化焰 ③砂粒・粘土粒含む	□縁部横ナズ。体部から底部調整不明瞭。	
10	土師器 環	北東 17	口縁片	□(13.6) 高一 底一	①焼②酸化焰 ③砂粒・粘土粒含む	□縁部横ナズ。体部横位ヘラ削り。内面放射状暗 文。	

第1節 竪穴住居跡の概要

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・蓋形の特徴	備考
11	土器 部 坏	覆土	1/2	口115.0 高4.1 底一	①橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部調整不明瞭。	
12	土器 部 坏	北西 36	1/2	口112.0 高3.3 底8.4	①橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部調整不明瞭。平底状を呈する。	
13	土器 部 鉢	南西 47	口縁片	口(22.4) 高一 底一	①にぶい赤褐色酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。体部湾曲。調整不明瞭。内面横ナデ。	
14	土器 部 小型 壺	北西 34	口へ割 上半1/2	口111.8 高一 底一	①橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	口縁部くの字に外屈横ナデ。胴部調整不明瞭。	
15	土器 部 台付 壺	西 10	脚部	口一 高一 底8.4	①明赤褐色酸化焰 ③砂粒含む	胴下半斜位ナデ。頸部横ナデ。	
16	土器 部 台付 壺	不明	脚部	口一 高一 底9.0	①橙赤酸化焰 ③砂粒含む	胴下半斜位ナデ。頸部縦位ナデ。肩部取り状の指ナデを呈す。	
17	土器 部 小型 壺	貯蔵穴内 23	ほぼ完 形	口13.2 高13.0 底5.5	①橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	口縁から頸部にかけて横ナデ。胴上半斜位、下半斜位へナリ。内面縦位ナデ。	
18	土器 部 壺	貯蔵穴内 25	口へ割 上半1/2	口(19.2) 高一 底一	①橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。頸部くの字に外屈。胴上半斜位へナリ。内面横位ナデ。	
19	土器 部 壺	貯蔵穴内 32	口へ割 1/2	口22.0 高一 底一	①橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。頸部くの字に外屈。指頭圧痕あり。胴上半斜位へナリ。	
20	土器 部 壺	中央 6	口へ割 下半	口22.0 高一 底一	①橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。頸部指頭圧痕。胴上半斜位、中位斜位へナリ。縦位へナリ。	
21	土器 部 壺	貯蔵穴内 12	口へ割 上半	口23.0 高一 底一	①橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	口縁部くの字に外屈、横ナデ。胴上半斜位へナリ。内面横位ナデ。	
22	土器 部 壺	竈内 34	口縁片	口(21.6) 高一 底一	①にぶい橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	口縁部明かく直立。頸部にかけて横ナデ。胴上半斜位へナリ。	
23	土器 部 壺	貯蔵穴内 19	胴部片	口一 高一 底一	①にぶい橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	胴中位斜位へナリ。下半斜位へナリ。内面横位ナデ。	
24	土器 部 壺	竈内 3	口へ割 1/2	口(26.0) 高一 底一	①にぶい橙赤酸化焰 ②砂粒含む	口縁部短かく外反。胴上半斜位へナリ。内面横位ナデ。縦位へナリ。	
25	土器 部 壺	南西 17	口へ割 1/2	口23.6 高一 底一	①橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	口縁部短かく外反。胴上半斜位へナリ。内面横位ナデ。	
26	土器 部 壺	貯蔵穴内 25	口縁片	口(11.8) 高一 底一	①橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	口縁部くの字に外屈、横ナデ。頸部指頭圧痕。胴上半斜位へナリ。	
27	土器 部 壺	竈左袖 土9	胴部下 半	口一 高一 底一	①にぶい黄褐色酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	胴下半斜位へナリ。下部細かく横位へナリ。内面横位ナデ。	
28	土器 部 壺	南東 33	底の み	口一 高一 底8.5	①橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	底部丸底状を呈する。胴下半斜位へナリ。底面へナリ。内面ナデ。	
29	土器 部 壺	竈付近 8	底部片	口一 高一 底(11.6)	①にぶい黄褐色酸化焰 ③小砂粒含む	胴下半斜位へナリ。開口端部面取り。内面横位ナデ。	
30	土器 部 壺	竈左袖 10	底部	口一 高一 底5.4	①にぶい橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	胴下半斜位へナリ。下部縦横の縞かいへナリ。内面縦位ナデ。	
31	土器 部 壺	北西 35	胴部1/2	口一 高一 底一	①にぶい橙赤酸化焰 ②砂粒・粘土粒含む	胴上半斜位ナデ後、斜位へナリ。内面横位ナデ。	
32	鉄製品	竈前	破片	<計測値>長6.4、幅2.55、厚0.4、重7.48g <特徴>銀線部屈曲。中央や盛り上がる。			
33	石製品	竈左袖	完形	<計測値>長4.8、幅3.0、厚2.8、重30g <石材>角閃石・安山岩 <特徴>長方形形状を呈し、長側面2面に若干凹が縦位に見られる。			

35号住居跡 (PL19・62)

位置 Hi-19グリッド 床面積 8.8㎡

主軸方位 N-0° 重複 なし

規模と形状 北壁長5m、南壁長4m、南北長3m、
残存壁高0.4mを測り、形状は北壁の長い台形状を呈する。

埋土 住居周辺部の地山褐色土は、締まり弱く小礫を多量に含む層であるため、壁は弱く崩落による三

角堆積が壁際に見られる。また埋土中には同層に黄白色土小塊や土器破片が多く混じり、人為的埋没土の可能性が考えられる。

床面 小礫、黄褐色土小塊混じりの暗褐色土が薄く貼られるが、地山礫層の影響を受け締まり弱い。竈前には焼土、炭粒が部分的に含まれる。

竈跡 北壁東隅寄りの壁面を掘り込み、壁の延長線上に燃焼部が位置する。袖は、地山塊を貼り付け構

第3章 検出された遺構・遺物

築される。右袖先端部に30cm程の大礫が置かれ、補強材に使用されたものか。燃烧部内壁は弱く焼土化する。火床面は、床面と同レベルであり灰層等の堆積は薄い。煙道部へは緩やかに立ち上がり、奥壁は焼土化している。室内からは土師器甕の破片が多数に出土している。

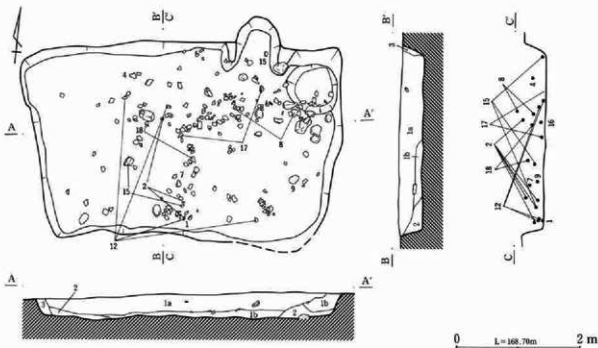
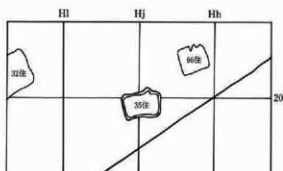
柱穴・壁下周溝 いずれも検出されなかった。

貯蔵穴 北東隅に位置し、規模は、一辺0.8m、深さ0.06mを測り、形状は円形を呈する。土師器破片が多く出土している。

出土遺物 埋土層から土器破片や礫が出土しており、その中でも土師器甕が多数に出土している。

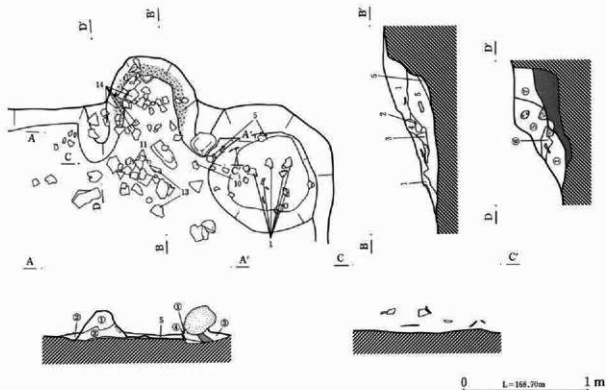
掘り方 確認面は砂礫混じりの暗褐色土を掘り込み、その下層の地山礫層も若干掘り込む。底面には特に起伏は見られず床面と一致する。

時期 8世紀代



- 1 a, 淡褐色土 小礫多量に含む。黄白色土小塊・土器片含む。
- 1 b, 淡褐色土 小礫含む。黄白色土塊部に含む。
- 2, 暗褐色土 小礫混じり、しまりやあり。
- 3, 黄茶色土 砂質土・礫混かに含む。

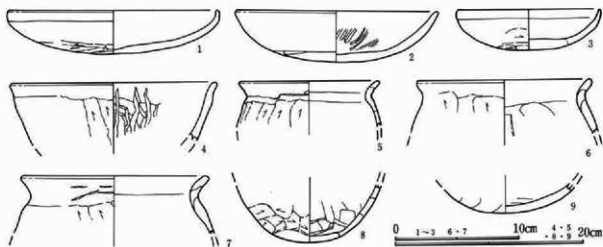
第129図 35号住居跡



1. 暗褐色土 微小礫、黄色土粒を僅かに含む。しまり弱し。
2. 暗褐色土と黄色土の混土层
3. 淡赤褐色土 粒子は細かいが、フカフカした層。
4. 黄褐色土 砂質塊。
5. 暗褐色土 黄色土粒を多く含む。
- ①. 淡褐色土 黄褐色土粒・微小礫を僅かに含み、粒子は疎密。

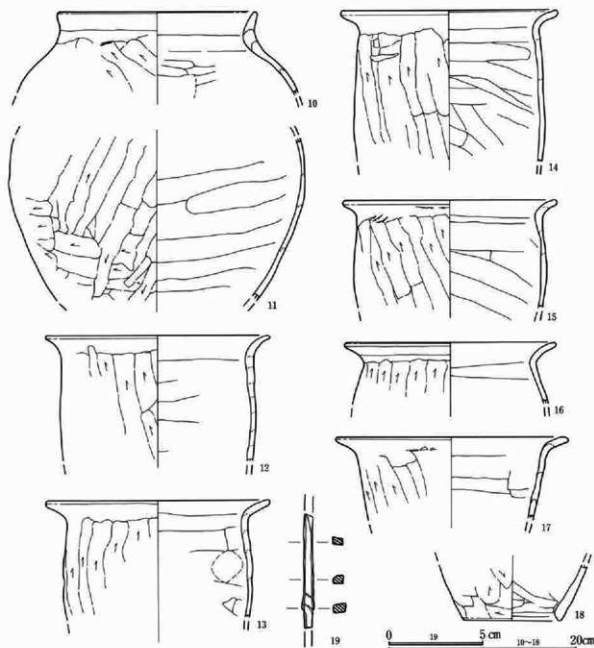
- ②. 暗褐色土 黄色細砂・小礫を含む。しまりは弱い。
- ③. 褐色土と黄色細砂土の混土层
- ④. 黄褐色細砂層。(地山)
- ⑤. 淡褐色土 小礫・黄土粒を僅かに含み、微小礫を多く含む。
- ⑥. 褐色土 黄土粒を僅かに含む。粒子は細かい。
- ⑦. 褐色土 比較的しまりあり。(地山)

第130図 35号住居跡画



第131図 35号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第132図 35号住居跡出土遺物(2)

35号住居跡出土遺物観察表 (PL.62)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土部器 環	貯蔵穴内	口～底 3/5	口16.2 高3.4 底—	①明赤褐色酸化焰 ③細粒含む	器高く、盤状を呈する。口縁部横ナデ。体部未調整。底部へタ削り。	
2	土部器 環	南 13	口～底 3/5	口(15.8) 高4.1 底—	①褐色酸化焰 ③細粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へタ削り。底部平底状を呈し、へタ削り。内面放射状暗文。	
3	土部器 環	覆土	口～底 3/5	口(11.4) 高3.2 底—	①褐色酸化焰 ③細粒を含む	口縁部横ナデ。口縁下未調整。体部から底部手持ちへタ削り。	
4	土部器 環	北西 31	口縁部 片	口(21.6) 高— 底—	①にぶい褐色酸化焰 ③細粒を含む	口縁部横ナデ。体部斜縦位へタ削り。内面横ナデ後、へタ磨き。	
5	土部器 小型壺	貯蔵穴際 ±0	口～胴 上3/5	口(14.6) 高— 底—	①明赤褐色酸化焰 ③細粒含む	口縁部横ナデ、くの字に外唇。胴上半縦位ナデ。内面横位ナデ。	
6	土部器 小型壺	覆土	口縁部 胴上3/5	口(13.6) 高— 底—	①暗赤褐色酸化焰 ③細粒を含む	口縁部横ナデ、くの字に外唇。胴上半縦位へタ削り。内面横位ナデ。	

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②構成③粘土	器形・墓形の特徴	備考
7	土師器 小型壺	南 28	口縁片 高一 底一	口(14.4)	①灰褐色酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ、くの字に外屈。胴上半縦位ヘラ削り。内面横位ナデ。	
8	土師器 小型壺	貯蔵穴際	胴下部 へ底 $\frac{1}{2}$	口一 高一 底一	①褐色酸化焰 ③砂粒混じる	胴下半細かく横位ヘラ削り。底部調整不明瞭。内面横位ナデ後、乱れた拵ナデ。	
9	土師器 壺	南東 17	底部	口一 高一 底一	①にぶい赤褐色酸化焰 ③砂粒含む	丸底状の底部。不定方向への削り。内面丁寧なナデ。	
10	土師器 壺	北東 3	口一 高 一 底一	口(21.0)	①褐色酸化焰 ③砂粒含む	口縁部直立、横ナデ。胴上半部斜位ヘラ削り。内面横位ナデ。	
11	土師器 壺	竈前 土0	胴部片 口一 高 一 底一	口一 高一 底一	①明褐色酸化焰 ③砂粒含む	胴中位上部にかつ斜縦位。下半横位ヘラ削り。内面横位ナデ。球形胴。	
12	土師器 瓶	中央 16	口一 胴 部 $\frac{1}{2}$	口(23.4)	①にぶい褐色酸化焰 ③砂粒混じり	口縁部短く外反。胴上半斜縦位ヘラ削り。内面丁寧な横位ナデ。	
13	土師器 瓶	竈前 15	口一 胴 部 $\frac{1}{2}$	口(21.5)	①明褐色酸化焰 ③砂粒・粘土含む	口縁部外屈、斜縦位ヘラ削り。内面丁寧な横位ナデ。	
14	土師器 壺	竈内 9	口一 胴 上半 $\frac{1}{2}$	口(22.6)	①にぶい褐色酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。外屈胴上半斜縦位ヘラ削り。内面横位ナデ。	No.15と同一 個体
15	土師器 壺	南西 23	口一 胴 部 $\frac{1}{2}$	口(22.4)	①にぶい褐色酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上半斜縦位ヘラ削り。内面横位ナデ。	No.14と 同一個体
16	土師器 壺	北東 9	口縁部 一 高 一 底一	口(22.2)	①褐色酸化焰 ③砂粒・粘土含む	口縁部大きく外反、横ナデ。胴上半斜位ヘラ削り。	
17	土師器 瓶	中央 4	口縁片 一 高 一 底一	口(24.2)	①褐色酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上半斜縦位ヘラ削り。内面横位ナデ。	
18	土師器 瓶	中央 26	下部 $\frac{1}{2}$ 一 高 一 底(10.0)	口一 高一 底一	①褐色酸化焰 ③砂粒混じる	胴下半斜位、下層横位ヘラ削り。胴口部2段の面取り。内面斜横位ナデ。	
19	鉄器 鉄	南壁際 21	両端部 大欠損	<計測値>長(6.0)、幅0.5、厚0.45、重4.32g <特徴>角棒状を呈し、断面長方形。基部?			

36号住居跡 (PL19・62・63・64)

位置 Hh-21グリッド 床面積 8.8㎡

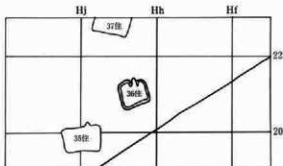
主軸方位 N-15°-W 重複 なし

規模と形状 長辺3.5m、短辺3.3m、残存壁高0.4mを測り、形状は正方形を呈する。

埋土 下層は大礫を多量に含み、中層には土器片・黄白色砂(地山)塊混じりの層が見られ、人為的な埋土と考えられる。

床面 小礫を含み、淡黄褐色砂質土を多量に含む褐色土を床面として利用している。焼土、灰の広がりや貼床面の踏み締められた面は認められなかった。

竈跡 北壁ほぼ中央に位置し、壁を僅かに掘り込み燃焼部を構築している。両袖部分に小礫が並べられたような状態で出土し、補強材として用いられた礫と考えられる。袖は地山を生かして先端部にのみ暗褐色土を貼る。燃焼部内に、天井部の淡赤褐色に焼土化した土が落ち込み、竈前には破壊された構築材の



黄褐色粘土塊の広がりが見られた。火床面は緩やかに立ち上がり、煙道部へは急激に立ち上がる。煙道部の掘り込みは確認されなかったが、煙道部に利用されたと考えられる土師器壺が埋置されていた。

柱穴 南壁際中央で掘り込みの浅い円形の柱穴P1を検出した。位置的には入口施設に伴う柱穴とも考えられる。

第3章 検出された遺構・遺物

規模 P1 長辺0.3m、深さ0.1m

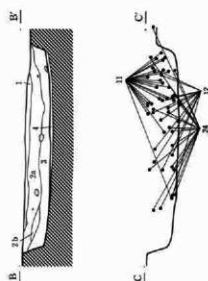
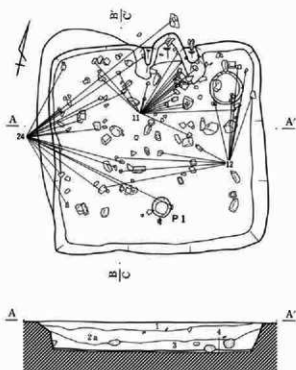
貯蔵穴 北東隅寄りに位置し、規模は長辺0.55m、深さ0.1mを測り、形状は円形を呈する。

壁下周溝 検出されなかった。

出土遺物 土師器環・甕類の多量の破片が、中央から北壁寄りの埋土全体に散乱している。

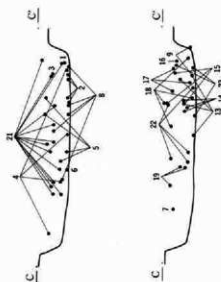
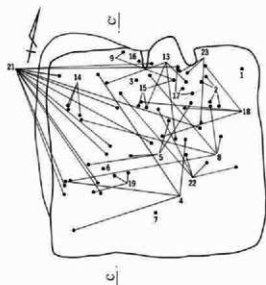
掘り方 地山砂質土を掘り込む。

時期 8世紀代

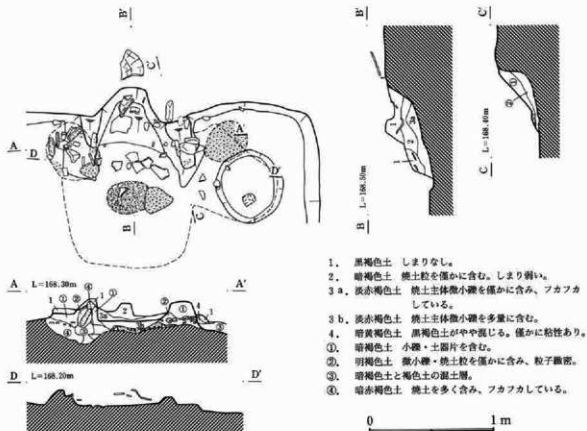


1. 黒褐色土 小礫混じり、しまり大変弱い。
- 2 a. 淡褐色土 小礫・黄白色砂塊混じり、土器片多量に含む。
- 2 b. 淡褐色土 小礫・黄白色砂塊主体。
3. 暗褐色土 小礫・大礫混じり、しまり他の層に比べあり。
4. 褐色土 床下土。小礫と淡黄褐色砂質土多量に混じる。しまり弱い。

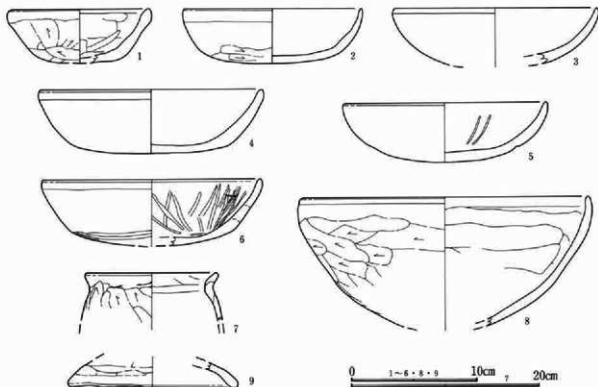
0 L=148.50m 2m



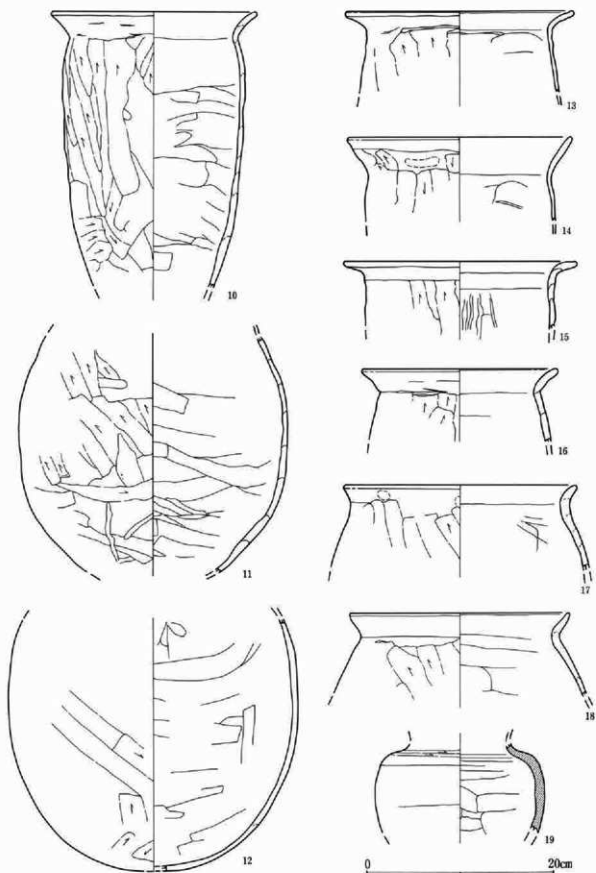
第133図 36号住居跡



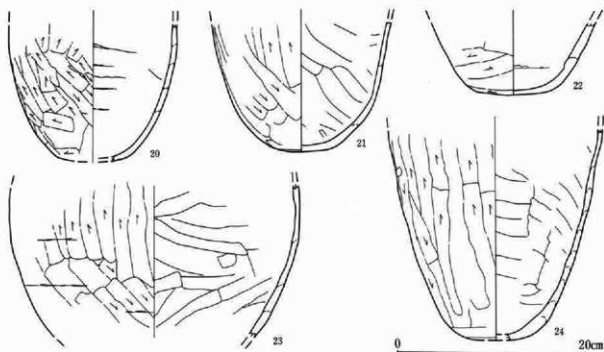
第134図 36号住居跡電



第135図 36号住居跡出土遺物(1)



第136図 36号住居跡出土遺物(2)



第137図 36号住居跡出土遺物(3)

36号住居跡出土遺物観察表 (PL.62・63・64)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 法	量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	北東隅 38	破片	口(11.0) 高一 底一	①において赤褐色酸化 焙③粘土粒含む	手づくね状土器。外面不定方向へ削り。内面指 重圧痕状のナデ。	
2	土師器 杯	電前 2	口へ底 片	口14.2 高4.2 底6.5	①褐色酸化焙 ③粘土粒含む	①縁部横ナデ。体部横位へ削り。底部平底を呈 し、へ削り。	
3	土師器 杯	左電袖 24	口縁部 片	口(8.0) 高一 底一	①明赤褐色酸化焙 ③粘土粒含む	口唇部横ナデ。体部調整不明瞭。	
4	土師器 杯	南西 9	片	口(17.5) 高 5.0 底(12.0)	①褐色酸化焙 ③粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へ削り。底部平底を呈 し、へ削り。	
5	土師器 杯	電前 12	口へ底 片	口(16.0) 高(4.7)底5.0	①褐色酸化焙 ③粘土粒含む	器表面細く、調整不明瞭。内面放射状増文。	
6	土師器 杯	南西 2	片	口17.2 高一 底一	①褐色酸化焙 ③粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へ削り。底部平底を呈 し、へ削り。内面磨き状の増文。	
7	土師器 壺	南東 33	口縁部 片	口(13.8) 高一 底一	①において赤褐色酸化 焙③砂粒含む	口縁部短く外反、横ナデ。胴上半斜位へ削り。 内面横位ナデ。	
8	土師器 鉢	北西 ±0	口へ胴 片	口22.6 高一 底一	①において赤褐色酸化 焙③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位細かなへ削り。内面横 位ナデ。	
9	土師器 台付壺	電左袖 4	底部片	口一 高一 底13.0	①灰褐色酸化焙 ③砂粒含む	作り難。裾部横ナデ。指重圧痕あり。	
10	土師器 壺	電付近 7	口へ胴 片	口(22.0) 高一 底一	①明赤褐色酸化焙 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。胴部上半縦位、下半横位へ削り 後、斜位へ削り。内面横位ナデ。	
11	土師器 壺	電付近 28	胴部 片	口一 高一 底一	①褐色酸化焙 ③砂粒含む	胴部球形状を呈する。上半斜位、下半斜横位へ削 り後、縦横指ナデ。内面横位ナデ。	
12	土師器 壺	南東 9	胴部 片	口一 高一 底一	①明赤褐色酸化焙 ③砂粒含む	胴部下翻れ状を呈する。上半斜位、下半斜縦位へ 削り。内面横位ナデ。	
13	土師器 壺	中央 ±0	口縁部 片	口(24.0) 高一 底一	①褐色酸化焙 ③砂粒含む	口縁部大きく外反、横ナデ。胴上半縦位へ削り。 内面横位ナデ。	
14	土師器 壺	北西 ±0	口縁部 片	口(24.0) 高一 底一	①褐色酸化焙 ③砂粒含む	口縁部2段横ナデ。指重圧痕あり。胴上半縦位へ削 り。内面横位ナデ。	
15	土師器 壺	電前 29	口縁部 片	口(24.6) 高一 底一	①褐色酸化焙 ③砂粒含む	口縁部大きく外反、横ナデ。胴上半縦位へ削り。 内面横位ナデ後、縦位へ削り。	
16	土師器 壺	電内 26	口縁部 片	口(20.5) 高一 底一	①において赤褐色酸化焙 ③砂粒含む	口縁部外反、横ナデ。胴上半縦位へ削り。内面 横位ナデ。	

第3章 検出された遺構・遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	決 量 (cm)	①赤銅②酸化焰 ③粗砂粒含む	器形・繋形の特徴	備考
17	土師器 壺	竈内 5	口縁部 片 1/2	口(24.4) 高一 底一	①におい赤銅②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横短く外反、ナデ。胴上半斜位へテ削り。 内面横位ナデ。	
18	土師器 壺	竈前	口縁部 片 高一 底一	口(23.4)	①明赤銅②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。口唇頂部面取り。胴上半斜位へテ削り。内面横位ナデ。	
19	須恵器 短須恵	南西 16	胴へ削り 1/2	口一 高一 底一	①におい黄褐色②還元焰 ③粗砂粒含む	口縁部直立。肩部張る。胴外面削落。内面横位ナデ。	
20	土師器 壺	竈内 4	胴部1/2	口一 高一 底一	①明赤銅②酸化焰 ③粗砂粒含む	胴下半細かな斜位へテ削り。内面横位ナデ。	
21	土師器 壺	中央 23	胴へ底 1/2	口一 高一 底6.0	①におい黄褐色②酸化焰 ③粗砂粒含む	胴下半斜位へテ削り。内面横位ナデ。底面指ナデ。	
22	土師器 壺	中央 -4	底部	口一 高一 底8.0	①におい黄褐色②酸化焰 ③粗砂粒含む	胴下半斜位へテ削り。腰部横位へテ削り。内面横位ナデ。	
23	土師器 壺	北東 8	胴部1/2	口一 高一 底一	①におい黄褐色②酸化焰 ③粗砂粒含む	やや胴球形状を呈する。上半斜位、下半斜位へテ削り。内面横位ナデ。	
24	土師器 壺	西壁 ±0	胴へ底 1/2	口一 高一 底(6.0)	①明赤銅②酸化焰 ③粗砂粒含む	胴部下半斜位へテ削り。腰部横位へテ削り。内面横位ナデ。	

37号住居跡 (PL20・64・65)

位置 Hi-22グリッド 床面積 14.4㎡

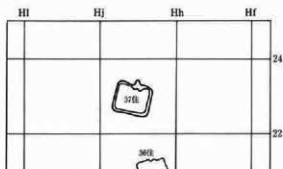
主軸方位 N-11°-E 重複 なし

規模と形状 長辺4.7m、短辺3.9m、残存壁高0.7mを測り、東西に長い横長方形を呈する。

埋土 北西隅から住居中央部に向かって、拳大から人頭大の大礫が多量に出土し、出土層位も2a・2b層に集中して見られることから、住居埋没途中に人為的に投げ込まれたと考えられる。また、しまりの弱い褐色シルト質土と下層の黄褐色シルト質土を掘り込んでいるため、壁面は随く壁際には崩落による三角堆積が見られる。

床面 東壁寄りか掘り方をそのまま床面として利用しており、やや高く残る。西半分は僅かに掘り込まれ、黄褐色シルト質土の小塊を含む暗褐色土が薄く貼られ水平面となっている。床面のしまりは弱く、竈前にはやや踏み締められた面を確認したが、焼土、灰の広がりは見られない。

竈跡 北壁中央やや東寄り壁内に燃焼部を有する竈が付設される。袖は黄褐色土塊と褐色土塊の混土を貼り付け構築される。壁面の焼けは弱く、火床面は床面より若干掘りくぼまれるが灰などの堆積は薄い。埋土中層には天井部が焼土化した構築材の崩落が見られた。煙道部へは急角度で立ち上がる。煙道部は壁外を掘り込み、一旦水平方向に伸びるがその



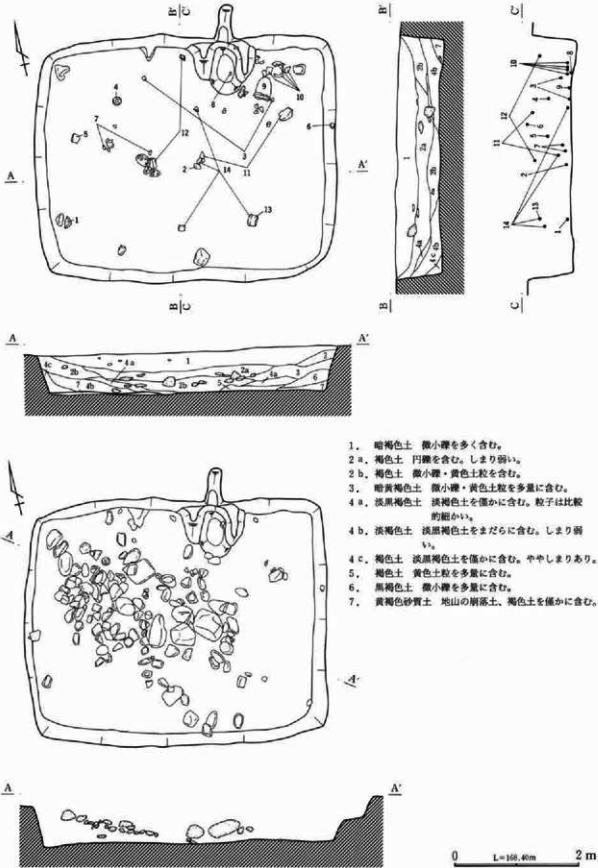
後、煙り出し部に向かい斜めに立ち上がる。

柱穴・貯蔵穴・壁下周溝 いずれも検出されなかった。

出土遺物 竈右袖脇に壺の完形及び大型破片が集中して出土している。内面にカエリを持つ須恵器蓋は、かなり歪みが見られる。出土位置は南西部の床面から僅かに浮いていた。また、竈内には手づくね土器No 8が出土している。

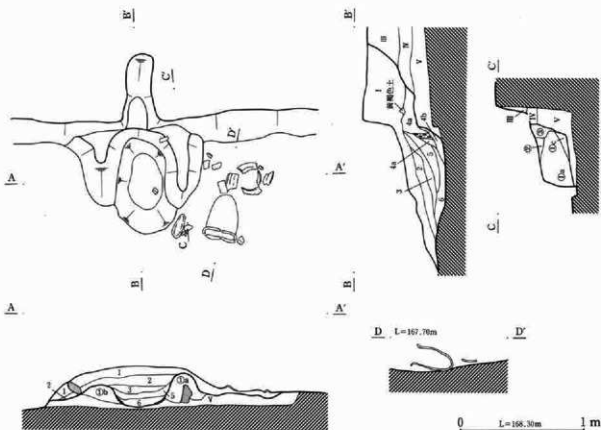
掘り方 しまりが弱く小礫を含む褐色土から黄褐色シルト質土まで掘り込む。東側は小砂礫混じりの黄褐色土と土質が変わるために、西側程掘り込まれなかった。

時期 8世紀代



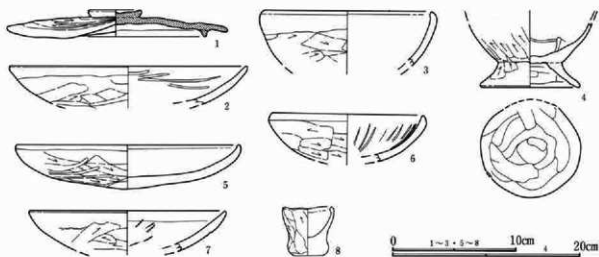
1. 暗褐色土 微小礫を多く含む。
- 2 a. 褐色土 円礫を含む。しまり弱い。
- 2 b. 褐色土 微小礫・黄色土粒を含む。
3. 暗黄褐色土 微小礫・黄色土粒を多量に含む。
- 4 a. 淡黒褐色土 淡褐色土を僅かに含む。粒子は比較的細かい。
- 4 b. 淡褐色土 淡黒褐色土をまだらに含む。しまり弱い。
- 4 c. 褐色土 淡黒褐色土を僅かに含む。ややしまりあり。
5. 褐色土 黄色土粒を多量に含む。
6. 黒褐色土 微小礫を多量に含む。
7. 黄褐色砂質土 地山の崩落土、褐色土を僅かに含む。

第138図 37号住居跡

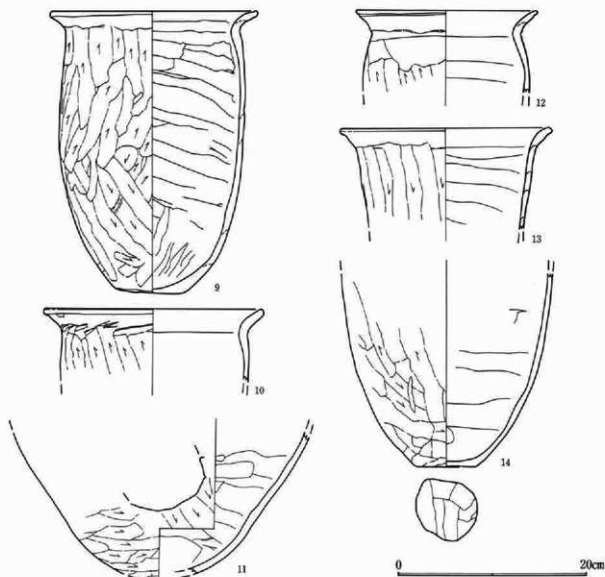


1. 褐色土 微小礫を多量に含む。しまり弱し。
 2. 黒褐色土 褐色土・微小礫を僅かに含む。しまり弱し。
 3. 黄茶褐色土 粒子細かく、焼土粒を僅かに含む。
 - 4 a, 明褐色土 黄褐色土粒凝じり、焼土粒僅かに含む。粒子緻密。
 - 4 b, 明褐色土 4 aと同様だが、焼土粒はやや多く含む。
 5. 淡赤褐色土 粒子細かく微小礫も僅かに含む。淡く焼土化。
 6. 暗褐色土 微小礫を5より若干多く含む。焼土粒を僅かに含む。
- ① a, 淡褐色土 焼土粒をごく僅かに含む、粒子緻密。
 - ① b, 淡褐色土 ① aと比べ、焼土粒を若干多く含む。粒子緻密。
 - ① c, 淡褐色土と淡黄褐色土、細砂土の混土層
 - ②, 暗褐色土と淡黄褐色細砂土の混土層
 - ③, ②の崩落土 しまりは大変弱い。
 - III・IV・V層は基本土層参照

第139図 37号住居跡露



第140図 37号住居跡出土遺物(1)



第141図 37号住居跡出土遺物(2)

37号住居跡出土遺物観察表 (PL.64・65)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色陶②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 蓋	南西部西 壁寄り11	1/2	口17.7 高2.1 底—	①灰②還元焰 ③細砂粒含む	歪み大きく板状を呈する。轆轤整形。頂部凹転ヘ ラ削り。カエリ貼付後ナデ。挽部ボタン状。	
2	土師器 鉢	中央	口縁1/2 7	口(19.0) 高— 底—	①焼②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部ヘラ削り。内面磨き 杖ヘラナデ。	
3	土師器 鉢	竈周辺	口縁1/2 ±0	口(13.2) 高— 底—	①にぶい黄褐色酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部細かな横位ヘラ削り。	
4	土師器 台付壺	北西	胴下部 35.5	口— 高— 底(10.2)	①焼②酸化焰 ③細砂粒含む	胴下半斜線位ヘラ削り。脚部ハの字状に開く。内 面指ナデ。	
5	土師器 鉢	北西	口〜底 37.5	口(17.7) 高3.4 底—	①にぶい赤褐色酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部ヘラ削り後、ヘラナ デ。	
6	土師器 鉢	東壁上	口縁片 66	口(12.0) 高— 底—	①焼②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部にかけ横位ヘラ削り 後、内面ナデ後放射状吻。	
7	土師器 鉢	中央寄り	口縁片 12	口(15.6) 高— 底—	①にぶい黄褐色酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位ヘラ削り。内面縁刻による 放射状吻。	
8	ミナチュ ア土器	燃焼部	口〜底 1.7	口(3.7) 高3.7 底2.2	①にぶい焼②酸化焰 ③細砂粒含む	粘土塊引き上げ。底部肥厚。	

第3章 検出された遺構・遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 法	量 (cm)	①色調②構成③胎土	器形・整形の特徴	備考
9	土師器 壺	甕右袖付 近±0	完形	口21.8 高29.7 底7.0	①褐色酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴部斜線位ヘラ削り。内面横位ナデ。	
10	土師器 壺	甕右袖 東側±0	口へ削 上位	口(23.1) 高一 底一	①明赤褐色酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上端斜線位ヘラ削り。内面横位ナデ。	
11	土師器 壺	北東 59.4	底下位 1/2	口一 高一 底一	①いぶい褐色酸化焰 ③砂粒含む	胴部球形状を呈する。中位、焼成後穿孔と思われる円孔あり。底部丸底を呈する。	
12	土師器 壺	中央 58	口へ削 1/2	口(19.0) 高一 底一	①明赤褐色酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴部指ナデ。胴上半斜線位ヘラ削り。内面横ナデ。	
13	土師器 壺	南東 45	口へ削 1/2	口(22.0) 高一 底一	①灰褐色酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴部面取り。胴上半斜線位ヘラ削り。内面横位ナデ。	
14	土師器 壺	南 45	胴へ削 1/2	口一 高一 底6.4	①明褐色酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴下半斜線位ヘラ削り。下端横位ヘラ削り。底部ヘラ削り。内面横位ナデ。	

38号住居跡 (PL20・65・66)

位置 Hj-27グリッド 床面積 30.5㎡

主軸方位 N-28°-W 重複 なし

規模と形状 一辺6.0m、残存壁高0.4mを測り、正方形を呈する。

埋土 住居中央部の1層から3層までは、As-Bが多量に含まれ、全体にしまりの弱い層が堆積していた。断面観察では、土坑または埋没過程の落ち込みとも考えられるが断面観察用部分しか残らず形状等は不明である。住居埋土は小礫混じりの褐色土を主としている。また東壁と南壁際には炭化材が多く含まれる。

床面 各隅寄りには棒状炭化物が出土しており、部分的に焼土、灰の集中する部分が見られる。住居中央から、竈前は固く踏み締められている。柱穴跡または周辺部には10cm程の中礫が多く見られる。

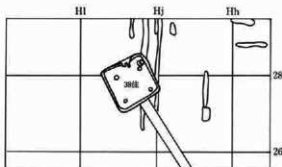
竈跡 北壁中央部住居内に燃焼部を有する竈が付設される。焚口部には、砂岩の板状礫が鳥居状に組まれ補強材として利用されている。袖は地山塊を貼り付け構築される。竈内には天井崩落土が見られる。火床面は床面と同一レベルであり焼土が僅かに見られ、部分的に礫が露出している。

柱穴 各隅対角線上に4本検出した。掘り込みは浅く円形を呈する。脇には小礫が出土している。

規模 P1 長辺0.59m、深さ0.13m

P2 長辺0.53m、深さ0.15m

P3 長辺0.56m、短辺0.52m、深さ0.15m



P4 長辺0.60m、短辺0.51m、深さ0.13m

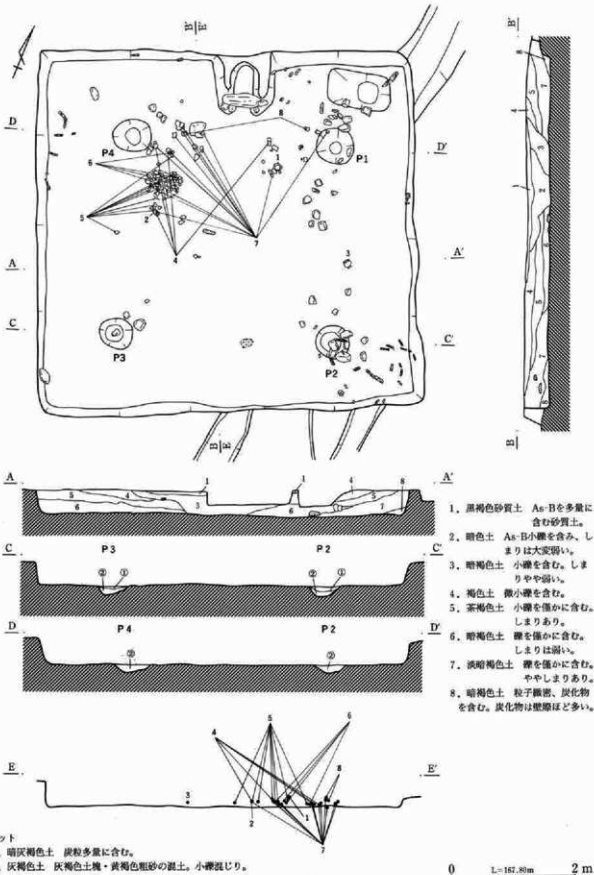
貯蔵穴 北東隅に位置し、規模は長辺1.0m、短辺0.58m、深さ0.66mを測り、形状は長方形を呈する。

壁下周溝 検出されなかった。

出土遺物 P1、P2の間に№3の完形の小型台付壺が出土。№1の須恵器高台付壺は、土坑又は落ち込み内の出土である。P4付近に壺類集中する。

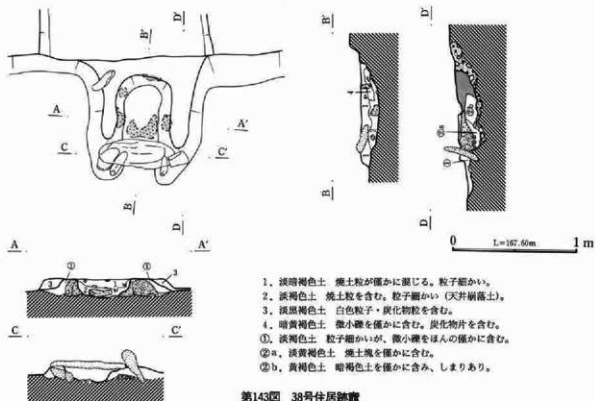
掘り方 礫層上面で掘り込みは止められ、部分的に礫層が露出している。

時期 8世紀代

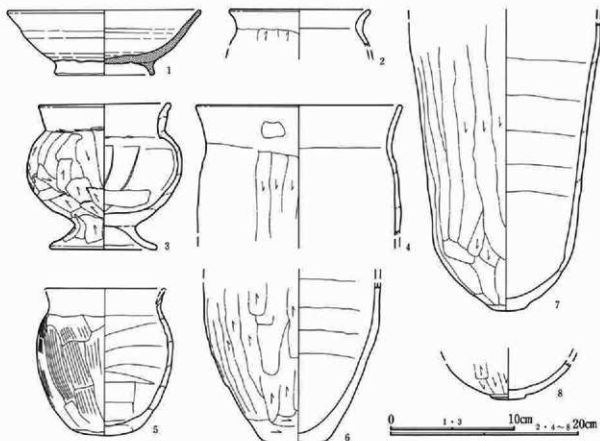


第142図 38号住居跡

第3章 検出された遺構・遺物



第143図 38号住居跡遺



第144図 38号住居跡出土遺物

38号住居跡出土遺物観察表 (PL65・66)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 中央 15	口~底 1/2	口(15.2) 高5.1 底7.4	①にぶい②還元焼 ③片岩小礫含む	縁縁整形。回転糸切り後、高台部貼付。	別遺構	
2	土師器 小形壺 8	口縁部 1/2	口(14.8) 高一 底一	①にぶい②酸化焼 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上端縁位へラ削り。		
3	土師器 小形台付壺 5	ほぼ完形	口10.2 高11.4 底8.2	①にぶい②還元焼 ③砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。胴部球形。縁位へラ削り。胴部縁位ナデ。腹部横ナデ。内面横位へラナデ。		
4	土師器 瓶 5	口~胴上 1/2	口(21.2) 高一 底一	①にぶい②還元焼 ③粗砂粒含む	口縁部深く外反。横ナデ。胴上半縁位へラ削り。内面横位ナデ。		
5	土師器 小形壺 12	口~底 1/2	口(12.5) 高15.5 底6.3	①にぶい②酸化焼 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。胴部小口状工具による斜縁位削り。内面横位へラナデ。		
6	土師器 壺 8	胴~底 1/2	口一 高一 底7.5	①にぶい②還元焼 ③粗砂粒多量混じる	胴下半縁位へラ削り。腹部横位へラ削り。内面横位ナデ。		
7	土師器 壺 8	胴~底 1/2	口一 高一 底4.0	①明赤褐色酸化焼 ③粗砂粒含む	長胴形。縁位へラ削り。下端部細かなへラ削り。底部突起状の台部。内表面へラナデ。		
8	土師器 壺 10	底部片	口一 高一 底3.6	①にぶい②還元焼 ③粗砂粒含む	腹部湾曲。底部突起状の台部。		

39号住居跡 (PL21・66)

本住居は床面上に棒状炭化材や焼土、灰が散乱し、焼失家屋の状況を呈する。焼失に際しては、出土遺物が少なく、竈内に構築材がブロック状に落ち込み、焚口部の天井石が落ちていることなどから破壊された状況が窺われ、失火ではなく放火による焼失と考えられる。また、壁面の焼けが、粘質土にもかかわらず焼土化していない状況から火力はあまり強くないと考えられ、上屋等除去後腐材のみを焼いたものと考えられる。

位置 HI-17グリッド 床面積 24.1㎡

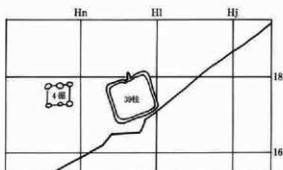
主軸方位 N-17-W 重複 なし

規模と形状 長辺5.7m、短辺5.1m、残存壁高0.75mを測り、東西に僅かに長い横長方形を呈する。

埋土 上層は、As-B混土の黒褐色土中に礫が多量に含まれ、中層以下は地山塊や礫を多く含む混土が観察でき、人為的な埋土と考えられる。床面直上には炭、炭化材等が混入する。

床面 棒状炭化材が住居中央部を中心に散乱し、焼土、灰の広がりが見られる。竈前には竈構築土である粘質土の塊が散乱する。東壁から1m程の巾でテラス状に掘り残された高まりが見られる。

竈跡 北壁中央部住居内に燃焼部を有する竈が付設される。袖は黄褐色粘質土塊を主体とする粘質土を



貼り付け構築し、焚口部前には鳥居状に組まれた板状礫が落下した状態で出土。燃焼部埋土中には天井部の内面焼土化した構築材が崩落状態で出土。燃焼部内壁は焼土化する。煙道部へは急角度で立ち上がり、煙道は水平方向に壁外に伸び、煙り出し部で垂直に立ち上がる。また煙道部は方形に掘り抜かれ、焼土化した側壁や天井部が残る。

柱穴 各隅対角線上に主柱穴を4本と南壁際中央部に出入口施設用と考えられる小穴1本検出した。

- 規模 P 1 長辺0.41m、短辺0.38m、深さ0.17m
 P 2 長辺0.31m、短辺0.20m、深さ0.26m
 P 3 長辺0.39m、短辺0.28m、深さ0.40m
 P 4 長辺0.54m、短辺(0.43)m、深さ0.26m
 P 5 長辺0.30m、短辺0.24m、深さ0.11m

第3章 検出された遺構・遺物

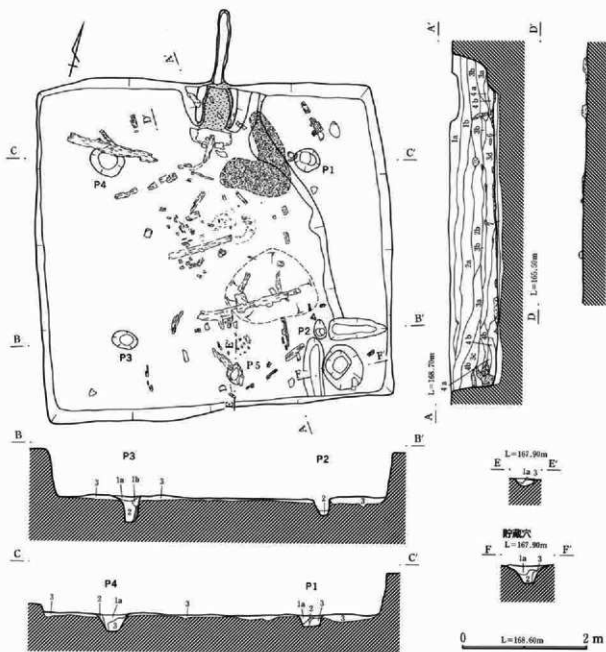
貯蔵穴 南東隅に位置し、貯蔵穴を囲うように地山掘り残しの高まりが見られる。高まりの内側の規模は長辺1m、短辺0.8mを測り長方形形状を呈する。内側の貯蔵穴の規模は長辺0.7m、短辺0.6m、深さ0.3mを測り円形を呈する。

壁下周溝 検出されなかった。

出土遺物 竈前から南壁にかけて、礫と共に土師器坏・壺・甔等の破片が散乱する。

掘り方 礫を多量に含む褐色土と黄褐色粘質土の地山を掘り込む。底面はほぼ水平に掘られる。

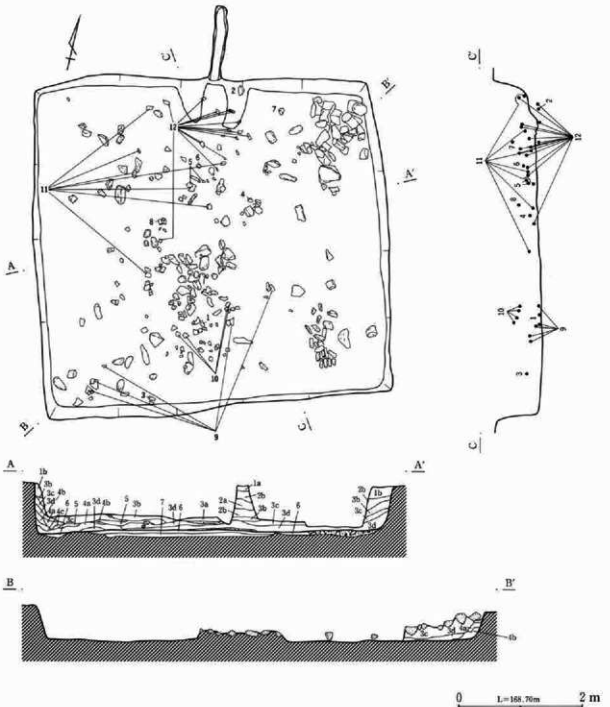
時期 7世紀～8世紀



柱土層説明

- 1 a. 褐色土 炭粒・焼土粒僅かに含む。粘性・しりりあり。
- 1 b. 褐色土 1 a に黄褐色シルト質小塊含む。
2. 灰褐色土 黄褐色シルト質塊と暗褐色粘質土塊の混土。
3. 黄褐色シルト質土に褐色粘土小塊の混土。

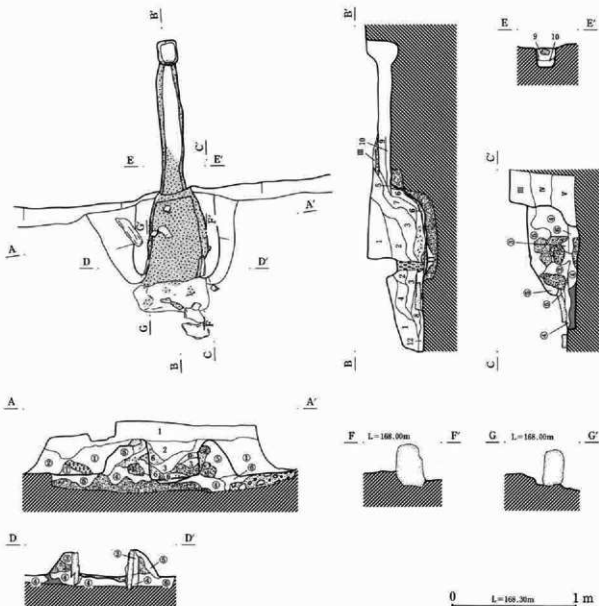
第145図 39号住居跡



- | | | | |
|-------------|-----------------------------|-------------|-----------------------|
| 1 a. 黒褐色土 | As-Bを多量に含み、小礫混じりの砂質土。 | 3 d. 茶褐色粘質土 | やや明るい。粒子細かく、しまりあり。 |
| 1 b. 黒褐色土 | As-Bを含み小礫混じり。 | 4 a. 黄褐色粘質土 | 地山粘質小粒子の混れ込みが多い。 |
| 2 a. 暗褐色土 | 若干のAs-Bを含む。1 a層より粒子緻密。粘性強い。 | 4 b. 黄褐色粘質土 | 比較的粒子細かく、全体に均質。 |
| 2 b. 暗褐色土 | やや粒子が粗くなる。夾雑物は少なめとなる。 | 4 c. 黄褐色粘質土 | 4 bと同質であるが色調がやや暗くなる。 |
| 3 a. 茶褐色粘質土 | 粒子細かく、しまりあり。 | 5. 暗褐色粘質土 | 黒色味が強い。粒子は緻密。粘性比較的強い。 |
| 3 b. 茶褐色粘質土 | やや暗い。粒子細かく、しまりあり。 | 6. 暗黄褐色土 | 粗砂・小礫含む。 |
| 3 c. 茶褐色粘質土 | やや明るく、黄色気味。粒子緻密。やや柔らか。 | 7. 黄褐色土 | ローム粒子が入る。 |

第146図 39号住居跡遺物出土状況

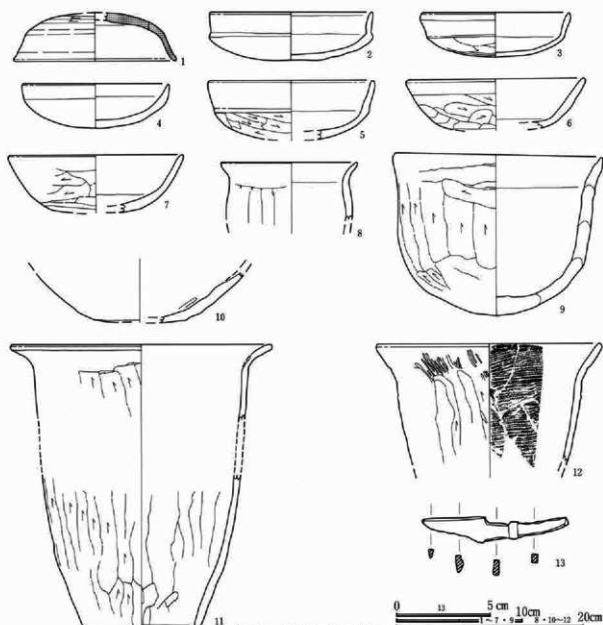
第3章 検出された遺構・遺物



1. 褐色土 粗砂粒を含む。粘性、しまり強い。
2. 褐色土 黄褐色土塊・焼土粒含む。粘性、しまり強い。
3. 暗黄褐色土 黄褐色土塊・焼土塊・褐色土塊混土。
4. 灰褐色土 黄褐色土塊を多量に含む。
5. 灰茶色土 焼土塊・炭粒・黄褐色土塊との混土。粘性強い。
6. 灰黄褐色土 焼土塊・黄褐色土塊混じり。御座前落土?
7. 褐色土 橙色焼土塊・炭粒を含む。粘性強い。
8. 暗褐色土 焼土塊僅かに含む。
9. 褐色土 焼土粒含む。
10. 褐色土 焼土粒僅かに含む。

11. 暗褐色土 炭塊多量に含む。黄褐色土小塊含む。
 12. 暗黄褐色土 黄褐色土塊と灰褐色土塊の混土。
 - ①. 褐色土 黄褐色土細粒多く含む。粘性に富む。
 - ②. 褐色土 黄褐色土塊多量に含む。粘性に富む。
 - ③. 灰黄褐色土 黄褐色土小塊・焼土粒の混土。
 - ④. 褐色土 黄褐色土塊と褐色土との混土。
 - ⑤. 褐色土 黄褐色土細粒・焼土粒僅かに含む。
 - ⑥. 灰黄色土 砂粒・黄褐色土との混土。
- Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ層は基本土層歩留

第147図 39号住居跡電



第148図 39号住居跡出土遺物

39号住居跡出土遺物観察表 (PL66)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・形状の特徴	備考
1	銅器 蓋	中央 3	巧	口(12.6) 高一 底一	①灰黄②還元焼 ③砂粒含む	楕圓形。口縁部との境に弱い稜を持つ。頂部回転ヘラ削り。	
2	土器 杯	竈右袖 2	巧	口13.6 高3.8 底(6.8)	①橙②酸化焼 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に段状の稜を持つ。体部から底部手持ちヘラ削り。	
3	土器 杯	南壁寄り 19	巧	口6.0 高3.5 底(6.0)	①にぶい橙②酸化焼 ③粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部手持ちヘラ削り。	
4	土器 杯	中央 18	巧	口(10.8) 高3.2 底一	①橙②酸化焼 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部調整不明瞭。	
5	土器 杯	中央 20	巧	口(13.0) 高一 底一	①にぶい黄橙②酸化焼 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部との境に稜を持つ。体部から底部にかけ手持ちヘラ削り。	
6	土器 杯	竈前 26	巧	口(14.4) 高一 底一	①にぶい橙②酸化焼 ③粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部細かなヘラ削り。底部平底状を呈する。	
7	土器 杯	竈右袖 38	巧	口(7.0) 高一 底一	①橙②酸化焼 ③粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部細かなヘラ削り。底部平底状を呈する。	

第3章 検出された遺構・遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
8	土 師 器 小型 甕	中央 34	口縁片	口(14.0) 高一 底一	①にぶい赤褐色②酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上半縦位へテ削り。	
9	土 師 器 小型 甕	南東 11	胴部一 部欠損	口16.2 高12.7 底一	①褐色②酸化焰 ③小砂礫混じり	口縁部横ナデ。胴部縦位へテ削り。下半両曲。細 かなヘテ削り。	
10	土 師 器 壺	中央 39	胴下位 破片	口一 高一 底一	①褐色②酸化焰 ③小砂礫混じり	球形状胴部。下半部器表面荒れ、調整不明瞭。内 面細かなナデ。	
11	土 師 器 瓶	北西 6	口縁片 下位へ底	口(28.0)高一 底(12.2)	①にぶい褐色②酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴部縦位へテ削り。内面縦位ナデ。	
12	土 師 器 瓶	電 ±0	口へ割 け	口(24.0) 高一 底一	①にぶい黄褐色②酸化焰 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上半小口状工具による縦位の刷 毛目肌。内面横位刷毛目。	
13	鉄 器 刀 子	南 13	ほぼ完 形	<計測値>長7.7、茎部 幅0.50、厚0.35、刃部 幅0.35、厚0.30 重6.25g <特徴>刃部使用により磨耗。			

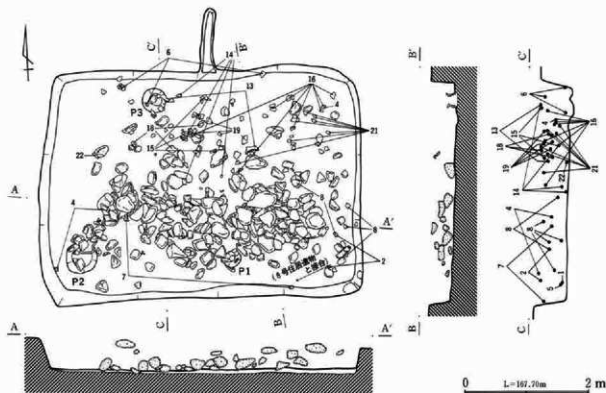
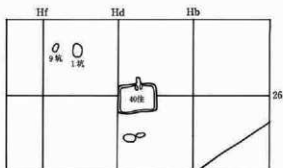
40号住居跡 (PL22・67・68)

位置 Hc-26グリッド 床面積 15.4㎡

主軸方位 N-0° 重複 なし

規模と形状 長辺5.1m、短辺3.7m、残存壁高0.5m
を測り、東西に長い横長方形を呈する。

埋土 住居南半分、特に南東部では中層から下層に
かけ、拳大から人頭大の礫が多量に投げ込まれた状
態で出土した。埋土全体に小礫含まれ、上・中層に
は土器破片も多く含まれる。



第149図 40号住居跡遺物出土状況

床面 小礫混じりの暗褐色土を貼り込むがあまりあまり強くない。東南隅部は弧状に僅かに高まりが見られ、黄色土と灰褐色土が薄く互層に固く踏み締められている。

竈跡 北壁中央住居内に燃焼部を有する竈が付設される。竈は灰褐色土の地山塊を貼り付け構築され、竈前方面には20~30cm程の棒柱状礫が出土し、焚口部の補強材に用いられたものと考えられる。燃焼部内より完形の土師器壺が横倒しの状態で出土した。状況的には掛けられていたものが埋没過程で横倒しになったと考えられるが、燃焼部の規模からすれば2個体並列に壺が掛けられていたものが、廃棄時には本遺物のみが掛けられていたものと考えられる。埋土中には灰黄色土の構築土が崩落し、下層には焼土層が堆積している。燃焼部内壁面は焼土化し、火

床面は床面と同レベルである。煙道部へは急角度で立ち上がり、奥壁僅かに焼土化する。煙道部は壁外へ水平方向に伸びる。

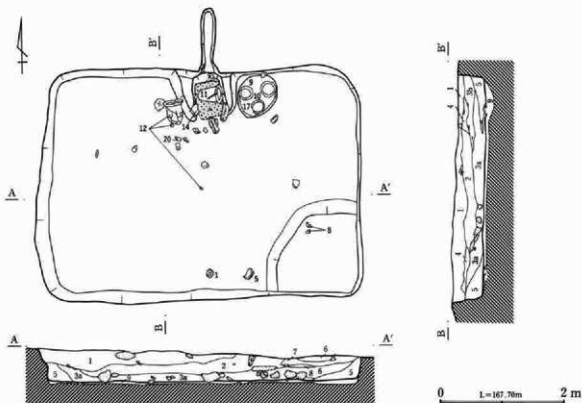
柱穴 掘り方面調査時に竈左袖脇・南西隅・南壁際中央の3カ所で確認した。南壁際の小穴は出入口施設に伴うものと考えられるが他の2カ所については不明である。

規模 P1 長辺0.28m、短辺0.26m、深さ0.06m

P2 長辺0.5m、深さ0.19m

P3 長辺0.38m、深さ0.09m

貯蔵穴 竈右袖脇に胴下半部が欠かれた3個体の土師器壺が正位に置かれた状態で出土した。その周辺部が長辺0.72m、短辺0.62m、深さ0.08mの規模で浅く掘り込まれ、底面には地山礫層が露出している。



1. 褐色土 小礫を多く含む。僅かに礫含む。サクサクした層。
2. 褐色土 大礫多量に含む。ややしまりあり。
- 3 a. 暗褐色土 小礫・大礫含む。ややしまりあり。土質やや密。
- 3 b. 暗褐色土 土器片、礫土を含む。
4. 褐色土 灰黄褐色土塊含む。小礫混じり。

5. 茶褐色土 小礫含む。
6. 褐色土 小礫僅かに含む。しまり強い。
7. 褐色土 黄褐色土塊と褐色土の混土。しまり強い。
8. 暗褐色土 小礫僅かに含む。しまり強い。
9. 暗褐色土 砂礫混じり。しまりあまり強くない。

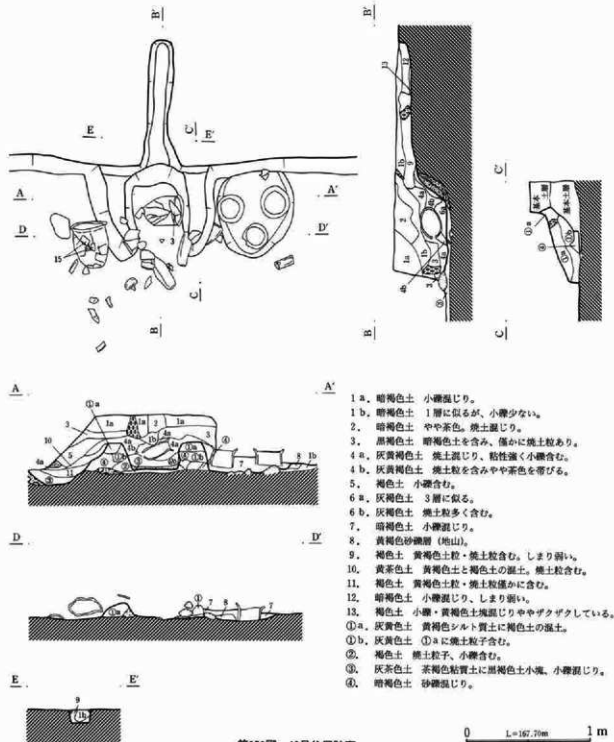
第150図 40号住居跡

壁下周溝 検出されなかった。

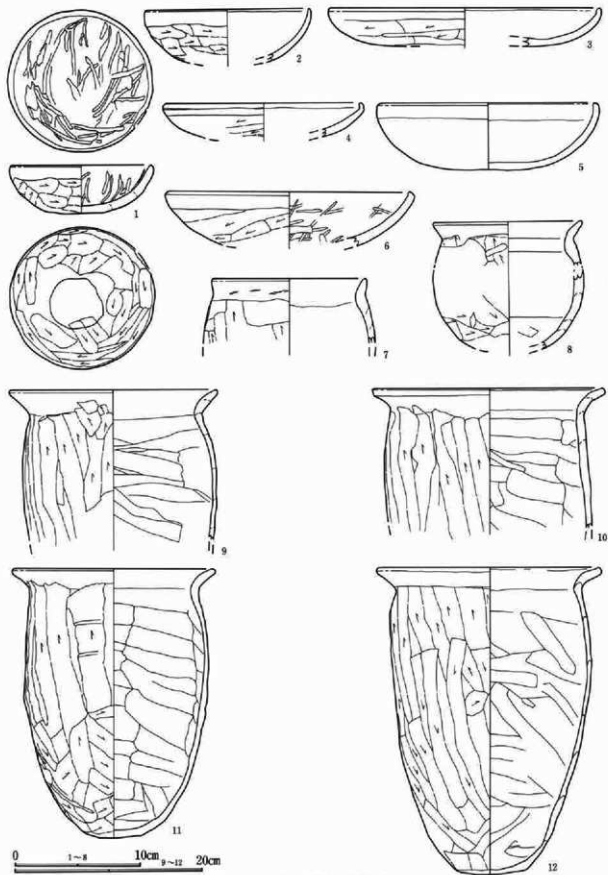
出土遺物 土師器壺の完形が2個体竈内と右袖脇から出土し、胴部下半分が欠かれた半完形の壺が貯蔵穴内から3個体出土した。貯蔵穴出土の壺は用途不明であるが、意図的に欠かれたと考えられる。西壁寄りには鉄鏝一点出土。

掘り方 礫混じりのしまりの弱い褐色土を掘り込む。そのため壁面は弱く、若干崩落土が見られる。底面は床面よりやや下がり、ほぼ水平に掘り込まれる。

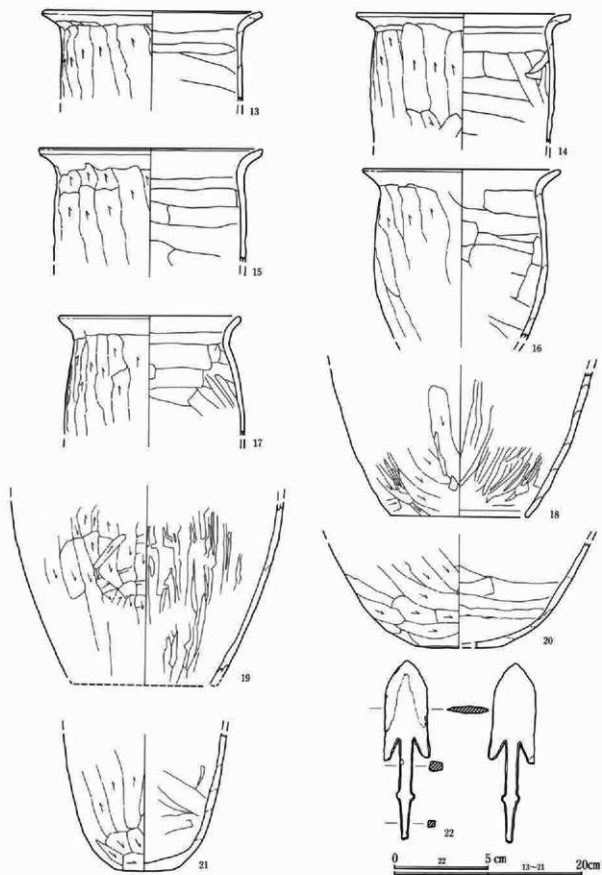
時期 7～8世紀代



第151図 40号住居跡竈



第152図 40号住居跡出土遺物(1)



第153図 40号住居跡出土遺物(2)

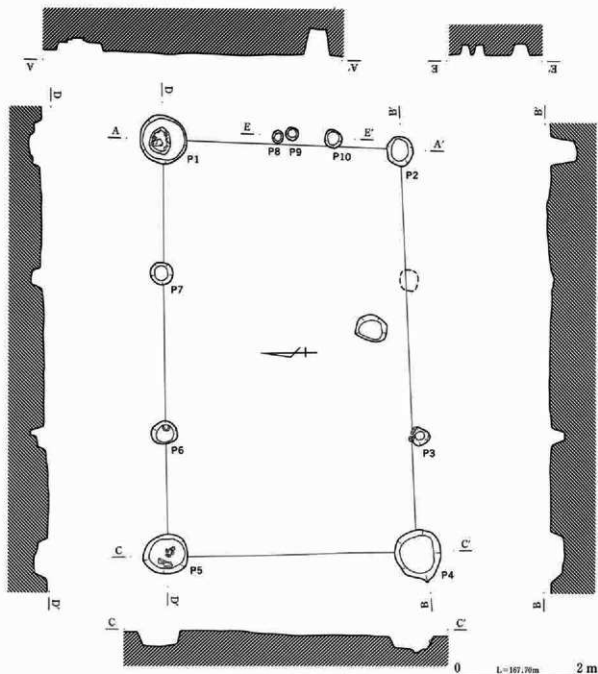
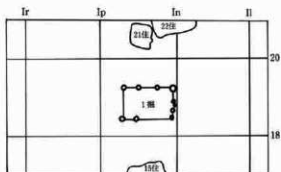
40号住居跡出土遺物観察表 (PL67・68)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 法	量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 環	南 7	完形	口10.8 高3.8 底5.8	①明赤褐②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へラ削り。底部小さな平高。内面ナデ後、へラ磨き。	
2	土師器 環	南東 43	口へ体 部1/2	口13.0 高一 底一	①にぶい赤褐②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へラ削り。	
3	土師器 環	壺内 4	口縁部 1/2	口21.4 高一 底一	①橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	盤状を呈する。口縁部僅かに内湾。横ナデ。体部横位へラ削り。	
4	土師器 環	南西 24	口縁部 1/2	口(15.4) 高一 底一	①明赤褐②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。口唇部内傾。体部横位へラ削り。	
5	土師器 環	南東 4	口へ底 1/2	口17.0 高5.3 底(9.0)	①橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部調整不明瞭。	
6	土師器 環	北東 8	口唇部 欠	口19.2 高一 底一	①にぶい赤褐②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。口唇部内傾気味。体部から底部手持ちへラ削り。内面丁寧なナデ後、へラ磨き。	
7	土師器 小型 壺	南西 27	口縁部 片1/2	口(12.2) 高一 底一	①明赤褐②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。やや肥厚。胴上半斜縦位へラ削り後ナデ。内面丁寧なナデ。	
8	土師器 小型 壺	南東 17	口へ 底1/2	口一 高一 底一	①明褐②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。胴下半斜位細かなへラ削り。縦位へラ削り。内面丁寧なナデ。	
9	土師器 壺	貯蔵穴内 -2	口へ胴 中位	口21.6 高一 底一	①橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部外反横ナデ。胴上半縦位へラ削り。内面横位ナデ。	
10	土師器 壺	貯蔵穴内 2	口へ胴 上位	口24.5 高一 底一	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部外反横ナデ。胴上半縦位へラ削り。内面横位ナデ。	
11	土師器 壺	壺内 3	完形	口21.0 高28.6 底5.9	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部外反横ナデ。胴上半縦位へラ削り、下半斜位の細かなへラ削り。内面細かな斜位ナデ。	
12	土師器 壺	壺左軸 -3	完形(直 一部欠)	口23.1 高32.7 底7.7	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部横ナデ。胴部斜縦位へラ削り。下端細かな横位へラ削り。内面斜横位ナデ。	
13	土師器 壺	北西 31	口へ胴 上位1/2	口23.0 高一 底一	①橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部外反横ナデ。胴上半縦位へラ削り。内面横位ナデ。	
14	土師器 壺	壺前 6	口へ胴 上位1/2	口22.7 高一 底一	①明褐②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部外反横ナデ。胴上半縦位へラ削り。内面横位ナデ。	
15	土師器 壺	壺前 41	口へ胴 1/2	口(23.6) 高一 底一	①明赤褐②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部外反横ナデ。胴上半縦位へラ削り。内面横位ナデ。	
16	土師器 壺	北東 21	口へ胴 1/2	口21.0 高一 底一	①橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部外反横ナデ。胴上半縦位へラ削り。内面横位ナデ。	
17	土師器 壺	貯蔵穴内 -4	口へ上 半部	口19.1 高一 底一	①橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部外反横ナデ。胴上半縦位へラ削り。内面横位ナデ。	
18	土師器 壺	中央 28	胴へ底 1/2	口一 高一 底(14.8)	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	胴下半縦位へラ削り後、指ナデ。下端斜位へラ削り。内面横位ナデ後、斜縦位指ナデ。	
19	土師器 壺	壺前 30	口へ 底1/2	口一 高一 底一	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	胴下半縦位へラ削り。内面横位へラ磨き。	
20	土師器 壺	壺前 4	口へ 底1/2	口一 高一 底(9.0)	①にぶい橙②酸化焰 ③粗砂粒含む	球形状胴部。中位斜位へラ削り、下半細かな斜横位へラ削り。内面横位ナデ。	
21	土師器 壺	北東 21	胴下半 へ底	口一 高一 底6.5	①明赤褐②酸化焰 ③粗砂粒含む	胴下半へラ削り。下端横位へラ削り。底部へラ削り。内面横位ナデ。	
22	鉄器 鉄	北西 5	完形	<計測値>長9.4、基部幅0.65、厚0.5、刃部幅2.2、厚0.35、重11.20g <特徴>逆刺が深く切れ込み、刺状突起を有する。刃部は五角形に近い長三角形をなす。		有隣快長三角形刺	

第2節 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (PL23)

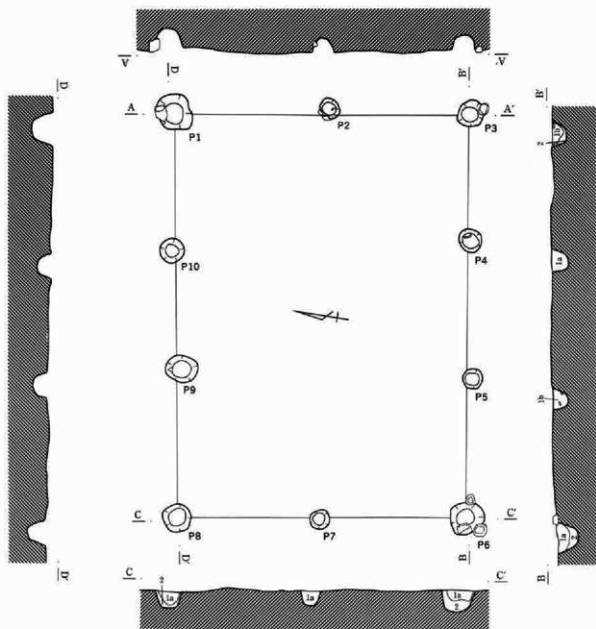
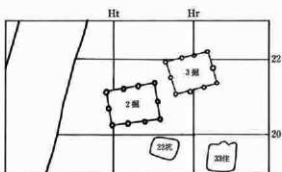
重複は無く、東西に長い長方形を呈する。東梁間部分に柱間の延長上からやや外れ2本の小ピットを検出した。各柱穴は全体に掘り込みの浅い円形を呈し、四隅の柱穴はやや大きい。埋没土中には小礫混じりの黒褐色土が入り、As-Bは不明瞭であった。時期は不確定である。



第154図 1号掘立柱建物跡

2号掘立柱建物跡 (PL23・24)

重複は無く、東西に長い長方形を呈する。柱間は桁行き、梁間とも2.1m前後を測る。柱穴形状は円形を呈し、四隅はやや大きい。埋没土は、周辺部同様小礫を含む粒子の細かな暗褐色が入り込み、As-B等の軽石は含まれない。出土遺物は無く時期は不確定である。3号掘立柱建物とは2.1m程離れ、南に1間ずれて並列するが、棟方向が僅かにズレる。



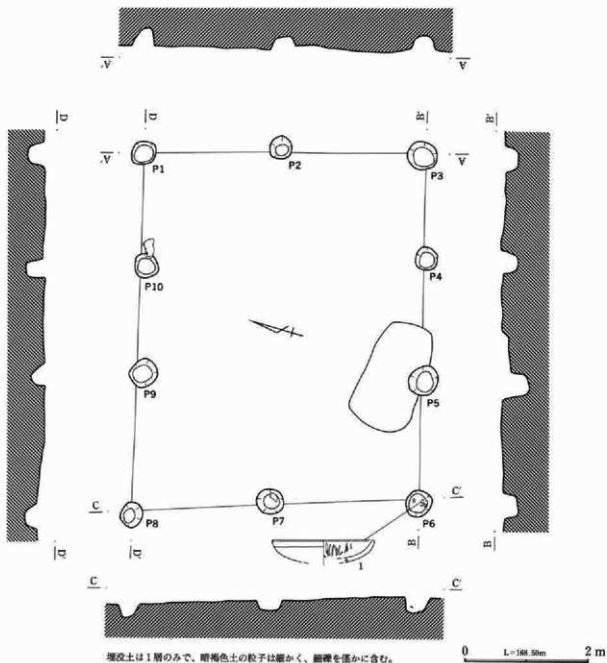
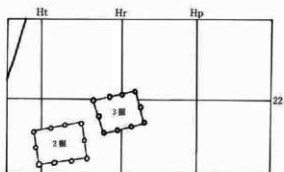
2号掘立

- 1 a. 暗褐色土 粒子は細かく、細礫を僅かに含む。
- 1 b. 暗褐色土 細礫を1 a よりやや多く含む。
2. 褐色土 粒子細かく、僅かにしまりあり。

第155図 2号掘立柱建物跡

3号掘立柱建物跡 (PL.23・24・69)

重複は無く、東西に長い長方形を呈する。柱間は桁行きで1.8m前後、梁間で2.2m前後を測る。柱穴形状は円形を呈する。埋没土は、2号掘立柱建物と同様小礫を含み、しまりの弱い暗褐色土が入り込んでいる。As-B等の軽石は含まれない。出土遺物は、P6から内面放射状暗文の施される土師器環が底面付近より出土している。時期については、この環の時期から8世紀代と考えられる。

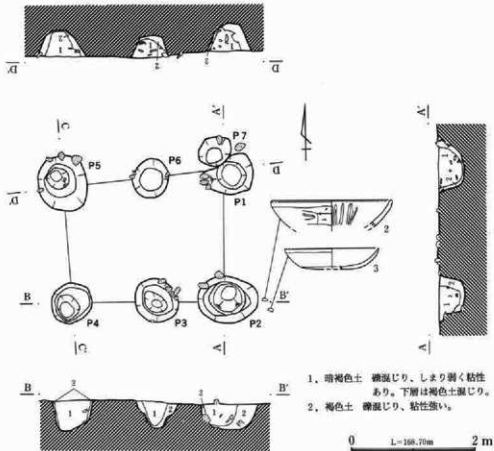
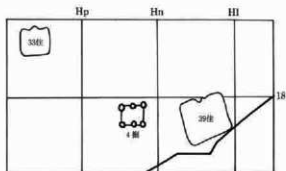


埋没土は1層のみで、暗褐色土の粒子は細かく、礫層を僅かに含む。

第156図 3号掘立柱建物跡

4号掘立柱建物跡 (PL24・69)

重複は無く、東西に長い長方形を呈する。柱間は桁行き1.2~1.5mを測る。柱穴形状は、円形と隅丸方形形状を呈する。周辺部は粘性の強い大礫混じり褐色土であり、埋没土中にも大礫が混じる。As-B等の軽石は含まれない。出土遺物は、P2脇より土師器坏2個体が出土し、1個体は内面放射状暗文が見られる。時期は、この坏より8世紀代と考えられる。

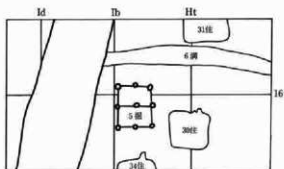


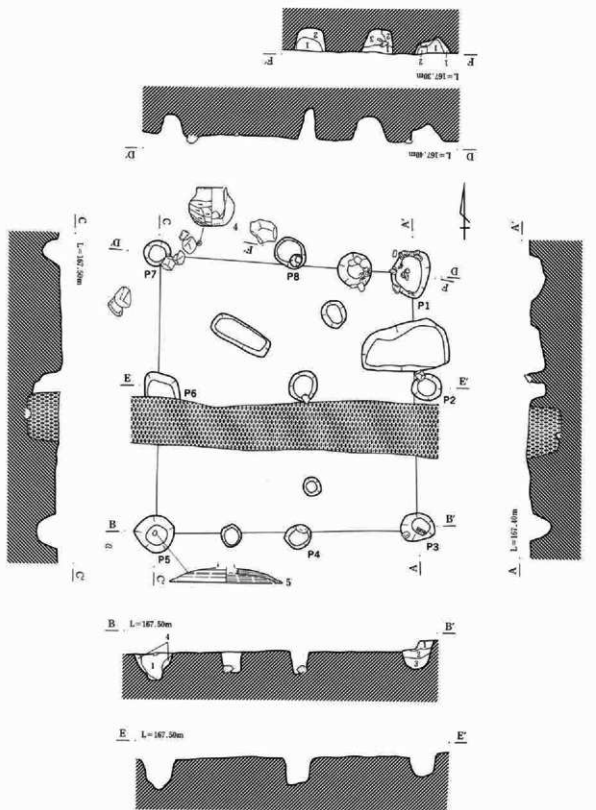
1. 暗褐色土 礫混じり、しまり固く粘性あり。下層は褐色土混じり。
2. 褐色土 礫混じり、粘性強い。

第157図 4号掘立柱建物跡

5号掘立柱建物跡 (PL24・69)

中央部にスプリンクラー用の配水管が横断する。2間×2間の総柱建物であり、正方形を呈する。柱間は、2~2.4mの間に取まるが不揃いである。柱穴はAs-Bを含む黒褐色土除去後確認し、As-B降下以前に既に埋没していたと考えられる。出土遺物は、P5埋没土上面に内面にカエリを持つ須恵器蓋破片が出土している。時期は、この蓋から8世紀代と考えられる。

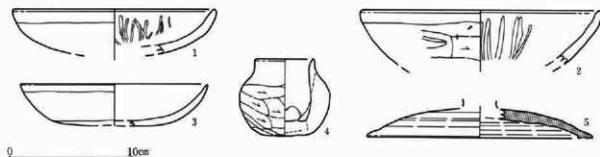




1. 暗褐色土 小礫混じり、しまり弱い。
 2. 褐色土 小礫わずかに含む、しまり弱い。
 3. 黄褐色粘土。
 4. 茶褐色粘質土 しまりやや弱い。

0 2 m

第158図 5号掘立柱建物跡



第159図 掘立柱建物跡出土遺物

掘立出土遺物観察表 (PL.69)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	3掘 Pit6	口縁部 1/2	口(16.0) 高一 底一	①褐色酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へつ削り。内面横位ナデ後、放射状暗文。	
2	土師器 杯	4掘 Pit2	口縁片	口19.0 高一 底一	①褐色酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へつ削り後、へつ磨き。内面横位ナデ後、放射状暗文。	
3	土師器 杯	4掘 Pit2	口へ底 1/2	口15.0 高一 底一	①明褐色酸化焰 ③細砂粒含む	口唇部横ナデ。体部未調整。内面丁寧なナデ。	
4	土師器 小型壺	5掘 Pit7-3	口欠割	口4.6 高6.1 底(5.6)	①にぶい褐色酸化焰 ③砂粒含む	口縁部直立。横ナデ。体部球形状を呈し、細かな斜横位へつ削り。底部へつ削り。内底面指押え。	
5	土師器 蓋	5掘 Pit5	1/2	口18.0 高一 底一	①灰黄色還元焰 ③精選	縦横整形。頂部ナデ状のへつ削り。内面のエリや内傾気味で丸味持つ。	

掘立柱建物跡一覧表

(単位m)

遺構名	位 置	棟 方 位	桁 梁	形状	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P 10		
1号掘立	Io・p-18・19	N-94°-E	2間 (6.4)	1間 (3.8)	長方形	長	0.77	0.47	0.27	0.77	0.67	0.43	0.35			
						短	0.77	0.47	0.27	0.73	0.67	0.37	0.35			
						深	0.18	0.45	0.25	0.23	0.23	0.20	0.15			
2号掘立	Ha・t-20・21	N-82°-E	3間 (6.4)	2間 (4.6)	長方形	長	0.55	0.33	0.40	0.38	0.30	0.55	0.30	0.48	0.50	0.32
						短	0.35	0.33	0.40	0.38	0.30	0.50	0.30	0.43	0.43	0.32
						深	0.30	0.22	0.20	0.25	0.25	0.33	0.25	0.25	0.20	0.23
3号掘立	Ha・b-20・21	N-77°-E	3間 (5.6)	2間 (4.4)	長方形	長	0.37	0.37	0.47	0.35	0.48	0.43	0.45	0.40	0.45	0.40
						短	0.37	0.37	0.47	0.35	0.48	0.43	0.45	0.40	0.40	0.40
						深	0.25	0.28	0.23	0.25	0.35	0.23	0.15	0.22	0.25	0.30
4号掘立	Hn・o-17	N-92°-E	2間 (2.8)	1間 (2.1)	長方形	長	0.80	0.95	0.68	0.70	0.90	0.63				
						短	0.63	0.75	0.68	0.60	0.80	0.63				
						深	0.43	0.38	0.42	0.48	0.50	0.35				
5号掘立	Ha・b-15・16	N-93°-E	2間 (4.3)	2間 (4.2)	正方形	長	0.70	0.48	0.55	0.43	0.65	0.55	0.43	0.53	0.48	
						短	0.60	0.48	0.45	0.43	0.60	(0.35)	0.43	0.43	0.45	
						深	0.28	0.35	0.30	0.32	0.30	0.45	0.28	0.43	0.43	

第3節 土 坑

1. 概 要

土坑名称については、第1次調査と第2次調査とでは個別に遺構名称を付したため、各々1号土坑から始まる。本書では、調査区境となる南北を横断する町道部分が大グリッドIとHの境に近いことから、第1次調査区の土坑はI・J区1号土坑とし、第2次調査区の土坑はG・H区1号土坑として掲載した。

第1次調査区では22基の土坑を検出した。そのうち埋没土上面にAs-Aを含む土坑7基(3.6.8.9.12.13.14号土坑)と掘り方が浅く円形を呈する土坑中にもAs-Aが観察できた。これらAs-Aを含む土坑の時期については、As-A降下後の近世以降掘削されたと考えられる。その他の土坑では、土器や焼土、炭化物等が混入するなど特徴の見られる土坑は無い。また形状も円形や楕円形、長円形等様々であり、時期決定できる要素は無い。殆どの土坑埋没土中には小礫が混じる。

第2次調査区では15基の土坑を検出した。調査区

東辺部に位置する1・2号土坑は、田篠中原遺跡から続く縄文時代中期の包含層下層にて確認でき、縄文土器破片類が多量に出土している。1号土坑の形状は円形で楕円状を呈する。2号土坑は、長円形を呈する。その他に3・4・7・9号土坑では、埋没土中に焼土・炭化物を多く含み、壁面は若干焼土化し底面には灰層の堆積が見られる。土坑形状は隅丸長方形を呈し、底面は船底状に掘り込まれる。これらの土坑は、火葬墓の可能性が考えられるが、焼骨や古銭等は出土していない。土坑の時期としては、4号土坑上層にAs-Bを多量に含む砂質の黒褐色土と直上にはAs-Bの灰と軽石の塊を含む黒色土が見られ、埋没中にAs-Bが見られないことから、As-B降下時には既に埋没していたと考えられる。

遺物を出土する土坑に、土師器破片を出土した12号土坑や縄文土器包含層周辺部に検出され、同期の遺物を出土した円形を呈する10・13・15号土坑等がある。

土坑一覧表 88年度 I・J区土坑

土坑番号	土坑位置	方位	規模(m)			形状	備考
			長辺	短辺	深さ		
1号	Iq-14	N-0°	1.50	0.90	0.12	長円形	
2号	Is-13	N-0°	2.52	2.04	0.42	長円形	7住
3号	It-9	N-28°-E	1.22	0.45	0.17	長方形	As-A含
4号	Is-10	N-58°-W	1.21	0.80	0.16	長方形	
5号	Is-9	N-62°-W	1.47	0.50	0.16	長方形	
6号	Jf-17	N-72°-W	1.56	1.04	0.34	長円形	As-A含
7号	Je-17		1.52		0.14	円形	
8号	Ja-10	N-10°-E	1.76	0.50	0.48	長円形	As-A含
9号	It-10	N-35°-E	1.64	0.31	0.09	長円形	As-A含
10号	Jd-15		1.62		0.24	円形	
11号	Je-17		1.68		0.10	円形	
12号	Jl-18		0.88		0.16	円形	As-A含
13号	Ik-19	N-84°-E	1.26	1.04	0.22	長円形	As-A含
14号	Ik-18		1.00		0.20	円形	As-A含
15号	Io-19	N-84°-W	1.25	0.96	0.12	楕円形	
16号	Ip-19	N-19°-W	1.78	0.90	0.50	楕円形	
17号	Ih-13		1.05		0.32	円形	
18号	Ik-18	N-86°-W	1.04	0.90	0.60	楕円形	
19号	Ij-19	N-65°-E	1.46	1.00	0.20	長方形	
20号	Id-22	N-24°-W	1.05	0.70	0.26	楕円形	
21号	If-23	N-78°-W	2.00	1.32	0.70	楕円形	
22号	Ie-26	N-12°-E	1.10	0.90	0.20	楕円形	

土坑一覧表 G・H区土坑

土坑番号	土坑位置	方位	規模(m)			形状	備考
			長辺	短辺	深さ		
1号	Gq-42		1.31	1.24	0.26	長円形	縄文土器
2号	Gp-41	N-54°-W	1.80	0.80	0.24	長方形	縄文土器
3号	Hm-22	N-8°-W	1.57	0.72	0.31	長方形	火熱受
4号	Ib-15	N-0°	2.42	0.74	0.64	長方形	火熱受
5号	Hc-24	N-90°-E	1.58	0.80	0.18	長方形	
6号	Hc-25	N-85°-E	1.00	0.58	0.14	長方形	
7号	Ha-29	N-79°-E	1.50	0.84	0.4	長方形	As-B含
8号	Ha-29		1.28		0.42	方形	As-B含
9号	He-27	N-33°-E	1.02	0.57	0.11	長円形	火熱受
10号	Gq-37		1.34		0.34	円形	縄文土器
11号	Hd-27	N-12°-E	1.64	0.84	0.45	長方形	火熱受
12号	Hf-23	N-68°-W	0.90	0.60	0.14	長方形	土師器
13号	Go-33	N-48°-W	0.88		0.10	円形	縄文土器
14号	Hd-28	N-49°-E	1.20	1.02	0.34	長円形	
15号	Gq-32		1.24		0.28	円形	縄文土器

墓坑

土坑番号	土坑位置	方位	規模(m)			形状	備考
			長辺	短辺	深さ		
1号	Jc-16						古銭出土

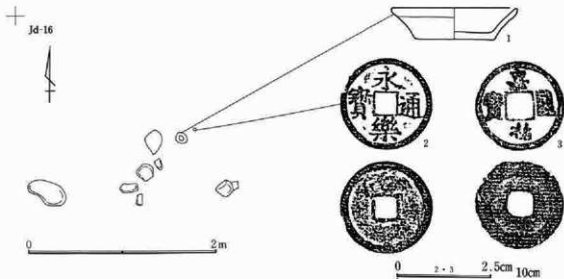
2. 墓 坑

1号墓坑 (PL25・69)

Jc-15グリッド内において表土掘削後遺構確認面精査時に土師質の小皿や古銭等を確認した。遺構については、確認時には掘り込みは見られず、後世の耕作により削平を受けたか、また平地に置かれたものか不明である。遺物の出土状況は、周辺部に地山礫層の影響を受け大礫が散在し、その間に小皿、古

銭が出土している。遺物周辺部には骨片や焼土、灰・炭等の火熱を用いた跡も見られない。

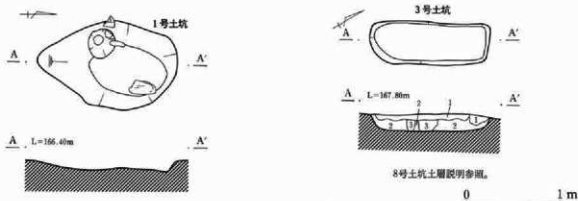
この遺構の時期については、2点の古銭が出土しており、それぞれの年代が永楽通宝（明、1408年）、嘉祐通宝（宋、1058年）に別れる、両者の間に時間差があるが永楽通宝の年代から15世紀以降に用いられたと考えられる。



第160図 1号墓坑及び出土遺物

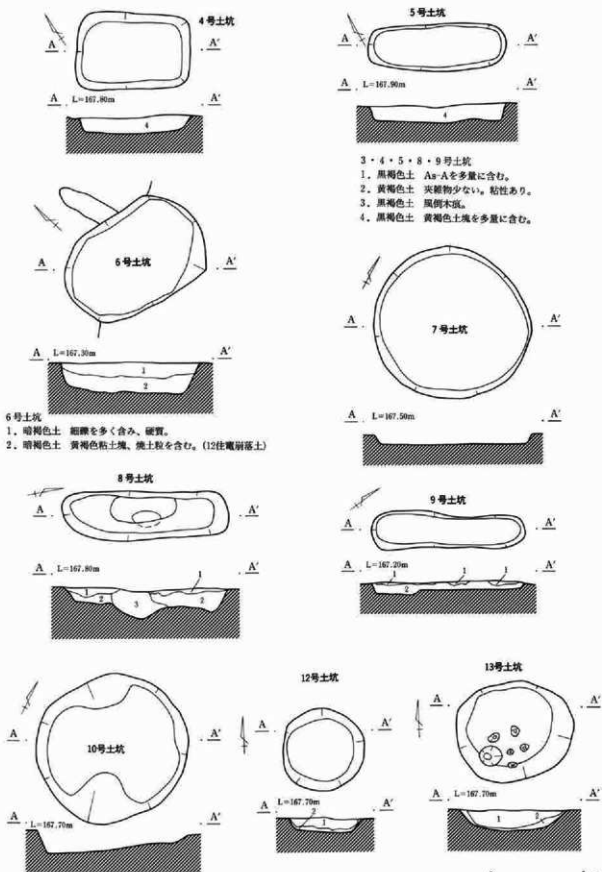
墓坑出土遺物観察表 (PL.69)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師質土器 皿	Jd-16	完形	口19.8 高2.5 底6.4	①によい②酸化焙 ③砂粒含む	楕圓形。右回転糸切り、未調整。体部強いナデ。	
2	鉄製品 古銭	1号墓坑	完形	<計測値>外径2.4 内口0.6 重2.70g		<特徴>永楽通宝 明銭 1408年	
3	鉄製品 古銭	1号墓坑	完形	<計測値>外径2.4 内口0.7 重2.38g		<特徴>嘉祐通宝 宋銭 1058年	

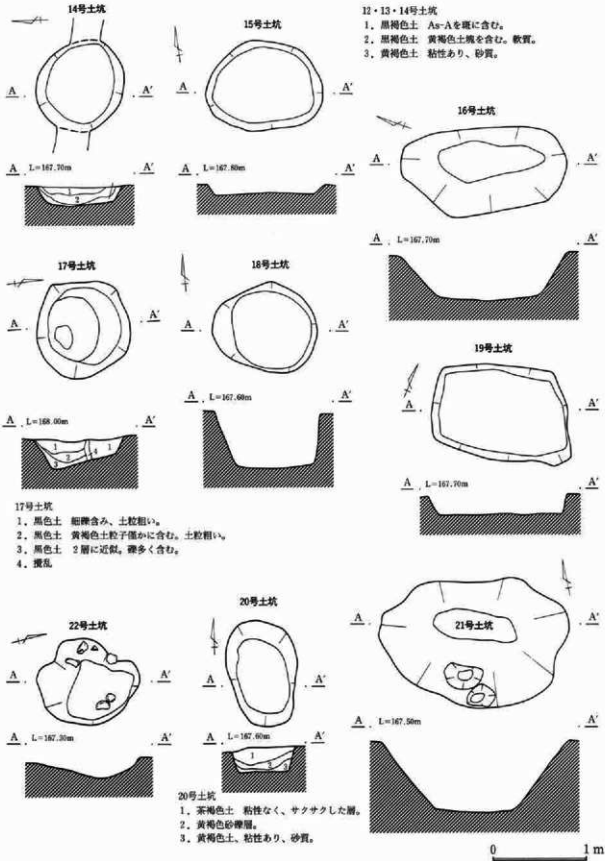


第161図 I・J区土坑

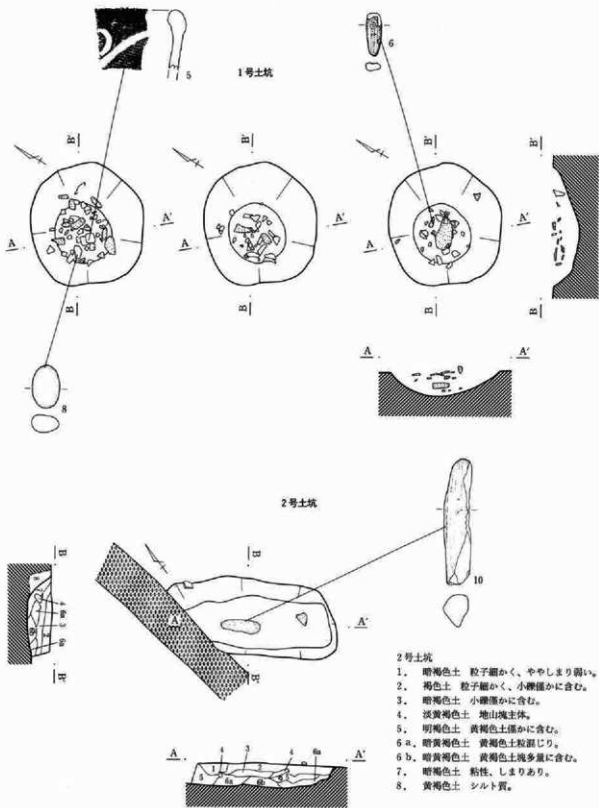
第3章 検出された遺構・遺物



第162図 I・J区土坑

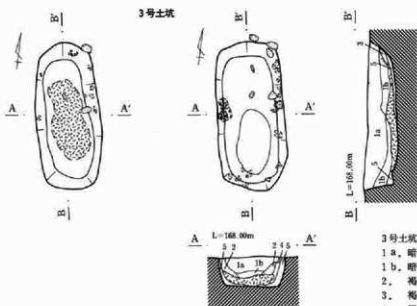


第163図 I・J区土坑



0 L=165.90m 1m

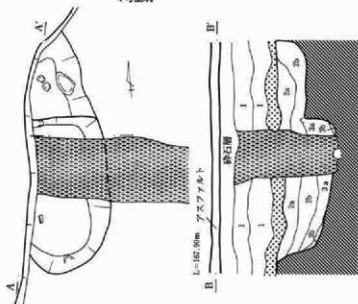
第164図 G・H区土坑



3号土坑

- 1 a. 暗褐色土 小礫混じり、粘性あり。
- 1 b. 暗褐色土 小礫、炭粒含む。
2. 褐色土 小礫、炭粒、焼土粒僅かに含む。
3. 褐色土 粘性強く、焼土粒僅かに含む。
4. 褐色土 粘性強く、焼土粒僅かに含む。小礫含む。
5. 褐色土 粘性強く、小礫含む。

4号土坑



4号土坑

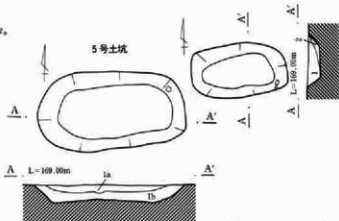
1. 灰褐色土 As-A混じり、基本土層目層。
1. 黒褐色土 As-B多量に含む。やや砂質。
- 2 a. 暗褐色土 土層片、小礫多く含む。
- 2 b. 暗褐色土 土層片、小礫僅かに含む。
- 3 a. 茶褐色土 焼土、炭粒僅かに含む。
- 3 b. 茶褐色土 焼土多量に含む。

5号土坑

- 1 a. 褐色土 粒子細かく、しまりあり。小礫僅かに含む。
- 1 b. 暗褐色土 粒子細かく、しまりあり。

6号土坑

1. 暗褐色土 白色炭小礫僅かに含む。
2. 褐色土 粘性、しまりあり。

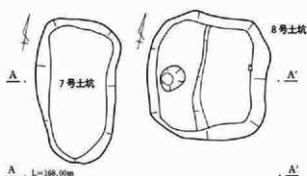


6号土坑

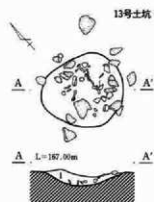
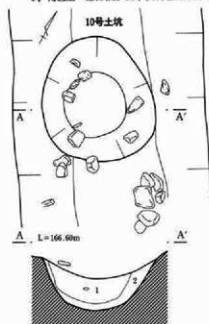
第165図 G・H区土坑

0 1 m

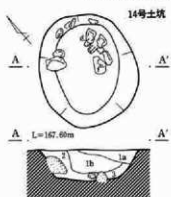
第3章 検出された遺構・遺物



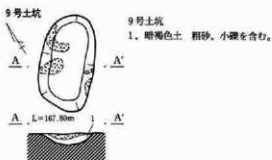
7・8号土坑
1. 褐色土 軽石(Aa-B)、黄褐色土小礫を多量に含む。



13号土坑
1. 褐色土 粒子細かいが、礫多量に含む。



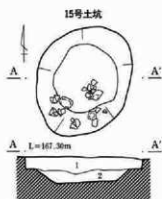
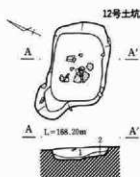
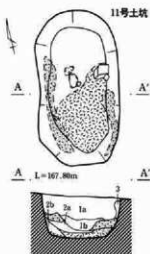
14号土坑
1 a. 黒褐色土 小礫混じり、しまり弱い。
1 b. 黒褐色土 小礫混じり、しまり強い。
2. 暗褐色土 小礫僅かに含む。
3. 灰茶褐色土 黄褐色土に砂礫混じり。



9号土坑
1. 暗褐色土 粗砂、小礫を含む。
2. 灰褐色土 黒褐色土塊僅かに含む、礫少量含む。

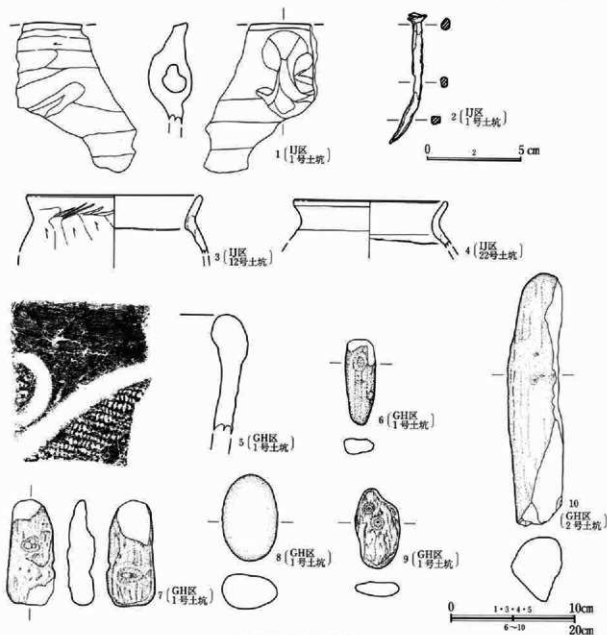
11号土坑
1 a. 黒褐色土 小礫、炭粒僅かに含む、サクサクした層。
1 b. 黒褐色土 灰褐色土と黒褐色土との混土。
2 a. 灰茶褐色土 糠土、炭粒を含む。
2 b. 灰茶褐色土 焼土と暗褐色土との混土。
3. 黄土色砂礫層 地山崩落土。

12号土坑
1. 暗褐色土 土器片、小礫含む、しまり弱い。
2. 褐色土 しまり弱く、サクサクした層。



15号土坑
1. 褐色土 シルト質、土器片含む。
2. 褐色土 シルト質、ややしまりあり。

第166図 G・H区土坑



第167図 土坑出土遺物

土坑出土遺物観察表 (PL69)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 法	量 (cm)	①色調②構成③胎土	器形・形状の特徴	備考
1	軟質陶器 内耳 陶 1号土坑	I・J区 1号土坑	口縁部 破片	口一 高一 底一	①薄②中性胎 ③砂粒含む	口唇頂部ナデ。胴部内外面横位ナデ。内耳部粘土 起粘付後、指ナデ。	
2	鉄製品 釘 1号土坑	I・J区 1号土坑	壳形	<計測値>長6.8、幅0.4、厚0.55、重5.67g	<特徴>頭部凹形。身部方形を呈する。		
3	土 師 器 甕 12号土坑	I・J区 12号土坑	口縁部 破片	口(13.4) 高一 底一	①におい糖②酸化焼 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。胴上半斜位へう削り。内面頸部下 強い横位ナデ。	
4	土 師 器 甕 22号土坑	I・J区 22号土坑	口縁部 破片	口(12.0) 高一 底一	①におい糖②酸化焼 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へう削り。内面横位へう ナデ。	
5	縄文土師 深 鉢 1号土坑	G・H区 1号土坑	口縁部 破片	口一 高一 底一	①におい糖②良好 ③砂粒含む	口縁部は、沈線による栴形区面縄文施文。原体は、 R { 上。内面は横方向磨き。	
6	凹 石 1号土坑	丕	<計測値>長13.5、幅4.9、厚2.6、重310g	<石材>点紋緑泥片岩 片面に1ヶの凹。			
7	多孔 石 1号土坑	一部欠	<計測値>長10.6、幅7.5、厚4.4、重800g	<石材>点紋緑泥片岩 両面に4ヶの凹。			

第3章 検出された遺構・遺物

番号	器種	出土位置 (cm)	残存 法	法 (cm)	①色調②構成③土質	器形・整形の特徴	備考
8	磨石	1号土坑	完形	<計測値>長13.8、幅8.7、厚5.5、重820g	<石材>波紋岩	片面に磨耗痕。	
9	凹石	1号土坑	完形	<計測値>長12.7、幅7.8、厚2.4、重310g	<石材>石巻片岩	片面に2ヶの凹。	
10	多孔石	2号土坑	1/2	<計測値>長39.9、幅8.8、厚10.2、重6180g	<石材>点紋緑泥片岩	片面に8ヶの凹。	

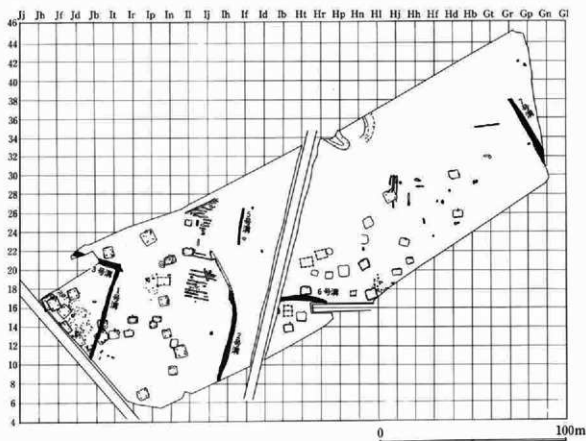
第4節 溝

1号溝 (PL28・69・70)

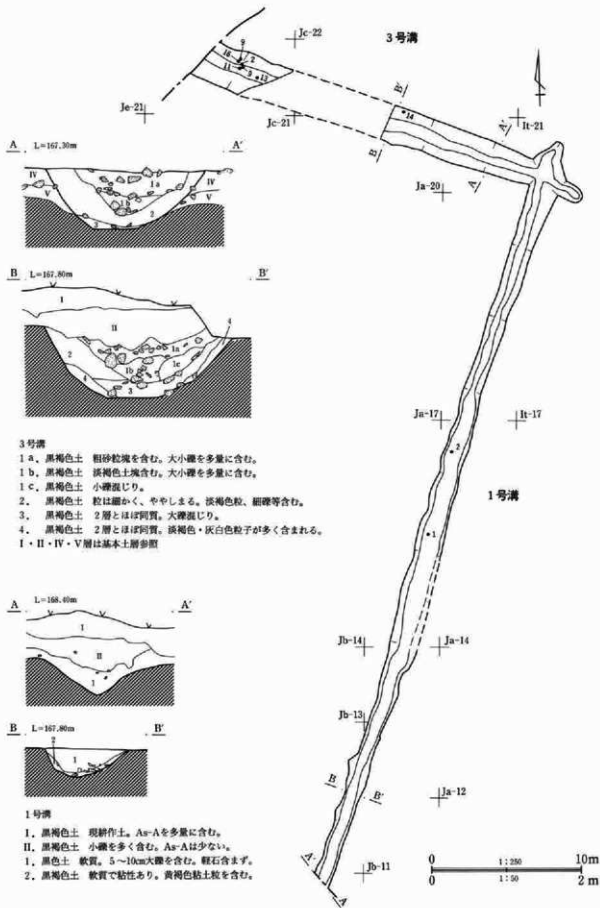
第1次調査区北西端部において検出された溝跡である。Is・t~Ja・b-10~20グリッド内に位置し、走行はN-15-Eに傾く。確認全長は52.5m、上端1.1m、下端0.3m、深さ0.35mの規模を測る。3号溝と北端部で直交し、方形区画状を呈する。重複は、3号・13号住居跡を掘り込む。埋没土は、大礫を含む黒色土と黄褐色土粒子を含む黒褐色土が見られる。遺物は摺鉢が出土している。時期としては、中世以降の掘り込みと考えられる。

3号溝 (PL28・69・70)

第1次調査区北西隅で検出された溝跡である。Is・t~Ja~d-20・21グリッド内に位置し、走行はN-72-E傾く。確認全長は26m、上端2.5m、下端0.7m、深さ0.7mの規模を測る。1号溝とはほぼ直交し、方形区画を呈する。埋没土も1号溝と同様な土質であり、大礫が多量に含まれる。掘り方は船底状を呈する。出土遺物には、摺鉢、釘、鉄鏝及び古銭が出土している。古銭は聖宋元宝(宋、1101年)のものである。



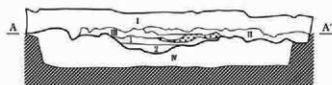
第168図 溝跡全体図



第169図 1号・3号溝跡

2号溝

第1次調査区南東部に検出された溝跡である。I_g・h-8～16グリッド内に位置し、走行はN-15°-Eに傾く。確認全長は47m、上端2.3m、下端1m、深さ0.2mの規模を測る。1号溝と平行気味に伸び、路線を横断する町道とも平行する。埋没土上層から中層にかけてAs-B混じりの黒褐色土が堆積し、一部As-Bの灰と軽石の塊を含む層が見られ、埋没途中にAs-Bが降下したと考えられる。

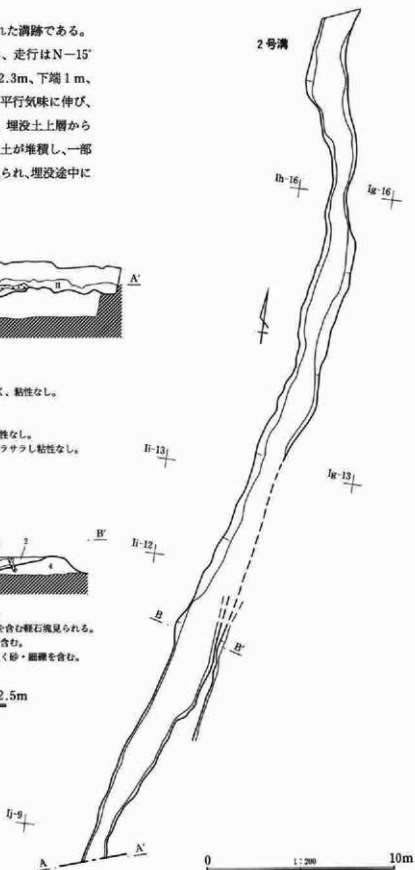


2号溝

- I. 灰褐色土 現耕作土。
- II. 暗褐色土 As-A混じり、しまり弱く、粘性なし。
- III. 黒褐色土 As-B混じり、砂質。
- IV. 暗褐色土 よくしまり、粘性強い。
- 1. 黒褐色土 細砂状、サラサラし、粘性なし。
- 2. 褐色土 細砂状で、しまり弱く、サラサラし粘性なし。

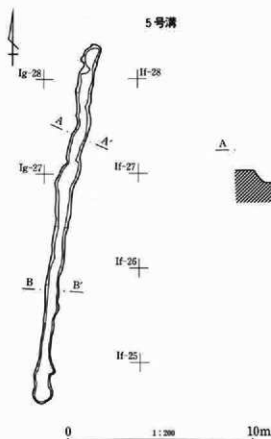


- 1. 黒褐色土 砂質、As-Bを若干含む。
- 2. 黒褐色土 As-B堆積層。下に灰を含む軽石塊見られる。
- 3. 黒色土 やや粘性あり。細礫を若干含む。
- 4. 黒褐色土 粘性あり。粒子はやや粗く砂・細礫を含む。



第170図 2号溝跡

5号溝



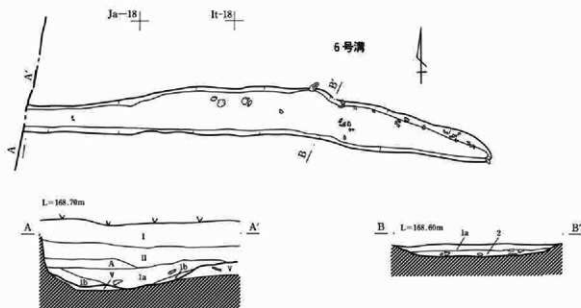
5号溝 (PL29)

第1次調査区北東寄りで検出された溝跡である。If-22～25グリッド内に位置し、N-10°-Eに傾く。2号溝の延長部分か？掘り方は逆台形を呈する。確認全長は19m、上端0.6m、下端0.45m、深さ0.15mの規模を測る。



6号溝 (PL29)

第2次調査区南西隅において、東西の町道と平行気味に検出された溝跡である。Hq-t・Ia・b-16・17グリッド内に位置し、N-92°-Eに傾く。重複は無い。確認全長は25m、上端2.1m、下端1.6m、深さ0.15mの規模を測る。埋没土は、しまりの弱い、大・小礫混じりの暗褐色土である。出土遺物や軽石等は見られず、時期は不明である。



6号溝:

Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ層は基本土層参照

A. 黒褐色土 基本土層Ⅲ層の流れ込み。

1 a. 暗褐色土 大小礫混じり、しまり弱い。

1 b. 暗褐色土 大礫僅かに含む。小礫含み、黒褐色土塊多く含む。

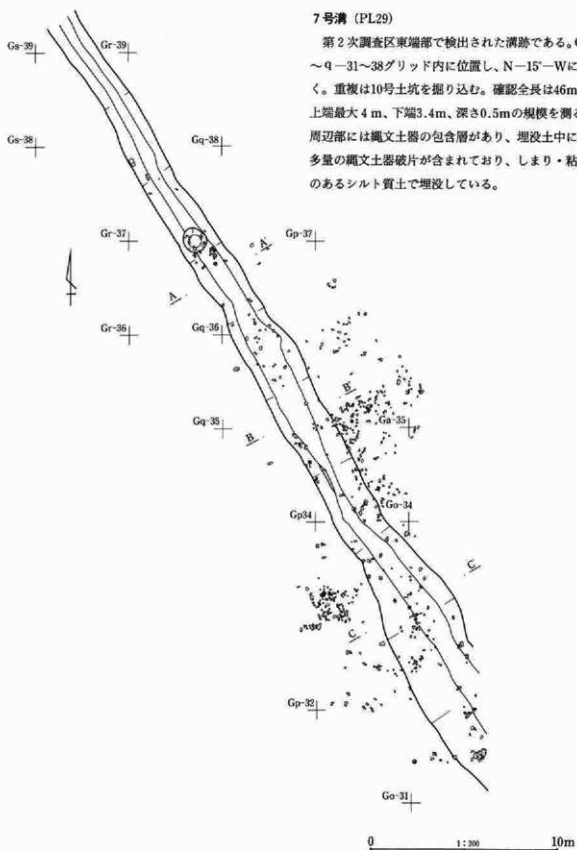
2. 淡褐色土 大礫多量に混じる。黄褐色粗砂粒塊を含む。



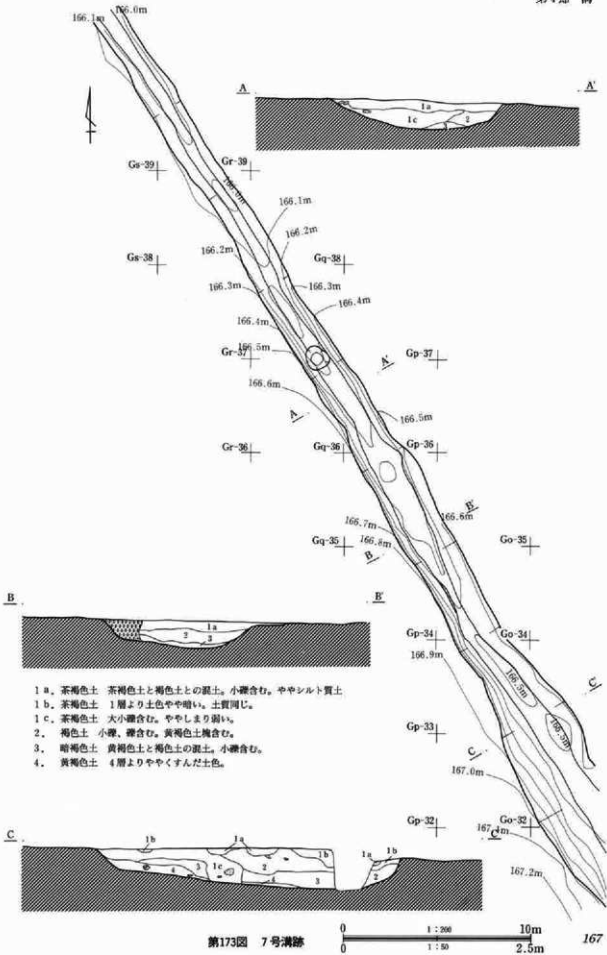
第171図 5号・6号溝跡

7号溝 (PL29)

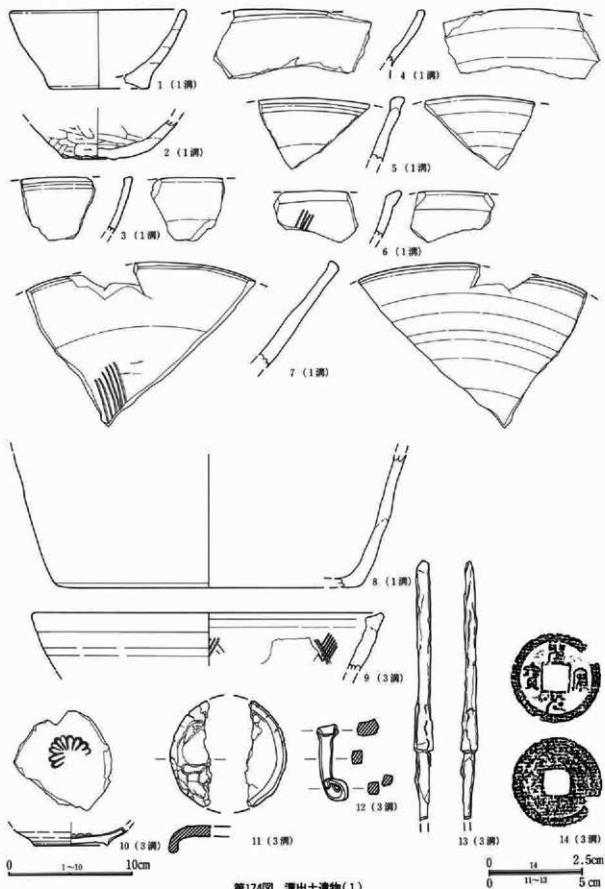
第2次調査区東端部に検出された溝跡である。Gn
 ~Q-31~38グリッド内に位置し、N-15°-Wに傾く。
 重複は10号土坑を掘り込む。確認全長は46m、
 上端最大4m、下端3.4m、深さ0.5mの規模を測る。
 周辺部には縄文土器の包含層があり、埋設土中にも
 多量の縄文土器破片が含まれており、しまり・粘性
 のあるシルト質土で埋没している。



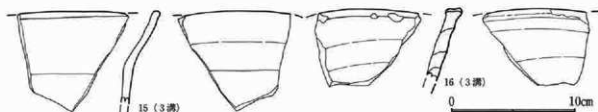
第172図 7号溝遺物出土状況



第3章 検出された遺構・遺物



第174図 溝出土遺物(1)



第175図 清出土遺物(2)

清出土遺物観察表 (PL69)

番号	部 種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土 部 器 環	1号溝	1/4	口(13.4) 高6.2底(8.0)	①におい褐色②酸化焙 ③細砂含む	口縁部微ナデ。体部指ナデ。輪襷み痕残る。内面 丁寧なナデ。	
2	土 部 器 壺	1号溝	底部	口一 高一 底5.5	①におい褐色②酸化焙 ③細砂含む	胴下部横位へラ削り。底面へラ削り。内面指ナ デ。	
3	軟質陶器 罎	1号溝	口縁部 片	口一 高一 底一	①灰黄褐色②還元焙 ③細砂砂含む	口縁部僅かに内湾。口唇頂部内傾し、ナデ。	No4と同一 個体?
4	軟質陶器 罎	1号溝	口縁部 片	口一 高一 底一	①黄灰②還元焙 ③細砂砂含む	口縁部僅かに内湾。口唇頂部内傾し、ナデ。	No3と同一 個体?
5	軟質陶器 襷 鉢	1号溝	口縁部 片	口一 高一 底一	①灰黄褐色②中性焙 ③細砂砂含む	輪襷整形。直線的に開く。口唇頂部内傾。口唇部 折り返し。	
6	軟質陶器 襷 鉢	1号溝	口縁部 片	口一 高一 底一	①暗灰黄②還元焙 ③細砂砂含む	口唇部肥厚し、外傾する。割部薄い。内面唇歯状 工具によるおろし目。	
7	軟質陶器 襷 鉢	1号溝	口一割 部片	口一 高一 底一	①黄灰②中性焙 ③細砂砂含む	輪襷整形。直線的に開く。内面6から7本一単位 の唇歯状工具によるおろし目。	
8	軟質陶器 罎	1号溝	底部付 近1/4	口一 高一 底一	①灰黄褐色②還元焙 ③細砂砂含む	胴下半横位ナデ。底部砂状に砂粒多く見られる。	
9	軟質陶器 襷 鉢	3号溝	口縁1/4	口一 高一 底一	①におい褐色②酸化焙 ③細砂砂含む	輪襷整形。口唇頂部内傾。内面6本一単位の唇歯状 工具によるおろし目。	
10	施釉陶器 高台付皿	3号溝	底部の み	口一 高一 底5.8	①灰白②中性焙 ③施釉	淡緑施釉質入。外縁部切り離し後、回転ヘラナデ。 内底面彫文。	
11	鉄 製 品 不 明	3号溝	1/4	<計測値>長(5.5)、幅2.0、厚0.06、重13.0g <特徴>端部屈曲、円形の蓋状を呈する。			
12	鉄 製 品 釘	3号溝	完形	<計測値>長4.0、幅0.6、厚0.65、重7.0g <特徴>板状頭部屈曲。先端部折れ曲がる。			
13	鉄 製 品 鏝	3号溝	ほぼ完 形	<計測値>長13.5、身部 幅0.6、厚0.7、茶部 幅0.5、厚0.5、重1.29g <特徴>直線的。先端部板状。			
14	鉄 製 品 古 銭	3号溝	ほぼ完 形	<計測値>外径2.4、内径0.7、重2.16g <特徴>聖元元宝。宋銭 1101年			
15	軟質陶器 罎	3号溝	口縁部 片	口一 高一 底一	①暗灰黄②還元焙 ③細砂砂含む	輪襷整形。口縁部内湾。頂部平坦。	
16	軟質陶器 襷 鉢	3号溝	口縁部 片	口一 高一 底一	①明赤褐色②酸化焙 ③細砂砂含む	輪襷整形。口唇頂部横ナデ。	

第5節 その他の遺構

1. 古 墳

1号古墳 (PL3・30)

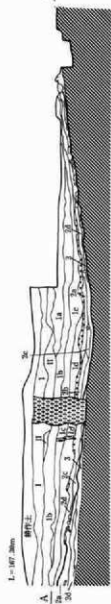
本道跡南に展開する善慶寺古墳群は昭和143年の構造改善事業により多くの古墳が消滅したとされている。1号古墳は、その時に削平を受けた古墳と考えられる。(田籾上平遺跡歴史的環境参照)

遺構は、調査区北西隅部のHI-q-31~36グリッド内で確認し、1/2が路線にかかっていた。当初遺構

西側はAs-B混土及びAs-B主体の黒褐色土により埋没した谷頭状の落ち込みと考えた。しかし、東斜面部では20~40cm大の碟が弧状を呈し、葎石状にまつまり西側斜面部ではこの状況が見れないことから古墳の周堀とした。墳丘部は削平を受け石室等の痕跡は見られず、周堀部分は若干の落ち込みが見られる

I・II・基本土層断面

- 1 a, 暗茶褐色土 褐色土と茶褐色土との混土, Aa・Bを含む。
- 1 b, 黒褐色土 茶褐色土を含み, Aa・B多量に含む。
- 1 c, 黒褐色土 Aa・Bを多量に含む, 砂質。
- 1 d, 黒褐色土 Aa・B主体, Aa・Bの灰・磁石塊を含む。
- 2 a, 暗褐色土 基本土層田原のくすんだ土。
- 2 b, 暗褐色土 粘性強く, 礫混じり。
- 2 c, 暗褐色土 粘性強く, 礫混じり。大量多量に含む。
- 2 d, 暗褐色土 粘性強く, 礫・黒褐色土混含む。
- 3, 灰褐色土 シルト質, 粘性, しまりあり。



- 1 a, 暗褐色土 シルト質, 小礫を強めに含む。
- 1 b, 暗褐色土 シルト質, しまり強い。



第176図 1号古墳

程度である。遺物は、東側集葬内部から口縁部が短く立ち上がり、横撫でが施される小型の土師器環と

厚手の土師器甕が僅かに2個体出土しているのみである。



0 10cm

第177図 1号古墳出土遺物

古墳出土遺物観察表 (PL71)

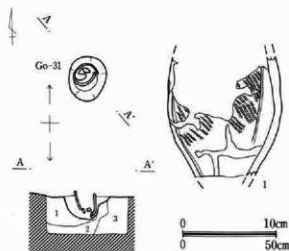
番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法 量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	土師器 環	Hm-34 ±0	底部欠 口-傷 底-	口10.6 高- 底-	①橙②酸化焰 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部調整不明瞭。	
2	土師器 甕	Hn-33 ±0	底欠	口- 高- 底-	①橙②酸化焰 ③粘土粒含む	胴下端部、部分的にナデ痕。その他未調整。内面横位ナデ。	

2. 埋設土器

1号埋設土器 (PL74)

本遺構が検出された地点は、調査区東端部Gn-31グリッド内に位置し、路線を南北に横断する町村境の農道を挟み縄文時代中期の配石遺構を検出した田篠中原遺跡と接する。そのため本調査区でも遺構の続きが検出されると予想がされたが、配石遺構はなく主に同期の包含層が見られただけであった。

本遺構は、7号溝南側西脇において確認され、包含層内の遺物が集中する地点にある。土器は、径22cm、深さ12cm程の小ビット内に正位で埋置されており、口縁部及び底部の欠損した胴径12cm程の小型の深鉢胴部である。遺構内や周辺部には焼土、灰等は見られない。



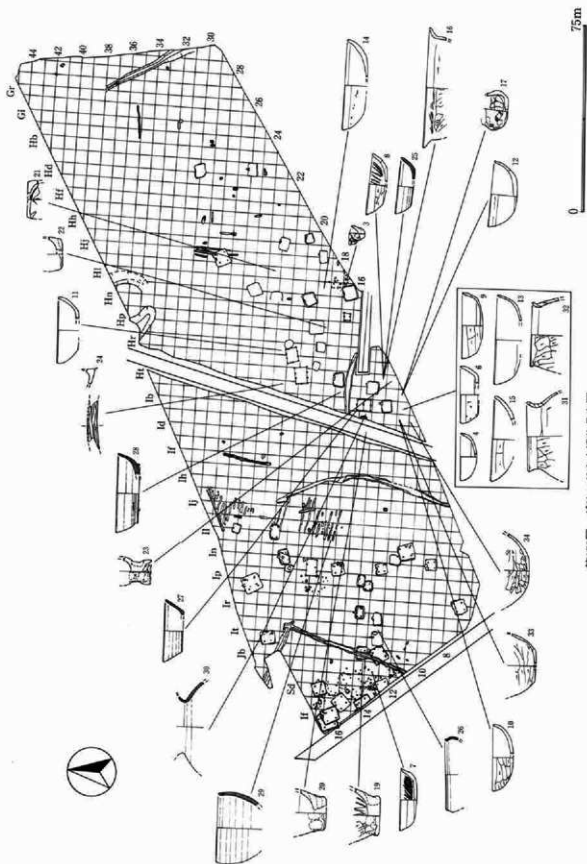
1. 暗褐色土 小礫を僅かに含む。
2. 褐色土 黄褐色土を僅かに含み、小礫を多く含む。(地山)
3. 黄褐色土 やや粘性あり。(地山)

第178図 1号埋設土器及び出土遺物

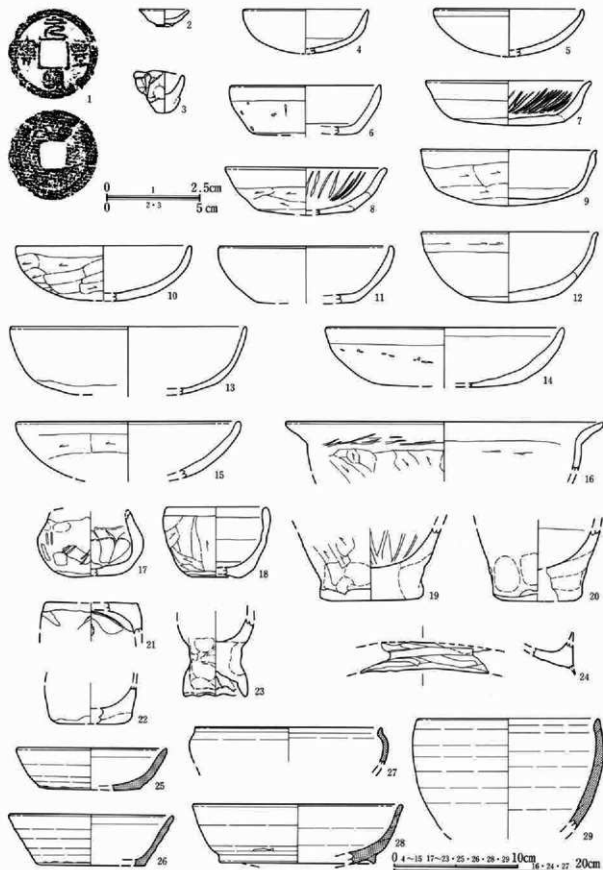
埋設土器 (PL74)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	縄文土器 鉢	Go-31	胴下部 底部欠損	①にやや赤褐②不良 ③中粒の砂を混入	口縁部に無文体。以下隆帯と沈線による文様。内外面は荒れている。	

3. グリッド出土遺物

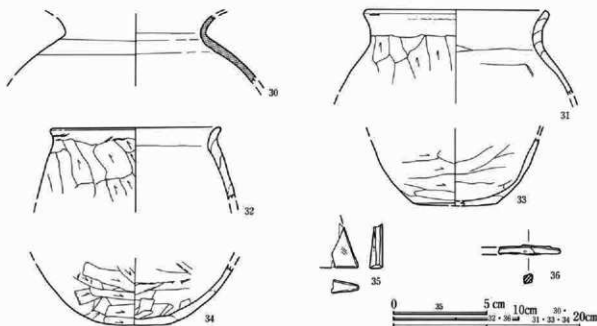


第179図 グリッド出土遺物分布図



第180図 グリッド出土遺物(1)

第3章 検出された遺構・遺物



第181図 グリッド出土遺物(2)

グリッド出土遺物観察表 (PL71・72・73・74・75・76)

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色澤②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
1	鉄製品 古銭		完形	<計測値>外径2.4 内径0.75 重2.31g		<特徴>元銭通宝。宋銭 1078年	
2	ミニチュア土器 土器		表様	口(2.8) 高(1.0) 底(0.8)	①にぶい焼成②酸化焙 ③精選	高台部削り出し。	
3	土器 手づくね	H1-17	完形	口2.7 高2.4 底—	①焼成②酸化焙 ③細砂粒含む	器形不明瞭。粘土塊指押し。	
4	土器 環	Ia-12	口〜底 1/2	口10.0 高— 底—	①焼成②酸化焙 ③細砂粒含む	器表面隆く、調整不明瞭。	
5	土器 環	Ht-13	1/2	口(11.6) 高— 底—	①焼成②酸化焙 ③細砂粒含む	器表面隆く、調整不明瞭。器内薄い。	
6	土器 環	Ia-12	1/2	口12.0 高— 底—	①焼成②酸化焙 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へう削り。内面丁寧なナデ。平底。	
7	土器 環	Jb-12 Jb-13	口縁— 部欠	口12.8 高3.5 底9.0	①にぶい焼成②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部未調整底部平底状、へう削り。内面ナデ後、斜位へう揃き状胎文。	
8	土器 環	Hs-14	1/2	口(12.4) 高— 底—	①明赤褐色②酸化焙 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へう削り。底部平底へう削り。内面放射状胎文。	
9	土器 環	Ia-12	1/2	口14.0 高— 底—	①焼成②酸化焙 ③細砂粒・粘土粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へう削り。底部平底状、へう削り。	
10	土器 環	Ib-12	口〜底 1/2	口14.0 高— 底—	①焼成②酸化焙 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へう削り。内面丁寧なナデ。	
11	土器 環	Hr-22	口縁片 1/2	口(13.4) 高— 底—	①焼成②酸化焙 ③細砂粒含む	器表面隆く、調整不明瞭。器内薄い。	
12	土器 環	Ht-12	口〜底 1/2	口14.0 高— 底—	①明赤褐色②酸化焙 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部から底部調整不明瞭。	
13	土器 環	Ia-12	口〜胴 1/2	口19.0 高— 底—	①焼成②酸化焙 ③細砂粒含む	器表面隆く、調整不明瞭。器内薄い。	
14	土器 環	H1-18	口〜底 部1/2	口18.8 高— 底—	①焼成②酸化焙 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部未調整。輪積み項残る。底部及び内面調整不明瞭。	
15	土器 環	Ia-12	1/2	口(17.4) 高— 底—	①にぶい焼成②酸化焙 ③細砂粒含む	口縁部横ナデ。体部横位へう削り。内面丁寧なナデ。	
16	土器 鉢	Hs-14	口縁1/2	口— 高— 底—	①にぶい焼成②酸化焙 ③砂粒含む	口縁部横ナデ。頸部強いナデ。胴上斜位へう削り。内面横位ナデ。	

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	法量 (cm)	①色調②焼成③胎土	器形・整形の特徴	備考
17	土器器 小鉢	Ht-12	片	口一 高一 底(4.8)	①黒褐色酸化焰 ③砂粒含む	手づくね、口縁部横ナデ。体部未調整。内面指ナ デ上げ痕あり。	
18	土器器 小鉢	表探	片	口8.4 高一 底4.0	①にぶい黄褐色酸化 焰③砂粒含む	口縁部横ナデ。体部縦横へく削り後ナデ。内面横 位ナデ。	
19	土器器 鉢	Jb-14	底部 ^{1/2}	口一 高一 底8.2	①赤褐色酸化焰 ③砂粒含む	体部下平縁位へく削り。底部肥厚。指頭圧痕。端 部削取り。内面斜縁位ナデ後、放射状暗文。	
20	土器器 鉢	Ic-15	底部 ^{1/2}	口一 高一 底(7.0)	①褐色酸化焰 ③砂粒含む	底部肥厚。指頭圧痕。内面黒色処理?	
21	土器器 台	Hk-23	片	口7.4 高一 底一	①褐色酸化焰 ③砂粒含む	上面木葉痕。側面未調整。内面指ナデ痕明顯。	
22	土器器 ミニチュア	Ho-19	台部 ^{1/2}	口一 高一 底一	①明褐色酸化焰 ③砂粒含む	上面木葉痕。側面未調整。内面指ナデ痕明顯。内 面了事なナデ。	
23	土器器 台付土器	Hf-13	台部 ^{1/2}	口一 高一 底4.7	①灰青褐色酸化焰 ③砂粒含む	手づくね風。台部粘土塊からの成形。側面指頭圧 痕。上下内面、指ナデ痕明顯。	
24	土器器 甕形土器	His-13	破片	口一 高一 底一	①褐色酸化焰 ③砂粒含む	湾曲し、底面平滑。内面指ナデ。外面了事な ナデ。頸部?	
25	須恵器 坏	His-14	口一底 破片	口11.8 高一 底一	①灰②還元焰 ③精選	縦横整形。底部へく調整。内面自然粘付着。	
26	須恵器 坏	Ib-16	口一底 破片	口13.0 高一 底一	①灰②還元焰 ③精選	縦横整形。底部へく調整。内面カーボン付着。	
27	須恵器 鉢	Ig-13	破片	口20.0 高一 底一	①にぶい黄褐色還元 焰③精選	縦横整形。口縁部短く直立。体部内湾。	
28	須恵器 埴	Ht-17	口一底 ^{1/2}	口(16.4)高一 底(12.2)	①灰白②還元焰 ③精選	縦横整形。底部回転へく調整後、高台部貼付?	
29	須恵器 鉢	Hi-18	口一割 下部 ^{1/2}	口(14.0) 高一 底一	①灰オリーブ②還元 焰③細砂粒含む	縦横整形。口唇部シャープ。	
30	須恵器 壺	Ib-15	頸部 破片	口一 高一 底一	①灰②還元焰 ③細砂粒含む	縦横整形。球形割。口縁部外反。内面当て具痕あ り。	
31	土器器 壺	Ia-12	口一割 高一 底一	口(19.0) 高一 底一	①明褐色酸化焰 ③粗砂粒含む	口縁部僅かに外反。横ナデ。胴部球形。上半部 斜縁位へく削り。内面横位ナデ。	
32	土器器 壺	Ia-12	口一割 高一 底一	口(13.0) 高一 底一	①にぶい赤褐色酸化 焰③砂粒含む	内湾気体部部から短かな口縁部へ移行。口縁部横 ナデ。割上半斜位へく削り。	
33	土器器 壺	Ib-13	底部 ^{1/2}	口一 高一 底9.0	①明赤褐色酸化焰 ③砂粒含む	割下半横位へく削り。内面横位ナデ。	
34	土器器 壺	Ib-11	底部の み	口一 高一 底9.8	①褐色酸化焰 ③砂粒含む	胴部球形状。下半細かなへく削り。内面横位ナデ 後へくナデ。	
35	石製品	Ib-16	角隅破 片	<計測値>長2.1、幅1.2、厚0.6、重1.14g	<石材>碧玉 <特徴>翼状を呈し、全面 研磨。		
36	鉄製品 釘	Ii-26	角隅欠 損	<計測値>長3.3、幅0.5、厚4.5、重1.28g	<特徴>断面方形を呈する棒状鉄製品。		

早道場遺跡と田篠中原遺跡

本遺跡検出の縄文時代の遺構と遺物は、遺跡名こそ異なるものの東隣の田篠中原遺跡と同一の集落を構成するものである。

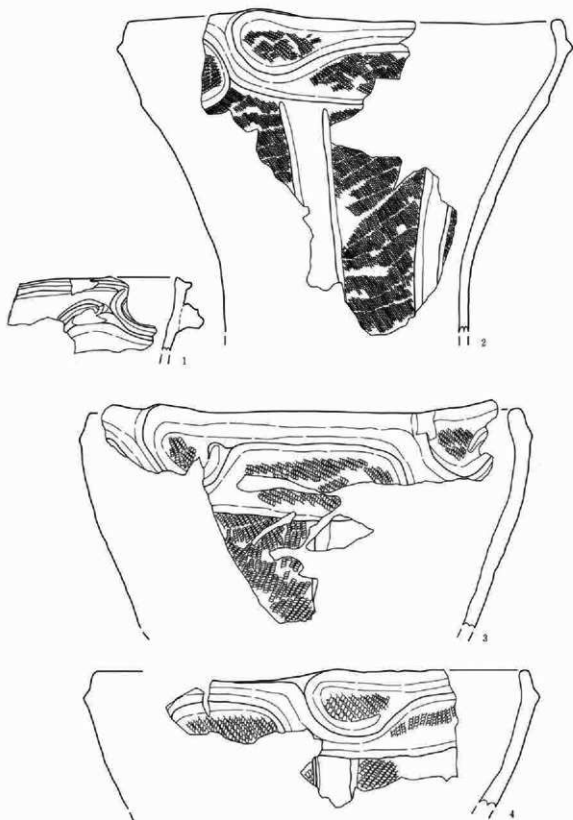
今回の調査によって田篠中原遺跡の縄文時代中期末集落の西端が確認されたことになる。出土遺物も加曾利E3式土器を中心として、石器では多孔石や凹石が出土している(第189図)。その分布はGoグリッドからHaグリッドにかけて集中しているが、とりわけ調査区北端と南端に集中しているようである(第190図)。

こうした遺物の分布状況によって、本遺跡のGtグ

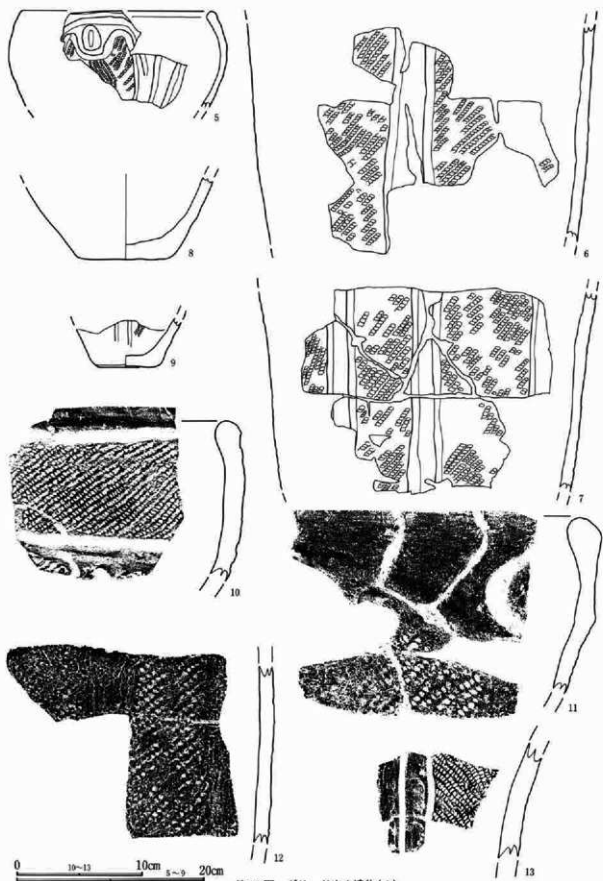
リッドの範囲までが田篠中原遺跡の縄文時代中期末の集落に含まれ、その規模も確定することができる。東西方向約280メートル、南北方向は調査区範囲では約200メートルという結果になった。

しかしこれは中期加曾利E3式期の集落規模であって、次ぎの加曾利E4式期ではその規模を著しく縮小していることは、すでに「田篠中原遺跡調査報告書」の中で指摘したことである。

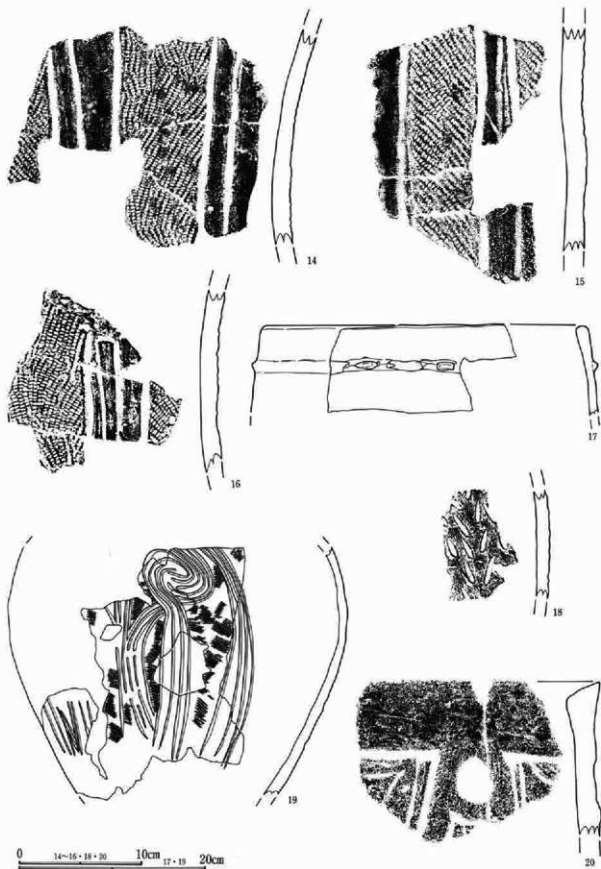
限られた路線内の調査ではあったが、縄文時代中期末の集落規模を把握できたことは大きな成果である。



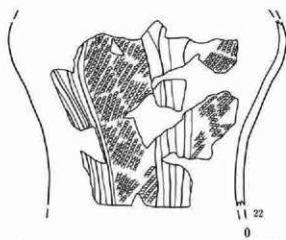
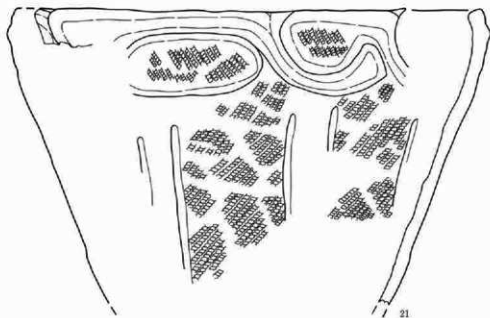
第182図 グリッド出土遺物(3)



第183図 グリッド出土遺物(4)

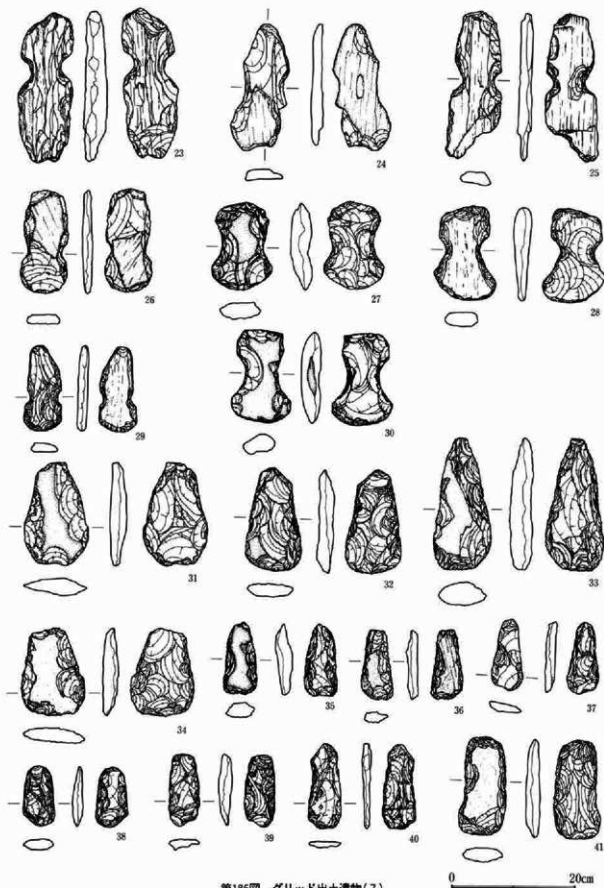


第184図 グリッド出土遺物(5)

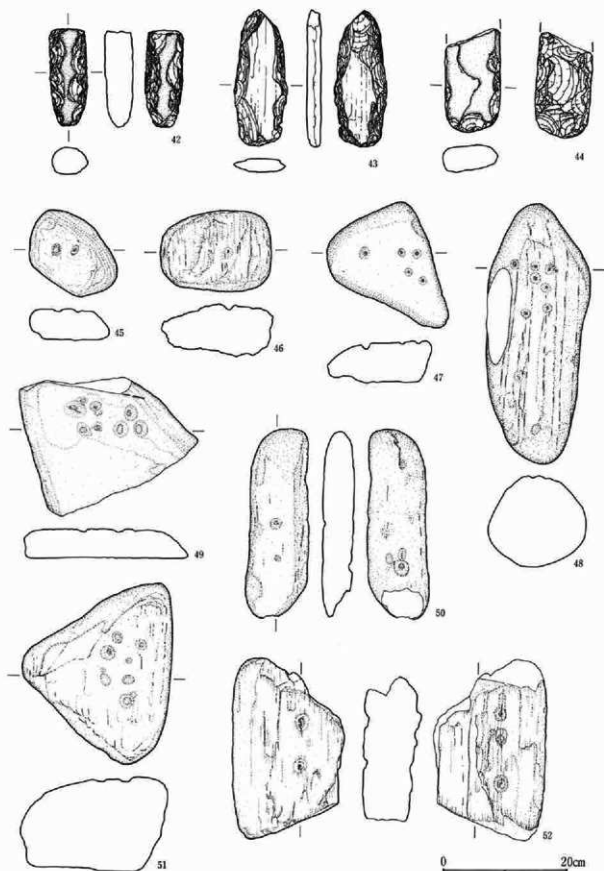


0 20cm

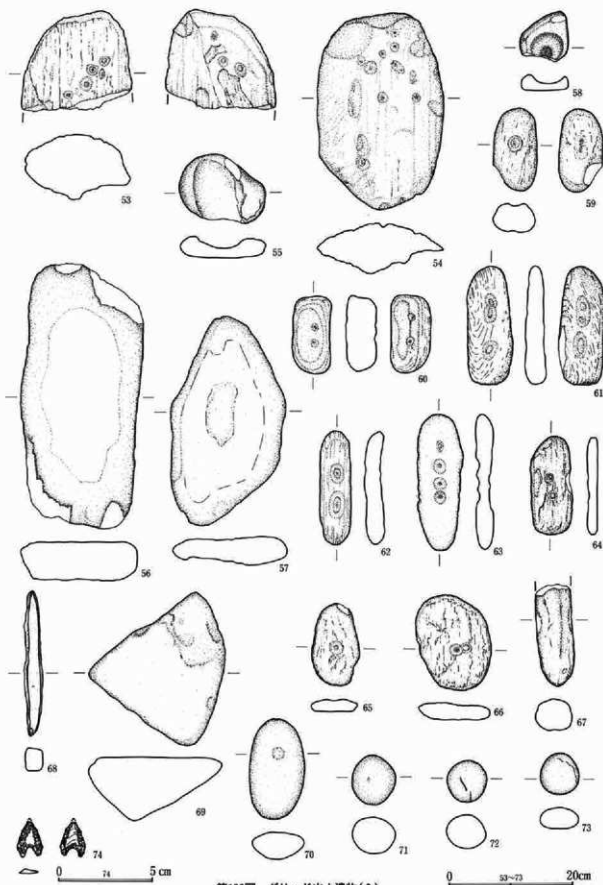
第185図 グリッド出土遺物(5)



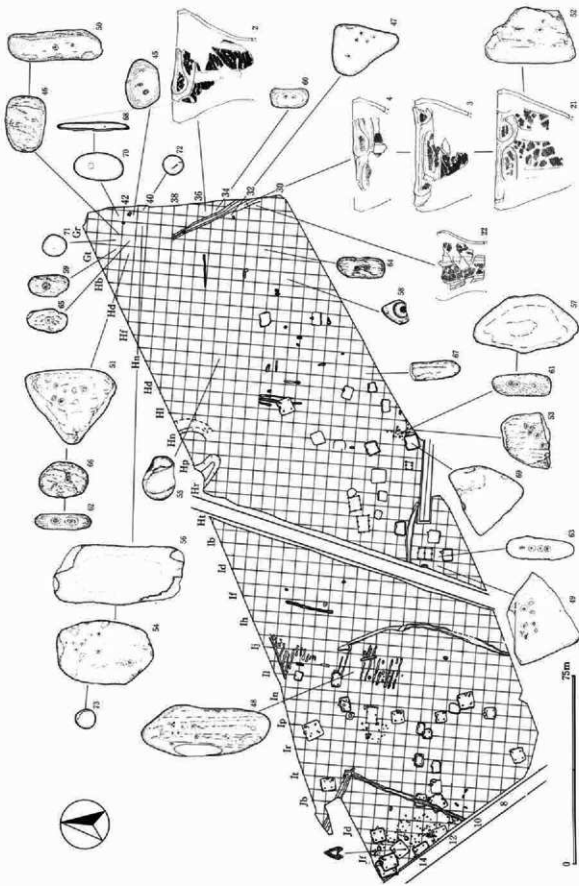
第186図 グリッド出土遺物(7)



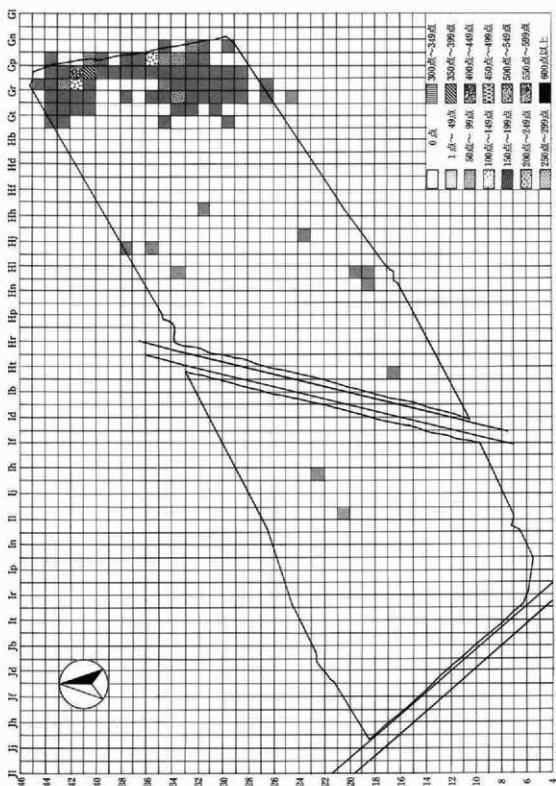
第187図 グリッド出土遺物(8)



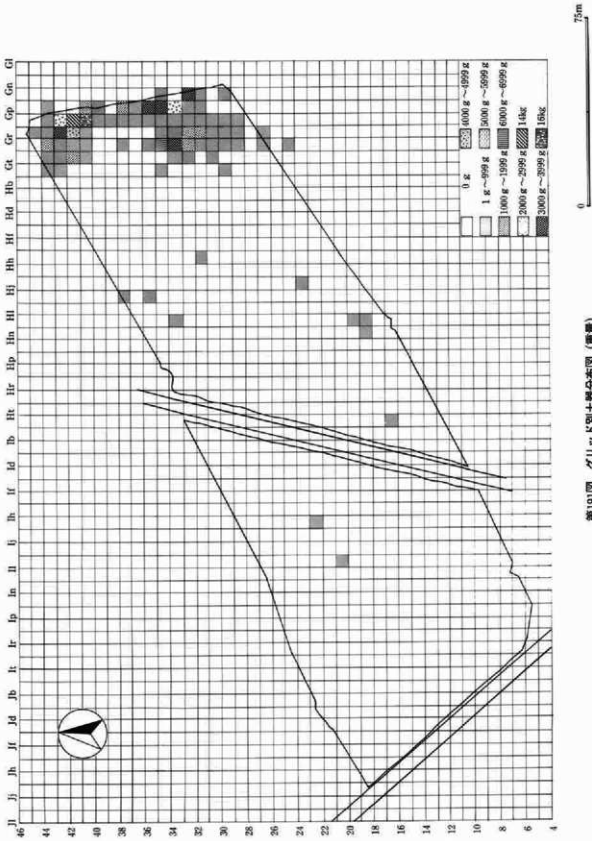
第188図 グリッド出土遺物(9)



第189図 グリッド出土遺物分布図



第190図 グリッド別土器分布図(点数)



第3章 検出された遺構・遺物

グリッド出土遺物観察表(縄文土器・石器) (PL71・72・73・74・75・76)

番号	器 種	出土位置 (m)	残存	①色剥②焼成③粘土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	縄文土器 深 鉢	H1-18	口縁片	①にふい赤褐色②不良 ③細粒の砂を混入	口縁部は隆帯と沈線による文様。内面は荒れている。	
2	縄文土器 深 鉢	Go-33, 35	口へ割片	①にふい赤褐色②やや 良③細粒の砂を混入	口縁部は内湾する。口縁部は隆帯による楕円等の文様が描かれ、 縄文施文。原体はR { $\frac{1}{L}$ }。胴部は沈線を垂下し、R { $\frac{1}{L}$ }。	
3	縄文土器 深 鉢	Go-35	口へ割片	①明赤褐色②やや良 ③細粒の砂を混入	口縁部は内湾する。口縁部に隆帯による楕円等の文様。縄文施文。 原体はR { $\frac{1}{L}$ }。胴部は沈線を垂下し、R { $\frac{1}{L}$ } 横・縦ころがし。内 面は横方向の磨き。	
4	縄文土器 深 鉢	Gn-32	口縁部破 片	①にふい赤褐色②やや 良③細粒の砂を混入	口縁部は内湾する。口縁部に隆帯による楕円等の文様が描かれ、 縄文施文。原体はR { $\frac{1}{L}$ }。胴部は沈線を垂下し、R { $\frac{1}{L}$ }。	
5	縄文土器 深 鉢	Gp-42	口縁部破 片	①にふい赤褐色②良 ③細粒の砂を混入	内湾する口縁部片。口縁部に沈線による文様。縄文施文。原体は R { $\frac{1}{L}$ } 内面は横方向の丁寧な調整。	
6	縄文土器 深 鉢	Gn-32	割片	①にふい赤褐色②不良 ③中粒の砂を混入	沈線を垂下。縄文施文。原体はR { $\frac{1}{L}$ } 縦ころがし。内面は横方向 の調整。	
7	縄文土器 深 鉢	Gn-32	胴部破片	①にふい赤褐色②不良 ③中粒の砂を混入	沈線を垂下。縄文施文。原体はR { $\frac{1}{L}$ } 縦ころがし。	
8	縄文土器 鉢	Gp-42	底部	①赤褐色②不良 ③中粒の砂を混入	底形10cm。内面は広い調整。	
9	縄文土器 鉢	Go-35	底部	①にふい赤褐色②やや 良③中粒の砂を混入	底形7cm。内面は丁寧な調整。	
10	縄文土器 深 鉢	Go-40	口縁部破 片	①明赤褐色②良 ③細粒の砂を混入	内湾する口縁部片。口縁部は沈線による楕円区画縄文施文。原体 はR { $\frac{1}{L}$ }。内面は横方向の磨き。	
11	縄文土器 深 鉢	Gn-32	口縁部破 片	①にふい赤褐色②不良 ③中粒の砂を混入	内湾する口縁部片。口縁部は隆帯による楕円区画縄文施文。原体 はR { $\frac{1}{L}$ }。胴部は沈線を垂下。R { $\frac{1}{L}$ } 縦ころがし。	
12	縄文土器 深 鉢	Gn-32	胴部破片	①にふい赤褐色②不良 ③中粒の砂を混入	沈線を垂下。縄文施文。原体はR { $\frac{1}{L}$ } 縦ころがし。	
13	縄文土器 深 鉢	Gp-40	胴部破片	①にふい赤褐色②良 ③中粒の砂を混入	沈線を垂下。縄文施文。原体はL { $\frac{R}{R}$ }。内面は横方向の調整。	
14	縄文土器 深 鉢	Gp-40	胴部破片	①にふい赤褐色②良 ③中粒の砂を混入	沈線を垂下。縄文施文。原体はR { $\frac{1}{L}$ }。内面は横方向の丁寧な調整。	
15	縄文土器 深 鉢	Gp-40	胴部破片	①明赤褐色②良 ③細粒の砂を混入	沈線を垂下。縄文施文。原体はL { $\frac{R}{R}$ }。縦ころがし。内面は縦方 向の調整。	
16	縄文土器 鉢	Gp-40	胴部破片	①にふい赤褐色②良 ③中粒の砂を混入	沈線を垂下。縄文施文。原体はR { $\frac{1}{L}$ }。内面は横方向の調整。	
17	縄文土器 深 鉢	Gn-32	口縁部破 片	①にふい赤褐色②良 ③細粒の砂を混入	口縁部はやや内湾する。口唇部は狭い無文帯をおき、1条の隆起帯 を巡らせる。隆起状に剥刺。内面は丁寧な横方向の調整。	
18	縄文土器 深 鉢	Go-34, 40	胴部破片	①にふい赤褐色②良 ③細粒の砂を混入	押し引状の沈線が施されている。	
19	縄文土器 鉢	Gn-40	胴部破 片	①にふい赤褐色②良 ③細粒の砂を混入	縄文施文。原体はL { $\frac{R}{R}$ }。沈線による文様。内面は丁寧な調整。	
20	縄文土器 深 鉢	Hk-20	口縁部破 片	①赤褐色②良 ③細粒の砂を混入		
21	縄文土器 深 鉢	Gn-32	口縁・胴 部片	①にふい赤褐色②不良 ③中粒の砂を混入	内湾する口縁部片。口縁部は隆帯による楕円区画。縄文施文。原 体はR { $\frac{1}{L}$ }。	
22	縄文土器 深 鉢	Gn-31, 37	胴部破 片	①にふい赤褐色②やや良 ③細粒の砂を混入	沈線を垂下。縄文施文。原体はL { $\frac{R}{R}$ } 縦ころがし。	
23	打製石斧	Go-33	部一破	<計測値>長23.5、幅5.0、厚3.5、重850g <石材>石黒片岩<磨形>分銅型		
24	打製石斧	Go-32	端部欠損	<計測値>長20.1、幅9.3、厚1.8、重370g <石材>緑泥片岩<磨形>分銅型		
25	打製石斧	Ja-22	先端欠損	<計測値>長(23.1)、幅8.1、厚2.1、重440g <石材>石黒片岩<磨形>分銅型		
26	打製石斧	Iq-6	決部磨減	<計測値>長16.3、幅7.5、厚1.7、重270g <石材>点紋網雲母石黒片岩<磨形>分銅型		
27	打製石斧	Hi-23	完形	<計測値>長13.9、幅9.5、厚2.7、重495g <石材>熱変成岩<磨形>分銅型		
28	打製石斧	Hm-30	刃部磨減	<計測値>長14.7、幅5.3、厚2.8、重400g <石材>網雲母石黒片岩<磨形>分銅型		
29	打製石斧	Hn-30	刃部磨減	<計測値>長13.4、幅6.1、厚1.6、重200g <石材>網雲母石黒片岩<磨形>分銅型		
30	打製石斧	Hi-29	決部磨減	<計測値>長14.7、幅9.4、厚3.2、重496g <石材>熱変成岩<磨形>分銅型		
31	打製石斧	Ha-13	完形	<計測値>長16.4、幅10.3、厚2.9、重480g <石材>流紋岩<磨形>ばち型		
32	打製石斧	Hm-17	完形	<計測値>長16.5、幅8.8、厚2.7、重490g <石材>黒レイ岩<磨形>ばち型		

番号	器種	出土位置 (cm)	残存	①色調・焼成・胎土	器形・整形の特徴	備考
33	打製石斧	Hc-26	完形	<計測値>長20.8、幅9.0、厚3.6、重790g <石材>斑レイ岩<器形>ばち型		
34	打製石斧	Hc-26	ほぼ完形	<計測値>長14.0、幅10.0、厚2.5、重400g <石材>流紋岩<器形>ばち型		
35	打製石斧	Gq-42	完形	<計測値>長11.4、幅5.1、厚2.9、重150g <石材>熱変成岩<器形>ばち型		
36	打製石斧	Gq-42	完形	<計測値>長10.9、幅4.9、厚1.8、重120g <石材>斑レイ岩<器形>ばち型		
37	打製石斧	Hm-20	完形	<計測値>長11.3、幅5.0、厚1.6、重96g <石材>熱変成岩<器形>ばち型		
38	打製石斧	Ja-13	完形	<計測値>長9.5、幅5.0、厚1.7、重100g <石材>熱変成岩<器形>ばち型		
39	打製石斧	Gp-41	完形	<計測値>長11.3、幅4.8、厚2.1、重110g <石材>熱変成岩<器形>ばち型		
40	打製石斧	Hm-18	完形	<計測値>長13.4、幅5.1、厚1.5、重105g <石材>赤色珪質板岩<器形>ばち型		
41	打製石斧	Ja-22	完形	<計測値>長15.5、幅6.5、厚2.3、重400g <石材>緑泥片岩<器形>短筒型		
42	棒状石番	Hm-30	片	<計測値>長15.2、幅4.5、厚4.0、重700g <石材>斑レイ岩		
43	打製石斧	Hm-21	完形	<計測値>長21.6、幅8.5、厚2.3、重520g <石材>納言母石黒片岩<器形>ばち型		
44	打製石斧	Gp-40	片	<計測値>長16.7、幅9.1、厚4.7、重1140g <石材>輝岩<器形>短筒型		
45	多孔石	Gp-41	完形	<計測値>長14.2、幅13.8、厚5.0、重1310g <石材>石黒片岩		
46	多孔石	Gq-42	完形	<計測値>長17.8、幅12.9、厚8.4、重3100g <石材>石黒片岩 両面に3ヶの凹。		
47	多孔石	Go-33	完形	<計測値>長20.0、幅17.0、厚6.6、重3190g <石材>点紋緑泥片岩 片面に5ヶの凹。		
48	多孔石	Ik-20	完形	<計測値>長41.0、幅16.4、厚14.4、重13400g <石材>点紋緑泥片岩 片面に13ヶの凹。		
49	多孔石	Ib-14	一部欠損	<計測値>長28.6、幅22.0、厚4.6、重4040g <石材>点紋緑泥片岩 片面に9ヶの凹。		
50	多孔石	Gq-42	一部欠損	<計測値>長31.0、幅12.0、厚5.0、重2620g <石材>点紋緑泥片岩 両面に7ヶの凹。		
51	多孔石	Ge-41	完形	<計測値>長28.6、幅23.6、厚15.0、重13400g <石材>納言母石黒片岩 片面に8ヶの凹。		
52	多孔石	Gn-32	ほぼ完形	<計測値>長28.8、幅17.9、厚9.2、重5880g <石材>石黒片岩 両面に5ヶの凹。		
53	多孔石	Hl-17	片	<計測値>長15.0、幅17.3、厚10.2、重3400g <石材>石黒片岩 両面に8ヶの凹。		
54	多孔石	Gq-41	片	<計測値>長31.2、幅20.2、厚8.0、重6130g <石材>点紋緑泥片岩 片面に13ヶの凹。		
55	石 皿	Hq-33	ほぼ完形	<計測値>長(10.2)、幅13.8、厚3.5、重630g <石材>斑レイ岩 片面に磨面。		
56	石 皿	Gq-41	ほぼ完形	<計測値>長41.8、幅18.8、厚6.3、重9600g <石材>点紋緑泥片岩 片面に浅い磨面。		
57	石 皿	Hl-18	完形	<計測値>長33.0、幅18.3、厚4.5、重3980g <石材>点紋緑泥片岩		
58	凹 石	Gt-28	一部欠損	<計測値>長7.6、幅7.6、厚2.5、重130g <石材>砂岩 片面に凹。		
59	凹 石	Ge-42	一部欠損	<計測値>長13.1、幅7.0、厚4.6、重700g <石材>石黒片岩 両面に3ヶの凹。		
60	凹 石	Go-34	完形	<計測値>長12.2、幅5.8、厚5.1、重660g <石材>点紋緑泥片岩 両面に4ヶの凹。		
61	凹 石	Hl-18	完形	<計測値>長18.6、幅7.1、厚3.2、重800g <石材>納言母石黒片岩 両面に6ヶの凹。		
62	凹 石	Gp-41	完形	<計測値>長18.0、幅5.0、厚3.3、重510g <石材>点紋緑泥片岩 片面に2ヶの凹。		
63	凹 石	Ia-14	裏面割離	<計測値>長21.6、幅7.4、厚2.8、重690g <石材>点紋緑泥片岩 両面に8ヶの凹。		
64	凹 石	Gr-30	完形	<計測値>長15.5、幅6.5、厚1.7、重310g <石材>石黒片岩 片面に2ヶの凹。		
65	凹 石	Gr-41	一部欠損	<計測値>長13.2、幅7.7、厚2.0、重315g <石材>緑泥片岩 片面に1ヶの凹。		
66	凹 石	Ge-41	完形	<計測値>長15.0、幅12.0、厚2.7、重770g <石材>石黒片岩 両面に2ヶの凹。		
67	敲 石	Hh-21	片	<計測値>長(16.2)、幅5.7、厚5.0、重710g <石材>点紋緑泥片岩 側面に敲打痕。		
68	磨 石	Gp-42	完形	<計測値>長23.1、幅2.9、厚3.7、重350g <石材>流紋岩 二面に磨耗痕。		
69	台 石	Hl-17	完形	<計測値>長24.0、幅21.3、厚10.0、重5410g <石材> 火山岩		
70	凹 石	Gp-42	完形	<計測値>長16.0、幅8.9、厚4.3、重890g <石材>流紋岩 片面に1ヶの凹。全面磨耗痕。		
71	丸 石	Ge-42	完形	<計測値>長7.9、幅7.0、厚5.7、重370g <石材>流紋岩		
72	丸 石	Go-40	完形	<計測値>長6.7、幅6.3、厚5.3、重320g <石材>緑泥片岩		
73	丸 石	Gr-41	完形	<計測値>長6.6、幅6.1、厚3.4、重190g <石材>安山岩		
74	石 鏝	Je-15	先端欠損	<計測値>長(2.0)、幅1.3、厚0.2、重0.56g <石材>黒曜石<特徴>無茎石鏝。		

第4章 自然科学分析

第1節 早道場遺跡出土炭化材の樹種同定

藤根 久 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

早道場遺跡は、甘楽郡甘楽町地内の扇状地上に位置する遺跡である。遺跡では、縄文時代、古墳～平安時代、近世の遺構・遺物が検出されている。このうち、住居跡は、いずれも古墳～平安時代のものであり、中には住居建築材の一部と思われる炭化材が出土している。

ここでは、これら住居跡から出土する炭化材の樹種について検討する。なお、検討した炭化材は、古墳時代の3住居跡(13号、24号、39号各住居跡)から出土した炭化材が合計9点、奈良時代の2住居跡(8号、9号各住居跡)から出土した炭化材が合計7点である。

2. 方法と記載

炭化材は、比較的保存の良い硬質部分を選び、適宜手割りで横断面を作成し、実体顕微鏡下で観察する。この段階で同定できる試料と同定できないものに分類する。同定される典型試料と同定できない試料すべてについて、片刃カミソリなどを用いて試料の横断面(木口と同義)、接線断面(板目と同義)、放射断面(柁目と同義)の3断面を作る。各断面試料は、直径1cmの真鍮製試料台に固定、金蒸着を施した後、走査電子顕微鏡(日本電子製JSM T-100型)で観察する。

表1にその結果を示す。樹種の同定は、現生標本との比較により行う。以下に、標本の記載と同定の根拠について述べる。

表1. 出土炭化材の樹種

遺構	取上げ	樹種	遺構	取上げ	樹種
1	8号住居	1 アカガシ亜属	9	13号住居	5 散孔材
2	#	2 #	10	24号住居	- アカガシ亜属
3	#	3 #	11	#	4 #
4	#	4 #	12	#	カマド
5	#	5 モミ属	13	39号住居	1 クヌギ節
6	#	6 モミ属、ヌルギ	14	#	2 #
7	9号住居1(ハンゴ?)	7 ヤマゲウ	15	#	3 #
8	13号住居	1 アカガシ亜属	16	#	5 モミ属

モミ属 *Abies* マツ科 図版1a～1c,

仮道管および放射柔細胞からなる針葉樹材で、早材部から晩材部への移行は比較的緩やかである。また、早材部仮道管は大きく薄壁で、晩材部仮道管は厚壁で偏平でかつ狭い(横断面)。放射組織は、柔細胞からなり単列で2～22細胞高である(接線断面)。その分野壁孔はトウヒ型で1分野に1～2個存在する。また、放射組織の壁は厚く、じゅう状末端壁を有する(放射断面)。

以上の形質から、マツ科のモミ属の材と同定される。モミ属の樹木には、亜高山帯に分布するシラビソ(*A. veichii*)やオオシラビソ(*A. mariesii*)、暖帯から温帯にかけて分布するモミ(*A. firma*)などがある。いず

れも樹高30m、幹径1mに達する常緑針葉樹である。

アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 図版2 a~3 c.

大型の管孔が放射方向に配列する放射孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、単列同性的ものと集合放射組織のものがある(接線断面)。

以上の形質から、ブナ科コナラ属のアカガシ亜属の材と同定される。アカガシ亜属の樹木には関東に分布するアカガシ(*Q. acuta*)やアラカシ(*Q. glauca*)やシラカシ(*Q. myrsinaefolia*)をはじめ8種類ほどある。

アカガシ亜属の樹木は、樹高20m、幹径1mに達する常緑広葉樹である。

クスギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版3 a~3 c.

年輪のはじめに大型の管孔が1~2列並び、そこからやや急に径を減じたやや厚壁の丸い小管孔が放射方向に配列する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、単列同性的ものと集合放射組織のものがある(接線断面)。

以上の形質から、ブナ科コナラ属のクスギ節の材と同定される。クスギ節の樹木には関東地方に普通に見られるクスギ(*Q. acutissima*)と、東海・北陸以西に主として分布するアベマキ(*Q. variabilis*)がある。いずれの樹木も樹高15m、幹径60cmに達する落葉広葉樹である。

ヤマグワ *Morus bombycis* Koidz. クワ科 図版4 a~4 c.

年輪のはじめに大型の管孔が数列並び、そこから径を減じた小管孔が早材部で接線方向に数個複合して散在する環孔材で、また木部柔組織は周円状である(横断面)。道管のせん孔は単一で、小道管の内壁にはらせん肥厚が見られる(放射断面)。放射組織は、異性1~5細胞幅、2~56細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、クワ科クワ属のヤマグワの材と同定される。ヤマグワは、温帯から亜熱帯にかけ広く分布する樹高12m、幹径60cmの落葉広葉樹である。

ヌルデ *Rhus javanica* Linn. ウルシ科 図版5 a~5 c.

年輪のはじめに大型の管孔が1~2程度並び、晩材部では小型の管孔が単独または2~4個程度放射方向あるいは塊状に散在する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、内壁にはらせん肥厚が見られる(放射断面)。放射組織は、異性1~3細胞幅、3~28細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、ウルシ科ウルシ属のヌルデの材と同定される。ヌルデは、温帯から亜熱帯にかけて分布する樹高7mに達する落葉広葉樹である。

散孔材 図版6 a~6 c.

小型の管孔がほぼ単独あるいはやや複合して散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一であるが、道管の内壁にはらせん肥厚は見られない(放射断面)。放射組織は、異性1~6細胞幅、2~30細胞高である(接線断面)。

試料はやや保存が悪く、樹種の同定は困難である。

3. 考 察

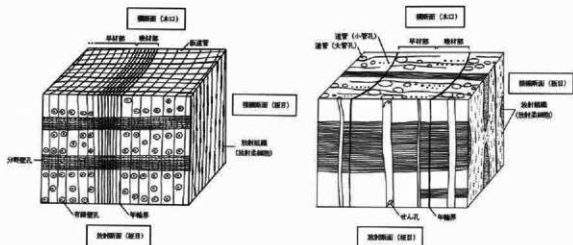
住居から出土する炭化材の樹種は、アカガシ亜属、クスギ節、モミ属、ヌルデ、ヤマグワからなる。古墳~奈良時代における遺跡周辺の樹木植生は、コナラ亜属(コナラ節およびクスギ節からなる)が優勢で、次いでスギ属、クマシデ属-アサダ属、アカガシ亜属、エノキ属-ムクノキ属などの樹木が見られる(例えば徳永、1982)。このことは、周辺に多く生育するコナラ亜属(ここではクスギ節)の樹木以外に、アカガシ亜属の樹木も選択的に利用していることを示している。これまで累下の古墳住居跡の炭化材を見ると、建築材としてクスギ節の

第4章 自然科学分析

樹木を利用する機会が多いようであるが、早道場遺跡の場合にはアカガシ亜属の樹木の利用が高い。これは、遺跡周辺にアカガシ亜属の樹木が多いことを意味するかもしれない。アカガシ亜属の木材は、材質に粘りがあり鉄類などに良く利用される樹種であるが、24号住居では建築材として利用しているようである。この点については、花粉分析あるいは自然木の同定などによる今後の検討が必要である。

引用文献

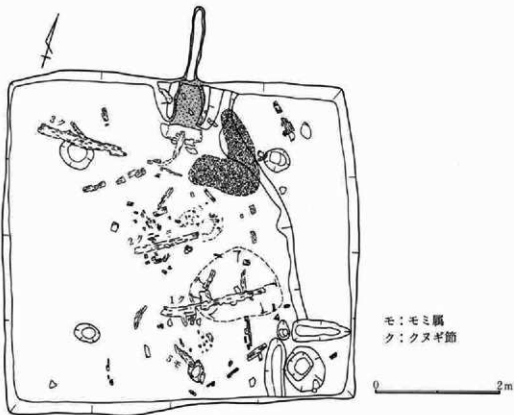
徳永重元 (1982) : 日高遺跡の花粉分析, 日高遺跡—開成自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第5集一, 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団, P. 349-356,



ア. 針葉樹 (ハヤシ属)

第192図 材組織とその名称

イ. 広葉樹 (クスノキ属)



第193図 39号住居の炭化材出土状況とその樹種

第5章 まとめ

1. 竪穴住居跡の形状について

36軒の竪穴住居跡を調査し、調査地西端にかかる14・16号住居と住居内に石組を持つ19号住居を除き、33軒の竪穴住居を完掘した。これらの竪穴住居の平面形は方形及び長方形を基本形とし、僅かに台形が認められた。長方形の住居については、長辺、短辺の割合が1割以上のものをさし、電付設置位置により主軸方向と長辺方向が直交する横長長方形と主軸方向と長辺方向が同一方向となる縦長長方形の2種類に分けた。

以下は、住居形状の特徴について、規模（5m以上大型、4m中型、3m以下小型住居）や時期。竈・柱穴などを含め検討を加える。

縦長長方形 12号・30号住居の2軒のみであった。12号住居は、7世紀代の大型住居に属する。30号住居は8世紀代の中型住居である。この縦長長方形の住居は、東接する田藤上平遺跡においても各期に1軒のみと少なく、竪穴住居を中心とした集落内において、特異な形状と思われる。

横長長方形 18軒を数え最も多く検出された。時期的には5号・11号・39号住居が7世紀代の大型住居である。大半は8世紀代の中型住居であり、長辺：短辺は5：4、4：3の比率が多く見られるが、4・40号住居等のように長辺が5m代で、短辺が3m代を示すものもある。最小値は21号住居の長辺3.0m、短辺2.7mであった。

方形 横長長方形に次いで多く11軒を数えた。規模は、36号住居の長辺3.5m、短辺3.2mを最小とし、最大は20号住居の長辺6.9m、短辺6.7mを測る。この中で4m代2軒、5m代3軒、6m代4軒となり、時期的には32・36号住居の2軒を除き6～7世紀代に集中する。

台形 2号・35号住居の2軒のみであり、竈の付設された壁側が広がる。

当遺跡では、6世紀代より竪穴住居が出現し、8～9世紀へと継続されて営まれる。住居形状も従来

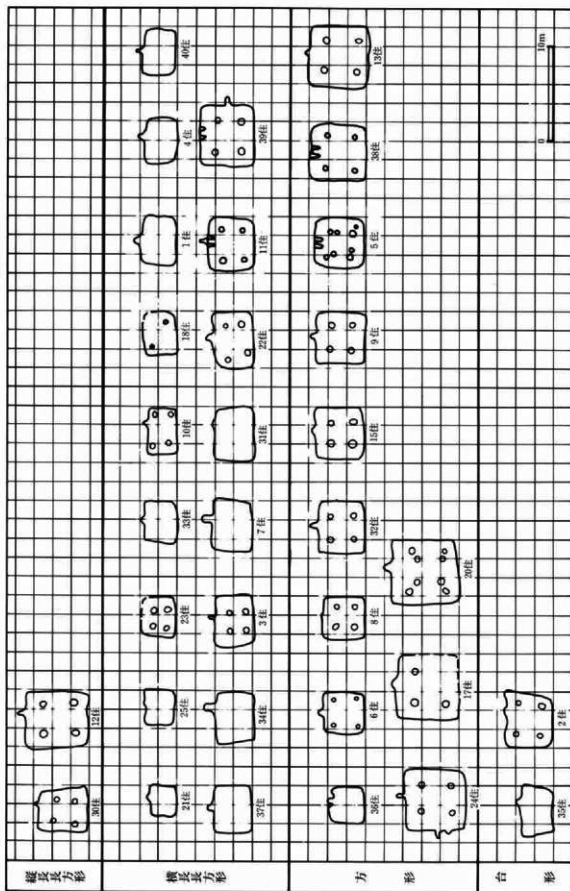
より言われている古墳時代後期の方形大型住居から横長長方形の中型住居への変化が見られる。

竈については、5号・15号・18号・24号住居の4軒が東竈、他の住居は北竈である。東竈のうち18号住居を除き、大型方形住居であり、壁のほぼ中央部に付設され、燃焼部は住居内に位置し、僅かに壁を掘り込み煙道部が伸びる構造を持つ。また北竈の6号・8号・9号住居においても同様の構造を持ち、7世紀代と近接する。8世紀代には、横長長方形の北壁に竈が位置するようになり、中央から東寄りに付設され、壁面を掘り込み燃焼部が構築されるようになる。また、竈構築の際に礫が使用されている竈は13軒あり、その中で特に天井石が残っている住居を7軒を確認した。礫種は、層状地礫である片岩系の礫が主であり、一部砂岩が用いられており地域色が伺われる。時期的には6～7世紀代の大型住居に用いられる傾向が見られる。煙道部については、土器（土師器）が埋置されている住居が4号・30号・36号住居の3軒、石組は34号住居1軒で検出された。時期は、8世紀代に属する。また、14号・16号・39号・40号住居は竈の遺存状態は良好で、煙道部への立ち上がりや煙道が水平方向に伸びる構造、竈全長が2.0～2.1mを測るなど類似点が見られる。時期的には7世紀代である。このように竈についても、6世紀代の住居は壁面の中央に礫を用いた竈が構築され、時期や住居形状の変化と共に燃焼部は壁面を掘り込み構築されるようになったといえる。

住居の柱穴については、5m代から住居対角線上に配置され、20号住居のような拡張住居では、建て替え、住居中央を中心に対角線の交点を中心を外側に拡張されたり、5号住居では、1ヶ所中心となる柱穴を決め拡張している。

2. 竪穴住居出土土器について

竪穴住居跡出土土器の年代については、近年各地で調査報告された遺跡等の研究成果があり、これらの成果を参考に本遺跡で確認された竪穴住居内出土土器について、土師器を中心に、共存する土師器



第194図 住居形状一覧表

甕や須恵器を参考にしながら検討を行い、竪穴住居の時期及び集落について概観したい。

土器器環については、大きくA・B・Cの3種類に大別できる。

環A……口縁部に強い横撫でが施され、体部との境に強弱の違いはあるが稜を有する。(いわゆる模倣環)

環B……口縁部が短く横撫でが施され、体部から底部にかけて湾曲し、手持ちへら削りが施される。

環C……口縁部横撫で、体部に横位へら削りが施され、やや直線的に立ち上がる。底部はへら削りがなされ平底を呈する。

環Aを出土する住居を第194図にまとめたが、環Aの中でも差が認められる。24号住居出土の環Aは、全体に大ぶりであり、器壁も厚く、口縁部は外反し、2度の横撫でが観察できた。これに比べ5号・13号・15号住居の環は器壁が薄く均等であり、口唇部のつくりや稜などがシャープである。また15号住居からは頂部に×印のへら記号が刻まれた須恵器蓋(TK-10)が出土し、12号住居に壊された11号住居でも作りのやや雑な類似する須恵器蓋が出土し、時期的に近接すると思われる。6号・9号・16号・20号住居の環Aは、口縁部がやや短く、稜も弱い丸底状を呈する。8号住居では、口縁部が短く内傾し、底部回転へら削りの見られる須恵器環(TK-43)が出土しており、この住居からは他に、外面に磨き、内面に指撫での皿状の環と体部に歪みが見られ器壁の厚い手握ぬ風の環が出土している。環Aの中で時期的には、15号住居出土須恵器蓋を6世紀中頃、6号住居の須恵器環を7世紀前半に位置付けられる。

環B・Cを出土する住居を第196図にまとめた。

環Bを出土する住居は少なく、3号・4号住居の2軒で出土している。35号・36号・37号・40号住居等で出土している環Bはやや浅い平底気味の環であり、環Cと共存する。環Cは、同器形中に内面に暗文の有、無が確認でき、暗文を施されるものが多いと見られる。共存遺物としては、土器器甕・浅い皿

状の環や鉢状の環、若干ではあるが須恵器環・蓋等がある。土器器甕は、口縁部は短く外反と言うより外傾気味に開き、ずん胴気味の胴部から広めの底部に移行する。胴部の整形は斜縦位のへら削りから下半部は細かな斜位のへら削りが見られ、やや長胴形を呈する。また須恵器環は7号・19号・30号住居の3軒で出土し、7号住居の環は削り出し高台、19号住居の環は底部回転へら削り調整、30号住居の環は回転糸きり未調整である。須恵器蓋は、34号・37号住居の2軒で出土しており、どちらも器高は浅く、カエリを持つ。環B・Cについては、東接する田籾上平遺跡に見られる土器分類によると環BをI期、環CをII期～III期に分類できる。

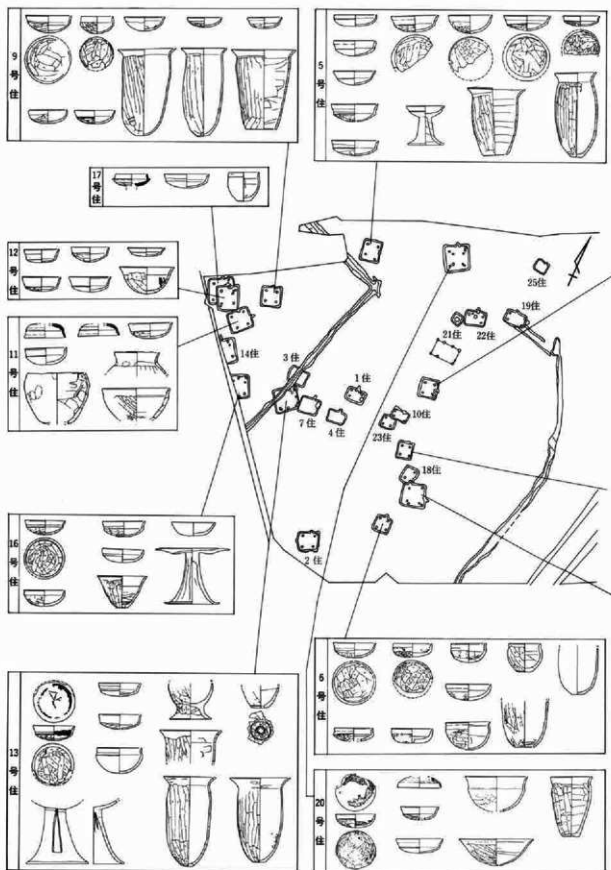
3. まとめ

本遺跡地は、雄川と下川に挟まれた扇状地西縁部に立地する。今回上信越自動車道建設に伴う調査により、この扇状地扇尖部に大規模なトレンチが入れられたと言える。この様子を該略すれば(第197図)縄文時代中期には田籾中原遺跡を中心に活動の痕跡が確認されたが、その後古墳時代後期まで断絶し、6世紀に入り本遺跡の立地する西の下川寄りに竪穴住居を中心とした集落が出現した。7世紀代には本遺跡南に展開する善慶寺古墳群が形成され、東縁部の田籾上平遺跡周辺部でも田籾古墳群が展開していた。7～8世紀代には本遺跡及び田籾上平遺跡では集落が拡大するが、9世紀以降本遺跡地の集落は消滅または移動したと考えられる。田籾上平遺跡では10世紀代以降縮小して行ったと考えられている。

今後、周辺部の調査等により本扇状地における遺跡の広がりや種類等が明らかとなり、扇状地上の人間の活動がどのように展開されたかより鮮明となることを期待したい。

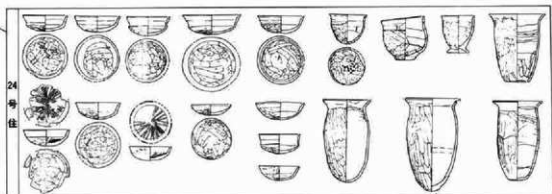
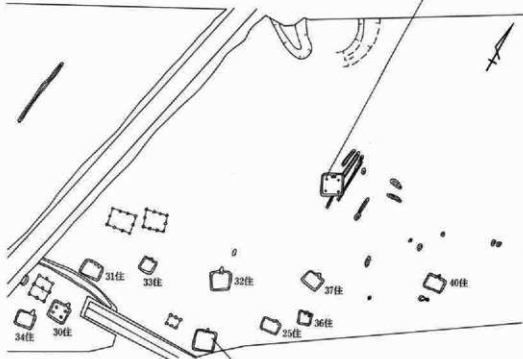
〈参考文献〉

- | | | |
|----------|------------------|------|
| 『田籾上平遺跡』 | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 1988 |
| 『田籾中原遺跡』 | 〃 | 1990 |
| 『矢田遺跡V』 | 〃 | 1994 |

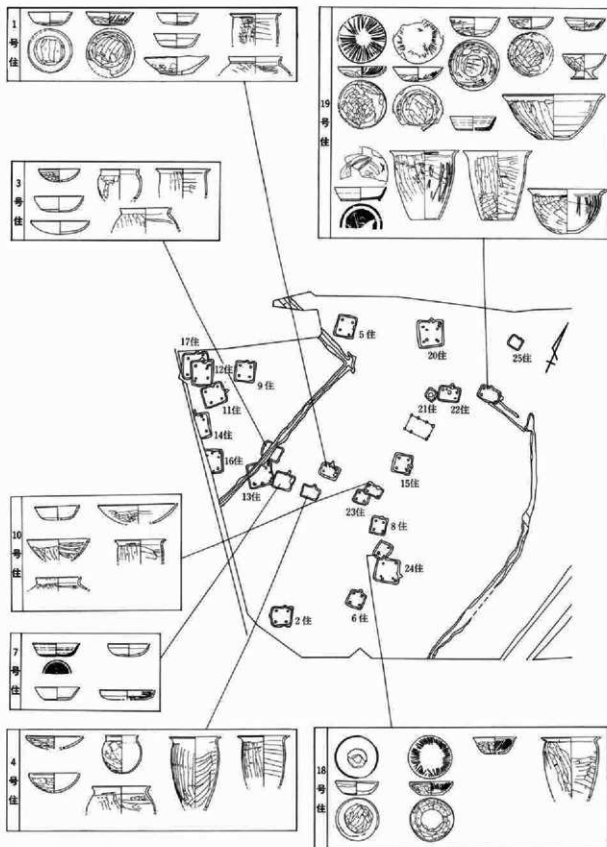


第195図 時期別遺構配置及び出土遺物集成図

2 竪穴住居出土土器について

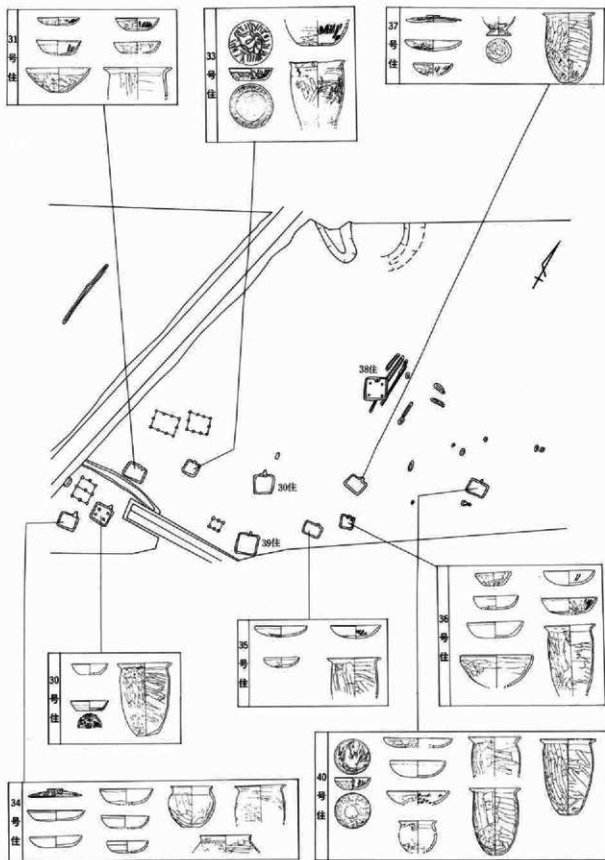


(6~7世紀代)

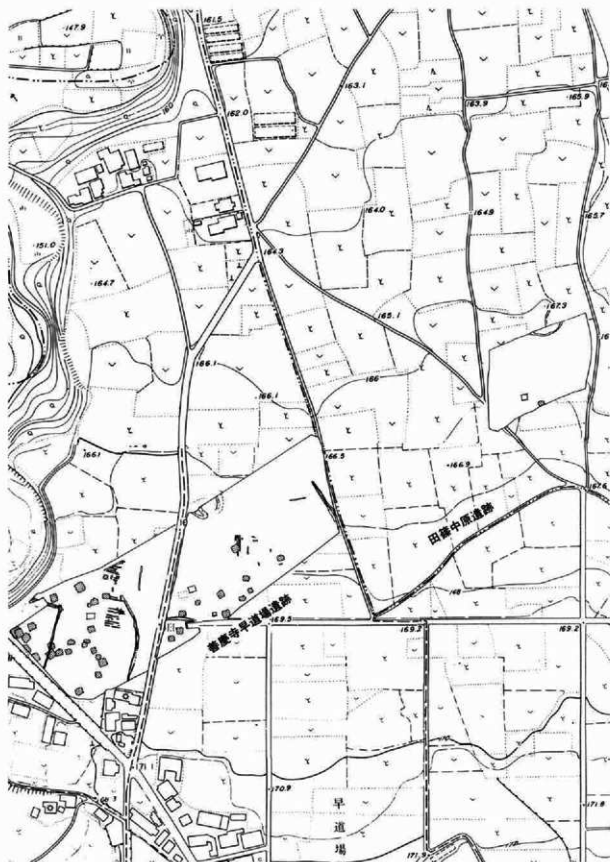


第196図 時期別遺構配置及び出土遺物集成図

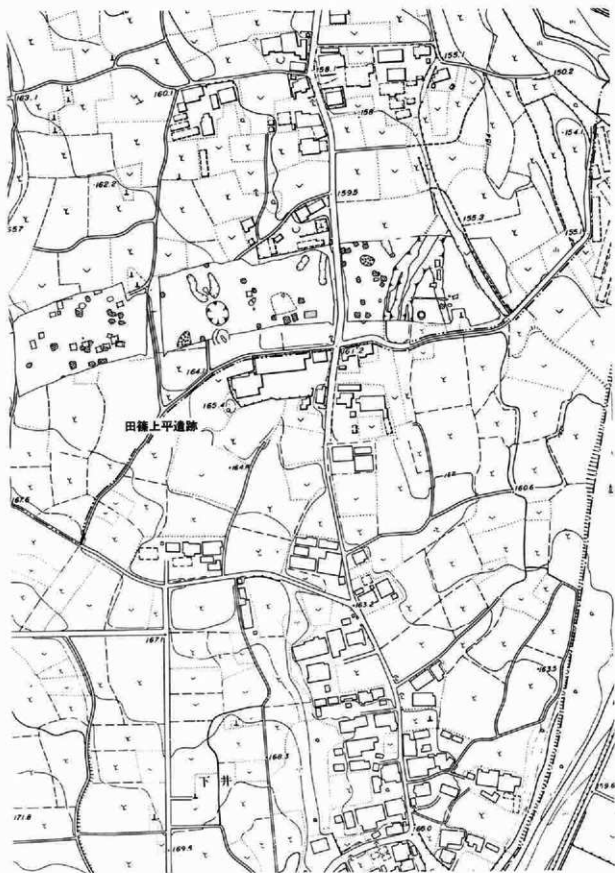
2 竪穴住居出土土器について



(7~8世紀代)



第197図 上信越道関連小幡原状地横断遺跡図(古墳時代以降)



発掘調査報告書抄録

ふりがな	ぜんけいじ はやみちば いせき
書名	善慶寺早道場遺跡
副書名	関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第28集
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第179集
編著者名	斎藤利昭
編集機関	群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒 377 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
発行年月日	西暦 1994年9月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ぜんけいじ はやみちば いせき	群馬県甘楽郡甘楽町大字 善慶寺字早道場	103845	10005 00295	30°14'20"	138°54'35"	第1次調査 19870401— 19871031 第2次調査 198810— 19890430	9,100 12,450	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
善慶寺 早道場遺跡	住居跡	古墳時代後期 奈良・平安時代	竪穴住居跡18軒 竪穴住居跡17軒	土師器、須恵器、 土師器、須恵器、鉄器	包含層内 火葬墓3基含む。 周堀のみ、墳丘部不明瞭。	
	掘立柱 建物	奈良・平安時代	掘立柱建物跡5棟	土師器環、甕破片類。		
	土坑	縄文時代中期 時期不明	土坑3基 土坑24基	縄文土器深鉢、石器 内耳鍋、土師器		
	古墳 溝跡	古墳時代 中・近世	古墳1基 溝跡7条	土師器環、甕 摺り鉢、古銭、軟質陶器		
	墓坑	中・近世	墓坑1基	土師質小皿、古銭		
	埋設土器 包含層	縄文時代中期	埋設土器1個体	縄文時代中期小型深鉢型土器		包含層内 田籾中原遺跡に接する
		縄文時代中期		縄文時代中期、土器、石器類		

写 真 图 版



1. 調査区透景



2. 第1次調査区全景



1. 第1次調査区竪穴住居跡群



2. 第2次調査区全景



1. 第2次調査区近景



2. 1号古墳全景



1. 第2次調査区近景



2. 第2次調査区近景



3. 第2次調査区近景



4. 第2次調査区近景



5. 作業風景



1. 1号住居跡全景



2. 1号住居跡竈



3. 1号住居跡土層



4. 1号住居跡遺物出土状況



5. 2号住居跡全景



6. 2号住居跡遺物出土状況



7. 2号住居跡土層



8. 2号住居跡遺物出土状況



1. 3号住居跡全景



2. 3号住居跡遺物出土状況



3. 3号住居跡土層



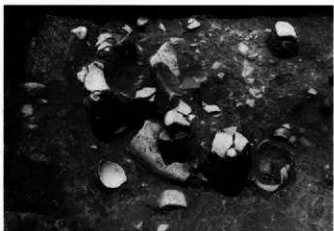
4. 3号住居跡窟



5. 4号住居跡全景



6. 4号住居跡完掘



7. 4号住居跡竈周辺遺物出土状況



8. 4号住居跡竈道遺物出土状況



1. 5号住居跡全景



2. 5号住居跡竈



3. 5号住居跡遺物出土状況



4. 5号住居跡掘り方



5. 5号住居跡竈出土状況



6. 5号住居跡竈周辺遺物出土状況



7. 5号住居跡遺物出土状況



8. 5号住居跡遺物出土状況



1. 6号住居跡全景



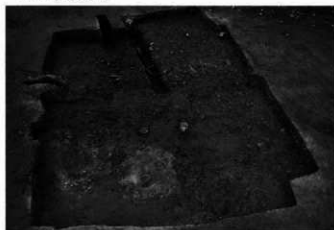
2. 6号住居跡遺物出土状況



3. 6号住居跡礎



4. 6号住居跡礎土層



5. 7号住居跡全景



6. 7号住居跡振り方



7. 7号住居跡礎



8. 7号住居跡遺物出土状況



1. 8号住居跡全景



2. 8号住居跡遺物出土状況



3. 9号住居跡全景



4. 9号住居跡遺物出土状況



5. 9号住居跡遺物出土状況



6. 9号住居跡遺物出土状況



7. 9号住居跡柱穴内遺物出土状況



8. 10号住居跡全景



1. 11号住居跡全景



2. 11号住居跡遺物出土状況



3. 11号住居跡遺物出土状況



4. 11号住居跡窟



5. 12号住居跡窟



6. 13号住居跡全景



7. 13号住居跡遺物出土状況



8. 13号住居跡窟



1. 14号住居跡全景



2. 14号住居跡遺



3. 14号住居跡遺物出土状況



4. 15号住居跡全景



5. 15号住居跡遺物出土状況



6. 16号住居跡全景



7. 16号住居跡遺



8. 16号住居跡遺物出土状況



1. 17号住居跡全景



2. 17号住居跡近



3. 18号住居跡全景



4. 18号住居跡近



5. 19号住居跡全景



1. 19号住居跡遺物出土状況



2. 19号住居跡掘り方



3. 19号住居跡竈



4. 19号住居跡石垣



5. 20号住居跡全景



6. 20号住居跡遺物出土状況



7. 20号住居跡竈



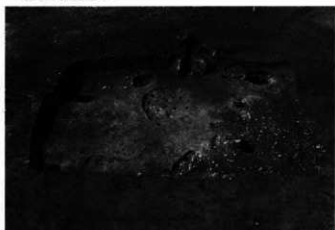
8. 20号住居跡遺物出土状況



1. 21号住居跡全景



2. 21号住居跡遺土層



3. 22号住居跡住居跡全景



4. 23号住居跡全景



5. 24号住居跡全景



6. 24号住居跡遺



7. 24号住居跡遺前遺物出土状況



8. 24号住居跡遺復元



1. 25号住居跡全景



2. 25号住居跡遺物出土状況



3. 25号住居跡窟



4. 25号住居跡掘り方



5. 30号住居跡全景



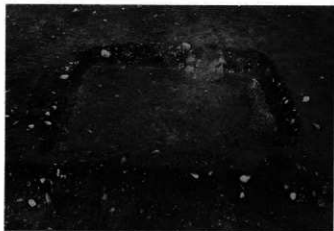
6. 30号住居跡第1窟



7. 30号住居跡第2窟



8. 30号住居跡遺物出土状況



1. 31号住居跡全景



2. 31号住居跡遺物出土状況



3. 31号住居跡竈



4. 31号住居跡遺土層



5. 32号住居跡全景



6. 32号住居跡遺物出土状況



7. 32号住居跡遺物出土状況



8. 32号住居跡竈軸断面土層



1. 33号住居跡全景



2. 33号住居跡遺物出土状況



3. 33号住居跡竈



4. 33号住居跡遺物出土状況



5. 34号住居跡全景



1. 34号住居跡土層



2. 34号住居跡遺物出土状況



3. 34号住居跡竈



4. 34号住居跡竈土層



5. 34号住居跡竈煙道土層



6. 34号住居跡遺物出土状況



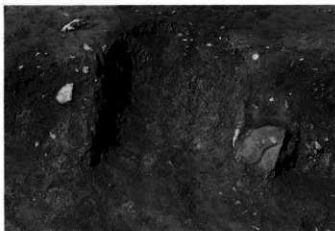
7. 34号住居跡貯蔵穴土層



8. 34号住居跡貯蔵穴



1. 35号住居跡全景



2. 35号住居跡竈



3. 35号住居跡竈遺物出土状況



4. 35号住居跡貯藏穴遺物出土状況



5. 36号住居跡全景



6. 36号住居跡遺物出土状況



7. 36号住居跡遺物出土状況



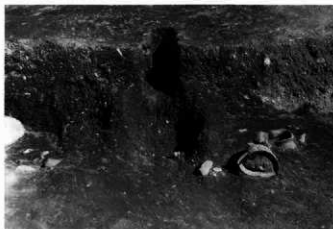
8. 36号住居跡竈遺物出土状況



1. 37号住居跡全景



2. 37号住居跡遺物出土状況



3. 37号住居跡窟



4. 37号住居跡窟周辺遺物出土状況



5. 38号住居跡全景



6. 38号住居跡遺物出土状況



7. 38号住居跡窟



8. 38号住居跡遺物出土状況



1. 39号住居跡全景



2. 39号住居跡遺物出土状況



3. 39号住居跡炭化材出土状況



4. 39号住居跡炭化材



5. 39号住居跡炭化材



6. 39号住居跡竈



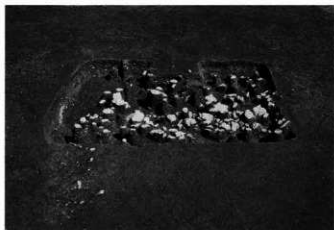
7. 39号住居跡竈土層



8. 39号住居跡竈袖断面土層



1. 40号住居跡全景



2. 40号住居跡遺物出土状況



3. 40号住居跡掘り方



4. 40号住居跡遺物出土状況



5. 40号住居跡遺物出土状況



6. 40号住居跡遺物出土状況



7. 40号住居跡壘



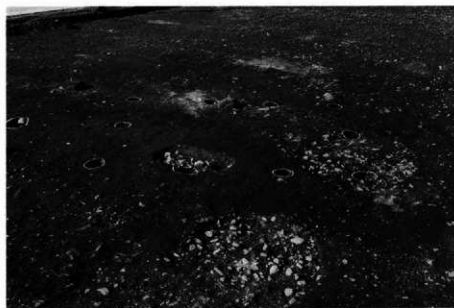
8. 40号住居跡竈神断割土層



1. 1号掘立柱建物跡全景



2. 2号掘立柱建物跡全景



3. 3号掘立柱建物跡全景



1. 2、3号掘立柱建物跡全景



2. 4号掘立柱建物跡全景



3. 5号掘立柱建物跡全景



1. 1号整穴状遺構 (I・J区)



2. 1号整穴状遺構 (I・J区)



3. 1号墓坑全景 (I・J区)



4. 1号土坑全景 (I・J区)



5. 2号土坑全景 (I・J区)



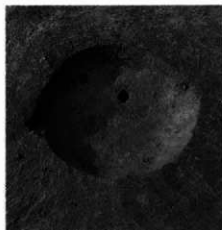
6. 3号土坑全景 (I・J区)



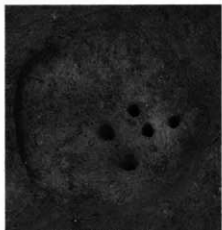
7. 4号土坑全景 (I・J区)



8. 5号土坑全景 (I・J区)



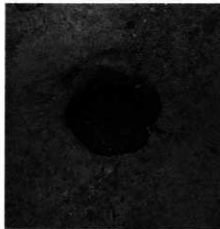
9. 12号土坑全景 (I・J区)



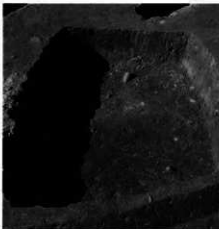
10. 13号土坑全景 (I・J区)



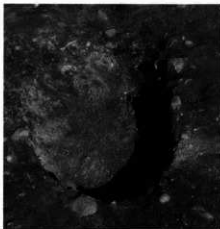
11. 14号土坑全景 (I・J区)



1. 18号土坑全景 (I·J区)



2. 19号土坑全景 (I·J区)



3. 20号土坑全景 (I·J区)



4. 21号土坑全景 (I·J区)



5. 1号土坑全景 (G·H区)



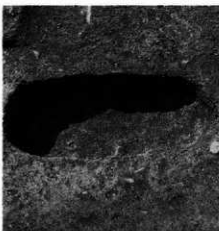
6. 1号土坑遗物出土状况 (G·H区)



7. 1号土坑周边遗物出土状况 (G·H区)



1. 2号土坑土层 (G·H区)



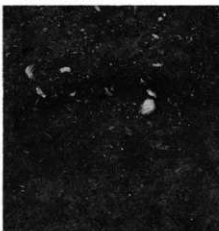
2. 3号土坑全景 (G·H区)



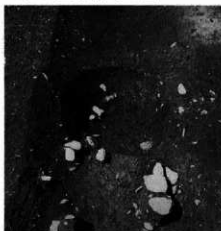
3. 4号土坑全景 (G·H区)



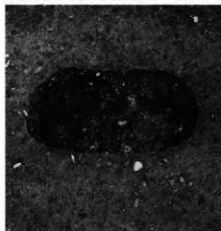
4. 6号土坑全景 (G·H区)



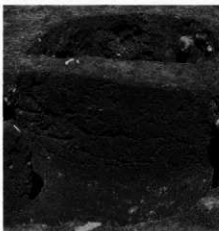
5. 9号土坑全景 (G·H区)



6. 10号土坑全景 (G·H区)



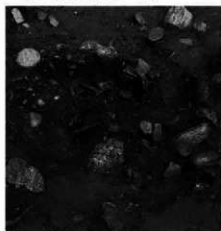
7. 11号土坑全景 (G·H区)



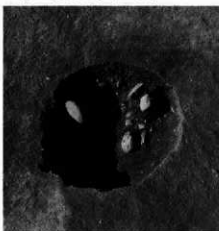
8. 11号土坑土层 (G·H区)



9. 12号土坑全景 (G·H区)



10. 13号土坑全景 (G·H区)



11. 14号土坑全景 (G·H区)



12. 15号土坑全景 (G·H区)



1. 1号溝全景



2. 1号溝土層



3. 1号溝土層



4. 1号溝遺物出土状況



5. 3号溝全景



6. 3号溝土層



7. 3号溝土層



1. 4号溝全景



2. 4号溝土層



3. 5号溝全景



4. 6号溝全景



5. 7号溝全景



1. 1号古墳全景



2. 1号古墳葬石(?)確認状況



3. 1号古墳土層



4. 1号古墳遺物出土状況



5. 1号古墳遺物出土状況



1. グリッド遺物出土状況 (Go-31) 煙壺



2. グリッド遺物出土状況 (Gq-41)



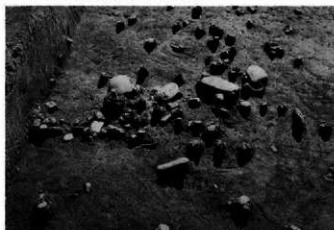
3. グリッド遺物出土状況 (Go-33)



4. グリッド遺物出土状況 (Gs-27)



5. グリッド遺物出土状況 (Gs-41)



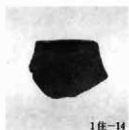
6. グリッド遺物出土状況 (Gq-41)

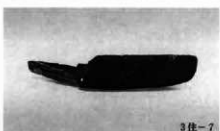


7. グリッド遺物出土状況 (Ia-12)

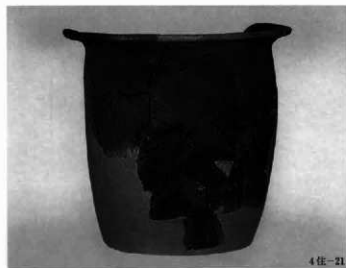


8. グリッド遺物出土状況 (Ia-12)













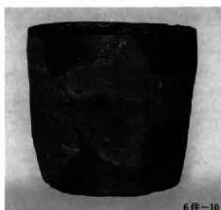




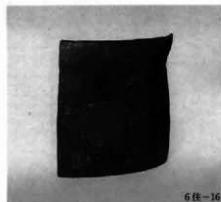
6 住-15



6 住-17



6 住-10



6 住-16



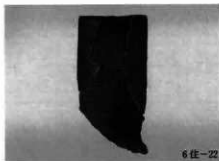
6 住-18



6 住-20



6 住-19



6 住-22



6 住-21



7 住-1



7 住-2



7 住-3



7 住-4



7 住-5



7 住-7



7 住-6

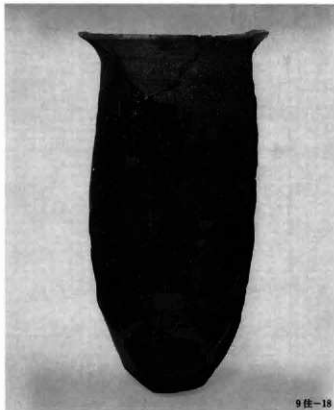
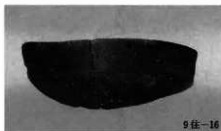


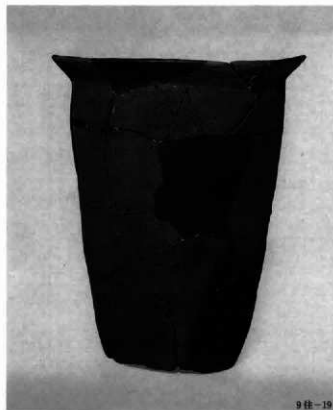
7 住-8



7 住-9







9 住-19



9 住-20



10 住-1



10 住-2



10 住-3



10 住-4



10 住-5



10 住-6



10 住-7



10 住-8



10 住-9



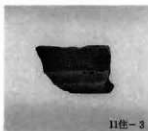
10 住-10



10 住-11

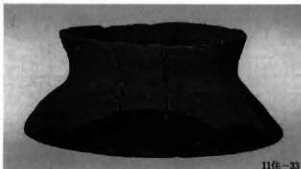
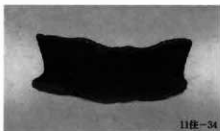


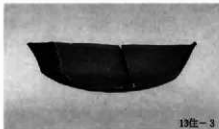
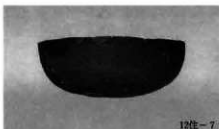
11 住-2

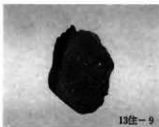
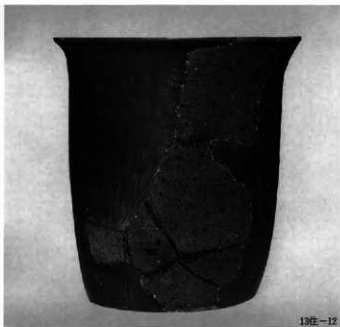
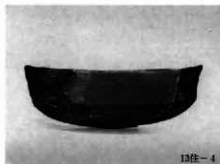


11 住-3











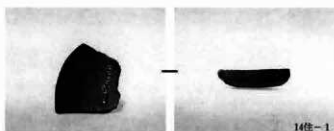
13住-14



13住-17



13住-18



14住-1



14住-2



14住-3



14住-4



14住-5



14住-6



14住-7



14住-8



14住-10



15住-1



14住-9



15住-2

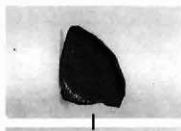




16住-6



16住-7



16住-9



16住-8



16住-10



16住-11



16住-12



16住-16



16住-13



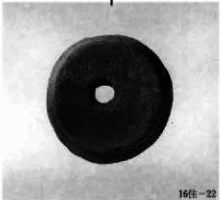
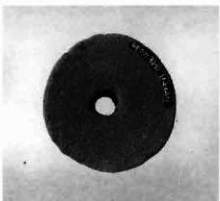
16住-18



16住-17



16住-19





18E-9



18E-10



18E-8



18E-11



18E-14



18E-12

18E-13



19E-1

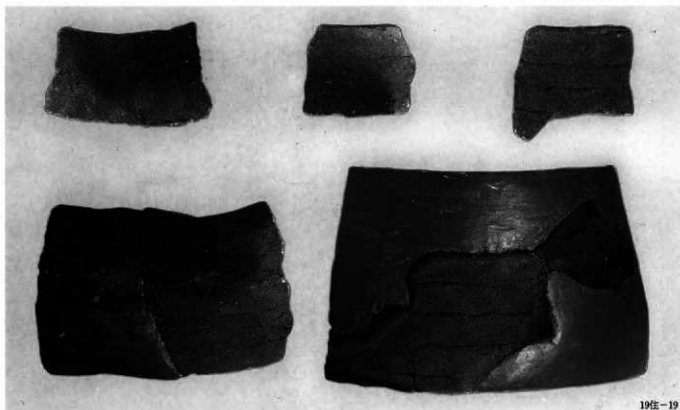


19E-2



19E-3





19住-19



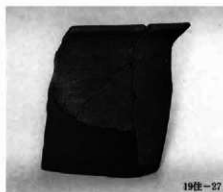
19住-29



19住-18



19住-26



19住-27



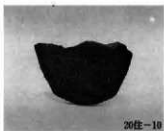
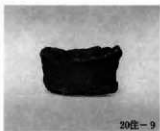
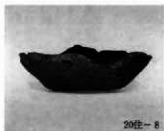
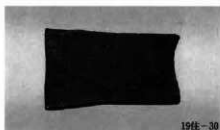
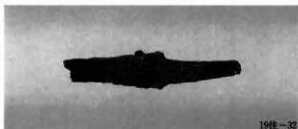
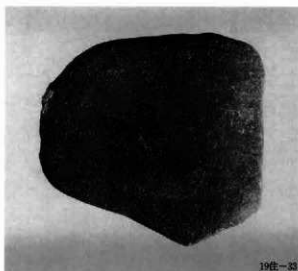
19住-25

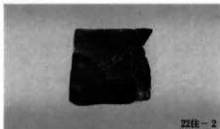
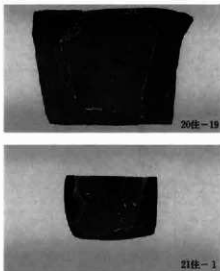
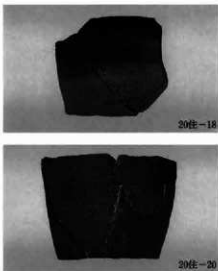


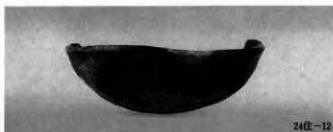
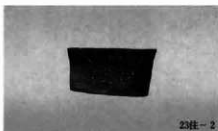
19住-24



19住-23

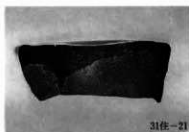
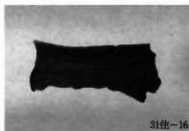


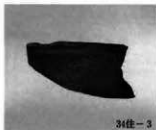


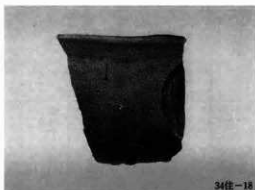
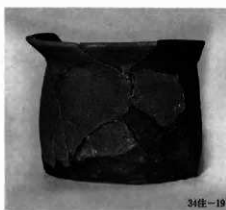
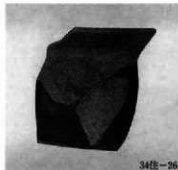


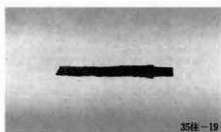
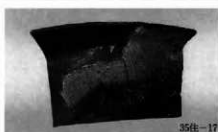
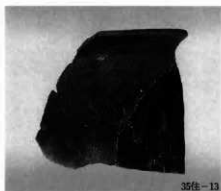
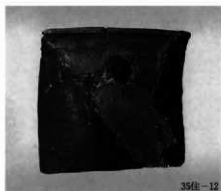
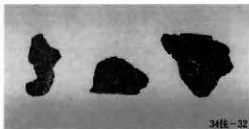










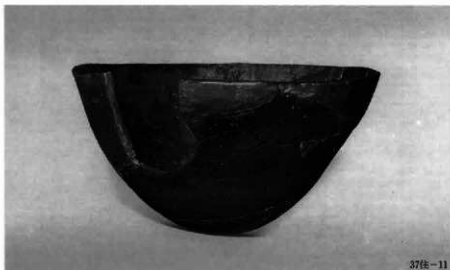








37住-9



37住-11



37住-13



37住-14



37住-12



38住-1



38住-2



38住-3



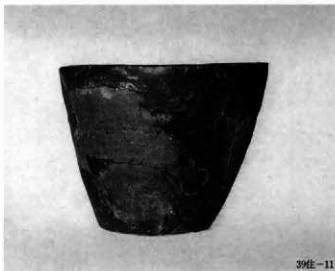
38住-7



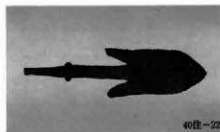
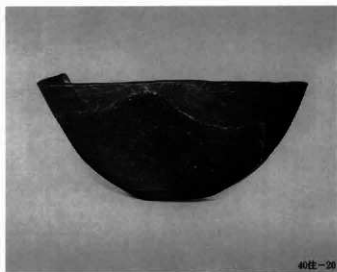
38住-4

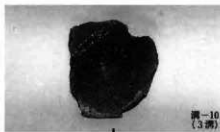
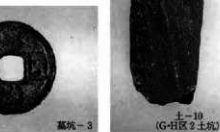
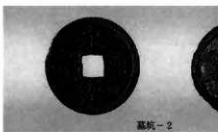
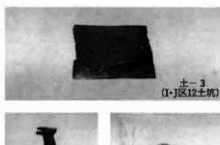
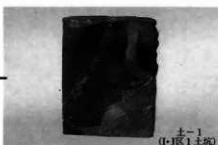
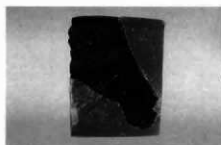
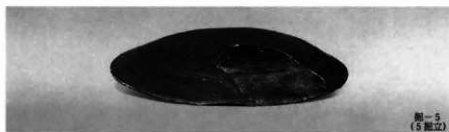


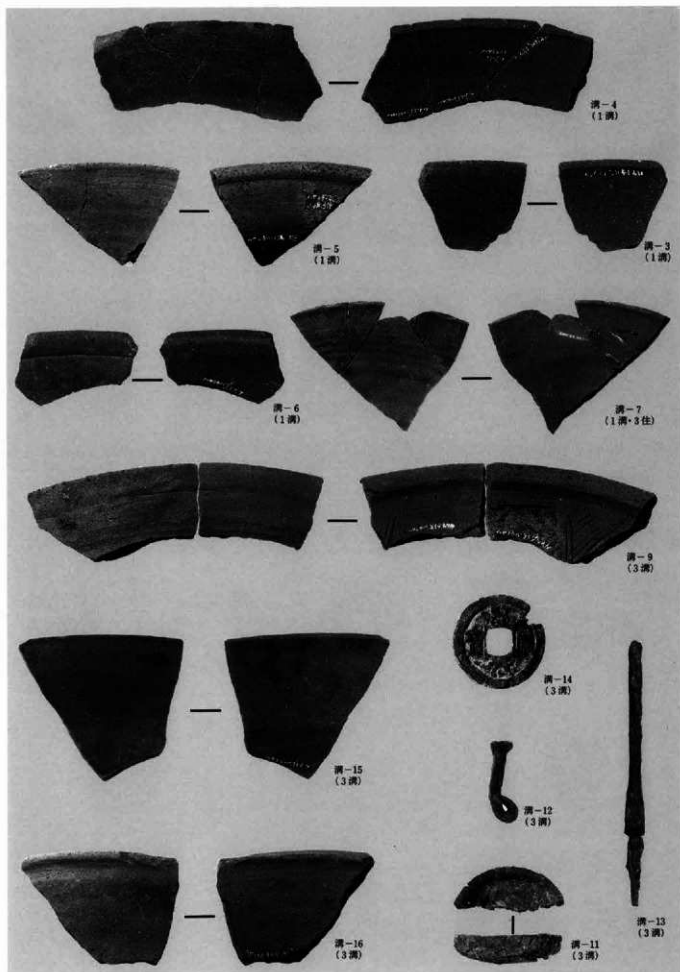
38住-5









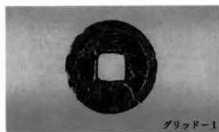




古墳-1



古墳-2



グリッド-1



グリッド-3



グリッド-4



グリッド-5



グリッド-6



グリッド-7



グリッド-8



グリッド-9



グリッド-10



グリッド-11



グリッド-12



グリッド-15



グリッド-14



グリッド-13



グリッド-16



グリッド-17



グリッド-18



グリッド-19



グリッド-20



グリッド-21



グリッド-22



グリッド-23



グリッド-24



グリッド-28



グリッド-29



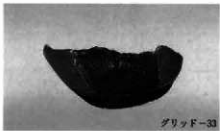
グリッド-31



グリッド-30



グリッド-32



グリッド-33



グリッド-34



グリッド-35



グリッド-35



グリッド-36



グリッド・編-2



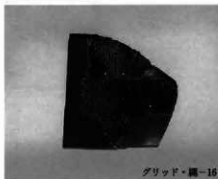
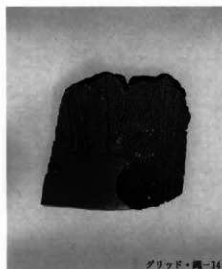
グリッド・編-1



グリッド・編-5

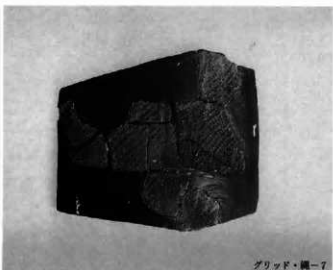


グリッド・編-3





グリッド・石-4



グリッド・石-7



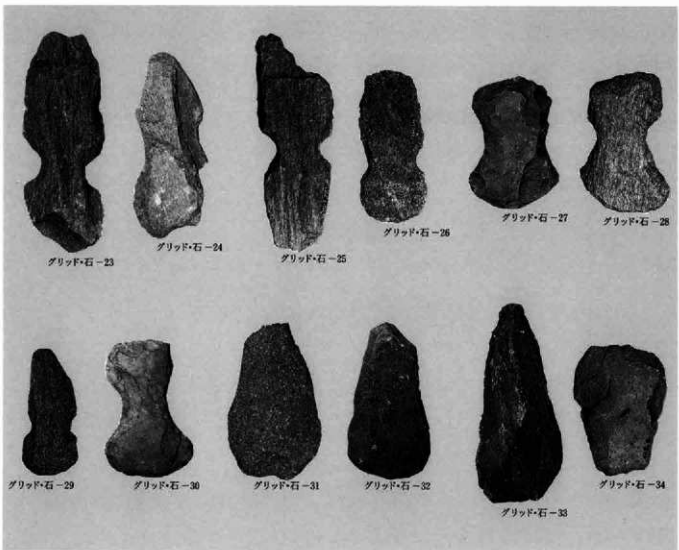
グリッド・石-6



グリッド・石-8



埋設-1



グリッド・石-23

グリッド・石-24

グリッド・石-25

グリッド・石-26

グリッド・石-27

グリッド・石-28

グリッド・石-29

グリッド・石-30

グリッド・石-31

グリッド・石-32

グリッド・石-33

グリッド・石-34



グリッド・石-35



グリッド・石-36



グリッド・石-37



グリッド・石-38



グリッド・石-39



グリッド・石-40



グリッド・石-41



グリッド・石-42



グリッド・石-43



グリッド・石-44



グリッド・石-45



グリッド・石-46



グリッド・石-47



グリッド・石-48



グリッド・石-49



グリッド・石-50



グリッド・石-51



グリッド・石-52



グリッド・石-53



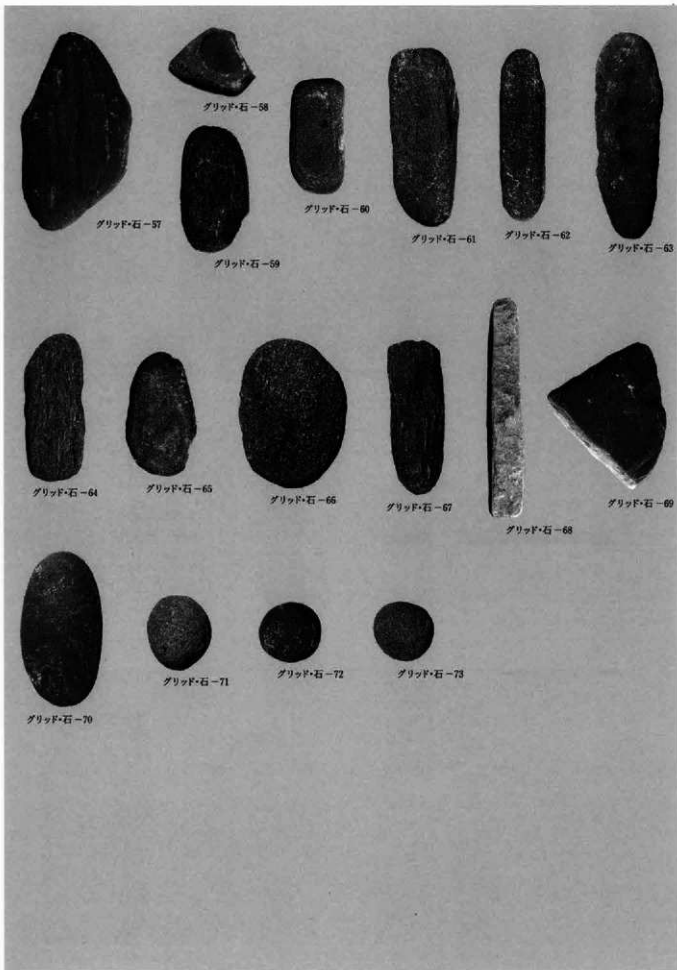
グリッド・石-55



グリッド・石-54



グリッド・石-56



早稲場遺跡出土炭化材の樹種電子顕微鏡写真



1a. モミ属 (横断面) 8号住№6 bar:0.5mm



1b. 同 (接線断面) bar:0.5mm



1c. 同 (放射断面) bar:0.1mm



2a. アカガシ属 (横断面) 24号住カマド bar:1mm



2b. 同 (接線断面) bar:0.5mm



2c. 同 (放射断面) bar:0.1mm



3a. クヌギ属 (横断面) 39号住№2 bar:1mm



3b. 同 (接線断面) bar:0.1mm



3c. 同 (放射断面) bar:0.1mm



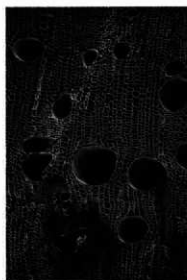
4a. ヤマグチ (横断面) 9号住 bar:1mm



4b. 同 (接線断面) bar:0.1mm



4c. 同 (放射断面) bar:0.5mm



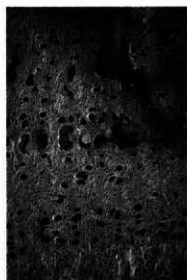
5a. ノルダ (横断面) 8号住No.6 bar:0.5mm



5b. 同 (接線断面) bar:0.5mm



5c. 同 (放射断面) bar:0.5mm



6a. 散孔材 (横断面) 13号住No.5 bar:0.5mm



6b. 同 (接線断面) bar:0.1mm



6c. 同 (放射断面) bar:0.5mm

群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告書 179 集

善慶寺早道場遺跡

関越自動車道(上越線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第28集

平成6年9月22日 印刷

平成6年9月30日 発行

編集/群馬県埋蔵文化財調査事業団

勢多郡北橋村大字下箱田784-2

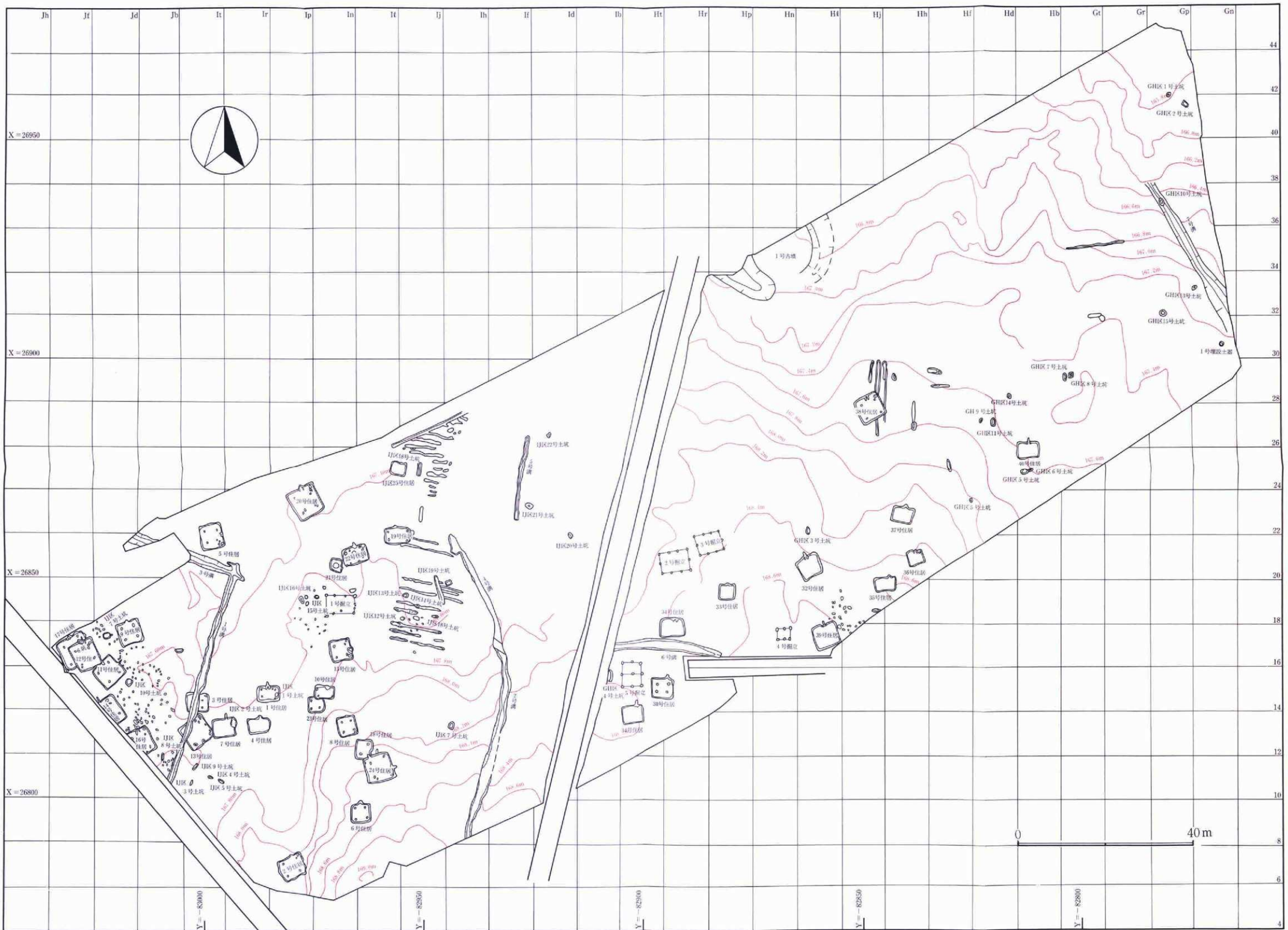
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行/群馬県考古資料普及会

勢多郡北橋村大字下箱田784-2

電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷/朝日印刷工業株式会社



善慶寺早道場遺跡全体図